

**岡山県特別支援学校における  
知的障害のある児童生徒の  
指導内容表**

令和2年3月

岡山県特別支援学校長会  
岡山県教育庁特別支援教育課

# 岡山県特別支援学校における 知的障害のある児童生徒の 指導内容表目次

はじめに	1
I 活用の仕方	2
II 各教科等	
1 総則	14
2 生活	30
3 国語	38
4 社会	48
5 算数・数学	62
6 理科	108
7 音楽	118
8 図画工作・美術	132
9 体育・保健体育	142
10 職業・家庭（職業）（家庭）	168
11 外国語活動・外国語	188
12 情報	198
13 流通・サービス	204
14 特別の教科 道徳	208
15 自立活動	222

委員名簿

## はじめに

新学習指導要領においては、育成を目指してきた「生きる力」を改めて捉え直し、子供たちが未来社会を切り拓いていくために必要な資質・能力を一層確実に育成するため、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理されました。これにより、自立と社会参加という特別支援教育の理念でもある「生きる力」を具現化し、教育課程によりその育成を図ることになります。そのためには、教育課程に基づき、組織的・計画的に学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの推進が必要です。

本県においては、平成24年に「岡山県特別支援教育教育課程指導資料」を作成し、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の子供たちの自立と社会参加に向けて、育成すべき資質・能力（何ができるようになるか）を明確にし、学習指導要領の教科等に示す内容（何を学ぶか）を考えることで、適切な教育課程の編成に向けて取り組んできました。また、平成30年には「授業づくりハンドブック」を作成し、資質・能力を育むための授業づくり（どのように学ぶか、何が身に付いたか）について、学習指導案と学習評価の考え方を県内全ての特別支援学校教職員間で共有し、授業づくりに取り組んできました。

このたびの資料は、「岡山県特別支援教育教育課程指導資料」を新学習指導要領の趣旨に基づいて再整理したものです。本資料が、本県の子供たちの現状と未来を見据えた学びの地図となり、日々の授業づくりや授業改善に生かされるとともに、これまでの教育課程編成の在り方を再考し、教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すカリキュラム・マネジメントの実現につながり、第3次岡山県特別支援教育推進プランにおいても重点課題としている特別支援学校教職員の専門性向上の一助となるものと期待しています。

最後になりましたが、この資料作成に際して教科等の内容をまとめ、原稿の執筆をしてくださった委員の方々に心より感謝申し上げます。

令和2年3月

岡山県特別支援学校長会

会長（岡山西支援学校） 平賀 和治

岡山県教育庁特別支援教育課

課長 中村 誉

活用の仕方

# I 活用の仕方



**指導内容表は、何のために、いつ、活用するのでしょうか。**

**(1) 指導内容表の作成に当たって**

知的障害のある児童生徒は、発達段階や認知の特性、学習上の困難さなど、一人一人に違いがあり、授業の中で習得する内容にばらつきが出てくることが考えられます。また、集団で学ぶ場合、一人一人に違いがある分、個々の児童生徒の各教科の目標や内容を落とさず指導することができにくく、学ぶ必要がある多くの内容を取り扱えなくなる可能性があるとも言えます。

今回、改訂された学習指導要領では、それらのことを踏まえて、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標や内容について、細かく示されました。それを受けて、私たちは、その内容を十分に理解し、障害の状態に応じ、きめ細やかな指導を行うことが必要となってきました。

そのような背景から、この指導内容表は、「授業づくりハンドブック（平成30年3月 岡山県特別支援学校長会 岡山県教育庁特別支援教育課）」と合わせて、日々の授業づくり、授業改善に役立つ資料として、作成しています。

**(2) 指導内容表の活用に向けて**

指導内容表は、下記の目的を踏まえた上で活用されると、児童生徒にとって、根拠のある確かな学びができると同時に、先生方にとっても、教育活動の質の向上を図ることができるものになると考えています。

**<指導内容表の活用の目的>**

- 各教科の目標及び取り扱うすべての内容を踏まえて、指導の見通しをもつことができるように
- 学習指導要領に示されている内容の中から、必要な内容を落とさず取り扱うことができるように
- 日々の授業づくりで、根拠のある実践を重ねることができているかを確認することができるように

**(3) 活用する場面**

児童生徒がもっている力、付けてきた力を把握し、継続して学習状況を確認していくために、必要なときにすぐ開くことができるように手元に置いておきましょう。各教科で、どの段階の学習を行うのが適切かを考えるとき、いきなり、集団の実態を捉えようとするのではなく、個々の児童生徒の力を丁寧に捉え、それを元に、集団となったときに共通する必要な学習内容を導き出したり学んだことを評価したりするという考え方で、活用していきましょう。

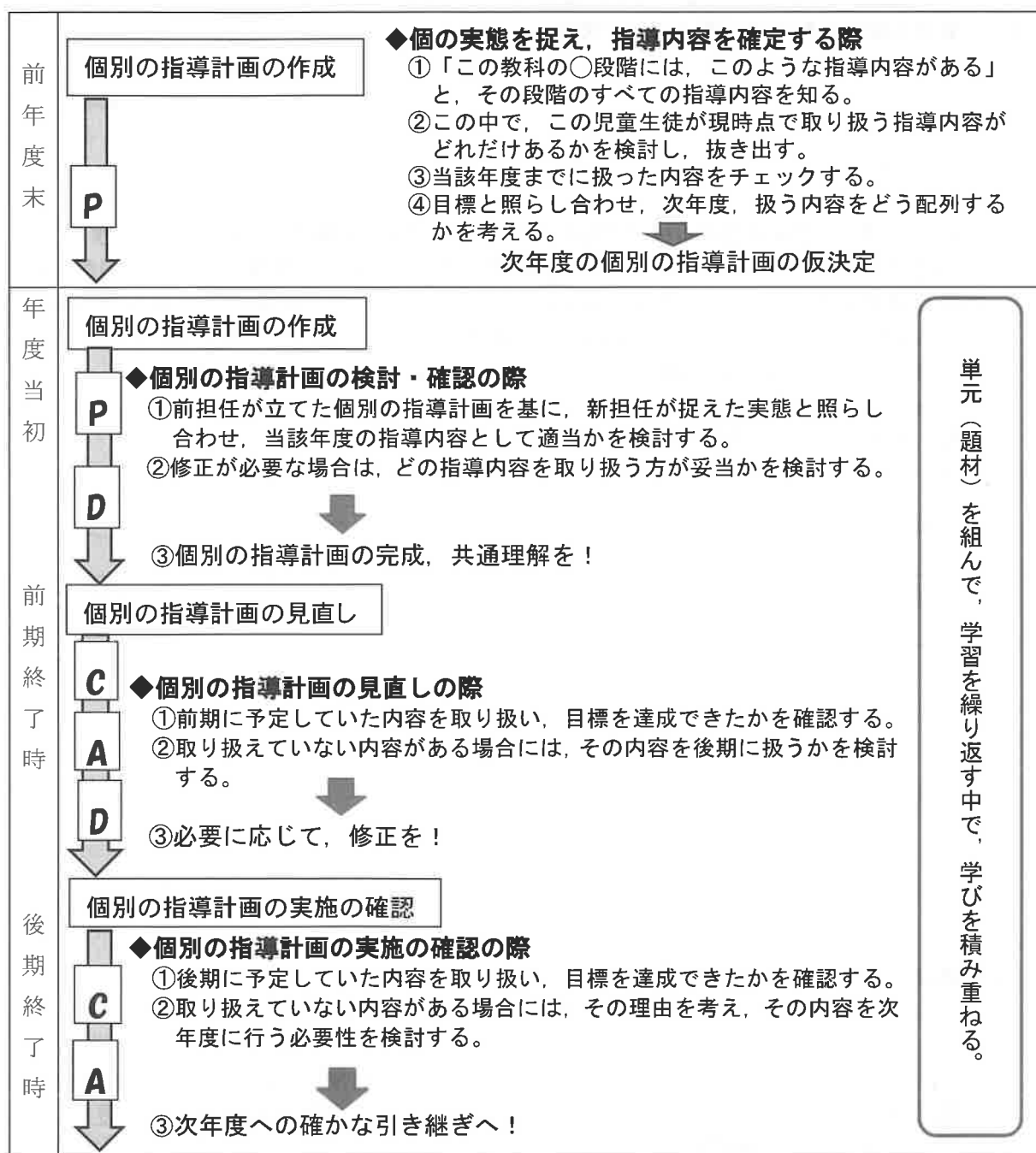
具体的には、下記の場面で活用することが多いと考えています。

- ①年間指導計画の作成時
- ②個別の指導計画の作成時
- ③一単元（題材）の授業の集団及び個別の実態把握や単元計画の作成時
- ④単元及び学期、年間の評価時

**個別の指導計画の作成時に、どのように指導内容表を使うのでしょうか。**

私たちは年度当初、児童生徒の各教科の指導目標や指導内容を設定するに当たり、前年度までに習得した内容や設定した目標の到達点等、学習状況を把握する作業を行います。この一連の過程で、前年度までに目標達成ができた内容は何なのか、新たな課題は何で、どのような指導目標、指導内容を設定していかなければならないのか等、教科ごとに丁寧に検討を行います。この検討を経て整理をされたものが個別の指導計画に表記され、1年間の指導の指標となります。指導内容表は、年度当初だけでなく、年度途中の個別の指導計画の見直し時にも同じように活用していくことができます。

前年度末に始まる個別の指導計画の作成時から、中間の見直し、年間の振り返りまでの一連の活動において、「根拠のある指導」を行うために、今回作成をした指導内容表をどのように活用していくのか、以下に示した図の順序に沿って説明していくことにします。



<図 個別の指導計画の作成手順（PDCAサイクルにのっとって）

## 活用の仕方

図のように、個別の指導計画の作成時には、まず、複数の教員で各児童生徒の実態把握を的確に行うことが重要です。新たに転入学してきた児童生徒の場合には、前所属先からの引き継ぎ事項を参考にしますが、進級の場合には、前担任が前年度の実態や学習の成果をどのように考えていたかを把握することから始まります。そして、引き継いだ個別の指導計画を元に、現担任が捉えた実態と照らし合わせながら、指導内容表を見て、取り扱える内容を確認し、個別の指導計画を作成していきます。前期、後期の終了時には、再度、内容を確認するために、指導内容表を活用します。

個々の児童生徒の実態を踏まえて、妥当な内容を選定し、根拠のある指導目標を立てることができるよう、指導内容表を活用していきましょう。

### 個別の指導計画を立てる際に、どのようなことに気を付けるとよいでしょう。

#### (1) 児童生徒の各教科の段階と内容の確認

まず、個々の児童生徒の実態を踏まえて、その児童生徒に合うと思われる段階のおおよその内容のすべてを把握しましょう。児童生徒によっては、複数の段階にまたがる実態の場合もあるので、その時には、中心となる段階の前後の内容も知っておきましょう。ここでは、小学部の算数を例にとって考えてみます。

算数には、「数量の基礎(小1段階のみ)」「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」という5つの領域があります。学習指導要領には、それぞれの領域に関して、細かい指導内容が設定されています。それを具体的に一覧にしたものが指導内容表の各教科等編で示す内容になっていますので、よく読んでみましょう。各教科で、段階別にどのような内容が挙げられているかを把握しておくことが大切です。

参考：<表1 算数 小学部の内容>

内 容	小1段階	小2段階	小3段階
数量の基礎	ア 具体物に関わる数学的活動 イ ものともとの対応		
数と計算	ア 教えることの基礎	ア 10までの数	ア 100までの整数 イ 整数の加法、減法
図形	ア ものの類別や分類	ア ものの分類 イ 身の回りにあるものの形	ア 身の回りのものの形 イ 角の大きさ
測定	ア 具体物のもつ大きさ	ア 二つの量の大きさ	ア 身の回りのものの量の単位と測定 イ 時刻や時間
データの活用		ア ものの分類 イ 同等と多少 ウ ○×を用いた表	ア 絵や図、記号での置き換え

※詳細は、算数・数学編を参照

#### (2) 当該年度に取り扱う内容の選定

把握した段階の内容の中で、当該年度に取り扱うのが適切だと思われる内容を選定しましょう。選定の際には、「児童生徒の現在の実態」「前年度からの指導の一貫性や連続性」「適時性」「児童生徒の興味関心」等を考慮して考えましょう。小学部では6年間、中学部では3年間を見通して、扱う内容が偏らないように、また、その児童生徒の実態から考えて、扱わなければならない内容をすべて扱うように、毎年、あるいは半期ごとに指導内容表を活用して、確認するようにしましょう。

## 活用の仕方

学習指導要領で定められている内容は、すべての児童生徒に対して扱わなければならないものですが、その段階は、個々の実態によって異なると考えられます。

例えば前述した算数の5つの内容について、個々の児童生徒に対して、扱わなくてよい内容はなく、目標とする段階が異なるだけであると考えます。半年ごと、あるいは1年ごとに学習状況を確認し、進み具合によって、次の期間に扱う内容を見直しながら、6年間、または3年間で網羅して取り組んでいくことが大切です。

参考：〈表2 算数 小学部の内容 小学部3年生Aさんの例〉

内 容	小1段階	小2段階	小3段階
数量の基礎	ア 具体物に関わる数学的活動 イ ものともとの対応	/	
数と計算	ア 数えることの基礎	ア 10までの数	ア 100までの整数 イ 整数の加法、減法
図形	ア ものの類別や分類	ア ものの分類 イ 身の回りがあるものの形	ア 身の回りのものの形 イ 角の大きさ
測定	ア 具体物のもつ大きさ	ア 二つの量の大きさ	ア 身の回りのものの量の単位と測定 イ 時刻や時間
データの活用	/		ア 絵や図、記号での置き換え
	ア ものの分類 イ 同等と多少 ウ ○×を用いた表		
	◻	◯	◻
	これまでに習得した内容		その年に扱うと選定した内容

### 【コラム1:学習の習得が緩やかな児童生徒にとっての扱う内容は?】

学習の習得が緩やかな児童生徒にとっては、複数年度に渡って、1段階の内容を扱うということもあります。その場合には、毎年、単純に繰り返して1段階の内容を扱えば良いのではなく、1段階の内容を分析的に考え、学習の展開や教材教具の提示の仕方等をどのように工夫すれば、1段階の学習の目標に迫ることができるかを考える必要があります。指導内容表に記載している1段階の内容を吟味し、取り上げる内容を細分化して考え、具体化することが大切です。

また、このような児童生徒の場合、中学部では小学部で、高等部では中学部で培った力との連続性や一貫性を考え、前学部の内容の続きから扱うようにします。生徒が無理なく主体的に学習に取り組むことができるように、中学部・高等部3年間で取り扱える内容の範囲を個々に想定する必要があります。

#### (3) 指導目標の設定、内容の選定に当たって

指導目標を設定し、内容を選定する際には、「段階を追って獲得する新たな力(タテに伸びる力)」と「同じ段階の内容でも充実・定着を図る力(ヨコに広がる力)」の獲得という2つの面があると考えましょう。個々の児童生徒にとって「主体的・対話的で深い学び」が実現し、確かな学びができるように、実態を踏まえて、どのような力を付けていきたいかを考えて、指導目標の設定や内容の選定をしていきましょう。



#### (4) 選定した内容の指導場面を考える

各教科の一覧に示した内容には、教科別の指導で行う方が効果的な内容と、教科等を合わせた指導の中で行う方が効果的な内容があります。選定した内容をどの授業を中心に

に扱うのが適切かを考えて、各教科や各教科等を合わせた指導の中に位置付けていきましょう。

### 【コラム2:教科等を合わせた指導における指導内容の扱いは?】

各教科で扱う内容は、「教科別の指導の時間に扱う内容」と同時に、生活単元学習や作業学習のような「各教科等を合わせた指導の時間に結果的に身に付ける内容」でもあります。しかしながら、「各教科等を合わせた指導」の目標として、教科ごとの目標をそのまま列記することはないので、教科の視点で見たときに、「何を学ぶか」があいまいになってしまうことがあります。そのようなことがないように、「各教科等を合わせた指導」では、それぞれの単元の展開を工夫し、取りこぼしのないように教科の内容を扱っているかを、単元計画作成時や授業後の評価時に個別の指導計画を確認していくことが大切です。

#### (5) 個別の指導計画に、教科の目標を表記する

毎年の教科の目標は、取り扱おうと計画しているすべての内容について、指導目標を立てて、実践していきましょう。指導目標は、必ずしも、観点別に分けて設定できるとは限りませんが、3観点を踏まえて設定するのが望ましいと考えています。

個別の指導計画には、紙面の制限があるため、すべてを記述することは難しいと考えられます。そのため、その年度の重点と考える目標に絞って記述するようにならざるをえない状況があります。

したがって、個別の指導計画に記載した指導目標以外にも、その年に設定している目標が多くあることを心に留めておき、日々の学習の中で意識して取り組んでいくことが大切です。

#### (6) 学習状況を把握する

個別の指導計画や年間指導計画を複数年度並べて見たときに、その児童生徒の学習状況(どの時期にどのような資質・能力が育ってきているか)が分かるかどうかを確認していきましょう。学習指導要領では、年度当初に計画していたことを確実に実践でき、児童生徒が「何を学んだか」が明確になっていることが求められています。日々の指導では、継続性、一貫性をもって、積み重ねていくことを心掛けていきましょう。

確実に力が付いてきているかを確かめるには、毎時間の授業での評価、単元ごとの評価、半期ごとの評価、さらに年間の評価をこまめに積み重ねて行うことが大切になってきます。

### 【コラム3:年間指導計画の作成におけるポイントは?】

年間指導計画も、個別の指導計画と同様の考え方で作成していくと、扱う内容が偏らず、「カリキュラム・マネジメント」の実現を図ることができ、教育活動の質の向上につながっていくと考えられます。個別の指導計画の作成手順や気を付けるポイントを参考にして、年度ごと、あるいは複数年度に渡って計画的に作成していくことで、指導者間で指導の根拠を共有でき、役に立つものになるでしょう。具体的に言うと、一つ一つの教科について、前年度の踏襲に終始せず、小学部6年間、中学部3年間、高等部3年間の中で、その集団が取り扱うべき内容をまんべんなく取り扱うことができているかを確認しながら、年間指導計画を作成していくことを心掛けたいということです。

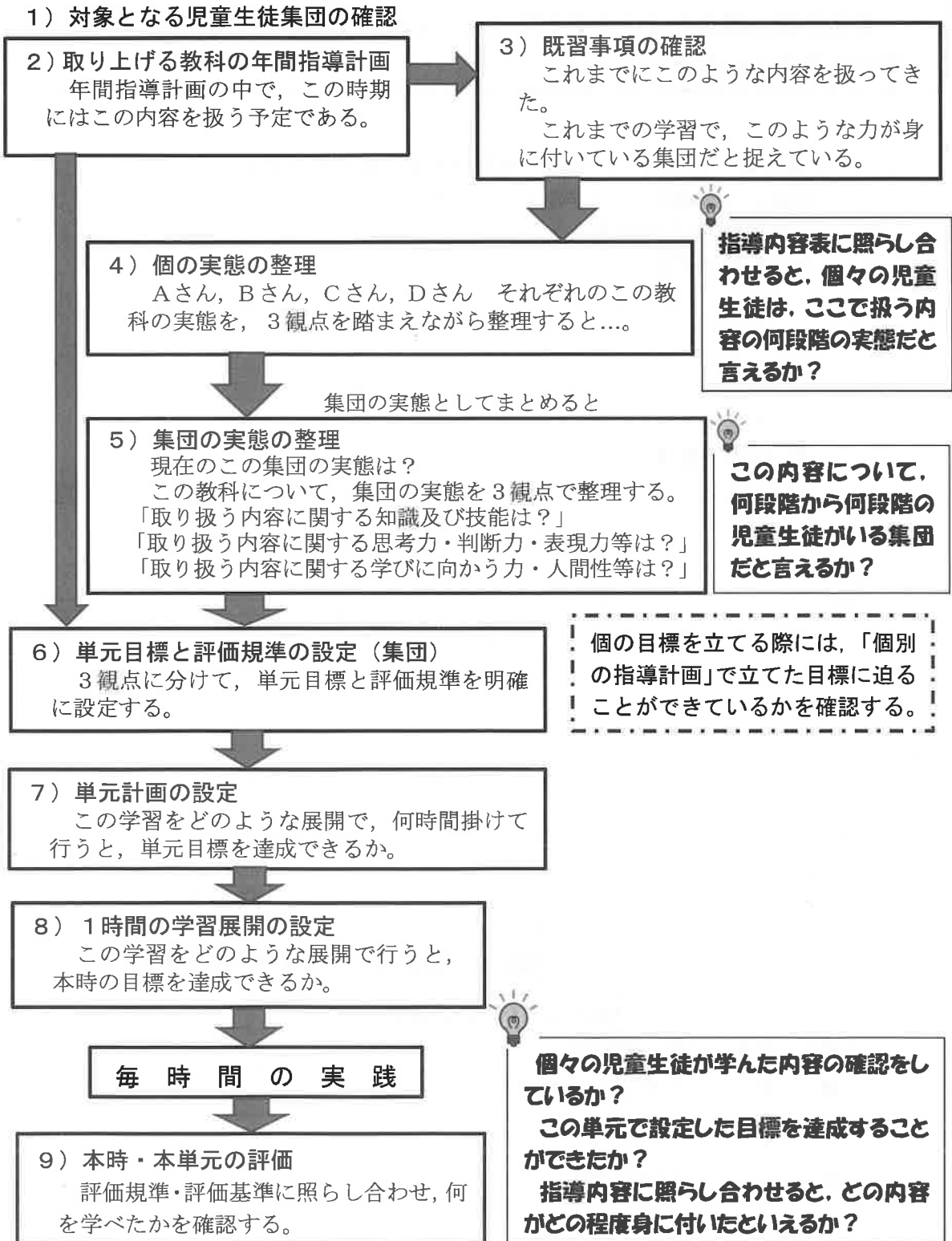
このように、年間指導計画の作成においても PDCAサイクルに位置付けて、扱う内容を明確にし、年間指導計画が授業改善につながるツールになるよう、工夫していきましょう。

**一単位時間の授業計画を立てる際には、どのように活用するのでしょうか。**

一単位時間の授業計画の際には、次の図4で示しているように、個々及び集団の児童生徒の実態を整理するときや、実践の評価をするときに、指導内容表を確認して、扱う内容を明確にしながらか進めていきます。

(「授業づくりハンドブック」P8～12も合わせて、参考にしてください。)

＜一単位時間の授業計画時の活用のイメージ（教科別の指導の場合）＞



## 活用の仕方

※ 各教科等を合わせた指導の場合には、単元計画を立てる段階で、教科の視点から、内容の検討・確認が必要です。指導内容表は、単元計画を立てたときに、教科としては、どのような内容を盛り込んでいるかを確認するツールとして活用することができます。単元を進める中で、「教科のどの内容を押さえることができるか」「この単元で学んでほしい内容をもらさず、取り上げることができているか」を確認することを忘れないようにしましょう。

一単位時間の授業計画を立てる際には、どのように活用するのかを具体例を挙げて考えていきましょう。

(※ ここでの項目番号は、前ページの番号と合わせており、学習指導案に記載する項目番号とは異なります。)

### 例 小学部 4年 算数科「いろいろな物の長さを比べてみよう」

- 1) 対象となる集団 小学部4年生 男子2名 女子2名 計4名
- 2) 算数科の年間指導計画 9月に「測定」の2段階の内容を扱うことにしている。
- 3) 既習事項の確認
  - ・ 2枚の絵や簡単な図形の絵合わせ
  - ・ 色や形に注目した分類 (3×3のマトリックス)
  - ・ 1対1対応 3までの数を数えること
  - ・ 「食べる物」「乗る物」など、同じ用途の物集め
  - ・ 重さ比べ
- 4) 個の実態の整理

	「知識及び技能」	「思考力・判断力・表現力等」	「学びに向かう力・人間性等」を踏まえて
A	具体物を触って、「重たい」「大きい」などという言葉を使うことができる。 2つの物を比べて、重い方、長い方、大きい方、多い方を感覚的に選ぶ。 仲間集めや絵合わせなどの学習に興味をもち、進んで取り組もうとする。		
B	異なる種類の物でも、「重い」「軽い」、「長い」「短い」等の言葉を使って区別することができる。 重さや長さを比べるとき、「〇〇と同じ」や「何の何個分」という表し方ができることがある。 すぐに答えが出ない課題のときにも、考える手掛かりがあると、試行錯誤して答えを導き出そうとする。		
C	違いの大きい物であれば、2つを比べ、「重い」「軽い」「長い」「短い」などと区別することができる。 同じ種類の物であれば、重い方や長い方を選ぶことができるが、異なる物では、迷うことがある。 見たり直接的に操作したりすることができる学習であれば、自分から取り組もうとする。		
D	物によって重さや長さに違いがあることに気付いており、2つの大小の物を分けることができる。 持ち上げたり触れたりするような直接的な操作があると、重い方や大きい方を選ぶことができる。 友達の活動を見て、課題への取り組み方が分かり、同じようにやってみようとする。		



学習前の力を指導内容表で確かめると

指導内容表で確かめた段階	
A	(測定) 小2段階程度
B	(測定) 小2～小3段階程度
C	(測定) 小2段階程度
D	(測定) 小1段階程度

## 活用の仕方

### 5) 集団の実態の整理

- 物には重さや長さなどの量の違いがあることが分かり、違いの大きいものであれば2つの物を比べたり対応した言葉を使って区別したりすることができる児童が多い。  
→ (知識及び技能) 測定 小学部2段階
- 直接的に持ち上げたり操作したりして2つの物の重さや長さを比較することができる。感覚的に捉えている児童が多いが、中には、基準となるものを使って、相対的に比べようとする児童もいる。3つ以上の物の比較になると、あいまいになる。  
→ (思考力・判断力・表現力等) 測定 小学部2～3段階
- 直接操作をすることができる学習には意欲的に取り組み、友達の活動や教師からのヒントを手掛かりに取り組みようとする児童が多いが、課題の理解ができないと、活動が滞りがちになる。  
→ (学びに向かう力・人間性等) 数学的活動 小学部1～3段階

個別の実態からおおよその共通する集団の実態を整理し、本単元で取り上げる指導内容を導き出せるようにします。

### 6) 単元目標の設定

- 身の回りにある物の長さの違いに注目し、2つの物の長さを測ったり比べたりすることができる。  
→ (知識及び技能) 測定 小学部の2段階に焦点を当てた目標
- 長さを正確に測ったり比べたりする方法があることに気付き、端をそろえたりまっすぐに伸ばしたりして長さを比べたり、「長い」「短い」という用語を用いて表現したりすることができる。  
→ (思考力・判断力・表現力等) 測定 小学部2～3段階の始めに焦点を当てた目標
- 長さを測ることや比べることに関心をもち、友達と一緒に課題をやり遂げることに楽しさを感じながら、自分から長さ調べの学習に取り組もうとすることができる。  
→ (学びに向かう力・人間性等) 測定 小学部2段階に焦点を当てた目標

### 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りにある物の長さ注目し、違いがあることに気付いている。</li> <li>2つの物の長さを測ったり比べたりすることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さを正確に測ったり比べたりする方法を自分で考えている。</li> <li>「長い」「短い」という用語を用いて、長さを表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さを測ったり比べたりする学習に自分から取り組んでいる。</li> <li>友達の活動をヒントにしたり、やり取りしたりしながら、意欲的に課題に取り組んでいる。</li> </ul>

実態を踏まえ、どの段階に焦点を当てているかを明確にし、この単元でどのような力を付けたいかを考えて、3観点で目標を整理しましょう。評価規準も、単元目標に対応させて、この段階で押さえたいことが分かるように記述することが大切です。

### 7) 単元計画 (全10時間 本時6/10時間)

次	時	活動内容	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1	長いかな, 短いかな	○		○
二	1	長い物を探そう	○		○
	2	短い物を探そう	○	○	
三	1. 2	端をそろえて比べよう	○	○	
	3. 4	まっすぐに伸ばして比べよう		○	○
四	1～3	長い順に並べよう		○	○



## 活用の仕方

単元目標に迫るためには、児童が課題意識をもてるような学習を考え、必要な内容を取り上げることができる展開や時間数になっていることが大切です。

### 8) 本時の学習展開 (第三次第3時)

目 標	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提示された2本のひもの長さの比較の仕方を考え、比べて見せたり長い方を選んだ理由を説明したりすることができる。(思考力・判断力・表現力等)</li> <li>・ 提示されたひもの長さ調べに関心を持ち、友達とやり取りしながら操作を通して長い方を選ぶことができる。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>		
	個別	A	B	C
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提示された2本のひもの端をそろえた状態でまっすぐに伸ばして比べることに気づき、自分で長い方を選ぶことができる。</li> <li>・ 自分から長さ調べの課題に取り組み、友達の活動を手掛かりにしながら、自分で長い方を選ぶことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提示された2本のひもを基準となる物を使って比べる方法を考え、長い方を選んだ理由を自分なりに説明することができる。</li> <li>・ 友達の考えを聞いたり、自分が考えた長さを比べる方法を友達に伝えるようにやってみせたりしようすることができる。</li> </ul>	
学習活動	教師の支援及び指導上の配慮事項			
1				

焦点を当てる段階を意識しながら、本時で達成してほしい目標を具体的に記述します。特に、個別の目標に関しては、実態を踏まえて取り上げる段階の中でどのような力を付けようとしているのかが分かるように、書き分けるようにしましょう。

### 9) 本時・本単元の評価

本時の評価基準

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提示された2本のひもを端を揃えた状態で真っ直ぐに伸ばして比べている。</li> <li>・ やってみたことを手掛かりにして、複数回、自分で長い方を選ぶことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分から2本のひもを操作して、長さ調べの課題に取り組もうとしている。</li> <li>・ 友達の活動にも注目し、それを手掛かりにして、自分で長い方を選ぶようとしている。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「基準となる物が何個分だから、こちらの方が長い」と分かるような操作をしている。</li> <li>・ 操作しながら、自分なりの言葉で長い方を選んだ理由を伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準となる物を使って、2本のひもの長さを測る方法を自分で導き出そうとしている。</li> <li>・ 友達に長さを比較する方法を分かるように伝えたり、友達の考えを聞いたりしようとしている。</li> </ul>

本時の個別目標と対応させて、評価基準を記述します。一文の中で評価する内容を絞っていると、どのような力を見ようとしているのかが分かりやすくなります。

毎時間、そのような評価を重ねることによって、その単元の学習を通して、どの段階の力が付いてきたかを明確に整理することにつながると考えています。毎時間の評価は、その場面で見られたエピソード記録のようになることもありますが、単元やある程度の期間を通して整理してみると、別の学習場面や生活の中で生かせる力になっているかどうかを考えやすくなると思います。

**各教科は、どのような基準で段階別に示されているのでしょうか。**

各教科の内容は、学年ではなく、段階別に示されています。

それは、発達期における知的機能の障害が、同一学年であっても、個人差が大きく、個々の児童生徒の実態に即して、各教科の内容を精選して、効果的に指導することを求めているからです。

今回の改訂では、各段階における育成を目指す資質・能力を明確にすることができるように、知的機能の障害の状態と適応行動の困難性等を踏まえ、各教科の各段階は、基本的には、知的発達、身体発育、運動発達、生活行動、社会性、職業能力、情緒面での発達等の状態を考慮して目標を定め、小学部1段階から高等部2段階へと7段階にわたり構成しています。目標と内容は、基本的に、児童生徒の成長に応じて、より深い理解や学習へと発展し、学習や生活を質的に高めていくことのできるように、次のような段階を踏まえて配列されています。

<各段階の目標>

小学部			中学部		高等部	
小1段階	小2段階	小3段階	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
教師の直接的な援助を受けながら、児童が体験し、事物に気付き注意を向けたり、関心や興味をもったり、基本的な行動の一つ一つを着実に身に付けたりすること	教師からの言葉掛けによる援助を受けながら、目的をもった遊びや行動をとったり、児童が基本的な行動を身に付けたりすること	児童が自ら場面や順序などの様子に気付いたり、主体的に活動に取り組んだりしながら、社会生活につながる行動を身に付けること	生徒が自ら主体的に活動に取り組み、経験したことを活用したり順番を考えたりして、日常生活や社会生活の基礎を育てること	生徒が自ら主体的に活動に取り組み、目的に応じて選択したり処理したりするなど工夫し、将来の職業生活を見据えた力を身に付けられるようにしていくこと	生徒が自ら主体的に学び、卒業後の生活を見据えた基本的な生活習慣や社会性、職業能力等を身に付けられるようにしていくこと	生徒自らが主体的に学び、卒業後の実際の生活に必要な生活習慣、社会性及び職業能力等を習得すること

<各段階の内容>

小学部			中学部		高等部	
小1段階	小2段階	小3段階	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
知的障害の程度は、比較的軽く、他人との意思の疎通に困難があり、日常生活を営むのにほぼ常時援助が必要である者を対象とした内容	他人との意思の疎通に困難があり、日常生活を営むのに頻繁に援助を必要とする者を対象とした内容	他人との意思の疎通や日常生活を営む際に困難が見られ、適宜援助を必要とする者を対象とした内容	生活年齢に応じながら、経験の積み重ねを重視するとともに、他人との意思の疎通や日常生活への適応に困難が大きい生徒にも配慮した内容	生徒の日常生活や社会生活及び将来の職業生活の基礎を育てる内容をねらいとする内容	生活年齢に応じながら、卒業後の家庭生活、社会生活及び職業生活などの関連を考慮した、基礎的な内容	比較的障害の程度が軽度である生徒を対象として、卒業後の家庭生活、社会生活及び、職業生活などの関連を考慮した発展的な内容



総則

## Ⅱ 各教科等

### 1 総則

## 総則

### 特別支援学校 小学部・中学部・高等部学習指導要領総則

#### 教育目標

特別支援学校については、学校教育法第72条に定める目的を実現するために児童及び生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を十分考慮して、次に掲げる目標の達成に努めなければならない。

- ・小学部においては 学校教育法第30条第1項に規定する小学校教育の目標
- ・中学部においては 学校教育法第46条に規定する中学校教育の目標
- ・高等部においては 学校教育法第51条に規定する高等学校教育の目標
- ・(小・中・高を通じ) 児童及び生徒の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し自立を図るために必要な知識、技能、態度及び習慣を養うこと。

#### ※学校教育法72条に定める目的とは

特別支援学校は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。以下に同じ）に対して幼稚園、小学校、中学校、高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする。

※自立活動が必要であると同時に、特に重要な意義をもつ。

#### 小学部、中学部、高等部における教育の基本

学校の教育活動を進めるに当たっては、(1)～(4)に掲げる事項の実現を図り、生きる力を育むことを目指すものとする。

#### ※生きる力とは

基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などである。

(平成8年7月中教審答申)

#### (1) 確かな学力

- ・基礎的・基本的な知識及び技術を確実に習得させる。
- ・知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育む。
- ・主体的に学習に取り組む態度を養う。
- ・個性を生かし多様な人々との協働を促す。

※言語活動など学習の基盤をつくる活動を充実するよう配慮する。

※学習習慣が確立するよう配慮する。

#### (2) 豊かな心や創造性の涵養

- ・道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること。

※多様な表現や鑑賞の活動等は、音楽、図画工作や美術における表現及び鑑賞の活動、体育や保健体育における表現活動、特別活動における文化的行事、文科系のクラブ活動等の充実を図るほか、各教科等における言語活動の充実を図ることや教育課程外の学校教育活動などと相互に関連させ、学校教育活動全体として効果的に取り組むことも重要となる。

**(3) 健やかな体**

- ・学校における体育・健康に関する指導を教育活動全体を通じて適切に行う。
- ・健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努める。
- ・食育の推進，体力の向上に関する指導，安全に関する指導，心身の健康の保持増進に関する指導を適切に行うように努める。

※日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促す。生涯を通じて健康・安全である生活を送るための基礎が培われるように配慮する。

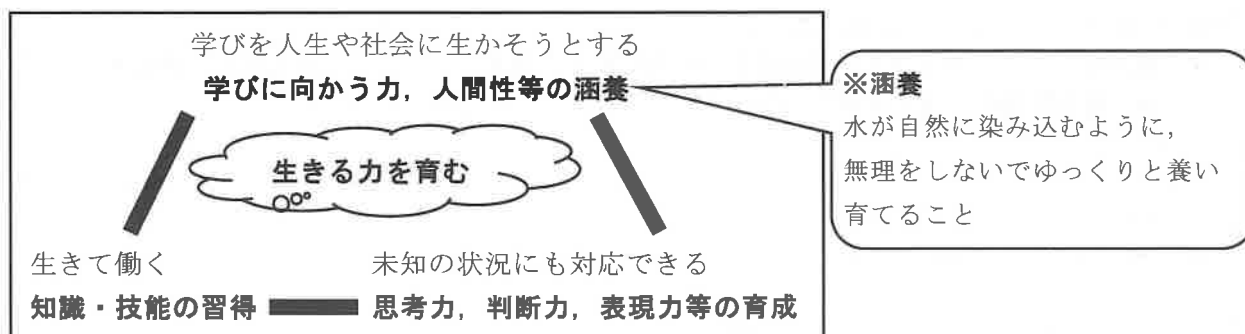
**(4) 自立活動の指導**

- ・障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し，自立し社会参加する資質を養う。
- ・自立活動の時間はもとより，学校の教育活動全体を通じて適切に行う。

※障害の状態や特性，心身の発達段階等を的確に把握して作成された個別の指導計画の下に，行う。

**育成を目指す資質・能力**

「生きる力」を育むことを目指すに当たっては，どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながらか教育活動の充実を図る。育成を目指す資質・能力を三つの柱で整理して示す。



**【知識及び技能の習得】**

資質・能力の育成は，「何を理解しているか，何ができるか」に関わる知識及び技能の質や量に支えられている。知識については，児童生徒が学習の過程を通して，個別の知識を学びながら，そうした新しい知識が既得の知識及び技能と関連付けられ，各教科等で扱う主要な概念を深く理解し，他の学習や生活の場面でも活用できるような確かな知識として習得されるようにしていくことが重要となる。

**【思考力，判断力，表現力等の育成】**

「思考力，判断力，表現力等」とは，社会や生活の中で直面するような未知の状況の中でも，その状況と自分との関わりを見つめて具体的に何をすべきかを整理したり，その過程で既得の知識や技能をどのように活用し，必要となる新しい知識や技能をどのように得ればよいのかを考えたりするなどの力である。

**【学びに向かう力，人間性等を涵養すること】**

よりよい社会や幸福な人生を切り拓いていくためには，主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や，自己の感情や行動を統制する力，よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。これらは，自分の思考や行動を客観的に把握し認識する，いわゆる「メタ認知」に関わる能力を含むものである。

## カリキュラム・マネジメント

### 【カリキュラム・マネジメントとは】

学校教育に関わる様々な取組を、教育課程（教育計画・教育実践等）を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくこと

（以下、四つの側面を通して教育活動の質の向上を図る。）

**1 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと**  
→学校教育目標の実現（児童生徒一人一人の目指す将来像）に向け、教科等ごとの枠の中だけでなく、教育課程全体を通じ、他の教科等における指導の関連を図りながら、資質・能力の育成を目指していく。

**2 教育課程の実施状況を評価し、その改善を図ること**  
→各学校は、各種調査結果やデータ等に基づき、「児童生徒の姿」「学校及び地域の現状」「保護者や地域住民の意向」等を定期的に把握し、学校の教育目標など教育課程の改善方針を立案して実施していく。また、学校評価と関連付けて実施することが重要である。

**3 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと**  
→教師の指導力、教材・教具の整備状況、地域の教育資源や学習環境（近隣の学校、社会教育施設、児童生徒の学習に協力することのできる人材等）などについて具体的に把握することが必要である。

**4 何が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくよう工夫すること**  
→「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「子ども一人一人の発達をどのように支援するか」「何が身に付いたか」「実施するために何が必要か」を的確に捉え、個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていく。

### 【カリキュラム・マネジメントチェック例】

教育目標の達成に向け、教育活動の質を向上させるために…

- 校長が示したビジョンや方針、各部目標を十分理解している。
- 教育目標を意識して授業や行事に取り組んでいる。また、その評価を行い改善へとつなげている。
- 各学校が設定した研究テーマを意識した授業を行っている。
- 教職員一人一人が教育課程（授業の位置付けなど）の説明ができる。
- 地域・社会の人材や素材を積極的に活用している。
- 学校の授業が、家庭生活や家庭学習とつながっている。
- 各教科等のPDCA（R（実態把握）V（将来像）-PDCA）サイクルが確立されている。
- 学習指導要領をもとに作成した目標と授業内容がつながっている。
- 各教科等の教育目標や内容の相互関連を意識して指導している。
- 教科で学習した内容が総合的な学習/探究の時間につながり、教科の授業で培った力が発揮されている。
- 個別の指導計画や年間指導計画の確認（加除訂正）を定期的に行っている。
- 教育課程の反省や学校評価を通して、教育課程の評価・改善を行っている。

※カリキュラム・マネジメントは、学校の方針のもとに、管理職、教務といった一部だけが関わるのではなく、教職員一人一人が協働しながら学校全体で取り組むことが必須。一人一人が意識して行う授業改善が、学校全体の教育活動の質の向上につながる。

※カリキュラム・マネジメントは手段であるため、それ自体を目的化するのはなく、「何のためのカリキュラム・マネジメントなのか」を常に考えるとともに、明確な目標を持ち、評価・改善につなげていく。

**教育課程の編成**

**【教育課程とは】**

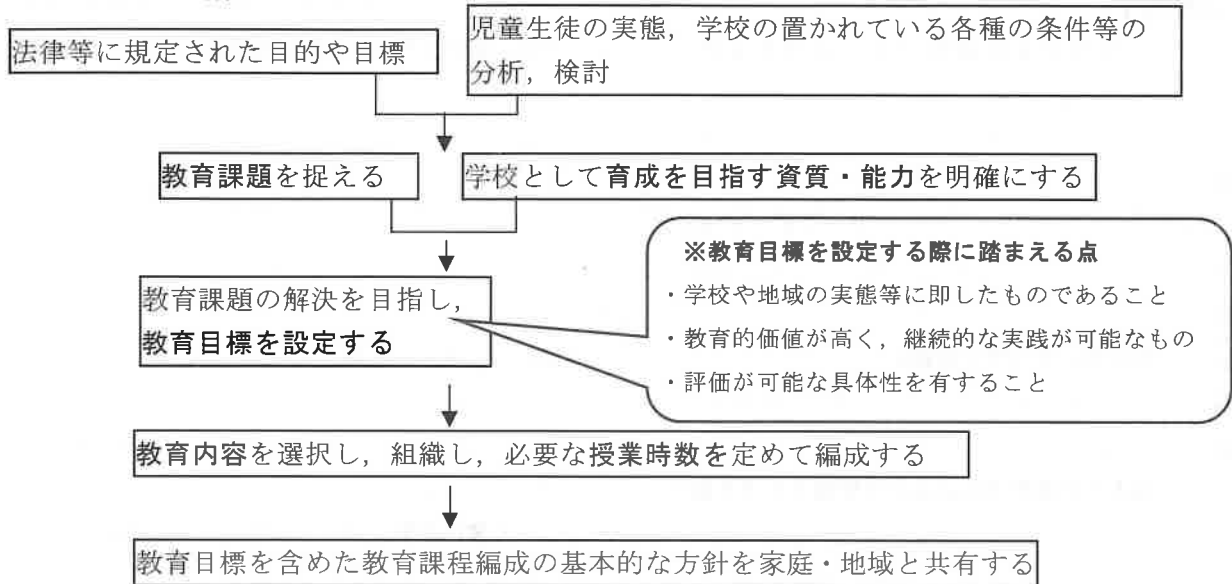
学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画。

◇基本的な要素（学校の教育目標の設定、指導内容の組織、授業時数の配当など）

**【編成の原則】**

- ・教育基本法及び学校教育法、その他の法令並びに学習指導要領の示すところに従う。
- ・児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達段階等並びに学校や地域の実態を十分考慮すること。

**【教育課程の編成の流れ】**



**【教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を行う】**

資質・能力を整理すると次のように大別される

(1) 教科等の枠組みを踏まえて育成を目指す資質・能力
(2) 学習の基盤となる資質・能力 (例) 言語能力，情報活用能力（情報モラルを含む），問題発見・解決能力等
(3) 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力 (例) 豊かな人生を実現する，災害を乗り越える等

(1) は、教科等ごとの枠の中だけでなく、教育課程全体を通じて、教科等横断的な視点をもってねらいを具体化したり、他の教科等における指導との関連付けを図りながら幅広い学習や生活の場面で活用できる力を育むことを目指したりしていくことも重要になる。

(2)，(3) においても、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

<b>言語能力</b>	言葉は、児童生徒の学習活動を支える重要な役割を果たすもの。教科書や教師の説明、様々な資料等から新たな知識を得たり、事象を観察して必要な情報を取り出したり、自分の考えをまとめたり、他者の思いを受け止めながら自分の思いを伝えたり、学級で目的を共有して協働したりすることができるのも言葉の役割に負うところが大きい。
<b>情報活用能力</b>	世の中の様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・



## 総則

	<p>能力。</p> <p>学習活動において、必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力。情報手段の基本的な操作の習得やプログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含む。</p>
<p><b>問題発見</b></p> <p>▪</p> <p><b>解決能力</b></p>	<p>各教科等において、物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程を重視した深い学びの実現を図る。総合的な学習の時間における横断的・総合的な探究課題や特別活動における集団や自己の生活上の課題に取り組むこと通じて、各教科等で身に付けた力が統合的に活用できるようにすることが重要。</p>

### 【履修】

	準ずる教育課程で履修させるもの	知的障害の教育課程で履修させるもの
小学部	国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、体育、外国語、道徳科、総合的な学習の時間、外国語活動、特別活動、自立活動	生活、国語、算数、音楽、図画工作、体育、道徳科、特別活動、自立活動 (必要に応じて 外国語活動)
中学部	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動 (必要に応じて 外国語)
高等部	<p>・各学科に共通する各教科</p> <p>国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報</p> <p>・主として専門学科において開設される各教科</p> <p>農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉、理数、体育、音楽、美術、英語</p> <p>・学校設定教科、</p> <p>・総合的な探究の時間・特別活動・自立活動</p>	<p>・各学科に共通する各教科等</p> <p>国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業及び家庭、道徳科、総合的な探究の時間、特別活動、自立活動 (必要に応じて 外国語、情報)</p> <p>・主として専門学科において開設される各教科</p> <p>家政、農業、工業、流通・サービス、福祉</p> <p>・学校設定教科</p>

### 【内容の取扱い】

<p><b>〈いずれの学校においても取り扱わなければならない〉</b></p> <p>・各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の内容に関する事項は、特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければならない。</p> <p>※「特に示す場合」については、「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」の頁を参照。</p>
<p><b>〈自立活動に示されている内容は、選定されるもの〉</b></p> <p>・自立活動に示されている内容は、個々の児童生徒の指導目標を踏まえて選定されるものであることに留意する。すべての内容を指導するのではない。</p>
<p><b>〈学校において特に必要がある場合、内容を加えて指導することができる〉</b></p> <p>・個に応じた指導を充実する観点から、児童生徒の実態に応じて、学校において特に必要がある場合は、学習指導要領に示していない内容を加えて指導することができる。その際、学習指導要領に示した目標や内容の趣旨を逸脱したり、児童生徒の負担過重となったりしないようにする。</p>
<p><b>〈指導の順序を示すものではない〉</b></p> <p>・内容や内容に掲げる事項の順序は、特に示す場合を除き、指導の順序を示すものではない。学校においては、その取扱いについて、適切な工夫を加えるものとする。</p>

## 総則

### 〈具体的な指導内容を設定する必要がある〉

- ・知的障害者に対する教育を行う特別支援学校において、各教科の指導に当たっては、各教科の段階に示す内容を基に、知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の一部又は全部を合わせて指導を行う場合、各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。

### 〈小学部は6年間、中学部は3年間を見通して〉

- ・目標及び内容がバランスよく取り扱われるよう、小学部は6年間、中学部は3年間を見通して計画的に指導する。

### 〈選択教科として設けることができる〉

- ・中学部（知的）で、特に必要がある場合は、特に必要な教科を選択教科として設けることができる。生徒の実態をよく把握し、負担過重にならないよう適切な配慮が必要である。

## 教育課程（授業時数等）

### 【小学部・中学部】

総授業時数	小学校、中学校の各学年における年間の総授業時数に準ずる。 [総授業時数に、含まれるもの] 外国語科を含む各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動（学級活動に限る。学校給食に係るものは除く）、自立活動
各教科等の授業時数	年間35週以上にわたって行うよう計画する（小1は34週） 各教科等（中学部の特別活動を除く）や学習活動の特質に応じ効果的な場合、夏季、冬季、学年末等の休業日の期間に授業日を設定することができる。
授業の1単位時間	各教科等の年間授業時数を確保しつつ、児童生徒の実態、各教科等や学習活動の特質を考慮して適切に定める。 集中力や持久力、指導内容のまとまり、学習活動の内容を考慮して、どの程度が最も指導の効果を上げるかという観点
総合的な学習の時間	視・聴・肢・病（小3以上）、中学部の各学年において、それぞれに適切に定めるものとする。 ※知的（小）では、設けない。
自立活動	授業時数の標準は示されていないが、個々の児童生徒の障害の状態や特性、心身の発達の段階に応じて適切に設定される必要がある。自立活動の時間に充てる時間は、各学年の総授業時数の枠内に含まれることになっている。各教科等の一部又は全部を合わせた指導において、自立活動を合わせる場合であっても授業時数を適切に定める必要がある。
小：児童会活動、 クラブ活動、学校行事 中：生徒会活動、学校行事	特別活動のうち、左に示すものは、学校ごとの特色ある実施が望まれる。内容に応じ、年間、学期ごと月ごとなどに適切な授業時数を充てる。学校行事は、行事や内容の重点化、行事間に関連や統合を図り、精選して実施する。 ※学級活動については、学校教育法施行規則において標準となる授業時数が示されている。
各教科等を合わせて 指導を行う場合	取り扱われる教科等の内容を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定し、指導内容に適した時数を配当するようにする。

## 総則

短い時間を活用して指導を行う場合	単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し、指導内容の決定、指導の成果の把握、活用を行う体制が整備されているとき、当該教科等の年間授業時数に含めることができる。
給食、休憩などの時間	各学校において工夫を加え、適切に定めること。
時間割の弾力的な編成	時間割を年間で固定するのではなく、児童生徒や学校、地域の実態、各教科等や学習活動の特質に応じ、弾力的に組み替えて実施することができる。
総合的な学習の時間の実施による特別活動の代替	総合的な学習の時間において、総合的な学習の時間と特別活動の両方の趣旨を踏まえた体験活動を実施し、学校行事の実施と同等の成果が期待できる場合に特別活動の代替を認める。

### 【高等部】

総授業時数	1050 単位時間を標準とする。(1 単位時間は 50 分として計算) ※特に必要がある場合は、増加することができる。 [総授業時数に含まれるもの] <b>各教科、道徳科、総合的な探究の時間、特別活動(ホームルーム活動に限る)、自立活動</b> ※道徳科、特別活動、自立活動は、それぞれの学年で履修し、その年度の授業時数を適切に定める。 ※各教科、総合的な探究の時間は、履修する学年を定め、その学年における授業時数を適切に定める。
各教科・科目、ホームルーム活動、自立活動の授業時数	年間 35 週行うことを標準とする。 各教科・科目及び自立活動の授業は、必要がある場合は、特定の学期、特定の期間に行うことができる。
専門学科の専門教科	全ての生徒に履修させる授業時数は、875 単位時間を下らない。
週当たりの授業時数	30 単位時間を標準とする。特に必要がある場合には、増加することができる。
1 単位時間	各教科等の授業時数を確保しつつ、生徒の実態や各教科等の特質を考慮して適切に定める。
ホームルーム活動	原則として年間 35 単位時間以上とする。 特定の学期又は期間に集中して行うことはできない。 ※毎日の授業の前後に「ショートホームルーム」、「朝の会」、「帰りの会」等の名称の時間を設定される場合があるが、ホームルーム活動の時間とは区別されるものである。
生徒会活動、学校行事	活動ごとに時期を考慮し、学科の特色、生徒及び地域の実態に応じて、適切な授業時数を充てる。それぞれの学習内容に応じて、計画的に教育活動ができる一定の授業時間を確保すべきである。
総合的な探究の時間	生徒や学校の実態に応じて適切に定める。各学年において実施する方法や、特定の学年に実施する方法も可能。特定の学期又は期間に行う方法を組み合わせて活用することも可能。
自立活動	※小学部、中学部の欄を参照
短い時間を活用して指導を行う場合	単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した中で、指導内容の決定、指導の成果の把握、活用を行う体制が整備されているとき、当該各教科等の授業時数に含めることができる。
総合的な探究の時間の実施による特別活動の代替	※小学部、中学部の欄を参照

### 指導計画の作成等に当たっての配慮事項

- ・指導計画を作成するに当たり、各教科等の目標と指導内容の関連を十分に研究し、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、まとめ方などを工夫したり、内容の重要度や児童生徒の学習の実態に応じてその取扱いに軽重を加えたりするなど、工夫を加える。
- ・各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにする。
- ・小学部においては、児童の実態を考慮し、指導の効果を上げるため、障害の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに指導内容の関連性等を踏まえつつ、合科的・関連的な指導を進める。

### 個別の指導計画の作成

各教科等の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の実態を的確に把握し、次の事項に配慮しながら、個別の指導計画を作成すること。

- **基礎的・基本的な事項に重点を置くこと**
  - ・児童生徒一人一人に学習内容の習熟の程度に応じたきめ細やかな指導を工夫して基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容の着実な理解を図っていくことが大切である。
- **指導方法や指導体制の工夫改善に努めること**
  - ・個別指導を重視するとともに、グループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた学習、興味・関心等に応じた学習、補充的な学習、発展的な学習などを取り入れること。
  - ・教師の専門性や得意分野などの特性を生かしたり、学習形態によっては、協力して指導したりする。

### 学部段階間及び学校段階等間の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学部段階間及び学校段階間の接続を図る。

**小学部においては**、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫する。入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など指導の工夫や指導計画の設定を行う。

中学部における教育又は中学校教育又はその後の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。

**中学部においては**、小学部における教育又は小学校教育までの学習の成果が円滑に接続され、義務教育段階の終わりまでに育成することを目指す資質・能力を生徒が確実に身に付けることができるように工夫する。

高等部における教育又は高等学校教育及びその後の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。

**高等部においては**、中学部における教育又は中学校教育までの学習の成果が円滑に接続され、高等部における教育段階の終わりまでに育成することを目指す資質・能力を生徒が確実に身に付けることができるよう工夫する。

大学や専門学校、教育訓練機関等における教育や社会的・職業的自立、生涯にわたる学習や生活のために進路先との円滑な接続が図られるよう、関連する教育機関や企業、福祉施設等との連携により、卒業後の進路に求められる資質・能力を生徒が確実に育成することができるよう工夫する。

【主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善】

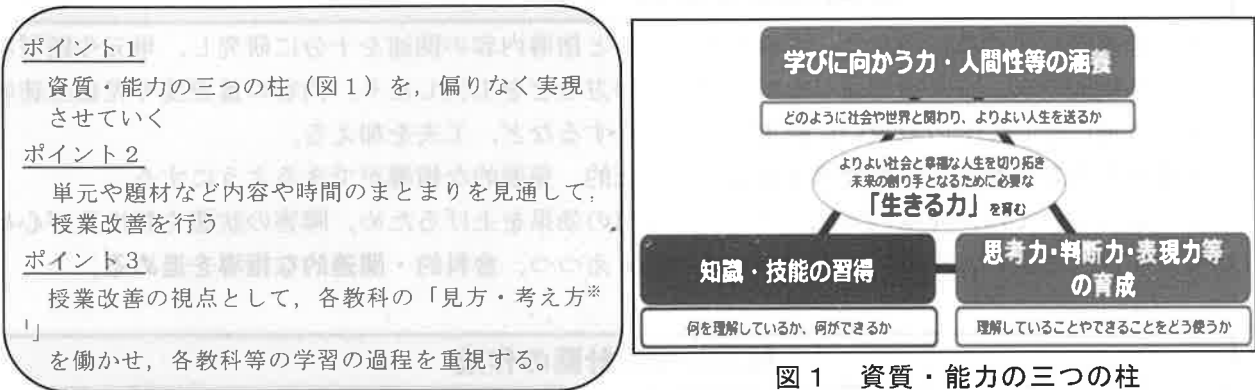


図1 資質・能力の三つの柱

表 児童生徒の主体的・対話的で深い学びの視点の例と教師の関わり

	児童生徒の姿	教師の関わり
<b>主体的な学びの視点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学ぶことに興味関心をもつ</li> <li>○見通しをもって粘り強く取り組む</li> <li>○学習活動を振り返って次の学習につなげる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教材・教具の改善する</li> <li>●興味・関心を生かす</li> <li>●目指す児童生徒像と関連づける</li> </ul>
<b>対話的な学びの視点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒同士が協働する</li> <li>○自己の考えを広げ深める（対話の相手は児童生徒だけでなく、教職員、地域の人、先哲、教材など幅広い。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教材・教具や言葉掛けの工夫により思考を促す</li> <li>●他者の意見や考え方を比較したり、自分だけでは気付くことが難しい気付きを得られたりできるように支援する</li> </ul>
<b>深い学びの視点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科等の「見方・考え方」を働かせる</li> <li>・知識を相互に関連付けてより深く理解する</li> <li>・情報を精査して考えを形成する</li> <li>・問題を見出しして解決策を考える</li> <li>・思いや考えを基に創造することに向かう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各教科等の目標や内容を三つの資質・能力の観点から明確にする</li> </ul>

＜ 岡山県総合教育センター 知的障害教育における「主体的・対話的で深い学び」(平成31年2月)を一部改訂＞

- 主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。
- 主体的・対話的で深い学びを通して、質の高い学びを実現し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けることが求められている。

【学習評価の充実】

学習評価の実施に当たっては、次の事項に配慮するよう示されている。

1 《何が身に付いたのか—多面的・多角的な評価から—》

児童生徒による学習活動としての相互評価や自己評価の工夫に加え、資質・能力の三つの柱の一つでもある「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度多として観点別学習評価の評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることのできる部分と、②個人内評価（個人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する）を通じて見取る部分があることから、多面的・多角的な評価を行いながら資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくことが必要である。

2 《何をどう改善していくのか—計画（Plan）—実践（Do）—評価（Check）—改善（Action）から—》

各教科等の指導に当たっては、目標が高すぎではないか、指導内容や指導方法は適切か、指導目標、指導内容、指導方法に一貫性はあるか、など、課題を明らかにし、その課題の背景や要因を踏まえて改善を図る必要がある。

※1 各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもので、教科等の学習と社会をつなぐもの。習得・活用・探究という学びの過程において、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。

## 総則

### 3 《いかに妥当性や信頼性を高め、学習成果を接続していくのか》

学習評価の妥当性や信頼性を高めるために、「評価規準や評価方法を明確にする」「評価結果について教師同士で検討する」「実践事例を蓄積し共有する」「授業研究等を通じ評価に係る教師の力量の向上を図る」などに取り組むことが挙げられる。加えて、学校が保護者に、評価に関する仕組みや評価結果について丁寧に説明し、保護者の理解を図ることも信頼性の向上の観点から重要である。

今回の改訂は、学部間学校間の接続も重視している。例えば、特別活動の指導では、学校、家庭、及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだこと振り返りつつ、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこととし、その際の活動を記録し蓄積する教材等を学校段階や学部段階を越えて活用することで児童生徒の学習成果を円滑にかつ適切に接続させることが考えられる。

※学習評価の考え方については、「授業づくりハンドブック」～学習指導案と学習評価の考え方について～（岡山県特別支援学校校長会・岡山県教育庁特別支援教育課 平成30年）を参照してください。

### 【教育課程の実施に当たって】

#### コンピュータ等や教材・教具の活用、コンピュータの基本的な操作やプログラミングの体験

情報活用能力（第1章総則第3節の2（1））を図ることに関連し、以下のことに配慮する。

- ・情報技術を児童生徒が手段として学習や日常生活に活用できるようにするため、各教科等においてこれらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。
- ・各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること
- ・児童生徒が情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくこと。
- ・情報活用能力は「学習の基盤となる資質・能力」の一つであること
- ・教師は、機器の操作等に習熟するだけでなく、それぞれの教材・教具の特性を理解し、指導の効果を高める方法について絶えず研究するとともに、校内のICT環境の整備に努めること。
- ・文章を編集したり図表を作成したりする学習活動、様々な方法で情報収集して調べたり比較したりする学習活動、情報手段を使った情報の共有や協働的な学習活動、情報手段を適切に活用して調べたものをまとめたり発表したりする学習活動を充実していくこと。

子供たちが将来どのような職業に就くとしても、時代を越えて普遍的に求められる「プログラミング的思考<sup>※2</sup>」を育むために、以下のことに配慮する。

- ・小学部段階においてプログラミングに取り組むねらいは、論理的思考力を育むとともにプログラムの働きやよさ、情報社会がコンピュータをはじめとする情報技術によって支えられていることに気付き、身近な問題の解決に主体的に取り組む態度やコンピュータ等を上手に活用してよりよい社会を築いていこうとする態度などを育むこと、教科等で学ぶ知識及び技能等をより確実に身に付させること。
- ・教科等における学習上の必要性や学習内容と関連付けながら計画的かつ無理なく確実に実施されるものであることを踏まえ、小学部においては、教育課程全体を見渡し、プログラミングを実施する単元を位置付けていく学年や教科を決定する必要があること。
- ・プログラミングを学習活動として実施する際、取り組むねらいを踏まえつつ、学校の教育目標や児童の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じて工夫して取り入れていくこと。
- ・プログラミング実施に当たっては、地域や民間等と連携し、それらの教育資源を効果的に活用していくこと
- ・携帯電話・スマートフォンやSNSが子供たちにも急速に普及するなかで、インターネット上での誹謗中傷やいじめ、インターネット上の犯罪や違法・有害情報の問題の深刻化、インターネット利用の長時間化等を踏まえ、情報モラルについても指導すること。

※2 自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力。

## 総則

※特別支援学校小学部・中学部学指導要領第2章各教科の第1節の第1款において準用する小学校学習指導要領では、算数科，理科，総合的な学習の時間において児童がプログラミングを体験しながら，論理的思考力を身に付けるための学習活動を取り上げる内容やその取扱いについて例示しています。

### 【見通しを立てたり，振り返ったりする学習活動の充実】

児童生徒が自主的に学ぶ態度を育み，学習意欲の向上に資する観点から，各教科等の指導に当たり児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるように工夫することが重要であることを示している。

#### 〈具体的例〉

- ・児童生徒が学習の見通しを立てる。
- ・児童生徒が当該授業で学習した内容を振り返る機会を設ける。
- ・児童生徒が家庭において学習の見通しを立てて予習をしたり，学習した内容を振り返って復習したりする習慣の確立を図る。

これらの指導を通じ，学習内容の確実な定着が図られ，各教科等で目指す資質・能力の育成にも資するものと考えられる。

### 【体験活動の重視】

今回の改定においては，児童生徒が生命の有限性や自然の大切さ，主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるようにすることを重視し，集団の中で体系的・継続的な活動を行うことのできる学校の場を生かして，地域・家庭と連携・協働して，体験活動の機会を確保していくことを示している。

学校において体系的・継続的に体験活動を実施していくためには，各教科等の特質に応じて教育課程を編成していく必要がある。

### 【課題選択及び自主的，自発的な学習の促進】

各教科等の指導を通して資質・能力の三つの柱をバランスよく育成していくため，児童生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど，児童生徒の興味・関心を生かした自主的，自発的な学習が促されるよう，教育課程の実施上の工夫を行うことを示している。

### 【家庭や地域社会との連携並びに学校間の連携や交流及び共同学習】

#### (1) 家庭や地域社会との連携及び協働と世代を超えた交流の機会

学校が目的を達成するためには，家庭や地域の人々とともに児童生徒を育てていくという視点に立ち，家庭，地域社会との連携を深め，学校内外を通じた児童生徒の生活の充実と活性化を図ることが大切である。また，各学校の教育方針や特色のある教育活動，児童生徒の状況などについて家庭や地域の人々に適切に情報発信し理解や協力を得たり，家庭や地域の人々の学校運営などに対する意見を的確に把握して自校の教育活動に生かしたりすることが大切である。

#### (2) 学校相互間の連携や交流

学校同士が相互に連携を図り積極的に交流を深めることによって，学校生活をより豊かにするとともに，児童生徒の人間関係や経験を広げるなど広い視野に立った教育活動を進めていくことが必要である。

#### 〈具体的例：学校間の連携〉

- ・同一都道府県等や近隣の学校同士が学習指導や生徒指導のための連絡会を設ける。

## 総則

- ・合同の研究会や研修会を開催したりする。

### 〈具体的例：学校同士の交流〉

- ・近隣の小学校や幼稚園、認定こども園、保育所、近隣の中学校と学校行事、クラブ活動や部活動、自然体験活動、ボランティア活動などを合同で行う。
- ・自然や社会環境が異なる学校同士が相互に訪問したり、コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して交流したりする。

これらの活動を通じ、学校全体が活性化するとともに、児童生徒が幅広い体験を得、視野を広げることにより、豊かな人間関係を図っていくことが期待される。

障害者である児童生徒と障害者ではない児童生徒と一緒に参加する活動は、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする交流の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面があるものと考えられる。

### 〈具体的例〉

- ・小・中学校等と学校行事やクラブ活動、部活動、自然体験活動、ボランティア活動を合同で行う。
- ・文通や作品の交換、コンピュータや情報通信ネットワークを活用する。

これらの活動を通して、コミュニケーションを深め、同じ社会に生きる人間として、互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶことが肝要である。

なお、交流及び共同学習の実施に当たっては、双方の学校同士が十分に連絡を取り合い、指導計画に基づく内容や方法を事前に検討し、各学校や障害のある児童生徒一人一人の実態に応じた様々な配慮を行い、計画的、組織的に継続した活動を実施することが大切である。

## 道徳教育

### 【道徳教育の目標】

道徳教育は、教育基本法、学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、小学部においては、自己の生き方を考え、中学部においては、人間としての生き方を考え、高等部においては、自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員として自覚に基づき行為しうる発達段階にあることを考慮し、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

### 【道徳教育の推進】

道徳教育の目標を踏まえ、道徳教育の全体計画を作成する。

校長の方針を明確に示す。

道徳教育の推進を主に担当する教師（道徳教育推進教師）を中心に、全教師が協力して道徳教育を推進する。

※道徳教育推進教師の役割を明確にしておく。

※全教員が指導力を発揮し、協力して道徳教育を展開できる体制を整える。

※道徳教育の全体計画とは、学校における道徳教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画。

※全体計画の作成に当たっては、

- ・学校の道徳教育の重点目標を設定する。
- ・道徳科の指導方針、第3章特別の教科道徳に示す内容との関連を踏まえた各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、特別活動及び自立活動における指導内容及び時期、並びに家庭や地域社会との連携の仕方を示す。



総則

重複障害者等に関する教育課程の取扱い

「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」は、児童生徒一人一人の障害の状態を考慮しながら、教育課程の編成について検討を行う際に理解しておかなければならない規定である。

規定項目	規定内容
1 障害の状態により特に必要がある場合	各教科及び外国語活動の目標及び内容に関する事項の一部を取り扱わないことができる。 →「一部を取り扱わない」とあるが、安易に取り扱わなくてもよいということではないことに留意することが必要。
	各教科の各学年の目標及び内容の一部又は全部を、当該各学年より前の各学年の目標及び内容の一部又は全部によって、替えることができる。 →(ex)小学部4年生の児童に対して、「社会」、「理科」の目標及び内容を「生活」の目標及び内容に替えて指導することも可能である。
	視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童に対する教育を行う特別支援学校の小学部の外国語科については、外国語活動の目標及び内容の一部を取り入れることができる。
	中学部の各教科及び道徳科の目標及び内容に関する事項の一部又は全部を、当該各教科に相当する小学部の各教科及び道徳科の目標及び内容に関する事項の一部又は全部によって、替えることができる。 →(ex)中学部の教科「社会」、「理科」及び「職業・家庭」の目標及び内容を、小学部の教科「生活」の目標及び内容によって替えることができる。→ここで重要なことは、取り扱うことが不可能だから下学年に替えるという考え方ではなく、児童生徒が現在までに達成している目標と次に達成を目指す目標を見極める視点もつことである。
	中学部の外国語科については、小学部の外国語活動の目標及び内容の一部を取り入れることができる。 →小学部3学年及び4学年の外国語活動は、教科ではないことから、中学部での外国語科として指導を行う際には、外国語活動の目標及び内容の一部を取り入れることはできるが、全部を替えることはできないことに留意する。
	幼稚園教育要領に示す各領域のねらい及び内容の一部を取り入れることができる。 →特別支援学校幼稚部教育要領は、領域（健康、人間関係、環境、言葉及び表現）で示していることから、目標及び内容の一部を替えることはできるが、全部を替えることができないことに留意する必要がある。
2 知的障害者である児童生徒の場合	知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の小学部に就学する児童のうち、小学部の3段階に示す各教科又は外国語活動の内容を習得し目標を達成している者については、小学校学習指導要領に示されている各教科及び外国語活動の目標及び内容の一部を取り入れることができる。
	知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部の2段階に示す各教科の内容を習得し目標を達成している者については、中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容、並びに小学校学習指導要領に示されている各教科及び外国語活動の目標及び内容の一部を取り入れることができる。 →特別支援学校の小学部「生活」に相当する小学部の教科は、「社会」「理科」「家庭」、中学部の「職業・家庭」に相当する中学部の教科とは、「技術・家庭」と考えてよい。
3 重複障害の場合 (1) 知的障害を併せ有する児童生徒の場合	各教科の目標及び内容に関する事項の一部又は全部を、当該各教科に相当する特別支援学校（知的障害）の各教科の目標及び内容の一部又は全部によって替えることができる。この場合、小学部の児童については、外国語科及び総合的な学習の時間を、中学部の生徒については、外国語科を設けないことができる。
	各教科、道徳科、外国語活動若しくは特別活動の目標及び内容に関する事項の一部又は各教科、外国語活動若しくは総合的な学習の時間に替えて、自立活動を主とし指導を行うことができる。 →道徳科及び特別活動については、その目標及び内容の全部を替えることができないことに留意する必要がある。
4 訪問教育の場合	障害のため通学して教育を受けることが困難な児童又は生徒に対して、教員を派遣して教育を行う場合については、上記1から3(1)(2)に示すところによることができる。
5 重複障害者等に係る授業時数	重複障害者、療育中の児童生徒又は障害のため通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して、教員を派遣して教育を行う場合について、特に必要があるときは、実情に応じた授業時数を適切に定めるものとする。

- 重複障害者である児童生徒＝「自立活動を主とした教育課程」を前提としない。
- 各教科等のそれぞれの目標及び内容を踏まえ、個々の児童生徒が前各学年までに、何を目標として学び、どの程度の内容を習得しているのかなど、個別の指導計画を基に、一人一人の学習の習得状況等の把握に努めることが肝要。
- なぜ、この規定を適用することを選択したのか、その理由を明らかにしていきながら、教育課程の編成を工夫し、教育課程を評価し改善していく、カリキュラム・マネジメントに努めることが重要。
- 障害のある子供の教科指導の在り方や導入について具体的に検討することが必要。
- 「第8節重複障害者等に関する教育課程の取扱い」は重複障害者に限定していないことに留意。
- 3(1)の規定を適応した場合、各教科等の一部又は全部について、合わせて指導を行うことができるようになっているが、結果として学習活動が優先され、各教科等の内容への意識が不十分な状態にならないように留意すること。

## 総則

※各教科を合わせて指導を行う場合については、学校教育法施行規則第130条第1項が、各教科等を合わせて指導を行う場合については、学校教育法施行規則第130条第2項が根拠となる。また、合わせた指導については、「授業づくりハンドブック～学習指導案と学習評価の考え方について（岡山県特別支援学校長会，岡山県教育庁特別支援教育課 平成30年3月）」「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校における各教科等を合わせた指導」を参照のこと。

### キャリア教育の充実

キャリア教育を効果的に展開していくためには、①特別活動の学級活動を要としながら、教育活動全体（総合的な学習の時間や学校行事、道徳科や各教科における学習、個別指導としての教育相談等）を通じて必要な資質・能力の育成を図っていくこと②将来の生活や社会、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもったり、振り返ったりする機会を設けるなど主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることなどが求められる。

#### 【キャリア教育及び職業教育に関して配慮すべき事項】

##### 《小・中学部》

- ・自己の生き方についての関心が高まる発達の段階にある児童生徒が、自分自身をみつめ、自分と社会との関わりを考え、将来、様々な生き方や進路の選択可能性があることを理解するとともに自らの意思と責任で自己の生き方や進路を選択できるよう指導・援助を行うこと。
- ・児童生徒の生き方や生活をよりよくするために、常に将来設計を描き直したり、目標を段階的に修正したりして、自己実現に向けて努力していくことができるよう指導・支援を行うこと。
- ・高等部で何を学ぶのか、しっかりとした目的意識をもって進路の選択ができるよう、保護者と綿密な連携を図りながら指導を進めていくこと。

##### 《高等部》

以下の項目に配慮してキャリア教育及び、職業教育に関する配慮をしていく。

- 1 生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等、学校や地域の実態等を考慮し、地域及び産業界や労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、産業現場等における長期間の実習を取り入れるとともに、地域や産業界や労働等の業務を行う関係機関の人々の協力を積極的に得るよう配慮する。
- 2 普通科においては、生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等、学校や地域の実態等を考慮し、必要に応じて適切な職業に関する各教科・科目の履修の機会の確保について配慮する。
- 3 職業教育を主とする専門学科においては、次の事項に配慮する。
  - ①職業に関する各教科・科目については、実験・実習に相当する授業時数を十分確保するようにする。
  - ②生徒の実態を考慮し、職業に関する各教科・科目の履修を容易にするため特別な配慮が必要な場合には、各分野における基礎的又は中核的な科目を重点的に選択し、その内容については基礎的・基本的事項が確実に身に付くように取り扱い、また、主として実験・実習によって指導するなどの工夫をこらすこと。
- 4 職業に関する各教科・科目については、次のように配慮する。
  - ①職業に関する各教科・科目については、就業体験活動をもって実習に替えることができること。この場合、職業体験活動は、その各教科・科目の内容に直接関係があり、かつ、その一部としてあらかじめ計画し、評価されるものであることを要すること。
  - ②農業、水産及び家庭に関する各教科・科目の指導に当たっては、ホームプロジェクトなどの活動を活用して、学習の効果を上げるよう留意すること。この場合、ホームプロジェクトについては、適切な授業時数をこれに充てることができること。



## 2 生 活

### ○内容の構造

- ・内容は、自ら考えて、判断し、表現等をしていく中で、知識や技能を身に付けていくことを重視し、(ア) 思考力・判断力・表現力等 (イ) 知識及び技能 の柱で示されています。

### ○概要

- ・内容は12の項目（内容項目という）で示されています。

### ○表の見方

- ・表には具体的な配慮や支援の仕方を示していませんが、以下の視点で指導内容を示しています。

1段階 「様々な学習活動を教師と一緒にやることを基本」

2段階 「主に教師の援助を求めながらもできる限り自分の力で生活に生かしていくことを目指す」

3段階 「主にできる限り自分の力で生活に生かしていくことを目指す」

### ○教科の特質等

- ・生活科は各教科等を合わせた指導の中で、基本的には取り上げられると思います。その際、生活科のどの指導内容を指導するのかを明確にしながらい指導し、3つの資質・能力を育む必要があります。
- ・他教科とのつながりが多いため、どの教科とどのように関連するのか、中学部、高等部の内容にどうつながるのかを念頭におきながら、指導に当たる必要があります。
- ・解説に「～が大切である」という表記があり、そこに示されているものが「指導内容」とも「配慮事項」とも受け止めることができる記述がありました。この表では指導内容として示していませんが、そういった表記に注意し、児童の実態に合わせて指導内容を設定してください。
- ・今回の改訂で「ものの仕組みと働き」という内容が新たに設定されました。どのような実践ができるのか今後の検討課題です。

生活

生活				
目標	具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
知識及び技能	(1)活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。			
思考力、判断力、表現力等	(2)自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。			
学びに向かう力、人間性等	(3)自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。			
段階の目標	小1段階	小2段階	小3段階	
知識及び技能	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心を持ち、感じたことを伝えようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。	
学びに向かう力、人間性等	ウ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然に関心を持ち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。	ウ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとしたり、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。	ウ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。	
ア 基本的な生活習慣	内容	食事や用便等の生活習慣に関わる初歩的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7)簡単な身辺処理に気付き、教師と一緒に行動すること。 (4)簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること。	食事、用便、清潔等の基本的な生活習慣に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7)必要な身辺処理が分かり、身近な生活に役立てようとする。こと。 (4)身近な生活に必要な身辺処理に関する基礎的な知識や技能を身に付けること。	身の回りの整理や身なりなどの基本的な生活習慣や日常生活に役立つことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7)必要な身辺処理や集団での基本的な生活習慣が分かり、日常生活に役立てようとする。こと。 (4)日常生活に必要な身辺処理等に関する知識や技能を身に付けること。
	食事	・食事の手洗いや配膳、食後の片付けをする。 ・食事の流れや基本的な行動の方法に気付く。	・食事中は立ち歩かない、こぼさず食べるなど、食事のマナーや態度について分かる。	・一人で食事する。 ・準備や片付けなど、一連の活動を友達と協力して行う。
	用便	・尿意や便意を伝えようとする。 ・用便の順番に気付き、教師と一緒に行動したり、伝えようとする。	・用便の順番に沿って用を足す。 ・男女の便所を区別することなど、一連の流れと共に基本的な方法や態度を身に付ける。	・用便後は手を洗う。 ・トイレにおけるいろいろな種類の鍵の使用法を知る。 ・援助がなくても自分で用を足す。
	寝起き	・一人で就寝することに不安をもたないよう、援助してもらって着替えを行う。	・定時に寝起きする、寝床の準備や片付けをすることなどの規則正しい生活を意識する。	・自分で寝床を準備したり片付けたりするなど、一人でできることを増やす。
	清潔	・洗面や歯磨きをする。 ・タオルで拭こうとする。	・汚れた衣服を着替えるなどの身体各部や衣服の汚れが理解できる。	・簡単な洗濯をする、入浴時に身体各部の洗い方やふき方が分かるなど、自分から清潔を意識して活動に取り組む。
	身の回りの整理	・持ち物の整理、自分の衣服や靴など自分の使った物の整理や、決められた場所に置くことに気付く。	・ハンガーに掛けるなどの整理の仕方や収納場所や収納の方法などが分かる。	・靴や衣服などの整理をすることや、かばんや文具などの収納場所や収納方法が分かり整理整頓を行おうとする。
	身なり	・簡単な衣服の着脱や、長靴等の身に付け方に気付く。	・衣服の前後や裏表が分かる、着脱後の簡単な確認をするなど、身なりについて自分で気付く。	・そで口や襟もと、すそを整えるなどの身だしなみを整えようとする。

生活

		小1段階	小2段階	小3段階
イ安全	内容	<p>危ないことや危険な場所等における安全に関わる初歩的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 身の回りの安全に気付き、教師と一緒に安全な生活に取り組もうとすること。</p> <p>(イ) 安全に関わる初歩的な知識や技能を身に付けること。</p>	<p>遊具や器具の使い方、避難訓練等の基本的な安全や防災に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 身近な生活の安全に関心を持ち、教師の援助を求めながら、安全な生活に取り組もうとすること。</p> <p>(イ) 安全や防災に関わる基礎的な知識や技能を身に付けること。</p>	<p>交通安全や避難訓練等の安全や防災に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 日常生活の安全や防災に関心を持ち、安全な生活をするよう心がけること。</p> <p>(イ) 安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること。</p>
	危険防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険な場所について知るとともに、身の回りにある小さな玩具や硬貨などを決して口に入れない。</li> <li>階段や段差などに注意して歩く。</li> <li>自分の身を守る適切な行動に気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な遊び方や遊具・器具の使い方を学ぶ。</li> <li>身近な生活の安全に関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で気を付けながら、安全に器具等を扱う。</li> <li>危険な場所や状況を知らせ自分から回避する。</li> </ul>
	交通安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>信号や標識に従ったり道路を横断したりする。</li> <li>教師と一緒に体験し、安全に通行しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車や自転車などに気を付ける。</li> <li>歩行者用の信号や踏切の警報器の意味を知る。</li> <li>安全な歩行の仕方が分かり、安全への習慣を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>左右を確認して渡ったり、標識を理解したりする。</li> <li>自分で気を付けながら安全に過ごせる。</li> </ul>
	避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師と一緒に避難する。</li> <li>指示に従って避難する。</li> <li>教師と手を繋いだりして、適切な行動ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「火事」、「地震」、「避難」などの言葉の意味を理解する。</li> <li>避難時に友達と一緒に適切に行動しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の指示を適切に理解し、適切な行動の必要性が分かる。</li> </ul>
	防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害や事故について知る。</li> <li>地域の施設設備について知る。</li> <li>教師と一緒に活動することで、危険な場所などがあることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険な場所に気付くとともに、身近にある安全な場所を知る。</li> <li>教師や友達と一緒に行動し、安全に生活する意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土砂崩れや河川の増水、地震や火事などの災害に気付き、その場の状況をとらえて行動できる。</li> <li>地域の避難場所が分かり移動する。</li> <li>安全な場所や人々との接し方を身に付ける。</li> <li>緊急時に適切な行動がとれるように、日頃から安全や防災についての意識を高める。</li> </ul>
ウ日課・予定	内容	<p>日課に沿って教師と共にする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 身の回りの簡単な日課に気付き、教師と一緒に日課に沿って行動しようとする。</p> <p>(イ) 簡単な日課について、関心をもつこと。</p>	<p>絵や写真カードなどを手掛かりにして、見通しをもち主体的に取り組むことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 身近な日課・予定が分かり、教師の援助を求めながら、日課に沿って行動しようとする。</p> <p>(イ) 身近な日課・予定について知ること。</p>	<p>一週間程度の予定、学校行事や家庭の予定などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 日常生活の日課・予定が分かり、およその予定を考えながら、見通しをもって行動しようとする。</p> <p>(イ) 日課や身近な予定を立てるために必要な知識や技能を身に付けること。</p>
	日課	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師と同じような行動を教師からの言葉掛けを聞いたり、手をとってもらったりしながら、それらに従って一緒に行動することにより、簡単な日課に気付き、行動しようとする。</li> </ul>	—	—
	日課・予定	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の言葉掛けを聞いたり、次の行動を絵や写真で示したカード等を見たりして、次に何をすることが分かる、できるだけ一人で日課に沿って行動できる。</li> <li>予定については、下校後は何をやるのか、また、明日の予定などを取り扱うことで、児童が身近な予定が分かり、見通しをもって過ごすことができるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一週間程度の予定が分かり、カレンダーや予定表を見て学校行事や家庭の予定などに従って行動する。</li> <li>都合により予定が変更する場合に対応できる。</li> </ul>

生活

		小1段階	小2段階	小3段階
工 遊 び	内容	自分で好きな遊びをすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身の回りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊ぼうとすること。 (1) 身の回りの遊びや遊び方について関心をもつこと。	教師や友達と簡単な遊びをすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身近な遊びの中で、教師や友達と簡単なきまりのある遊びをしたり、遊びを工夫しようとしたりすること。 (1) 簡単なきまりのある遊びについて知ること。	日常生活の中での遊びに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 日常生活の遊びで、友達と関わりをもち、きまりを守ったり、遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとすること。 (1) きまりのある遊びや友達と仲良く遊ぶことなどの知識や技能を身に付けること。
	いろいろな遊び	・自分の好きな遊びをする。 ・教師とごっこ遊びをする。 ・遊具を使って遊ぶ。 ・教師の働き掛けを受け入れ、まねをするなどして遊んだり、安定した気持ちで十分に身体を動かして遊んだりする。	・教師や友達と、鬼ごっこなどの簡単なルールのある遊びや大きく身体活動ができる遊具を活用した遊びをしたりする。 ・遊びの場や遊具を友達と共有したり、簡単なルールのある遊びを一緒にしたりすることにより、関わりを広げていく。	・順番を守ったり交代をしたりするなどの約束や、勝ち負け、役割などが分かる。 ・友達と一緒にルールのある遊びを楽しむ。 ・自分から準備や後片付けをしたりすることや、共通の関心をもつ友達と一緒に楽しんだりする。
	遊具の後片付け	・自分から片付ける。 ・教師と一緒に遊具を片付ける。	・自分で使った遊具を片付ける。 ・友達と一緒に大きな物を協力しながら運び収納できる。	・収納方法や収集場所が分かり、自分から進んで遊具を片付ける。
オ 人 と の 関 わり	内容	小さな集団での学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 教師や身の回りの人に気付き、教師と一緒に簡単な挨拶などをしようとする。 (1) 身の回りの人との関わり方に関心をもつこと。	身近な人と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身近な人を知り、教師の援助を求めながら挨拶や話をしようとする。 (1) 身近な人との接し方などについて知ること。	身近なことを教師や友達と話すことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身近な人と自分との関わりが分かり、一人で簡単な応対などをしようとする。 (1) 身近な人との簡単な応対などをするための知識や技能を身に付けること。
	自分自身と家族	・自分自身や家族のことが分かる。 ・簡単な紹介をする。 ・自分の名前を呼ばれたときに身振り、表情、挙手や発声などにより返答する。	・家族の名前が分かり紹介したり、家族の名前を尋ねられたときに応じたりする。	・自分自身や家族について、仕事や兄弟姉妹関係などにも触れて簡単に話したり、紹介したりする。
	身近な人との関わり	・担任教師や友達、親戚、隣人などの名前を覚えたり、挨拶をしたりする。 ・見聞きしたことについて会話を楽しむ。 ・身近な教師の名前を覚えたり、親しい友達と手をつないだり、ごく簡単な要求を表現したりする。 ・表情、身振り、動作、絵カードなどの多様な方法により、活発なコミュニケーションを行おうとする。 ・お辞儀をしたり、手を振ったり、握手したりして挨拶する。	・担任教師や友達の名前を言ったり、自分から「おはようございます」、「さようなら」などの挨拶をしたりする。 ・教師等に見聞きしたことや遊んだことを話す。	・簡単な日常の挨拶や、見聞きしたことや遊んだことを教師や友達と話し合う。 ・学校の出来事を家庭等で話したり、家庭等での会話を学校で話したりする。
	電話や来客の取次ぎ	・電話の取次ぎや来客への対応を適切に行う。 ・人の来訪や電話がかかってきたことに気付き、関心をもつ。	・人の来訪を伝えたり、電話の取次ぎをしたりする。 ・初歩的な伝言の経験を積み重ねる。	・電話や来客時には「はい、〇〇です」、「今替わります」、「〇〇先生、電話です」、「〇〇先生にお客様です」などと言って、適切に取次ぎをする。 ・校内に設置してある電話を活用し、児童が率先して取り次ぐことができる。
	気持ちを伝える対応	・気持ちを表す言葉があることが分かり、自分なりに表現することや、それらを含めた挨拶などを習慣にする。 ・それぞれの場面に応じて教師に促され「ありがとう」や「ごめんなさい」などの気持ちを表す経験を積み重ねる。	・適切な場で「ありがとう」や「ごめんなさい」などをできるだけ言葉で言う。	・多くの人たちと接するようになったときにも、御礼や謝罪などの気持ちを相手に理解してもらえるよう、気持ちをこめて言える。

生活

	小1段階	小2段階	小3段階	
力 役 割	内容	学級や学年、異年齢の集団等における役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りの集団に気付き、教師と一緒に参加しようとする事。 (イ) 集団の中での役割に関心をもつこと。	学級や学年、異年齢の集団等における役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な集団活動に参加し、簡単な係活動をしようとする事。 (イ) 簡単な係活動などの役割について知ること。	様々な集団や地域での役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとする事。 (イ) 集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること。
	集団の参加や集団内での役割	・いろいろな行事に参加する。 ・児童が学級・学年・異年齢集団など、人数や年齢幅が異なる集団に参加し、友達を知り、一緒に活動する経験を通して、集団の中で活動することに慣れる。	・集団の中で自分の役割を果たす。 ・集団活動で簡単な係活動を果たす。	・児童が積極的に様々な集団活動に参加し、活動の準備や活動における役割を主体的に果たしていく。 ・集団活動では、様々な役割があることを知り、他の係を意識しながら活動の見通しをもって、自分の役割を果たす。
	地域の行事への参加	・地域の行事に参加する。 ・地域の行事で自分の役割を果たす。 ・地域の行事を楽しむ。	・地域の行事に参加し、簡単な買い物をしたり、地域の人たちと一緒に活動したりする。	・友達と一緒に行事に参加し、主体的に地域の行事の催物などを楽しんだり、地域の人たちと協力して、行事の準備や後片付けをしたりする。
	共同での作業と役割分担	・簡単な作業を共同で行う。 ・作業において分担された個人の役割を果たす。	・友達と一緒に作業に取り組む際には互いに協力して楽しく作業に取り組める。 ・様々な集団の中で簡単な役割を果たしたり、友達と協力して活動や作業に取り組んだりすることにより、周囲から感謝される経験を通して、役割を果たすよるこびや意欲等を高めていく。	・作業分担や役割が分かり、自分から取り組んだり、役割を果たしたりする。
キ 手 伝 い ・ 仕 事	内容	教師と一緒に印刷物を配ることや身の回りの簡単な手伝いなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒にしようとする事。 (イ) 簡単な手伝いや仕事に関心をもつこと。	人の役に立つことのできる手伝いや仕事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 教師の援助を求めながら身近で簡単な手伝いや仕事をしようとする事。 (イ) 簡単な手伝いや仕事について知ること。	自分から調理や製作などの様々な手伝いをする事や学級の備品等の整理などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 日常生活の手伝いや仕事を進んでしようとする事。 (イ) 手伝いや仕事をするための知識や技能を身に付けること。
	手伝い	・物を配ったり届けたりする。 ・伝言を届ける。 ・作業を手伝う。	・できるだけ自分で、印刷物を配ることや教室へ教材の運搬の手伝いをする。 ・簡単な道具や器具を教師と一緒に使用して、作業の手伝いをする。 ・手伝いすることへの意欲をもつ。	・道具や器具に慣れるとともに、それらを大切に扱いながら安全に仕事の手伝いをする。
	整理整頓	・自分の所持品の整理をする。 ・友達や学級の物の整理をする。 ・不要物の選別と不要物を捨てる。 ・自他の学習用具等の区別ができるようにし、個々の児童が、自分のロッカーやかばんなどに用具を収納できる。	・できるだけ自分で机やロッカーなどの中を整理することのほか、友達が使った物や学級の備品についても整理する。	・自分の所持品だけでなく、友達の使った物や学級の備品の整理を行う。 ・整理整頓された教室等の気持ちよさが実感できる。
	戸締り	・窓や扉の開閉をしながらその意味を知る。 ・教室等に鍵を掛けたり、開けたりする。 ・扉や窓の開閉を繰り返しながら、扉や窓の開閉に慣れる。	・扉や窓の開閉と同時に施錠方法を知り、どのようなときに開け、どのようなときに閉めるのかを理解する。	・窓の開閉や鍵の開け閉めが、いつ、どのようなときに必要なかを理解する。 ・窓をどのくらい開けたり、閉めたりするのかなどが分かる。
		・自分で判断して窓の開閉や鍵の開け閉めをしたり、それらを習慣化したりする。		
	掃除	・自分の出したごみを拾う。 ・掃除道具を使って簡単な掃除をする。 ・大きなごみをごみ箱に入れるような簡単なことを習慣にしていける。	・身の回りにあるごみを拾って捨てる。 ・任された場所の掃除をする。 ・掃除用具の名称や使い方が分かり、できるだけ一人で、簡単な掃除をする。	・教室内の掃除に加え、分担された場所の掃除をする。 ・それぞれの場所に適した掃除の方法や手順、用具の使い方などを身に付ける。



生活

		小1段階	小2段階	小3段階
キ手伝い・仕事	後片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>手伝いや仕事が終わったら、道具や材料などの片付けを行う。</li> <li>自分が使用した道具等を運ぶなど、徐々に慣れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用した道具の片付けをする。</li> <li>友達からの言葉掛けでも片付けることができる。</li> <li>友達と協力しながら片付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手伝いや仕事の終了時に報告をしたり、自分から所定の場所に道具等を片付けたりする。</li> <li>片付けをすることは、集団生活における大切なルールであることに気付く。</li> </ul>
	内容	<p>簡単な買い物や金銭を大切に扱うことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 身の回りの生活の中で、教師と一緒に金銭を扱おうとすること。</p> <p>(1) 金銭の扱い方などに関心をもつこと。</p>	<p>金銭の価値に気付くことや金銭を扱うことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 身近な生活の中で、教師に援助を求めながら買い物をし、金銭の大切さや必要性について気付くこと。</p> <p>(1) 金銭の扱い方などを知ること。</p>	<p>価格に応じて必要な貨幣を組み合わせるなどの金銭に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 日常生活の中で、金銭の価値が分かり扱いに慣れること。</p> <p>(1) 金銭の扱い方などの知識や技能を身に付けること。</p>
ク金銭の扱い	金銭の扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>金銭を大切に扱う。</li> <li>代金を支払う。</li> <li>硬貨や紙幣の種類を知る。</li> <li>種類ごとに分類したり数えたりする。</li> <li>金銭を無駄遣いしない。</li> <li>もらった金銭を保管する。</li> <li>金銭の遣い道を考える。</li> <li>遣い道に従って遣う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に金銭を支払い、金銭の価値を徐々に理解する。</li> <li>お年玉やお小遣いなど、自分の金銭を財布や貯金箱に大切に保管することやその使い方を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活では、金銭が必要なことが分かり、金銭の種類ごとに分類して数えたり、必要に応じて両替をしたりすることに慣れる。</li> <li>無駄遣いをしないことや遣い道を考えて遣う。</li> <li>必要に応じて銀行などを活用する。</li> </ul>
	買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>買い物をする。</li> <li>物の買い方を知る。</li> <li>決まった額の買い物をする。</li> <li>品物を選んでレジまで持っていき、店の人に金銭を渡す。品物を袋に入れるなどの体験をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ自分で買い物をし、「これ、ください」など、買い物に必要な言葉を使う。</li> <li>決まった額の買い物をする。</li> <li>商店などで品物を選んで買う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に合う買い物をする。</li> <li>自分で目的に応じた買い物をする。</li> <li>「幾らですか」「〇個ください」などの買い物に必要なことばを使う。</li> <li>簡単なおつりのある買い物をする。</li> <li>値札を見て買い物をする。</li> <li>商店などでレジの場所が分かり、代金を支払う。</li> </ul>
ケきまり	自動販売機等の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動販売機を使う。</li> <li>身近にある自動販売機の種類を知り利用する。</li> <li>自動販売機に金銭を入れ、商品を選んでボタンを押し、品物を取り出すことに慣れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ一人で自動販売機に金銭を入れ、商品を選んでボタンを押し、品物を取り出すことで、およその使い方を知り、徐々に一人で操作できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な自動販売機などを自分で利用する。</li> </ul>
	内容	<p>学校生活の簡単なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 身の回りの簡単なきまりに従って教師と一緒に行動しようとする。</p> <p>(1) 簡単なきまりについて関心をもつこと。</p>	<p>順番を守ることや信号を守って横断することなど、簡単なきまりやマナーに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 身近で簡単なきまりやマナーに気付き、それらを守って行動しようとする。</p> <p>(1) 簡単なきまりやマナーについて知ること。</p>	<p>学校のきまりや公共の場でのマナー等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 日常生活の簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って行動しようとする。</p> <p>(1) 簡単なきまりやマナーに関する知識や技能を身に付けること。</p>
ケきまり	自分の物と他人の物の区別	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他の物を区別する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他人の物や学校の物品を無断で持ち出さない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物を適切な方法で貸し借りする。</li> <li>落とし物を拾ったときは、教師に届けたり、持ち主を探して手渡したりする。</li> </ul>
	学校のきまり	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活におけるきまりを知って守る。</li> <li>教師からの言葉掛けや様々な合図などを聞いて、学校生活の簡単なきまりを行動しながら知る。</li> <li>決まった場所で靴を履き替える。</li> <li>廊下は静かに歩く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活では、廊下の右側通行、靴を履き替える場所、登校時刻や下校時刻など様々なきまりがあることに気付くとともに、それを守る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて簡単なきまりを相談してつくる。</li> </ul>

生活

		小1段階	小2段階	小3段階
ケきまり	日常生活のきまり	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活における簡単なきまりを知って守る。</li> <li>道路を歩くときや横断歩道を渡る時、乗り物や公共施設を利用するときなど、きまりを守って行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>信号を守って横断する。</li> <li>停留所や駅などでは並んで順番を待つ。</li> <li>順番を守って乗り物の乗降をする。</li> <li>決められた場所で遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園や図書館などの公共施設や、電車やバスなどの公共機関を利用する際のきまりを守る。</li> <li>校内や通学路などに設けられている火災報知機や消火器等の非常用設備について、それぞれの役割を理解することや普段はそれらに触れないこと、非常時における使用方法について、およそを理解する。</li> </ul>
	マナー	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい姿勢で食事をし、食事中は席に座っている、口に食物が入っているときは話さないなど、身近な生活におけるマナーを守る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスや電車、病院や図書館などでは静かに行動したり過ごしたりするなど、公共の場でのマナーについて、その理由も分かり実際に守る。</li> </ul>
コ社会の仕組みと公共施設	内容	自分の家族や近隣に関心をもつこと及び公園等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の住む地域のことや図書館や児童館等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の地域や周辺の地理などの社会の様子、警察署や消防署などの公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(7) 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	(7) 教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気付き、それらを表現しようとする。	(7) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり、それらを表現すること。
		(4) 身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつこと。	(4) 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ること。	(4) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり、活用したりすること。
	家族・親戚・近所の人	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族や親戚の様子に関心をもつ。</li> <li>身近な地域に興味や関心をもち、自分との関わりに気付き、それらの働きを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族がそれぞれ役割をもっていることに気付く。</li> <li>身近な地域で働く人などに対して関心を広げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族や親戚、近所の人々の名前を言う。</li> <li>家族の職業や身近に見られる職業が分かる。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>教室の場所や用途に関心をもつ。</li> <li>学校で働く人に興味や関心をもち、自分との関わりに気付き、それらの働きを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校にある教室の名称や主な用途が分かる。</li> <li>学校で働く様々な人に関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校で働く人と自分との関わりに気付き、それらの働きを知る。</li> <li>学校で働く人の職業名と果たしているおおよその役割が分かる。</li> </ul>
	いろいろな店	<ul style="list-style-type: none"> <li>店の種類が分かる。</li> <li>近隣や通学路にある店に関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>店の名前を言う。</li> <li>教師と一緒に買い物に行き、いろいろな種類の店やそこで販売している商品に関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの店で売っている品物が分かる。</li> <li>いろいろな店の種類が分かり、それぞれの店の名称やそこで扱っている商品の名前が言える。</li> <li>商品はどこで生産されたのか、どこから運ばれたのかなどを調べ、工場や農家などへの関心を高める。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が住んでいる地域の自然や街の様子に関心をもつ。</li> <li>自分が住んでいる地域の自然や街の様子の特徴が分かる。</li> <li>自分の住んでいる地域の名称、住所が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が住む町の公共施設やいろいろな商店、河川や山、公園などの様子に関心をもち、おおよその名称などを知るとともに、自分の生活との関連について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域や社会の出来事に興味や関心をもつ。</li> <li>自分の住む地域や隣接する市町村の名称が分かる。</li> <li>自分が住んでいる地域や周辺の地域の田畑、大きな河川、港湾、商業地や工業地、住宅地などのおおよそが分かる。</li> <li>地域で見られる産業にも関心を深め、その働きを知る。</li> <li>テレビや新聞、インターネット等で身近な社会の出来事を知り、関心をもつ。</li> <li>国民の祝日に関して、そのおおよその意味が分かる。</li> </ul>
	社会の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が住む近所には商店、公園、学校、駅などがあることに気付き、それらに関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が住む町の公共施設やいろいろな商店、河川や山、公園などの様子に関心をもち、おおよその名称などを知るとともに、自分の生活との関連について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が住む地域や隣接する市町村の名称が分かる。</li> <li>自分が住んでいる地域や周辺の地域の田畑、大きな河川、港湾、商業地や工業地、住宅地などのおおよそが分かる。</li> <li>地域で見られる産業にも関心を深め、その働きを知る。</li> <li>テレビや新聞、インターネット等で身近な社会の出来事を知り、関心をもつ。</li> <li>国民の祝日に関して、そのおおよその意味が分かる。</li> </ul>
	公共施設の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設を利用する。</li> <li>公共施設の名前を言う。</li> <li>公共施設の場所が分かる。</li> <li>公共施設の役割が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童にとって身近な公園や図書館、駅などの公共施設を安全に利用しながら、その役割に気付く。</li> <li>図書館、体育館、児童館などの身近な公共施設を適切に利用し、そのおおよその働きが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>警察署、消防署などを実際に訪問したり、見学したりして、社会の一員としての利用の仕方を知るとともに、おおよその仕事の様子が分かる。</li> </ul>

## 生活

		小1段階	小2段階	小3段階
コ社会の仕組みと公共施設	交通機関の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通機関の名称や利用方法、目的地まで行くための交通機関を知る。</li> <li>電車やバスなどを利用し、乗降時には、様々な方法で料金を支払うなどを体験する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電車やバスなどを利用し、切符を購入したり料金を支払ったりすることなどに慣れる。</li> <li>いろいろな交通機関があることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に利用している電車やバスなどの切符を自動券売機などで買う。</li> <li>電車やバスを一人で利用して通学に慣れたり、目的地までそれらを実際に利用できたりする。</li> <li>交通機関が遅延した際の対応方法や校外学習時の目的地までの交通機関を知る。</li> </ul>
	内容	<p>教師と一緒に公園や野山などの自然に触れることや生き物に興味や関心をもつことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>小動物等を飼育し生き物への興味・関心をもつことや天候の変化、季節の特徴に関心をもつことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>身近にいる昆虫、魚、小鳥の飼育や草花などの栽培及び四季の変化や天体の動きなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>
		(ア) 身の回りにある生命や自然に気づき、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	(ア) 身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとする。	(ア) 日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現すること。
(イ) 身の回りの生命や自然について関心をもつこと。		(イ) 身近な生命や自然について知ること。	(イ) 日常生活に関わりのある生命や自然について関心をもって調べること。	
サ生命・自然	自然との触れ合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な自然の中で遊ぶ。</li> <li>公園、川、野山、海などで楽しく遊び、自然の事物や事象に触れ、生き物などに興味や関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然を利用した遊びをする。</li> <li>校外学習などの際に自然に親しむ。</li> <li>自然の事物や事象に触れ、自然がその姿を変えることが分かったり、動物の動きなどに興味をもったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>草木、木の実、落ち葉などを集めたり、形や色などの特徴をつかんだり、植物の変化を捉えたりする。</li> <li>自然の事象として天候の変化などについて知る。</li> </ul>
	動物の飼育・植物の栽培	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近に生息する小動物や草花を探したり様子を観察したり、触れたりして、それらに関心をもつ。</li> <li>世話をしたり、育てたりして、成長や変化に気付く。</li> <li>飼育している身近な動物や栽培している植物に興味をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小動物を飼育し、生き物への興味や関心をもつ。</li> <li>飼育動物のために、校庭の草を刈ったり、給食室に野菜くずをもらいに行ったりするなどして、自分で育てるという実感をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近にいる昆虫、魚、小鳥の飼育や草花などを栽培しながら関心を深める。</li> <li>動物を飼育する場合は外敵の防止や気温の変化などに十分配慮し、飼育環境を整える。</li> <li>植物を栽培する場合は、発芽、開花、結実といった一連の成長の様子の観察をする。また、適時、除草したり、肥料を施したりする。</li> </ul>
		季節の変化と生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>天気や空の様子に関心をもつ。</li> <li>地域の行事と季節の関係について知る。</li> <li>晴れや雨などの天候の変化に気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四季の特徴や天候の移り変わりに気付く。</li> <li>天候の変化や、太陽、月、星などと昼夜との関わりに関心をもつ。</li> <li>冬は寒く夏は暑いなどの季節の特徴に関心をもつ。</li> </ul>
シものの仕組みと働き	内容	<p>身の回りの生活の中で、物の重さに気付くことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>身近な生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>日常生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>
	物と重さ	(ア) 身の回りにあるものの仕組みや働きに気づき、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	(ア) 身近にあるものの仕組みや働きが分かり、それらを表現しようとする。	(ア) 日常生活の中で、ものの仕組みや働きが分かり、それらを表現すること。
		(イ) 身の回りにあるものの仕組みや働きについて関心をもつこと。	(イ) 身近にあるものの仕組みや働きについて知ること。	(イ) ものの仕組みや働きに関して関心をもって調べること。
風やゴムの力の働き	<ul style="list-style-type: none"> <li>物の重さに関心をもつ。</li> <li>物は形が変わっても重さは変わらないことに気付く。</li> <li>「重い・軽い」という感覚を経験するなどして、物の重さに関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物には重いものと軽いものがあることに気付く。</li> <li>天秤、ばね秤、台秤といった道具を活用するなどして、物には重いものと軽いものがあることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>粘土などの身の回りにあるものを広げたり、丸めたりするなどして形を変え、手ごたえなどの体感をもたしながら重さの違いを調べるなどして、物は形が変わっても重さは変わらないことに気付く。</li> </ul>	
風やゴムの力の働き	<ul style="list-style-type: none"> <li>風やゴムの力によって物が動く様子に関心をもつ。</li> <li>風やゴムの力は、物を動かすことができることに気付く。</li> <li>風やゴムの大きさを変えると、物が動く様子も変わることに関心をもつ。</li> <li>紙コップロケットといったゴムの力を利用した簡単なおもちゃで遊ぶなどして、風やゴムの力によって物が動く様子に関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>色紙や色テープを使って風によって起こる空気の流れを視覚化するなどして、風やゴムの働きに着目できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウィンドカーといった風の力を利用したおもちゃづくりなどをして、風やゴムの大きさを変えると、物が動く様子も変わることに関心をもつ。</li> </ul>	

# 3 国 語

## ○内容の構造と概要

国語科の内容は[知識及び技能]及び[思考力、判断力、表現力等]で以下のように構成されています。またこれまでの国語科の内容や解説に示された事項について、その系統性を整理して示しています。

### [知識及び技能]

#### (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

「言葉の働き」「話し言葉と書き言葉」「語彙」「文や文章」「言葉遣い」「音読」

#### (2) 情報の扱い方に関する事項（小学部3段階から設定）

「情報と情報との関係」「情報の整理」

#### (3) 我が国の言語文化に関する事項

「伝統的な言語文化」「書写」「読書」

### [思考力、判断力、表現力]

#### A 聞くこと・話すこと

「話題の設定」「内容の把握」「内容の検討」「構成の検討」「表現」「話し合い」

#### B 書くこと

「題材の設定」「情報の収集」「内容の検討」「構成の検討」「記述」「推敲」

「共有」

#### C 読むこと

「構造と内容の把握」「考えの形成」「精査・解釈（高等部から）」

## ○表の見方

- ・ [知識及び技能]及び [思考力、判断力、表現力等]に示す各内容は、1段階及び2段階では扱っていないものがあります。表の項立てについては、分かりやすい表現にしたものもあります。
- ・ 各段階の内容は、児童生徒の日常生活・社会生活に関連のある場面や言語活動、行動と併せて示しているものがあり、学習指導要領解説の詳しい内容から抜粋して表記しています。

## ○教科の特質や作成者の思い

解説の「指導計画の作成と内容の取扱い」にある配慮事項では、文字に関する事項が具体的に示されています。国語科以外の生活と関連付けた指導の工夫なども示されていますので、読んでいただくと指導内容の作成に役立つと思います。

国語

国語

目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを		
知識及び技能	(1)日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。		
思考力、判断力、表現力等	(2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。		
学びに向かう力、人間性等	(3)言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。		
段階の目標	小1段階	小2段階	小3段階
知識及び技能	ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	イ 出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。
内容	小1段階	小2段階	小3段階
知識及び技能	(ア)日常生活の出来事や興味や関心のある事柄について、教師など身近な大人や兄弟、友達からの話し掛けに耳を傾け、人との関わりの中で言葉が用いられていることに注意を向ける。やり取りを繰り返す中で言葉と事物とが徐々に一致してきたり、自分なりの表現を繰り返す中で要求が相手に伝わり、心地よい感情をもったりする。	(ア)様々な人の話し言葉、テレビやラジオなどの媒体を通した音声の口調や速度に聞き慣れ、身近な人との関わりから、言葉を用いることで、自分が感じた気持ちや要求などが相手に伝わることを感じる。	(ア)1段階、2段階を踏まえ、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付く。
	—	—	(イ)姿勢や口形に気を付けて話す。背筋を伸ばし、声を十分出しながら落ち着いた気持ちで話すことや正しい発音のために、唇や舌などを適切に使う。
	—	(イ)日常の学校生活の中で見たり使ったり触ったりしている、身近な事物や事象を表す平仮名を読む。例えば、自分や友達の名前や絵本などに出てくる動物等の名前から扱う。	(イ)絵本や易しい読み物、わらべ歌、テレビやコンピュータの画面に出てくるよく使う促音、長音等の含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知る。
	(イ)様々な言葉を聞いたり、音声の高低や抑揚などの違いによる意味の違いに触れたり、実際の事物などを見たり触ったりして実感をもたせながら、言葉と事物を結び付けていくことや、絵などを用いて生活経験からいろいろなことを想起したり、それらを言葉と結び付けて表現したりしていく。	(イ)身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな種類の言葉を聞いたり、自分でも話したりする。	(エ)言葉には、ある語句を中心として、同義語や類義語、対義語など、その語句と様々な意味関係にある語句が集まって構成している集合があることに気付く。
	—	—	(オ)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知る。
—	—	言葉遣い	—

国語

目指す。			
(1) 日常生活や社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。		(1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	
(2) 日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。		(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	
(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。		(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。	
<b>中1段階</b>	<b>中2段階</b>	<b>高1段階</b>	<b>高2段階</b>
ア 日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア 日常生活や社会生活、職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
イ 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
ウ 言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさに気付くとともに、いろいろな図書に親しみ、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを認識するとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
<b>中1段階</b>	<b>中2段階</b>	<b>高1段階</b>	<b>高2段階</b>
(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、出来事や事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。	(ア) 日常生活の中で周りの人とのやり取りを通して、言葉には、思考や感情を表す働きと他者に伝える働きのある両方があることに気付く。	(ア) 社会生活に係る人とのやり取りを通して、場を広げた社会生活で用いる言葉にも日常的に用いる言葉と同様に思考や感情を表す働きと他者に伝える働きがあることに気付く。	(ア) 社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、人との好ましい関係を新しく築き、継続させる働きがあることに気付く。
(イ) 相手に内容を正確に伝えるために、発声や声量に注意しながら話したり、姿勢や口形などに注意したりして話す。	(イ) 聞き手にははっきりと聞き取れるような発声や発音をしたり、音声や感情が聞こえる速さや相手に声が届く音量などに注意したりして話す。	(イ) 相手を見て話したり聞いたりするとともに、間の取り方などの話し方に注意して話す。	(イ) 伝えたい場面や目的に合わせて実際にやり取りを繰り返す中で、話し言葉と書き言葉、それぞれの特色や役割に違いがあることに気付く。
(ウ) 日常生活や社会生活で用いられる語句や文、文章を読んだり書いたりすることを通して、長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知る。	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方や理解し、文や文章の中で使う。	(ウ) 漢字と仮名を用いた表記や送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点の使い方を意識して打つ。	(ウ) 文や文章の中で読みやすさや意味の通りやすさを考えて、漢字と仮名を適切に使い分けて書く。
(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、語句には同義語や対義語、上位語・下位語、同音異義語、多義的な意味を表す語句などがあることに気付く。	(エ) 理解したり表現したりするために必要な様子や行動、気持ちや性格などを表す語句の量を増し、自分の語彙として身に付け、使える範囲を広げる。	(エ) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には、物の名前、動き、様子を表す語句といった性質による語句のまとまりや文の主語、述語、修飾する語句といった役割による語句のまとまりがあることを理解する。	(エ) 社会生活の中で表現したり理解したりするために必要な語句に加え、思考に関わる語句（「だから」「しかし」「考える」「だろう」など）の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、言葉への関心を高め、さらに語彙を豊かにする。
(オ) 主語と述語の適切な係り受けを理解するとともに、前後の文節や文などをつなぐ働きをもつ語句の役割を理解する。	(オ) 修飾と被修飾との関係、物事を指し示す役割をもつ語句について理解する。	(オ) 接続する語句（つなぎ言葉）の役割、段落（形式段落、意味段落）の役割について理解する。	(オ) 文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類（紹介、提案、案内、指示書や説明書）について理解する。
(カ) 丁寧な言葉と普通の言葉を相手や場面に応じて使い分けることに気を付けて話す。	(カ) 敬体と常体があることを理解し、相手や目的を意識して表現する際に、敬体と常体との違いについて注意しながら書く。	(カ) 学校内や職場実習等の学校外での様々な立場の人々と関わりの中で必要になる尊敬語や謙譲語などを理解し使う。	(カ) 日常よく使われる敬語を理解し、相手や場面に応じて適切な敬語を使うことに慣れる。

国語

内容		小1段階	小2段階	小3段階	
知識及び技能	特徴や使いの方	-	-	音読	(カ)正しい姿勢で音読すること。
	イ る話や文章の扱い方	-	-	情報と情報との関係	(7)物事の始めと終わりなど物事の内容を表す言葉の働きに気付き、情報と情報との関係について理解する。
	ウ 我が国の言語文化	(7)昔話のほか、わらべ歌や言葉遊びなどについて、読み聞かせを聞き、独特の語り口調や言い回しに含まれる言葉の響きやリズムを感じたり、物語の一場面を簡単な言葉で唱えたり、動作化したりして、親しむ。	(7)昔話や童話の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、昔話の語り初めの一部を模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむ。	情報の整理	(イ)目的をもって図書資料を読むために、図書を用いた調べ方を理解し使う。
	ウ 我が国の言語文化	(4)呼びかけに対する応答遊び、音まね・声まね遊びなど、声や言葉を使った遊びや関わりなどを通して、節を付けて歌ったり動作化したりするなどして、言葉の響きやリズムを体感したり、楽しんだりする。	(4)わらべ歌遊びなど、節を付けたり動きを併せて行う遊びややり取りの中で、言葉による表現に触れたり、自分でも表現したりすることなどを体験し、言葉による表現に親しむ。	伝統的な言語文化	(7)昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、真似をしたり、簡単な劇や音読を発表し合ったりして、言葉の響きやリズムに親しむ。
思考力・判断力・表現力等	A 聞くこと・話すこと	(7)⑦ クレヨン、チョーク、筆、はけ、鉛筆、ボールペン、水性・油性ペンなどの筆記具を用いることで、線などが書けることに気付いたり、書いたものに何らかの意味付けをしたりする。 ⑧ 書いて表現することへの興味・関心を高めながら、書くことに親しむ中で、筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知る。	(7)⑦ 黒板や画用紙などに、チョークや鉛筆、フェルトペン、クレヨンなど、いろいろな筆記具を用いて、線を楽しく書くことに親しむ。 ⑧ 写し書きやなぞり書きなどにより、文字の形を意識したり、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢を理解したりして、書写の基本を体験的に身に付ける。	書くこと(書写)	(7)⑦ 書いたものを読む相手、書き表す素材やマス、行の大きさ、書く量などに合った筆記具を教師の助言の下に選び、文字や記号、それらを補う図や絵を書く。 ⑧ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書く。
		(エ)絵本などに対して、絵に注目したり、教師と一緒に絵本に出てくる言葉や擬声語などを声に出したりして読み聞かせに注目し、絵本や紙芝居、ペープサート、写真やビデオなどに興味をもつ。	(エ)読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑、掛図などの資料に興味をもつ。	読書	(エ)読み聞かせなどに親しみ、図書資料にはいろいろな絵本や図鑑があることを知る。
		ア 教師が話し掛ける場面の状況や読み聞かせる絵本の挿絵などを手掛かりに、内容を大まかに把握し、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりする。 イ 身近な人から話し掛けられた状況を受け止め、関心をもって話し手を見たり、音声で模倣したり、返事をしたり、簡単な言葉で表現したりする。	ア 経験したことなどについて頭の中にイメージしたことと知っている言葉とを照合したり当てはめたりして、言葉を考える。また、言葉聞いて、その意味や言葉から自分なりに連想されるイメージを思い浮かべる。 イ 3語から4語で構成する文による指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をする。	内容の把握(聞くこと)	ア 絵本の読み聞かせなどを通して、出来事の内容の大体を聞き取り理解する。



国語

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
(キ) 明瞭な発音で文章を読んだり、ひとまとまりの語や文として読んだりするなど、言葉の響きやリズムなどに注意して読む。	(キ) 文章全体を大づかみに捉えたり、登場人物の行動や気持ちの変化などを大筋で捉えたりしながら、音読する。	(キ) 適切に内容の大体を捉えるために、文章全体の構成を意識しながら音読する。	(キ) 文章の構成や内容を理解することに加え、自分の思いや考えが聞き手に伝わるように音読したり、朗読したりする。
(ア) 複数の事柄などが、一定の観点に基づいて順序付けられていることなど、情報と情報との関係について理解する。	(ア) 事物の説明や経験の報告や感想を述べる上で、考えとそれを支える理由など、明確にすることが大切な情報と情報との関係について理解する。	(ア) 考えとそれを支える理由や事例、話や文章の全体とその中心的な部分など、情報と情報との関係について理解する。	(ア) 様々な情報の中から原因と結果の関係を見だし、結び付けて捉えるなど、情報と情報との関係について理解する。
—	(イ) 情報を集めたり発信したりする場合に必要な語や語句の書き留め方や、自分と相手の考えの比べ方など情報の整理の仕方を理解し使う。	(イ) 話や文章を理解したり表現したりするため、観点を明確にした比較や分類の仕方や辞書や事典の使い方など情報の整理の仕方を理解し使う。	(イ) 複雑な事柄などを分解して捉えたり、多様な内容や別々の要素などをまとめたりするなど、情報と情報との関係付けの仕方を理解し使う。
(ア) 自然や季節の情景を表した言葉を用いた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむ。	(ア) 易しい文語調の短歌や俳句の美しい響きを感じ取りながら音読したり暗唱したりして、言葉の響きやリズムに親しむ。	—	(ア) 言葉のリズムを実感しながら読めるもの、音読することによって内容の大体を知ることができるような親しみやすい古文などの文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむ。
(イ) 年賀状や暑中見舞いなどの挨拶状や、時候の挨拶に書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた語句があることや、その使い方を知る。	(イ) 生活に身近なことわざや、交通安全や火災予防など日常生活の中で目にする多くの標語などを知り、使うことにより様々な表現に親しむ。	(ア) 生活の中でよく用いられるなじみのあることわざや慣用語などの意味を知り、ふさわしい場面でするように使う。	(イ) 生活の中で使われる慣用語、故事成語などの意味を知り、周りの人が使った時に、その意図を捉え場面を理解したり、日常生活でするように使う。
⑦ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形が整うよう注意しながら、丁寧に書く。 ⑧ 点画の接し方や交わり方等の点画相互の位置関係、長短や方向等の関係性などに注意して文字を書く。	⑦ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書く。 ⑧ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して読みやすい文や文章を書く。	⑦ 文字の組み立て方の仕組みを理解して、形を整えて書く。	⑦ 用紙（原稿用紙、便箋、履歴書、半紙、画用紙、模造紙、布、金属、ガラス）全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めて書く。 ⑧ 生活や学習活動など文字を書く場面で、目的に応じて使用する筆記具（鉛筆、フェルトペン、毛筆、ボールペン、筆ペンなど）を選び、その特徴を生かして書く。
(エ) 読書に親しみ、内容や記し方によって物語や自然や季節などの美しさを表した詩、紀行文といった種類に分類できることを知る。	(エ) 読書する本や文章の種類、分野、活用の仕方など幅広く読書に親しみ、本には物語、昔話、絵本、科学的な読み物、図鑑などいろいろな種類があることを知る。	(ウ) 幅広く読書に親しみ、疑問が解決したり、自分の興味が広がったりする楽しさを味わったりして、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く。	(エ) 読書の楽しさや有効性を実感しながら、日常生活の中で主体的、継続的に読書に親しみ、読書によって新たな事柄や考えを知ることや、自分とは異なる立場で物事を考えることができるようになることに気付く。
ア 身近な人の説明や話、簡単な放送や録音などを聞き、指示や説明に応じることができるように、簡単なメモを取りながら聞いたり、分からないときは聞き返したりして話の大体を捉える。	ア 身近な人の話や放送などの内容や話し方に関心をもって聞き、話している事柄の順序や要点を書き留めたり、分からない点や確かめたい点を質問したりして、内容の大体を捉える。	ア 社会生活における様々な場面でする話について、話の内容や話し方に関心を持ち、事柄の順序など、話の組み立て方を意識しながら、話の要点を聞き、話の内容を捉える。	ア 社会の中で関わる人の話などについて、話し手の目的だけでなく自分が聞きたいことを中心に明確にして、その内容を捉える。
—	—	—	—



国語

内容		小1段階	小2段階	小3段階	
思考力、判断力、表現力等	A 聞くこと・話すこと	ウ 伝えたいことを思い浮かべ、話題について、表情や身振り、音声で、模倣したり応答したりする。	ウ 体験したことなどについて、相手に伝えたいことを思い浮かべ、自分の知っている言葉に当てはめようとして、表そうとしてしたりする。	(伝えること) 内容の検討	イ 絵や写真などを手掛かりに、経験したことを振り返り、伝えたいことを検討する。
		-	-	(伝えること) 構成の検討	ウ 見聞きしたことのあらましやその際の自分の気持ちなどについて当てはまる言葉を探したり、話す順番などについて検討したりする。
		-	エ 挨拶などの日常生活や遊びに必要な言葉のやり取りを繰り返したり、物語などの一場面を取り上げて、台詞を言ったりする中で、言葉や表現に慣れ、身に付けていく。	(伝えること) 表現	エ 挨拶や電話の受け答えなど、相手への伝わりやすさを意識して、決まった言い方を使う。 オ 正しい姿勢で音読するなどの活動を通して、明瞭に発音することに加え、相手との距離や場面に応じて声の大きさに気を付けて話す。
		-	-	(伝えること) 話し合うこと	カ 相手の話に関心をもち、話のおおよそを捉え、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりする。
	B 書くこと	ア 人との関わりや出来事について、見聞きしたことや感じたことなどを具体物や絵、写真などを手掛かりにして想起したり、相手に伝えたいことを考えたりする。	ア 経験したことの中から楽しかったことなどの伝えたいことを、具体物や絵、写真などを手掛かりにしながら、経験したことを想起したり、具体的な言葉を用いて考えたり、表そうとしてしたりする。	題材の設定と 情報の収集	ア 身近で見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、書くために必要な事柄を思い出したり想像したりして、ノートやカードに書き出したり、言葉を補う写真や絵などの資料を集めたりする。
		イ 伝え合う手段として文字があることに気付き、教師が文字を書く様子を見ようとして、身の回りにある様々な文字に対して指さしをしたり、教師等が文字を書く様子を模倣して、自分なりの書き方で文字に見立てた形を書く。	イ 事柄を表したり、伝えたりするために、決まった文字の組み合わせがあることを知り、具体物や絵、写真などと単語や文字カードとを一致させられるようになり、表したい平仮名を形作るために、見本となる文字をなぞったり、書けるようになった文字をマスの中に書いたりして表す。	内容の構成	イ 見聞きしたり、経験したりしたことから、経験した順序や説明する際の具体的な内容の順序など事柄の順番に沿って簡単な構成を考える。
				(書くこと) 書き表し方	ウ 見聞きしたり、経験したりしたことについて、児童が取り上げた対象や自分の思いを文字や短い文として書き表す。

国語

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
イ 身近な出来事や自分が経験したことを想起し、興味や関心の度合い、伝えたい思いの強さを手掛かりに、話したい、話し合いたいことを一つに決める。	イ 興味・関心を大切に話題を決め、相手や話す目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にし、必要な事柄をまとめる。	イ 社会生活における人との関わりの中で、目的に応じて、自分や相手が興味・関心をもっていることから話題を決め、集めた材料が話題と合っているか確かめるなど、伝え合うために必要な事柄を選ぶ。	イ 目的や意図、場面や状況を考慮して話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合う内容を検討する。
ウ 見聞きしたり経験したりした事実や自分の気持ち、意見、人への伝言などを話すために、伝えたい事柄を順序立てて構成する。	ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように、必要に応じて理由や事例を付け加えながら、話を構成するなど伝える順序や伝え方を工夫して考える。	ウ 自分の伝えたいことの中心が聞き手に分かりやすくなるよう話の構成を考える。	ウ 話の中心に加えて自分の立場や結論など内容が明確になるよう事実と感想、意見とを区別したり、詳しい説明を付け加えたりして、話の構成を考える。
エ 自己紹介や電話の受け答えの際には、丁寧な言葉を使うなど、話す相手や目的に応じた言葉遣いを考えて話す。	エ 相手に伝わるように、発声や声の大きさ、速さに注意したり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方、相手を見る視線など、表現を工夫したりする。	エ 相手に伝わるように、相手との親疎や人数、目的や場の状況などに応じて、声の出し方や言葉遣い、視線、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫する。	エ 実物や画像、映像などの資料を活用して補足や強調をしたり、聞き手の興味・関心や情報量などを予想して、どのような資料を用意すればよいか考えたり、資料の提示の仕方について検討したりして自分の考えが伝わるように表現を工夫する。
オ 相手の話の内容や話し方などに興味や関心をもって聞き、大体的内容を整理したりまとめたりして分かったことや感じたことを伝え合い、伝え合ったことを通して、自分の考えや感想をもつ。	オ 物事を決めるために、司会者、提案者、参加者の役割の中で互いの考えの共通点や相違点などを確認しながら、話し合いを進め、考えをまとめる。	オ 目的や進め方を確認し、司会者、提案者、参加者などの役割に応じて話し合い、共通点や相違点に着目し、一つの結論を出したり、話し合われたことに対する自分の考えをまとめたりする。	オ 互いの立場や意図を明確にしなが、話し合いの内容、順序、時間配分等に加え、目的や方向性を事前に検討し話し合い、複数の視点から検討し、自分の考えを広げたり、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等をまとめたりする。
ア 見聞きした事や経験したことの中から、興味や関心に応じて伝えたいことを見つけ、書くために必要な事柄を思い出したり想像したりしてノートやカードに書き出すなどして、内容を整理し大まかにまとめる。	ア 相手や目的を意識し、見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び、情報を整理しながら伝えたいことを明確にする。	ア 相手や目的を意識して、書くことを決め、集めた材料を比較し、書く材料を整理し、伝えたいことを明確にする。	ア 相手や目的に加え、場面や状況を考慮し、書くことを決め、集めた材料を比較したり分類したりして、書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめるなど書く材料を整理し、伝えたいことを明確にする。
イ 相手に伝わるように事柄の順序に沿いながら、文章の始めから終わりまでを、内容のまとまりごとに幾つかに分けて配置していく簡単な構成を考える。	イ 書く内容の中心を決め、自分の考えが明確になるように、自分の考えとその理由・具体的な事例など段落相互の関係に注意するなどして文章の構成を考える。	イ 書く内容の中心を決め、中心となる事柄や、それに関わる他の書きたい事柄を明らかにして、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える。	イ 相手に分かりやすく伝わるように、伝えたいことや知らせたいことを明確にし、首尾一貫した展開となるよう、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成を考える。
ウ 前後の語句のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語の続き方を考えるとともに、離れたところにある語と語とのつながりについても考え、語句を組み合わせて文にまとめる。	ウ 事実と自分の考えとの違いなどが相手に伝わるように、事実を客観的に書くとともに、その事実と自分の考えとの関係を十分捉えて書くようにして、書き表し方を工夫する。	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、「なぜなら～」「例えば～」などの表現を用いて、書き表し方を工夫する。	ウ 書く目的や意図を明確にした上で、簡単に書く部分と詳しく書く部分を決めたり、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。引用した文章や図表等の出典については必ず明記するとともに適切な量になるようにする。

国語

内容		小1段階	小2段階	小3段階	
B 書くこと		-	-	推敲	エ 事柄の順序、語と語や文と文との続き方、長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の使い方などを意識しながら、書いた語句や文を読み返し、教師の指導を受けながら、正しいものを書き直す。
		-	-	共有	オ 書かれたものに対して分からないことについて質問をしたり、感想を述べたりする。
C 読むこと	ア 絵本の他、紙芝居を読んでもらったり、写真や絵、映像などを見たりすることで、身近にある事物や事柄、生き物などが表現されていることに気づき、注目する。	ア よく親しんでいる絵本の絵や題名などを見て、どんな登場人物が出てくるかを考えたり、場面の様子や登場人物の行動などについてイメージしたことを言葉や動作で表そうとしたりする。	登場人物の行動や心情把握	ア 絵本や三つから十くらいの場面や段落で構成された読み物について、挿絵を手掛かりに、登場人物の行動や場面の様子などを想像する。	
	イ 絵本などを読んでもらったり、写真などの事物の名前などを読んでもらったりした際に、その対象に指さしをしたり、視線や意識を向けたりする。	イ 教師と一緒に絵本などを見て、例えば二つの場面を見比べて、登場人物の様子や行動などの違いに気付いたり、話の内容を読み取ったりする。	内容の把握	イ 絵本や三つから十くらいの場面や段落で構成された読み物について、時間的な順序など、全体に何が書かれているかを大づかみに把握する。	
	ウ 場所や動作を表す絵や写真、日常生活で見かけるシンボルマーク、「○」、「×」、「→」といった簡単な記号などの表す意味を感覚的に識別し、自分の思いや要求を表すために選択したり、意味に従って行動したりする。	ウ 身近にあるシンボルマークや標識などに示されている図柄や色などの特徴に気づき、図柄のイメージやそれが置かれている場所などと結び付けて表している意味を考えたり、表された意味に沿った行動をしたりする。	読み取りの	ウ 家庭や学校、地域での生活に必要なとされるきまりや立て札、標識に書かれた言葉に沿った行動をする。	
	-	-	中心となる情報の把握	-	
	エ 展開が簡単な話の絵本などを見聞きし、言葉のもつ音やリズム、イメージを感じ取り、それらから次の場面を期待したり、言葉のもつ音やリズム、言葉が表す動作を楽しみながら模倣したりする。	エ 絵本の読み聞かせや自分自身の経験などから、好きな場面を考えて教師や友達に伝えたり、好きな言葉などを模倣したりする。	考えの形成	エ 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりする。	

思考力、判断力、表現力等

国語

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
エ 設定した題材、事柄の順序、語と語との続き方、長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の使い方などを意識しながら自分が書いた方を丁寧に読み返し、間違いを正しく改める。	エ 一文一文を丁寧に読み返す習慣を付け、間違いを正したり語と語の続き方や、表記の仕方や使い方などを確かめたりする。	エ 表記の仕方や、敬体と常体などの文末表現の使い方などに注意しながら読み返し間違いを正したり、書く相手や目的を意識した構成や書き表し方になっているかを確かめたりして、文や文章を整える。	オ 文章全体の構成や書き表し方などについて、内容や表現の一貫性、目的や意図に照らした構成や記述、事実と感想、意見を区別した記述、引用の仕方、図表やグラフなどの用い方などを推敲の観点に、文や文章を整える。
オ 書いた文章を互いに読み、順序の分かりやすさ、語と語との続き方などを観点として感想を伝え合う。	オ 書いた文章を互いに読み、感想を伝え合うことを通して、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける。	オ 互いの書いた文章を読み合ったり、音読し合ったりして、書くようになったことが明確になっているかなど、その内容や表現について文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。	カ 目的や意図に応じた文章全体の構成が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けたり、互いの書いたよいところを自分の表現に活かそうとしたりする。
ア 簡単な物語や紀行文、詩、短い劇の脚本などを読み、情景や場面の様子や登場人物の行動や心情の変化を把握し、様子を豊かに想像しながら読む。	ア 物語や詩、短い劇の脚本、紀行文、記録や報道の文章など様々な読み物を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像する。	ア 物語全体の登場人物の行動や心情などについて叙述を基に捉えたり、読み進める生徒の心情の変化や自らの経験も手掛かりとして心情を捉えたりする。	ア 登場人物の相互関係や心情などについて、直接的な描写だけでなく暗示的な表現（行動や会話、情景描写など）にも注意し想像を豊かにしながら捉える。
イ 生活に必要なものの使用法や簡単な料理法の説明書等で時間を表す言葉や接続する語句などを正しく読み取ることで、文や文章の時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉える。	イ 語と語や文と文との関係を助詞や接続する語句に注意しながら読み、出来事の順序や、登場人物の気持ちの変化など、内容の大体を捉える。	イ 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に文章の構造を捉え、内容を把握する。	イ 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する。
ウ 学校や町、公共施設等で見かける名前、表示、標識や案内板、看板やポスター、広告など、日常生活に必要な語句や文章などを読み、意味を考え、行動する。	ウ 日常生活や社会生活、職業生活に必要な説明書や注意書きなどの語句、文章、表示の意味や情報を読み取り、行動する。	<b>登場人物の心情や情景の想像、優れた叙述と効果</b>	
	エ 様々な情報の中から、中心となる言葉や文、情報を適切に選択しながら、内容を捉えて読む。	ウ 場面とともに描かれる登場人物の心情や情景について、場面と結び付けて具体的に想像する。	ウ 登場人物の相互関係などを手掛かりに人物像を具体的に想像したり、様々な表現が読み手に与える効果を考えたりする。
		エ 目的を意識して、文章の構造や内容を基に、中心となる語や文など必要な情報を見付けて要約する。 例：伝記、観察記録文、紀行文、旅行等の諸案内、趣味の工作や料理の作り方	エ 目的を意識して、文章の中から取捨選択したり、整理したり、再構成したり、文章と図表などを結び付けたりするなどして、必要な情報を見付ける。 例：説明書、納品書、請求書、領収書、広報や回覧板の意味、FAX、電子メール
エ 文章を読んで分かったことを印象に残ったフレーズ等を選んで伝えたり、文章全体の印象や内容に対する感想を自分なりの言葉で表現したりする。	オ 文章を読んで構造と内容を把握することを通して、感じたり分かったりしたことを伝えあい、一人一人の感じ方に違いがあることに気付く。	オ 文章の内容や構造を捉え、読んで感じたことや分かったことを基に、自分の体験や既習の内容などと結び付けて、疑問点やさらに知りたい点などを見いだすなど自分の感想や考えをもつ。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、考えとその理由や事例などを整理して自分の考えをまとめる。



# 4 社会

## ○内容の構造

中学部	
ア…知識及び技能	
イ…思考力, 判断力, 表現力等	
高等部	
ア…知識及び技能	社会参加ときまり 公共施設の役割と制度 我が国の国土の自然環境と国民生活【2段階】
イ…思考力, 判断力, 表現力等	我が国の国土と国民生活、歴史 産業と生活【2段階の(イ)】 外国の様子
アイ…知識及び技能	我が国の国土の自然環境と国民生活【1段階】
ウエ…思考力, 判断力, 表現力等	産業と生活(ア)

## ○概要

- ・ 中学部の内容は、社会参加ときまり 公共施設と制度 地域の安全 産業と生活 我が国の地理や歴史 外国の様子 の6項目で構成されています。
- ・ 高等部は、社会参加ときまり 公共施設の役割と制度 我が国の国土の自然環境と国民生活 産業と生活 我が国の国土と国民生活、歴史 外国の様子 の6項目で構成されています。

## ○表の見方

- ・ 資質・能力によって指導内容が変わることはありません。
- ・ 4段階から7段階にわたって系統的・発展的になるように指導内容を示していますが、段階ごとの各内容は順序立てて示してはいません。
- ・ 表中の記号は以下のようになっています。  
「・」…内容 「\*」…具体的な例 「※」…関連付け及び配慮事項

## ○作成しての苦勞

- ・ 解説の「指導計画の作成と内容の取扱い」にある配慮事項については、具体的内容の中に示していない事柄もありますので、読んでいただいてから指導内容の設定をしてください。

## ○教科の特質や作成者の思い

- ・ 各教科との関連を図り、指導の効果を高めるようにするとともに、中学部では、特に小学校生活科・社会科や特別支援学校生活科の学習を踏まえ、高等部では、特に、特別支援学校中学部社会科の学習を踏まえ、系統的・発展的に指導に当たってください。

社会

社 会				
目標	社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象について関心を持ち、具体的に考えたり関連付けたりする活動を通して、自立し生活を豊かにするとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。		社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象について関心を持ち、具体的に考察する活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや役割、地域や我が国の歴史や伝統と文化及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して理解するとともに、経験したことと関連付けて、調べまとめる技能を身に付けるようにする。		(1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化及び外国の様子について、様々な資料や具体的な活動を通して理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2) 社会的事象について、自分の生活と結び付けて具体的に考え、社会との関わりの中で、選択・判断したことを適切に表現する力を養う。		(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、自分の生活と結び付けて考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	(3) 社会に主体的に関わろうとする態度を養い、地域社会の一員として人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養う。		(3) 社会に主体的に関わろうとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚等を養う。	
段階の目標	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
	日常生活に関わる社会的事象が分かり、地域社会の一員としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。	日常生活に関わる社会的事象について理解し、地域社会の一員としての資質・能力の基礎を次の通り育成することを目指す。	学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。	学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。
知識及び技能	ア 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動、地域の産業と消費生活の様子及び身近な地域の様子の移り変わり並びに社会生活に必要なきまり、公共施設の役割及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して、自分との関りが分かるとともに、調べまとめる技能を身に付けるようにする。	ア 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える役割、自然災害から地域の安全を守るための諸活動及び地域の伝統と文化並びに社会参加するためのきまり、社会に関する基本的な制度及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに調べまとめる技能を身に付けるようにする。	ア 我が国の国土の様子と国民生活、自然環境の特色、先人の業績や優れた文化遺産、社会参加するためのきまり、公共施設の役割と制度、農業や水産業の現状、産業と経済との関わり、外国の様子について、様々な資料や具体的な活動を通して、社会生活との関連を踏まえて理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	ア 我が国の国土の様子と国民生活、自然環境の特色、先人の業績や優れた文化遺産、社会参加するためのきまり、公共施設の役割と制度、工業の現状、産業と情報との関わり、外国の様子について、様々な資料や具体的な活動を通して、社会生活との関連を踏まえて理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する基礎的な力を養う。	イ 社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する力を養う。	イ 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、自分の生活と結び付けて考える力、社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。	イ 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、自分の生活と結び付けて考える力、社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 身近な社会に関わろうとする意欲を持ち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。	ウ 社会に自ら関わろうとする意欲を持ち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。	ウ 社会に主体的に関わろうとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土に対する愛情、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。	ウ 社会に主体的に関わろうとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土に対する愛情、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

社会

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
社会参加するとき 社会参加するために必要な集団生活・社会生活	社会参加するとき	<p>ア 社会参加ときまり (7) 社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>⑦ 学級や学校の中で、自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりする等、集団生活の中での役割を果たすための知識や技能を身に付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級や学校の中で、係や当番の仕事等、自分に割り当てられた役割を果たす。</li> <li>・集団生活の中で、自分の役割を果たすために、自分の考えを明確にしたり、相手の立場を考えたり、相手の助言を聞いたりする。</li> </ul> <p>① 集団生活の中で何が必要かに気付き、自分の役割を考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活の中で自分の役割を果たすことは、自分のためだけでなく、みんなの役に立つことに気付き、自ら考えて、表現する。</li> <li>・節電やリサイクル等、具体的な活動を通して、身近な家庭、学校、地域社会の中で自分の役割を果たす価値に気付き、自ら考えて行動する。</li> </ul>	<p>ア 社会参加ときまり (7) 社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>⑦ 学級や学校の中で、意見を述べ合い、助け合い、協力しながら生活する必要性を理解し、そのための知識や技能を身に付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活の中での自分の役割を理解し、責任をもって行動する。</li> <li>・よりよい集団生活のために、周囲の人と意見交換をしながら協力し合うことの必要性を理解する。</li> </ul> <p>① 周囲の状況を判断し、集団生活の中での自分の役割と責任について考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に与えられた役割を行うだけでなく、周囲の人の様子や時、場面等の状況を捉え、適切な行動を考え、自分がなすべきことを決定する。 *困っている人がいたら声を掛ける *分からないことがあったら進んで人に尋ねる、教えてもらう</li> <li>・集団生活の中で、自分の役割を果たすことで責任が生じてくることを、体験や活動を通して具体的に考え、社会参加への意欲や態度を身に付ける。</li> </ul>	<p>ア 社会参加ときまり (7) 社会参加するために必要な社会生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>⑦ 地域の人々と互いに協力することの大切さを理解し、自分の役割や責任を果たすための知識や技能を身に付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中で自分の役割や責任を果たすために、周囲のことを考えながら行動したり、周囲と役割等を調整したりすることの大切さを理解する。</li> <li>・自分の役割や責任を果たすためには周囲の人々との協力が不可欠であることが分かる。</li> </ul> <p>① 社会生活の中で状況を的確に判断し、自分の役割と責任について考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活（学校以外の集団）の中での自分の立ち位置を認識し、自分がなすべき役割とその行動が及ぼす影響について積極的に考え、表現する。 *地域の清掃 *ボランティア</li> </ul>	<p>ア 社会参加ときまり (7) 社会参加するために必要な社会生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>⑦ 社会の中で互いに協力しながら、社会生活に必要な知識や技能を身に付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や地域の中で自分の立場や役割を理解し、相手の立場や役割も理解しながら行動する。</li> <li>・周囲と互いに協力することを通して、集団生活の中で自分が果たす役割の重要性に気付き、協力することのよさや意義を理解する。</li> </ul> <p>① 社会生活の中で状況を的確に判断し、国民としての権利及び義務、それに伴う責任について考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活では、日本国憲法や法によって権利が保障され、義務を課せられることについて理解し、その結果が身近な生活にも影響を与えるということを、模擬選挙や校内の生徒会選挙等の具体的な活動を通して考え、表現する。 *選挙・勤労の義務 *納税の義務</li> </ul>
		<p>(イ) 社会生活に必要なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>⑦ 家庭や学校でのきまりを知り、生活の中でそれを守ることの大切さが分かること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や学校、通学路等身の回りを中心とした社会のきまりを知る。 *玄関で靴をそろえる。 *学校の時間割に沿って行動する *信号に従って道路を横断する</li> <li>・きまりを守るよさを実感し、きまりを守ろうという実践的な意欲や態度を身に付ける。</li> </ul>	<p>(イ) 社会生活に必要なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>⑦ 家庭や学校、地域社会でのきまりは、社会生活を送るために必要であることを理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が住む地域社会でのルールや規則、民法等の社会参加に必要な法を理解する。 *スーパーマーケットのレジで順番に並ぶ *運転免許に関する道路交通法（標識） *結婚に関する民法</li> </ul>	<p>(イ) 社会生活を営む上で大切な法やきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>⑦ 社会生活を営む上で大切な法やきまりがあることを理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの社会生活と結び付けながら、日本国憲法や、法律や条例について理解する。</li> </ul>	<p>(イ) 社会生活を営む上で大切な法やきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>⑦ 社会の慣習、生活に関係の深い法やきまりを理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活を送る上で必要な身近な法やきまりを理解し、自分の生活に役立てていこうとする意欲をもつ。 *自動車運転免許 *職業に関する各種資格 *選挙の仕組み</li> </ul>



## 社会

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
社会参加ときまり	社会生活に必要なきまり／社会生活を営む上で大切な法やきまり	④社会生活ときまりとの関連を考え、表現すること。  ・学校や家庭等自分の身の回りのきまりを守る意義について、自分の生活と関連付けながら考え、表現する。	④社会生活に必要なきまりの意義について考え、表現すること。  ・自分の生活におけるきまりを確認し、その必要性について話し合い、きまりを守ることが円滑な社会生活を営むこととどう関係しているのかを考え、表現する。	④社会生活を営む上で大切な法やきまりの意義と自分との関わりについて考え、表現すること。  ・社会生活に必要な法を守ることが快適で安心、安全な生活につながることで、法を守らないことが社会の秩序を乱すことにつながることを自分の生活に基づいて考え、表現する。 *道路交通法	④社会の慣習、生活に関係の深い法やきまりの意義と自分との関わりについて考え、表現すること。  ・様々な法やきまりがあることによって秩序ある社会生活が成り立っていることを具体的に調べ、まとめ、考え、表現する。  ・日本国憲法が自分たちの生活にどのように生かされているかを調べ、日本国憲法が国民生活に果たす役割を考え、表現する。 *居住移転の自由 *職業選択の自由
		※小学部の生活科の「カ役割」と「クきまり」に関連するもの。		※中学部社会科の「ア社会参加ときまり」に関連するもの。	
公共施設と制度	公共施設の役割	イ 公共施設と制度 (7) 公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 公共施設と制度 (7) 公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 公共施設の役割と制度 (7) 公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 公共施設の役割と制度 (7) 公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		⑦身近な公共施設や公共物の役割が分かること。  ・身近な公共施設（市（区）役所や町（村）役場、学校、公園、公民館、コミュニティセンター、図書館、児童館、体育館、美術館、博物館、資料館、文化会館、消防署、警察署、交番、裁判所等）の名称、位置、役割が分かる。  ・公共施設や公共物を積極的に利用しようとする意識をもつ。 ・身近な公共物（学校の共有備品、電車やバス等の交通機関等の公共のための物や新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等）の役割が分かる。	⑦自分の生活の中での公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。  ・自分の生活の中での公共施設（4段階であげたもの等）の役割とその必要性を理解する。  ・自分の生活の中での公共物（4段階であげたもの等）の役割とその必要性を理解する。	⑦生活に関係の深い公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。  ・生活に関係の深い公共施設（中学部であげたものに加えて、公共職業安定所等）の役割とその必要性を理解する。 *公共職業安定所で求職登録や職業相談を受ける。 *市役所で住民票の取得や福祉サービスの利用申請、年金の申請を行う。 ・生活に関係の深い公共物（学校の共有備品、電車やバス等の交通機関等の公共のためのもの）の役割とその必要性を理解する。	⑦地域における公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。  ・公共施設や公共物の地域社会における役割や必要性を理解する。

社会

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
公共施設と制度	公共施設の役割	<p>① 公共施設や公共物について調べ、それらの役割を考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設について位置を地図で確認したり、インターネットで調べたり、実際に見学や利用をしたりする等して、その役割と名称と位置を一体的に結び付け、自分の生活との関連について考え、表現する</li> </ul>	<p>① 公共施設や公共物の役割について調べ、生活の中での利用を考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設や公共物の役割について調べ、快適な社会生活を営むのに役立つことを理解し、現在や将来の自分の生活の中での利用について考え、表現する。</li> <li>図書館や体育館、公民館等の余暇活動での利用</li> <li>図書館や体育館、公民館等の利用方法をインターネットで検索</li> <li>公共施設や交通機関の利用の際の適切な方法やそれらを利用することがどのように快適な生活に結び付くのかを考えたりする。</li> <li>ICカードの扱い方と活用</li> <li>電子マネーの扱い方と活用</li> <li>情報メディアを活用することで、自分の生活が快適になったり、円滑になったりすることに気付く</li> <li>乗車時刻や乗り換えについてインターネットで調べる</li> <li>気象情報について新聞やテレビ・ラジオ・インターネットで情報を得る</li> </ul>	<p>① 生活に関係の深い公共施設や公共物の利用の仕方を調べ、適切な活用を考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活に関係の深い公共施設や公共物の役割や機能について、公共施設を見学したり、資料を通したりして知り、現在や将来の自分の生活における適切な利用の仕方を考え、表現する。</li> <li>公共職業安定所で求職登録や職業相談を受ける</li> <li>市役所で住民票の取得や福祉サービスの利用申請、年金の申請を行う</li> </ul>	<p>① 地域における公共施設や公共物の利用の仕方を調べ、適切な活用を考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域における公共施設や公共物の利用の仕方を調べ、適切な活用や国民生活を支える重要な機能があることについて考え、表現する。</li> </ul>
	公共施設と制度	<p>(イ) 制度の仕組みに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>⑦ 身近な生活に関する制度が分かること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な生活場面での利用と結び付けて、自分たちの日常生活に関係する制度や行政サービスのことが分かる。</li> <li>病院の受診時には保険証を用いることで医療費負担が軽減されること</li> <li>交通機関の利用や余暇活動の際の施設利用において療育手帳や身体障害者手帳等を用いることで割引が受けられること</li> </ul> <p>・日常生活に関係する制度や行政サービスを利用することで、自分たちの生活が円滑かつ快適に送れることに気づき、今後の生活に生かしていくという意欲をもつ。</p>	<p>(イ) 制度の仕組みに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>⑦ 社会に関する基本的な制度について理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国民が社会生活を円滑に送るために国や地方公共団体が定めた制度や行政サービスについて理解する。</li> <li>租税(消費税をはじめとする納税の機会や、体育館や図書館等の公共施設の建設、運営等の税金の使い道)</li> <li>選挙</li> <li>社会保障に関する制度</li> </ul> <p>・国民が社会生活を円滑に送るために国や地方公共団体が定めた制度や行政サービスを利用することで、自分の生活や社会全体が秩序ある快適な生活を送ることにつながることを知る。</p> <p>・選挙はものごとを決めるときの一つの方法であり、代表者を選び、人々の意見が反映されることを理解する。</p>	<p>(イ) 制度に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>⑦ 我が国の政治の基本的な仕組みや働きについて理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の政治の仕組みや国や地方公共団体の政治の働きについて理解する。</li> <li>我が国の政治には国会に立法、内閣に行政、裁判所に司法という三権があること、それらは相互に関連し合ってそれぞれの役割を果たしていること</li> <li>国や地方公共団体は国民生活と密接な関係をもっていること、それらの政治は国民主権の考え方を基本として、国民の願いを実現し国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていること</li> <li>国会、内閣、裁判所の役割について、政策や法令、予算等具体的な事例を取り上げ、国や地方公共団体の政治と自分たちの生活のつながりについて関心をもつ。</li> </ul>	<p>(イ) 制度に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>⑦ 生活に関係の深い制度について理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの社会生活に関する制度について理解する。</li> <li>選挙</li> <li>租税(税金の使い道)</li> <li>年金(国民年金、厚生年金、障害年金)</li> <li>保険</li> <li>福祉に関する制度(療育手帳や身体障害者手帳の利用)</li> </ul> <p>・生活の中での療育手帳や身体障害者手帳等の活用について理解する。</p> <p>* 援助を受ける</p> <p>* 福祉サービスを利用する</p> <p>・税金は、国や地方公共団体によって行われている施策に使われて、自分たちの生活や国民生活の向上と安定のために重要な役割を果たしていることを理解する。</p> <p>・健康や生活を守ること</p> <p>・道路や住宅等の整備、教育や科学技術の振興</p>

社会

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
公共施設と制度	制度のしくみ	④ 身近な生活に関する制度について調べ、自分との関わりを考え、表現すること。  ・自分たちの日常生活に関する制度や行政サービスについて調べ、自分の生活との関連を考え、表現する。	④ 社会に関する基本的な制度について調べ、それらの意味を考え、表現すること。  ・国や地方公共団体が定めた制度や行政サービスを活用することで人々の生活が快適かつ円滑に営まれることに気づき、その意味や必要性を考え、表現する。	④ 国や地方公共団体の政治の取組について調べ、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。  ・国や地方公共団体の政治の取組について調べ、その働きと自分の生活との関連を考え、表現する。	④ 生活に関係の深い制度について調べ、その活用を考え、表現すること。  ・生活に関係の深い制度について調べ、それらを活用することで自分の生活が快適になったり、社会全体が円滑に営まれたりすることに気づき、自分の生活との関連について考え、表現する。 *国民年金や厚生年金、障害年金の仕組みや手続き
		※小学部生活科の「コ社会のしくみと公共施設」を発展させたもの。		※中学部社会科の「イ公共施設と制度」に関連するもの。	
地域の安全／我が国の国土の自然環境と国民生活	地域の安全／我が国の国土の自然環境と国民生活	ウ 地域の安全  (ア) 地域の安全に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 地域の安全  (ア) 地域の安全に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 我が国の国土の自然環境と国民生活 (ア) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 我が国の国土の自然環境と国民生活 (ア) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		⑦ 地域の安全を守るため、関係機関が地域の人々と協力していることが分かること。  ・自分の住んでいる市区町村の安全を守るために、消防署や警察署等の関係機関が、地域の人々と協力していることについて理解する。 *火災予防(施設・設備や点検、訓練、広報活動等) *事故や事件の防止(交通安全運動、防犯活動、地域巡回、「子ども110番」の設置等)	⑦ 地域の関係機関や人々は、過去に発生した地域の自然災害や事故に対し、様々な協力して対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。  ・自分の住んでいる市や県の土地や気候の特徴等の実態と、過去に起きた災害を考慮し、関係機関や地域の人々が協力して災害や事故を未然に防ぐ努力や備えをしていることを調べ、理解する。 *地震災害への備え *津波災害への備え *風水害への備え *火山災害への備え *雪害への備え	⑦ 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害が国土と国民生活に影響を及ぼすことを理解すること。  ・国土の自然災害の状況について理解する。 *我が国では、国土の地形や気候などの関係から地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害等様々な自然災害が起こりやすいこと(自然条件等との関連) *自然災害はこれまで度々発生しこれからも発生する可能性があること(国土と国民生活への影響)	⑦ 自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。  ・国や県の自然災害の種類や国土の地形や気候に応じた対策や事業について理解する。 *砂防ダムや堤防、防潮堤の建設 *津波避難場所の整備 *ハザードマップの作成
		・地域を守る身近な活動が自分や地域の安全につながっていることに気づき、安全に生活していこうとする意欲をもつ。 *地域パトロール *道案内 *住民の様々な相談	※「オ我が国の地理や歴史」との関連を図り、地形や地理環境等地域の実態と災害との関係を取り上げる工夫も考えられる。	⑧ 関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに、公害が国土の環境や国民の生活に影響を及ぼすことを理解すること。  ・我が国の公害防止の取組と国民生活の関連について理解する。 *産業の発展、生活様式の変化や都市化の進展により公害が発生して国民の健康や生活環境が脅かされてきたこと *関係機関をはじめ多くの人々の努力や協力により公害防止や生活環境の改善が図られてきたこと	

社会

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
地域の安全／我が国の国土の自然環境と国民生活	地域の安全／我が国の国土の自然環境と国民生活	<p>㊦ 地域における災害や事故に対する施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、そこに携わる人々の働きを考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の住んでいる市区町村の緊急時の備えについて調べる。</li> <li>*防災センターや備蓄倉庫、防災無線等災害に対する施設</li> <li>*設備の整備・救急車や消火栓等事故に対する施設</li> <li>*設備の設置・地域防災訓練の実施</li> </ul>	<p>㊦ 過去に発生した地域の自然災害や事故、関係機関の協力などに着目して、危険から人々を守る活動と働きを考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の災害や事故、関係機関の協力（県庁や市役所、警察署や消防署、自衛隊、気象庁等の機関が連携を図って、防災情報の発信や避難態勢の確保等を行っていること）、自然災害への備え等について調べ、人々の生活との関わりや災害から人々を守る活動を考え、表現する。</li> </ul>	<p>㊧ 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国土の自然災害について、災害の種類や発生の位置や時期、防災対策等を、地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、自然災害の状況と国土の自然条件を関連付けて考え、表現する。</li> </ul>	<p>㊦ 国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の種類や発生の位置や時期、防災対策等を、地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の環境保全について、自分たちにできること等を考え、表現する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の住んでいる市区町村の緊急事態への対応について調べる。</li> <li>*消防署や警察署等の関係機関が、緊急指令室等を中心にネットワークを活用して相互に連携すること</li> <li>*状況に応じて迅速かつ確実に事態に対処していること</li> <li>*近隣の消防署や警察署、市役所や病院、放送局、水・電気・ガスを供給している機関等が協力していること</li> <li>*消防団等の地域の人々が組織する諸団体が緊急事態に対処していること</li> <li>・「自分の住んでいる市区町村の緊急時の備えや緊急事態への対応について調べたことを、図や表にまとめたり、地図を用いてハザードマップとしてまとめたりする。</li> <li>・家庭や地域との連携を図り、自分が地域の一員であるという自覚をもつ。</li> <li>*防災リュックや非常食の用意、避難経路や避難場所の確認等家庭との連携</li> <li>*地域防災訓練への参加等、地域との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害情報の獲得方法や、警察、消防への通報の仕方等を知り、自分と関係機関との関わり方を考える。</li> </ul>	<p>㊨ 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、公害防止の取組を捉え、その働きを考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公害の防止と生活環境について、公害の発生時期や経過、人々の協力や努力等を、地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、公害防止の取組と国土の環境や国民の健康な生活を関連付けて考え、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一度破壊された環境を取り戻すためには、長い時間と多くの人の努力や協力が必要であることに気付き、国土の環境保全への関心をもつ。</li> </ul>
			<p>※「イ公共施設と制度」や他教科と関連を図りながら学習を進めていくことも有効である。</p> <p>※実際に自然災害によって被災した地域や被災が想定される地域を取り上げる際には、そこに居住していた人々や、今も居住している人々がいることを念頭に、個人の置かれている状況やプライバシー等に十分留意する必要がある。</p>	<p>※㊦と㊧、㊦と㊨を関連付けて指導する。中学部の内容の「ウ地域の安全」とのねらいの違いに留意する。また、気象条件等、理科における学習内容との関連を図った指導を工夫することも大切。</p>	<p>※㊦と㊦を関連付けて指導する。</p>
		※小学部生活科の「イ安全」と関連。		※中学部社会科の「ウ地域の安全」を発展させた内容。	
		エ 産業と生活 (7) 仕事と生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 産業と生活 (7) 県内の特色ある地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 産業と生活 (7) 我が国の農業や水産業における食料生産に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 産業と生活 (7) 我が国の工業生産に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

社会

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
産業と生活	生産活動と人々の生活	<p>㊦ 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることが分かること。</p> <p>・身近な生産に関する仕事（農業、漁業、林業、工業等）と自分たちの生活との関わりが分かる。</p>	<p>㊦ 地域では、人々が協力し、産業の発展に努めていることを理解すること。</p> <p>・特色ある地域を選択し、地域の人々が互いに協力して、県内の特色あるまちづくりや観光等の産業の発展に努めていることを理解する。 *伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域 *国際交流に取り組んでいる地域 *地域の資源を保護・活用している地域</p>	<p>㊦ 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。</p> <p>・我が国の食料生産（米、野菜、果物等の農産物や畜産物を生産する農業や、魚介類を採ったり養殖したりする水産業）の概要と役割について理解する。 *我が国では様々な食料を生産していること *それぞれの土地や気候を生かして食料の生産地が広がっていること *食料生産は国民の食生活を支えていること *食料の生産量は国民生活と関連して変化していること</p>	<p>㊦ 我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。</p> <p>・我が国の工業生産（我が国における工場での生産活動で、原材料を加工しその形や性質を変えたり、部品を組み立てたりして生活や産業に役立つ製品を作り出している工業）の概要と役割について理解する。 *自分たちの身の回りには様々な工業製品があること *我が国では様々な種類の工業生産が行われていること *工業製品の改良と国民生活の向上とは深い関わりがあること *工業製品は国民生活はもとより、農業や水産業、工業等の中で使われていること</p>
		<p>㊦ 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。</p> <p>・農業や水産業の盛んな地域の人々の食料生産に関わる工夫や努力について理解する。 *新鮮で良質な物を生産し出荷するために生産性や品質を高める等様々な工夫や努力を行っていること *生産し輸送、販売する工程で費用が発生するために輸送方法や販売方法を工夫することにより収益を上げていること</p>	<p>㊦ 工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること。</p> <p>・工業生産に関わる人々の工夫や努力について理解する。 *工場で働く人は優れた製品を生産するために様々な工夫や協力をしていること *工業生産には様々な工場が関連していること *我が国の工業生産は優れた技術を生かして消費者の需要や社会の発展に応える研究開発等の努力を行っていること ・自動車産業での工業生産の方法や技術革新等について理解する。 *部品製造と組み立て工場との関係 *産業用ロボットの活用</p>		

社会

内容	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>産業と生活</p> <p>生産活動と人々の生活</p>	<p>㊦ 仕事の種類や工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の生産の仕事の種類や仕事の工程等を調べる。</li> <li>* 農家で営まれる仕事の種類や働く人の様子</li> <li>* 苗作りや田植えから、収穫、脱穀までの米作りの過程</li> <li>・生産の仕事の様子と地域の人々の生活との関わりについて、仕事を実際に見学し、働く人の様子を観察したり、聞き取ったり、仕事の一部を体験したりし、地図等の資料で調べたりして、考え、表現する。</li> <li>* 地形や気候等の自然条件との関わり</li> <li>* 働く人の様子・機械や道具等の工夫</li> <li>* 食の安全の確保のための努力</li> </ul>	<p>㊧ 人々の活動や産業の歴史的背景などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名産品や特産物、産業に関わる人々のはたらきについて、地域の名産品や特産物の特徴や原材料、工程、製造過程で用いられる道具等を観察するとともに、実際に製造する場面を見学したり、聞き取り調査をしたりして、生産物が起こった歴史的背景や、自然環境について考え、表現する。</li> <li>・複数の地域の名産品、生産物等を比較してその違いに気付く。</li> </ul>	<p>㊨ 生産物の種類や分布、生産量の変化などに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食料生産の概要について、生産物の種類や分布、生産量の変化を調べたり、食料生産と国民生活を関連付けて考えたりして、表現する。</li> <li>㊩ 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。</li> <li>・食料生産に関わる人々の工夫や努力について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用等を調べたり、その土地の自然条件や需要を関連付けて考えたりして、表現する。</li> <li>・スーパーマーケットに並ぶ商品やファミリーレストランで提供される食事を取り上げ、店頭で並ぶまでの過程や、商品の価格には何が含まれているのかについて、見学や聞き取り、インターネットを活用して考え、生産から販売にかかわる人々の工夫や努力をとらえる。</li> </ul>	<p>㊪ 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業生産の概要について、工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良等を調べたり、工業製品と国民生活を関連付けて考えたりして、表現する。</li> <li>㊫ 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。</li> <li>・工業生産に関わる人々の工夫や努力について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術等を調べたり、工業生産と国民生活を関連付けて考えたりして、表現する。</li> </ul>

社会

内容	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>産業と生活</p> <p>身近な産業と生活／我が国の産業と情報</p>	<p>(イ) 身近な産業と生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 販売の仕事は、消費者のことを考え、工夫して行われていることが分かること。</p> <p>・販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえて工夫していることが分かる。</p>	<p>(イ) 生活を支える事業に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 水道、電気及びガスなどの生活を支える事業は、安全で安定的に供給や処理できるよう実施されていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。</p> <p>・日常生活を送る上で欠かせない飲料水、電気、ガスを供給する事業や、ごみや下水等の産業廃棄物に関わる事業は、安全で安定的に供給や処理できるように実施されていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解する。</p>	<p>—</p>	<p>(イ) 我が国の産業と情報との関わりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 大量の情報や情報通信技術の活用は様々な産業を進展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。</p> <p>・情報や情報通信技術を活用する産業の役割について理解する。</p> <p>*多様で大量の情報を情報通信技術で瞬時に収集・発信し、それらを活用することで産業が変化し発展していること（放送、新聞等の産業が多様な情報を収集・選択・加工していること、販売、運輸、観光、医療、福祉等に関わる産業が、販売情報や交通情報等の大量の情報やインターネットなどで情報を瞬時に伝える情報通信技術等を活用していること）</p> <p>*国民がコンピューターや携帯電話等の情報通信機器を利用することにより、いつでも、どこでも様々なサービスを受け、生活が向上していること</p>
	<p>㉟ 消費者の願いや他地域との関わりなどに着目して、販売の仕事に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。</p> <p>・販売に従事している人が、消費者の多様な願いを踏まえ、売上げを高めるよう工夫していることや、外国を含めた商品の産地や仕入先等について、近隣の小売店やスーパーマーケット等を見学したりして調べる。地域の販売に携わっている人々の仕事の工夫について、販売する側の工夫と消費者の願いを関連付けたり、他地域との結び付きを考えたりして、表現する。</p>	<p>㉟ 供給や処理の仕組みや関係機関の協力などに着目して、水道、電気及びガスなどの生活を支える事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現すること。</p> <p>・安全で安定的な供給や処理のための工夫、人々の協力等が生活環境の維持と向上に役立っていることや、自分の生活と深く関わっていることについて考え、表現する。</p> <p>・学校や家庭での水道や電気の節約やごみの分別等の資源を大切にするという意欲をもつ。</p> <p>・日々の生活で出されるごみについて、家庭や学校での分別、集積、収集、処理やリサイクルといった流れを追いながら、そこで働く人々の仕事や環境に配慮した処理のしかた等に注目し、自分の生活における廃棄物処理事業の必要性と課題を話し合う。</p>	<p>—</p>	<p>㉟ 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。</p> <p>・産業における情報活用の現状について、情報の種類、情報の活用の仕方等を調べたり、情報を活用した産業の変化や発展と国民生活を関連付けて考えたりして、表現する。</p> <p>・情報や情報通信技術の活用と自分の生活との関わりについて考える。</p> <p>*インターネットを活用した商品の購入と生活の変化</p> <p>*ICカードでの交通機関の利用と生活の変化</p>

社会

内容	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
	※販売の仕事と自分たちの生活との関わりについて調べる際には、個人のプライバシーに十分配慮する必要がある。	※「イ公共施設と制度」や他教科と関連を図りながら学習を進めていくことも有効である。		
	※小学部生活科の「キ手伝い・仕事」を発展させたもの。		※中学部社会科の「工業と生活」に関連するもの。	
我が国の地理や歴史／我が国の国土の様子と国民生活、歴史	オ 我が国の地理や歴史  (7) 身近な地域や市区町村（以下第2章第2節第2款において「市」という。）の様子に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	オ 我が国の地理や歴史  (7) 身近な地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	オ 我が国の国土の様子と国民生活、歴史  (7) 我が国の国土の様子と国民生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	オ 我が国の国土の様子と国民生活、歴史  (7) 我が国の国土の様子と国民生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	⑦ 身近な地域や自分たちの市の様子が分かること。  ・自分の住んでいる市区町村の様子が分かる。 *学校の回りの道路の広さ *道路沿いの建物の様子 *県における市の位置 *土地の高低や海岸沿い等の地形 *住宅、商店街、田畑、森林、港などの様子 *学校、公園、図書館等多くの市民が利用している公共施設の場所 *古くから残る建造物の分布	⑦ 自分たちの県の概要を理解すること。  ・自分の住んでいる都道府県の概要を理解する。 *我が国における自分たちの県の位置 *県全体の地形や主な産業の分布 *交通網や主な都市の位置 *県内の特色ある地域の人々の生活や産業	⑦ 我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること。  ・我が国の国土の自然環境について理解する。 *我が国の地形は全体としてみると山がちで平野が少ないこと *我が国の気候には四季の変化が見られること *国土の南と北、太平洋側と日本海側では気候が異なること  ・我が国の国土の様子と国民生活について理解する。 *我が国には地形や気候等の自然条件から見て特色ある地域があること *人々は自然条件の中で工夫しながら生活していること *人々は自然条件を生かして野菜や果物、花卉の栽培、酪農、観光などの産業を営んでいること	⑦ 世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解すること。  ・我が国の国土の概要や特色について理解する。 *世界の大陸 *主な海洋の位置や広がり *主な国の位置、主な国と我が国との位置関係、我が国の国土を構成するおもな島の名称と位置 *我が国の北端、南端、東端、西端の島等を含む我が国の領土の範囲
	④ 都道府県（以下第2章第2節第2款第1〔社会〕(2)内容において「県」という。）内における市の位置や市の地形、土地利用などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。  ・自分の住んでいる市区町村の様子について、予想を立てたり、実際に観察や調査をして具体的に確かめたり、視覚的に分かりやすい資料を基に比較したりして調べ、場所による特徴的な違いを考え、表現する。	④ 我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。  ・自分の住んでいる都道府県の概要について、県の位置や地形、産業の分布、交通網等を調べ、県の地理的環境の特色を考え、表現する。	④ 地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。  ・国土の自然等の様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について、地形や気候の特色、地形条件や気候条件の生かし方等を調べたり、国土の位置と地形や気候を関連付けて国土の特色や国土の自然環境と国民生活の関連を考えたりして、表現する。	④ 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現すること。  ・我が国の国土の様子について、我が国の位置、多数の島からなる国土の構成、領土の範囲等を調べたり、我が国の国土の特色を考えたりして、表現する。

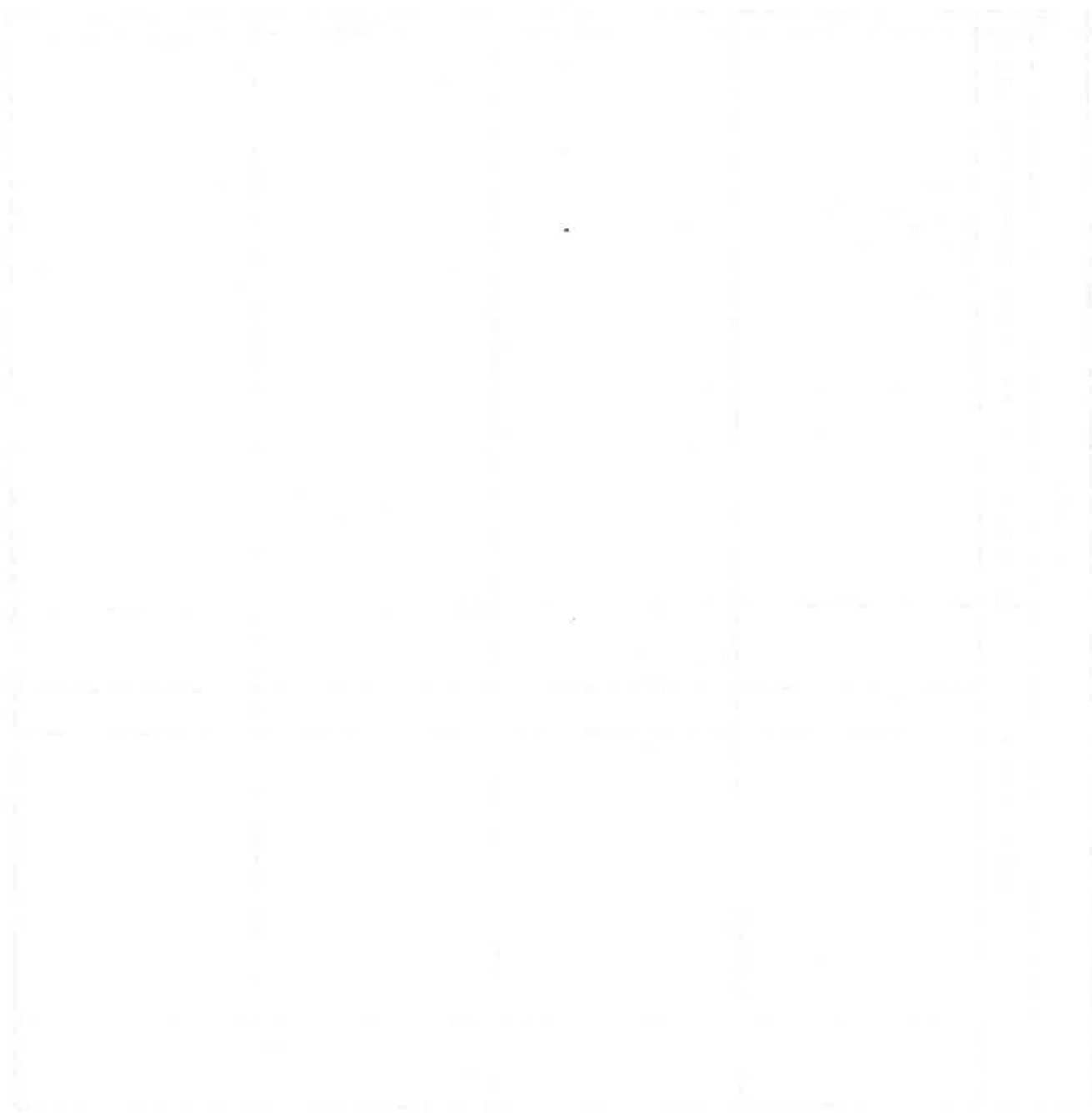


社会

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
我が国の地理や歴史／我が国の国土の様子と国民生活、歴史	身近な地域の移り変わり／我が国の歴史	(イ) 身近な地域の移り変わりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(イ) 県内の伝統や文化、先人の働きや出来事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(イ) 我が国の歴史上の主な事象に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(イ) 我が国の歴史上の主な事象に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		⑦ 身近な地域や自分たちの市の様子、人々の生活は、時間とともに移り変わってきたことを知る。  ・自分の住んでいる市区町村の様子が、時期によって異なり、徐々に変化してきたことを知る。 * 駅や鉄道線路、バス等の交通網の整備 * 公共施設等の建設 * 畑の広がり * 住宅や商店、工場の分布 * 人口の変化 * 生活で使う道具等の改良	⑦ 県内の主な歴史を手掛かりに、先人の働きや出来事、文化遺産などを知る。  ・我が国や県の歴史の進展に大きな影響を与えた各時代の代表的な歴史的事象における先人の働きや出来事（我が国や県の開発・教育・医療・文化・産業等の発展に尽くした先人の働きや特徴的な出来事）、文化遺産等と自分たちの生活との関わりを知る。	⑦ 我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、関連する先人の業績、優れた文化遺産などを理解すること。  ・我が国が歩んできた歴史の中で、その時期の世の中の様子を形づくったり、国家や社会の変化に大きな影響を及ぼしたりした先人の働きと各時代の人々によって生み出され、今日まで保存・保護されてきた文化遺産の大切さを理解する。	⑦ 我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、世の中の様子の変化を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。  ・他の時代や現代とを比較し、どのように人々の生活等が変化しているかを理解するとともに、我が国が歩んできた歴史の中で、その時期の世の中の様子を形づくったり、国家や社会の変化に大きな影響を及ぼしたりした先人の働きと各時代の人々によって生み出され、今日まで保存・保護されてきた文化遺産の大切さを理解する。
		※小学部生活科「社会の仕組みと公共施設」の地理的な内容や様子に関連するもの。			
外国の様子	世界中の日本と国際交流／グローバル化する世界と日本の役割	カ 外国の様子 (ア) 世界の中の日本と国際交流に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	カ 外国の様子 (ア) 世界の中の日本と国際交流に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	カ 外国の様子 (ア) グローバル化する世界と日本の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	カ 外国の様子 (ア) グローバル化する世界と日本の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		⑦ 文化や風習の特徴や違いを知ること。  ・日本と他の国の文化や習慣の違いを知る。 * 衣服 * 料理 * 食事の習慣 * 住居 * 国民に親しまれている行事 * 学校生活や子供の遊び * あいさつの仕方やマナー	⑦ 文化や風習の特徴や違いを理解すること。  ・日本と他の国の文化や習慣の大きな違いについて理解する。 * 自然 * 産業 * 歴史的背景及び最近の文化やスポーツ等の出来事	⑦ 異なる文化や習慣を尊重し合うことの大切さを理解すること。  ・異なる文化や習慣を尊重し合うことの大切さを理解する。 * 外国の文化や習慣を背景とし人々の生活の様子には違いがあること * その違いがその国の文化や習慣を特徴付けていること	⑦ 我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解すること。  ・グローバル化する国際社会における我が国の役割について理解する。 * 平和な国際社会の実現のための大きな役割を果たしている国際連合の一員としてユニセフやユネスコの活動に協力していること等、平和な国際社会の実現のために大きな役割を果たしていること * 我が国が教育や医学、農業等の分野で諸外国の発展に貢献していること * 今後も国際社会の平和と発展のために果たさなければならない責任と義務があること
		※中学部社会科の「我が国の地理や歴史」に関連するもの			

社会

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
外国の様子	世界の日本の国際交流／グローバル化する世界と日本の役割	④ そこに暮らす人々の生活などに着目して、日本との違いを考え、表現すること。  ・日本と他の国の間の違いについて、給食に使われている食材や献立、年中行事の際の過ごし方、学校の授業の様子等を、日本の学校生活と比べて、相違点や類似点に気付く。  ・地図や地球儀、写真や動画等の視覚的に分かりやすい資料を活用したり、地域の外国人や留学生から聞き取り調査をしたり、実際に外国の伝統的な衣服を着たり、その国の言葉であいさつをしたりする活動を通して、日本との違いを考え、表現する。	④ 人々の生活や習慣などに着目して、多様な文化について考え、表現すること。  ・日本とは生活や習慣が違う国について、生活や習慣が日本とは異なる理由を考え、表現する。 *自然や気候、歴史的背景が国によって異なること *人々の生活や活動は地域の自然や気候、歴史的背景によっても規定されたり方向付けられたりすること ・砂漠の多い地域の自然の特色と、衣服、料理、食事の習慣、住居等を調べ、日本の生活や習慣との相違点や類似点を考え、世界には多様な文化があることを理解する。	④ 外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いについて考え、表現すること。  ・外国の人々の生活や文化は、日本と比べてどのような違いがあるのかについて調べたり、互いの国の文化や習慣を理解し合うためにはどうすればよいかを考えたりして、表現する。  ・衣服等を題材に取り上げ、気候の暑い国と寒い国とを比べて、その相違点を見付けたり、なぜ違うのかを調べたり、外国の方々と交流活動をしたりして、文化や習慣は、その国の地理的環境、気候、産業等の特色に応じていることを理解したり、関心を深めようとしたりすることができる。	④ 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現すること。  ・地球規模で発生している課題の解決策と我が国の国際協力の様子を関連付けて、我が国が国際社会において果たしている役割を考え、表現する。
	世界の様々な地域	—	(イ) 世界の様々な地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	—
		—	④ 人々の生活の様子を大まかに理解すること。	—	—
		④ 世界の出来事などに着目して、それらの国の人々の生活の様子を捉え、交流することの大切さを考え、表現すること。  ・ノーベル賞や国際的なスポーツ大会のような文化・スポーツに関することや政治や経済等の出来事について、何か国か選んで調べると、各国の人々がそれぞれの文化や伝統を大切にしながら生活していることを理解する。			
				※中学部2段階で、日本と他の国との大まかな違いについて学習してきたこととの連続性をもって、日本と他の国との文化や習慣の違いについて理解し、尊重し合うことができるように指導する。	



# 5 算数・数学

## ○内容の構造

- ・算数・数学の内容は下表のように段階ごとに6種類の領域で示されています。

小1段階	小2段階	小3段階	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
数量の基礎						
数と計算						
図形						
測定				変化と関係		
	データの活用					

- ・内容は各領域下の内容項目ア、イ、ウ…のそれぞれにおいて、(ア)知識及び技能、(イ)思考力・判断力・表現力等という順番に示されています。

## ○表の見方

- ・見開きの左ページに小1～3段階、右ページに中1段階～高2段階について示すようにしていますが、編集の関係上、一部は左右ともに中1段階～高2段階を示しているページがあります。(p73～p84, p91～p92, p97～p100)なお、「数量の基礎」については小1段階のみ単独の領域のため、1～2ページ目に見開きで示しています。
- ・表に示す内容については、学習指導要領に示されている各領域の内容項目ア、イ、ウ…およびその下位項目㉠、㉡、㉢…の階層までを網掛けで表示しています。そして、その㉠、㉡、㉢…の内容項目を具体化・細分化した下位項目(内容例)を「・」で示しています。その根拠は、学習指導要領解説の説明部分をもとにしていますが、特に小1段階の内容(知識及び技能)については下記の文献等を参考にして可能な範囲で少し詳しく示すようにしました。発達が未分化な重度重複障害の児童生徒の指導内容を考える際に役に立ててほしいと思っています。
- ・金銭については、数と計算に関わる内容の取扱いに示されていますが、今回は参考に示しています。生活科における「金銭の扱い」の指導内容と関連を図りながら指導を進めることが肝要と考えられます。

## 【参考文献】

- ・さんすう☆ さんすう☆☆ さんすう☆☆☆教科書解説(文科省, 教育出版)
- ・数学☆☆☆☆教科書解説(文科省, 佐伯印刷)
- ・重度・重複障害児における共同注意関連行動と目標設定及び学習評価のための学習到達度チェックリストの開発(徳永豊, 国立特別支援教育総合研究所, 平成18年3月)
- ・障害の重い子供のコミュニケーション指導 学習習得状況把握表の活用(小池敏英編著, ジアース教育新社) る力を育てる基礎学習(宮城武久, 学研)

算数・数学	
小学部	
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識及び技能	(1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付き理解するとともに、日常の事象を数量や図形に注目して処理する技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	(2) 日常の事象の中から数量や図形を直感的に捉える力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などに気付き感じ取る力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。
学びに向かう力、人間性等	(3) 数学的活動の楽しさに気付き、関心や興味をもち、学習したことを結び付けてよりよく問題を解決しようとする態度、算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度を養う。

※数量の基礎については、小1段階のみの設定となっています。

段階の目標		小1段階
数量の基礎	知識及び技能	ア 身の回りのものに気付き、対応させたり、組み合わせたりすることなどについての技能を身に付けるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	イ 身の回りにあるもの同士を対応させたり、組み合わせたりするなど、数量に関心をもって関わる力を養う。
	学びに向かう力、人間性等	ウ 数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。
内容		小1段階
数量の基礎	知識及び技能	ア 具体物に関わる数学的活動
		㊦ 具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・明るさや光、色の変化に気付く。</li> <li>・具体物に気付く。</li> <li>・対象物を注視する。</li> <li>・対象物を指さしたり、つかもうとしたりする。</li> <li>・動く人に気付き追視する。</li> <li>・対象物の動きを追視する。</li> <li>・いろいろなものの中から使いたいものを見つけて手を伸ばすことができる。</li> </ul>
	㊧ 目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・目の前で隠されたものを探す。</li> <li>・二つのコップからものを隠した方を探す。</li> <li>・使いたいおもちゃや楽器を提示されて見たり手を伸ばしたりする。</li> <li>・使いたいおもちゃや楽器の名前を聞いてそちらを見たり手を伸ばしたりする。</li> <li>・遊びたい相手を尋ねられて、そちらを見たり指を指したりする。</li> <li>・遊びたい相手の名前を聞いて、そちらを見たり指差したりする。</li> <li>・身近なものや人の名前を聞いて、そちらを見たり指差したりする。</li> </ul>	
思考力・判断力・表現力等	㊦ 対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚を協応させながら捉えること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象物を興味・関心をもって見たり、見続けたり、目と手などの感覚を協応させたりする。</li> </ul>	

算数・数学

	中学部	高等部
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。	(1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	(2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	(2) 日常的な事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
学びに向かう力、人間性等	(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題を解決しようとする態度、数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学を生活や学習に活用しようとする態度を養う。

内容	小1段階
数 量 の 基 礎	イ ものとももの対を対応させる
	㉞ ものとももの対を対応させて配ること。 ・お皿の上に同じ形のお皿を重ねる。 ・一人に1枚ずつお皿を1枚ずつ置いていく。 ・お皿の上に果物などを一つずつ置いていく。
	㉟ 分割した絵カードを組み合わせること。 ・食べ物や乗り物、動物などの2分割の絵カードを組み合わせる。 ・3分割、4分割の絵カードを組み合わせる。
	㊱ 関連の深い絵カードを組み合わせること。 ・似ているもの同士のカードを組み合わせる。 ・果物を集める、動物を集めるなど関連の深いカードを組み合わせる。
	㊲ ものとももの対を関連付けることに注意を向け、ものの属性に注目し、仲間であることを判断したり、表現したりすること。 ・必要な情報に注目し、仲間であることを判断したり、表現したりして、ものとももの対を関連付ける。

算数・数学

段階の目標		小1段階	小2段階	小3段階
数と計算	知識及び技能	ア ものの有無や3までの数的要素に気付き、身の回りのものの数に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。	ア 10までの数の概念や表し方について分かり、数についての感覚をもつとともに、ものと数との関係に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。	ア 100までの数の概念や表し方について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法の意味について理解し、これらの簡単な計算ができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	イ 身の回りのものの有無や数的要素に注目し、数を直感的に捉えたり、数を用いて表現したりする力を養う。	イ 日常生活の事象について、もの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方を考え、表現する力を養う。	イ 日常の事象について、もの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方や計算の仕方を考え、表現する力を養う。
	学びに向かう人間性等	ウ 数量に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	ウ 数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。
内容		小1段階	小2段階	小3段階
数と計算	知識及び技能	ア 数えることの基礎	ア 10までの数の数え方や表し方、構成	ア 100までの整数の表し方
		㉞ ものの有無に気付くこと。	㉞ ものともを対応させることによって、もの個数を比べ、同等・多少が分かること。	㉞ 20までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の大小を比べたりすること。
		・目の前に物を提示したり、覆い隠したりして、ものが「ある」、「ない」ことに気付く。 ・目の前の皿の中のものを減らしていき、最後に無くなったことに気付く。	・1から5までの数で一对一の対応により、数の同等が分かる。 ・1から5までの数で一对一の対応により、数の多少が分かる。	・20までの数の数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したりする。 ・20までの数について、「個、人、本、冊、枚」など、助数詞を用いて表現する。
		㉟ 目の前のものを、1個、2個、たくさんで表すこと。	・1から10までの数で一对一の対応により、数の同等が分かる。 ・1から10までの数で一对一の対応により、数の多少が分かる。	・20までの数について、数の大小を比べる。
		・1、2の個数で、指差しやものの操作をしながら、数詞（1、2）ともを対応させて個数を正しく数える。 ・3個以上のものを見て「たくさん」で個数を表す。	・1から10までの数で一对一の対応により、数の多少が分かる。	㉟ 100までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解したりすること。
		㉟ 5までの範囲で数唱をすること。	・1から5までの数で、指差しや物の操作をしながら、数詞（1～5）ともを対応させて個数を正しく数える。 ・1から10までの数で、指差しや物の操作をしながら、数詞（1～10）ともを対応させて個数を正しく数える。	・30までの数について、数詞を唱えたり、数を数えたり、数えた数を数字で書き表したりする。
		・1から3までの範囲で数を唱える。		・60までの数について、数詞を唱えたり、数を数えたり、数えた数を数字で書き表したりする。 ・100までの数について、数詞を唱えたり、数を数えたり、数えた数を数字で書き表したりする。

算数・数学

段階の目標		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
数と計算	知識及び技能	ア 3位数程度の整数の概念について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法及び乗法の意味や性質について理解し、これらを計算する身に付けるようにする。	ア 整数の概念や性質について理解を深め、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法、乗法及び除法の意味や性質について理解し、それらの計算ができるようにする。また、小数及び分数の意味の表し方について知り、数量とその関係を表したり読み取ったりすることができるようにする。	ア 整数、小数、分数及び概数の意味と表し方や四則の関係について理解するとともに、整数、小数、及び分数の計算についての意味や性質について理解し、それらを計算する技能を身に付けるようにする。	ア 整数の性質、分数の意味、文字を用いた式について理解するとともに、分数の計算についての意味や法則について理解し、それらを計算する技能を身に付けるようにする。
	思考力・判断力・表現力等	イ 数とその表現や数の関係に着目し、具体物や図などを用いて、数の表し方や計算の仕方などを筋道立てて考えたり、関連付けて考えたりする力を養う。	イ 日常生活の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方を考え、表現する力を養う。	イ 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、数の比べ方や表し方を統合的に捉えて考察したり、数とその表現や数量の関係に着目し、目的に合った表現方法を用いて計算の仕方を考察したりするとともに、数量の関係を簡潔に、また一般的に表現する力を養う。	イ 数とその表現や計算の意味に着目し、発展的に考察して問題を見いだしたり、目的に応じて多様な表現方法を用いながら、数の表し方や計算の仕方などを考察したりするとともに、数量の関係を簡潔かつ一般的に表現する力を養う。
	学びに向かう力、人間性等	ウ 数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことよき気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ 数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよきを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよき気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ 数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよきを実感し、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
数と計算	知識及び技能	ア 整数の表し方	ア 整数の表し方	ア 整数の表し方	ア 整数の性質及び整数の構成
		⑦ 1000までの数をいくつかの同じまとまりに分割したうえで数えたり、分類して数えたりすること。	⑦ 4位数までの十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について、理解すること。	⑦ 万の単位を知ること。	⑦ 整数は、観点を決めると偶数と奇数に類別されることを理解すること。
		・色や形、位置、種類などに着目しながら分類して数える。	・4位数までの数を、十進位取り記数法(0から9の10個の数字を使って数を表す方法)で表すことを理解する。	・十進位取り記数法による表現を基に、単位を万で表すことができる。	・整数は1, 3, 5, の集合と0, 2, 4, 6, …の集合に分けられることが分かる。
		⑧ 3位数の表し方について理解すること。	・4位数までの数の大小が分かる。	⑧ 10倍, 100倍, 1000倍, 1/10の大きさの数及びその表し方の理解を深めること。	・奇数が「2で割って1余る数」, 「2をかけて作った数+1」であることが分かる。
		・100のまとまりの個数を数え、表す。	・4位数までの数の並びが分かる。	・ある数を10倍, 100倍, 1000倍, 1/10倍した数をつくと、その数字の並びは変わらないことが分かる。	・偶数が「2で割ると商が整数となり、割り切れる数」, 「2に整数をかけた数」であることが分かる。
・100のまとまりと10のまとまりの個数を数え、表す。	⑨ 10倍, 100倍, 1/10の大きさの数及びその表し方について知ること。	・ある数を10倍, 100倍, 1000倍, 1/10した数の大きさや表し方を理解する。	・全ての整数は偶数の集合と奇数の集合に分けられることが分かる。		
・100のまとまりと10のまとまりの個数と端数を数え、表す。	・一つの数を10倍, 100倍, 1/10した大きさをつくと、その数字の並びは変わらないことが分かる。	・500や700は百を単位とすると5や7とみられることや、500+700は5+7とみられることなど、数の相対的な見方を活用して、数を捉えたり、数の大きさを比較したり、計算の仕方を考えたりする。	⑩ 約数, 倍数について理解すること		



算数・数学

	小1段階	小2段階	小3段階
数と計算 知識及び技能	・ 1から5までの範囲で数を唱える。	㊲ ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。	㊲ 数える対象を2ずつや5ずつのまとまりで数えること。
	㊳ 3までの範囲で具体物を取ること。	・ 1から5までの数で、数えた最後の数詞(1~5)を集合数として表す。	・ 事物を数えるとき、2ずつ数えるよさに気付く。
	・ 3までの範囲で、問われた数の具体物を取る。	・ 1から10までの数で、数えた最後の数詞(1~10)を集合数として表す。	・ 事物を数えるとき、5ずつ数えるよさに気付く。(時刻の読み方など)
	㊴ 対応させてものを配ること。	㊳ 個数を正しく数えたり書き表したりすること。	㊳ 数を10のまとまりとして数えたり、10のまとまりと端数に分けて数えたり書き表したりすること。
	・ 3までの範囲で、具体物に対応させて配る。	・ 1から5までの数で、雑然としたものを整理して数える。	・ 10をひとまとまりとして数えるよさに気付く。(金銭の理解など)
	㊵ 形や色、位置が変わっても、数は変わらないことについて気付くこと。	・ 1から10までの数で、雑然としたものを整理して数える。	・ 10のまとまりと端数に分けて数えたり、書き表したりする。
	・ 1から3までの範囲で、数える対象(りんご、積み木など)が変わっても、数が変わらないことが分かる。	・ 1から5までの数で、いろいろなものの中から仲間集めをし、ものの個数を正しく数えたり、書き表したりする。	㊴ 具体物を分配したり等分したりすること。
	・ 1から3までの範囲で、数える対象(りんご、積み木など)の置き方が変わっても、数が変わらないことが分かる。	・ 1から10までの数で、いろいろなものの中から仲間集めをし、ものの個数を正しく数えたり、書き表したりする。	・ 配布物やお盆など、身の回りにあるものを用いて、一つずつなくなるまで分けて同じ数になるように分配する。
		㊴ 二つの数を比べて数の大小が分かること。	・ 食べ物など、一つのを等分する。
		・ 1から5までの数を比べて、大小が分かる。	・ 身近なものの数などを2等分や4等分する。
		・ 1から10までの数を比べて、大小が分かる。	・ 具体物を2個ずつ、4個ずつなどに分配する。
		㊵ 数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いること。 ・ 1から5までの数を用いて、順番や位置が分かる。 ・ 1から10までの数を用いて、順番や位置が分かる。	
		㊶ 0の意味について分かること。 ・ ゲームで得点がない場合や手元に物がなくなるなどの体験を通して、何も「ない」状態を「0」で表すことが分かる。	
		㊷ 一つの数を二つの数に分けたり、二つの数を一つの数にまとめたりして表すこと。 ・ 3を1と2に分けたり、1と2を3にまとめたりするなどの合成・分解が分かる。 ・ 具体物を操作して、5までの数の合成・分解が分かる。 ・ 具体物を操作して、10までの数の合成・分解が分かる。	
		㊸ 具体的な事物を加えたり、減らしたりしながら、集合数を一つの数と他の数と関係付けてみること。 ・ 具体物を操作して、5は3より2大きいなど、集合数を一つの数と他の数と関係付けて表現する。	

算数・数学

		中 1 段階	中 2 段階	高 1 段階	高 2 段階
数と計算	知識及び技能	㉓ 数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。	・ある数を10倍、100倍、1/10した数の大きさや表し方を理解する。	・1万の大きさは、1000が10個集まった大きさ、9999より1大きい数、5000と5000を合わせた数、100の100倍であるなど、多面的な見方を通して大きさを捉える。	・ある数の倍数は「ある数×□」で表される整数の集合であることが分かり、倍数を見つける。
		・十、百の単位を理解する。	㉔ 数を千を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解を深めること。	・1万より大きい数については、万を単位として十万、百万、千万と表す。	・二つの数の倍数の集合の中には公倍数があることに気づき、見つける。
		・百を単位とした数を百の単位で数える。(800円は百円硬貨が8枚集まった数)	・千の単位を理解する。	㉕ 億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についての理解を深めること。	・ある数を割り切ることができる数の集合が約数であることが分かる。
		・百を単位とした数を十の単位で数える。(800円は十円硬貨が80枚集まった数)	・千を単位とした数を千の単位で数える。(千のまとまりが何個あるか)	・十進位取り記数法による表現を基に、単位を億で表す。	・ある数の約数の集合ともう一方の数の約数の集合の中から共通の数が公約数になることが分かり、公約数を求める。
		㉖ 3位数の数系列、順序、大小について、数直線上の目盛りを読んで理解したり、数を表したりすること。	・千を単位とした数を百の単位で数える。(百のまとまりが何十個あるか)	・億を単位として十億、百億、千億と表す。	・公約数の中で最大の数が最大公約数であることが分かる。最大公約数を求める。
		・数直線を用いて数の大小や順序や数系列を理解する。	・千を単位とした数を十の単位で数える。(十のまとまりが何百個あるか)	・十進位取り記数法による表現を基に、単位を兆で表す。	・ある数の倍数の集合ともう一方の数の倍数の集合の中から共通の数が公倍数になることが分かり、公倍数を求める。
		・数の大きさを等号不等号(= < >)を用いて比較する。	・十、百、千を単位とした数の相対的な大きさの見方を活用して、数を捉える。	・兆を単位として十兆、百兆、千兆と表す。	・公倍数の中で最小のものが最小公倍数であることが分かり、最小公倍数を求める。
㉗ 一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。	・十、百、千を単位とした数の相対的な大きさの見方を活用して、数の大きさを等号不等号(= < >)を用いて比較する。	・どのような大きな数でも、用いる数字は0、1、2、3、4、5、6、7、8、9の10個で表すことができ、その考えのよさに気付く。			
・3位数をある数の積として関係付ける。	・十、百、千を単位とした数の相対的な大きさの見方を活用して、計算する。				
思考力・判断力・表現力等	㉘ 数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かすこと。	㉘ 数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かすこと。	㉘ 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えたとともに、それらを日常生活に生かすこと。	㉘ 乗法及び除法に着目し、観点を決めて整数を類別する仕方を考えたり、数の構成について考察したりするとともに、日常生活に生かすこと。	
	・百のまとまりで数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活に生かす。 ・百や十のまとまりで数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活に生かす。	・十進位取り記数法の特徴を活用した数の数え方や比べ方、表し方を日常生活に生かす。	・一、十、百、千という4桁の数のまとまりに着目し、その繰り返しに気づき、さらに大きな数についても同じように考える。 ・10000kgの重さは、体重1000kgの象が10頭分と捉えるなど、日常生活に生かす。	・2に整数をかけたり、2で割ったりするなどして、偶数と奇数の性質について考え、整数を類別する。 ・倍数は乗法を用いて、約数は除法を用いて求めるとよいことが分かり、公倍数や公約数を求める。	
	イ 整数の加法及び減法	イ 整数の加法及び減法	イ 整数及び小数の表し方	イ 分数	
知識及び技能	㉙ 2位数の加法及び減法について理解し、その計算ができること。また、それらの筆算の仕方について知ること。	㉙ 3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができること。また、それらの筆算についての仕方を知ること。	㉙ ある数の10倍、100倍、1000倍、1/10、1/100などの大きさの数を、小数点の位置を移してつくること。	㉙ 整数及び小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりすること。	

算数・数学

	小1段階	小2段階	小3段階
知識及び技能	—	㊸ 10の補数がかかること。 ・ 5までの数で、示した数にあと幾つで5になるかが分かる。(5は4と□など) ・ 10までの数で、示した数にあと幾つで10になるかが分かる。(10は9と□など)	—
	㊸ 数詞ともとの関係に注目し、数のまとまりや数え方に気付き、それらを学習や生活で生かすこと。  ・ 身の回りにある具体物を操作する活動を通して、数詞ともとの関係に注目し、数のまとまりや数え方に気付き、具体物を操作したり、言葉などで表現したりする。	㊸ 数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。  ・ 身の回りにあるものを用いて、数詞と数字ともとの3つの関係を捉え、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、具体物、言葉、数や式で表現する。	㊸ 数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすこと。  ・ 身の回りにあるものを用いて、数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、言葉や式などで表現する。
思考力・判断力・表現力等	—	イ 金銭の価値に親しむこと	イ 整数の加法及び減法
数と計算	—	㊸ 金種を用いること。  ・ 1円, 10円, 100円, 1000円の金種が分かる。  ・ 100円硬貨を使って買い物をする。  ・ 1000円札を使って買い物をする。	㊸ 加法が用いられる合併や増加等の場合について理解すること。  ・ 10までの数で、具体物を操作しながら、増えると幾つになるか、合わせて幾つになるか、を理解する。  ㊸ 加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。  ・ 10までの数で、増える、合わせるを記号「+、=」を用いて式で表したり、式を読み取って具体物や絵図を用いて表したりする。
		㊸ 様々な種類の貨幣の持つ価値を知ること。  ・ 同じものを複数個買うときに、100円硬貨1枚よりも1000円札1枚の方が多く買えることが分かる。	㊸ 1位数と1位数との加法の計算ができること。  ・ 1位数+1位数の計算する。(和が10以下)  ・ 「10とあと幾つ」という見方をし、繰り上がりのある1位数+1位数の計算をする。(加数分解または被加数分解)  ㊸ 1位数と2位数との和が20までの加法の計算ができること。  ・ 1位数と2位数との和が20までの加法の計算をする。  ㊸ 減法が用いられる求残や減少等の場合について理解すること。  ・ 5までの数で、具体物を操作しながら、「残りは幾つ」や「幾つ違う」などを理解する。  ・ 10までの数で、具体物を操作しながら、「残りは幾つ」や「幾つ違う」などを理解する。  ㊸ 減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。  ・ 5までの数で、残り、減る、違い(差)、あと幾つ(不足)を記号「-、=」を用いて式で表したり、式を読み取って具体物や絵図を用いて表したりする。
知識及び技能	—	—	—

算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
数と計算	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物や図などを用いながら、十や百を単位とした位に着目して計算方法を考えたり、筆算に表したりする。</li> <li>・位ごとに計算することを理解する。</li> <li>・繰り上がりのない2位数+2位数の筆算をする。</li> <li>・空位のある2位数+2位数の筆算をする。</li> <li>・繰り上がりのある2位数+1位数の筆算をする。</li> <li>・繰り上がりのある2位数+2位数の筆算をする。</li> <li>・繰り下がりのない2位数-1位数の求残(残りはいくつ)や求差(どちらが多いか)を求める。</li> <li>・繰り下がりのない2位数-2位数の求残や求差(どちらが多いか)を求める。</li> <li>・繰り下がりのある2位数-1位数の求残や求差を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物や図などを用いながら、百や千を単位とした位に着目して計算方法を考えたり、筆算に表したりする。</li> <li>・位ごとに計算することを理解する。</li> <li>・繰り上がりのない3位数+3位数の筆算をする。</li> <li>・空位のある3位数+3位数の筆算をする。</li> <li>・繰り上がりのある3位数+2位数の筆算をする。</li> <li>・繰り上がりのある3位数+3位数の筆算をする。</li> <li>・繰り下がりのない3位数-2位数の求残(残りはいくつ)や求差(どちらが多いか)を求める。</li> <li>・繰り下がりのない3位数-3位数の求残や求差(どちらが多いか)を求める。</li> <li>・繰り下がりのある3位数-1位数の求残や求差を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整数と小数がともに十進位取り記数法によって表されていること理解する。</li> <li>・小数点の位置を移動して、10倍、100倍、1000倍の大きさの数を表す。</li> <li>・小数点の位置を移動して、1/10、1/100の大きさの数を表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0.13は0.01の13個分、すなわち1/100の13個分に当たるので13/100と表すことが分かる。</li> <li>・10、100、1000などを分母に用いて小数を表す。</li> <li>・分子÷分母の計算をして分数を小数に形の表す。</li> <li>・分子÷分母が割り切れない場合など、有限小数で表せないものがあることが分かる。</li> </ul>
		④ 簡単な場合について3位数の加法及び減法の計算の仕方を知ること。	④ 加法及び減法に関して成り立つ性質を理解すること。		④ 整数の除法の結果は、分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解すること。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬貨などを用いて百を単位とした数の見方を考える。</li> <li>・百の位へ繰り上がらない加法の計算の仕方を知る。(例 <math>327+5</math>、<math>327+35</math>)</li> <li>・百の位から繰り下がらない減法の計算の仕方を知る。(例 <math>365-7</math>、<math>365-23</math>、<math>365-27</math>)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被加数と加数を入れ替えても答えは同じであることを理解する。</li> <li>・計算しやすいように被加数と加数を入れ替える。</li> <li>・加法の確かめに減法を用いたり、減法の確かめに加法を用いたりする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>a÷b</math>の商を<math>a/b</math>で表すことができることが分かる。</li> <li>⑦ 一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことを理解すること。</li> <li>・<math>1/2</math>、<math>2/4</math>、<math>3/6</math>…は同じ大きさを表すことが分かる。</li> <li>・分子と分母に同じ数をかけても、分子と分母を同じ数で割っても、元の分数と同じ大きさを表していることが分かる。</li> <li>・分子と分母を最大公約数で割って分母の小さい分数に直す(約分)ことが分かり、約分する。</li> </ul>
		⑦ 加法及び減法に関して成り立つ性質について理解すること。	⑦ 計算機を使って、具体的な生活場面における加法及び減法の計算ができること。		⑤ 分数の相等及び大小について知り、大小を比べること。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・被加数と加数を入れ替えても答えは同じであることを理解する。</li> <li>・計算しやすいように被加数と加数を入れ替える。</li> <li>・加法の確かめに減法を用いたり、減法の確かめに加法を用いたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算機の使い方が分かる。</li> <li>・計算機を使って4位数までの加法の計算をする。</li> <li>・計算機を使って4位数までの減法の計算をする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数の相等や大小は、共通な分母に揃えて(通分)比べるとよいことに気づき、通分して相等や大小を比較する。</li> <li>・通分するには両方の分母の最小公倍数の分母に直すとよいことが分かり、通分して分数の相等や大小を比較する。</li> </ul>

算数・数学

		小1段階	小2段階	小3段階
知識及び技能		—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10までの数で、残り、減る、違い(差)、あと幾つ(不足)を記号「-、=」を用いて式で表したり、式を読み取って具体物や絵図を用いて表したりする。</li> </ul>
		—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦ 20までの数の範囲で減法の計算ができること。</li> <li>・5までの数で、減法の計算をする。</li> <li>・10までの数で、減法の計算をする。</li> <li>・20までの数の範囲で繰り下がりのない減法の計算をする。</li> <li>・20までの数の範囲で繰り下がりのある減法の計算をする。</li> </ul>
	思考力・判断力・表現力等	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉗ いろいろな金種があることに着目し、それらを学習や生活で生かすこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉗ 日常の事象における数量の関係に着目し、計算の意味や仕方を見付け出したり、学習や生活で活かしたりすること。</li> </ul>
		—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな金種の貨幣1枚を用いて、足りるかどうかが考えながら代金を用意し、買い物をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りにおける数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考え、言葉や式などで表現する。</li> </ul>
数と計算		—	—	ウ 金銭の価値に親しむこと
	知識及び技能	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉘ 金種を用いること。</li> <li>・5円、50円、500円の金種が分かる。</li> <li>㉙ 様々な種類の貨幣の持つ価値を知ること。</li> <li>・何枚かの100円硬貨を使って買えないときに、100円硬貨をもう1枚足して買う。</li> <li>・10円硬貨を使って何十円の金額を出す。</li> <li>・1円硬貨と10円硬貨を用いて何十何円の金額を出す。</li> <li>・1円硬貨と、10円硬貨、100円硬貨を使って何百何十何円の金額を出すことができる。</li> <li>ウ おつりを扱うこと</li> <li>・値段に対して価値が少し大きい金額のお金を出して商品とおつりを受け取ること。(例えば、値段が374円のとときに400円や380円など、きりのよい代金を用意すること)</li> </ul>
	思考力・判断力・表現力等	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉘ 金種の違いや価値の違いに着目し、必要な金額の出し方を考え、それらを学習や生活で生かすこと。</li> </ul>
		—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金種の違いに着目し、必要な金額を考えながら複数の貨幣を使って代金を用意し、買い物をする。</li> </ul>

算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
知識及び技能		㊦ 計算機を使って、具体的な生活場面における簡単な加法及び減法の計算ができること。 ・計算機の使い方が分かる。 ・計算機を使って3位数までの加法や減法の計算をする。	-	-	-
		㊦ 数量の関係に着目し、数を適用する範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。	㊦ 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。	㊦ 数の表し方の仕組みに着目し、数の相対的な大きさを考察し、計算などに有効に生かすこと。	㊦ 数を構成する単位に着目し、数の相等及び大小関係について考察すること。
数と計算	思考力・判断力・表現力等	・教室や学校の中での具体的な場面を加法や減法の式と結び付け、言葉や絵、図などを用いて説明したり、計算したりする。	・教室や学校の中での具体的な場面を加法や減法の式と結び付け、言葉や絵、図などを用いて説明したり、計算したりする。	・10倍、100倍、…したときの位の移動を、小数点の移動とも捉えることができ、十進位取り記数法の考えと関連付けて考える。  ・ $2 \times 100$ のような計算の場合、100倍の大きさの数は小数点が右に二つ移動することから200であると計算の結果を考える。  ・ $24.85 \div 100$ のような計算の場合、 $1/100$ の大きさの数は小数点が左に二つ移動することから0.2485であると計算の結果を考える。	・共通の分母をつくり出す際に、一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表していることについて考える。  ・分母の異なる分数を共通な分母に揃えるために、分母の大きさの違いに着目して、一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は元の分数と同じ大きさを表しているという特徴を生かして、共通の分母をつくり出すことを考える。  ㊧ 分数の表現に着目し、除法の結果の表し方を振り返り、分数の意味をまとめること。
		-	-	-	・ $2/3$ が、具体物を3等分したものの二つ分の大きさを表すことが分かる。  ・ $2/3$ が $2/3$ L、 $2/3$ mのように、測定したときの量の大きさを表していることが分かる。  ・ $2/3$ が、1を3等分したものの(単位分数である)二つ分の大きさを表すことが分かる。  ・ $2/3$ がAはBの $2/3$ というように、Bを1としたときのAの大きさの割合を表すことが分かる。  ・ $2/3$ が、整数の除法「 $2 \div 3$ 」の結果(商)を表すことが分かる。

算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
		ウ 整数の乗法	ウ 整数の乗法	ウ 概数	ウ 分数の加法及び減法
数と計算	知識及び技能	㉞ 乗法が用いられる場合や意味について知ること。	㉞ 1位数と1位数の乗法の計算ができ、それを適切に用いること。	㉞ 概数が用いられる場面について知ること。	㉞ 異分母の分数の加法及び減法の計算ができること。
		・実際の場面を通して、累加同数（同じ数を何回も加える加法）を用いて乗法の意味（一つの大きさの何倍に当たる大きさを求めること）を理解する。	・乗法九九の計算ができ、それを適切に用いて表す。	・概数の意味を理解する。	・異分母の分数の加法と減法を通分して計算する。
		㉟ 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。	・乗数や被乗数が0の場合でも、乗法の式に表して答えを求める。	・数を手際よく捉えたり処理したりする。	
		・×の記号を用いて式を表す。	㉟ 交換法則や分配法則といった乗法に関して成り立つ性質を理解すること。	・場面の意味に着目して数の捉え方を考え、目的に応じて概数を用いる。	
		・式を読み取って、場面を図や具体物で表す。	・乗数が一つずつ増減したときの積が被乗数の大きさずつ増減する法則（例 $5 \times (9+1) = 5 \times 9 + 5$ ）に気付く。	・野球場の入場者数を約何万何千人と概数で表現して伝えるように、詳しい数値が分かっている場合、目的に応じて数を丸めて表現する。	
		・具体物を用いながら式に表す時、被乗法（基準になる量）と乗法（幾つ分）の順序に約束があることを理解すること。	・交換法則（例 $7 \times 6 = 6 \times 7$ ）を理解する。	・都市の人口を棒グラフを用いて比較するように、棒の長さなどで数のおよその大きさを表す。	
		㉟ 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。	・分配法則（例 $(8+5) \times 6 = 8 \times 6 + 5 \times 6$ ）を理解する。	・ある時点での日本の人口のように、真の値を把握することが難しく、概数で代用する。	
		・具体物を操作しながら、乗数が1増えれば、積は被乗数分だけ増えるということを理解する。		・概数を用いると数の大きさが捉えやすくなることや、物事の判断や処理が容易になること、見通しを立てやすくなることなどのよさに気付く。	
		㊱ 乗法九九について知り、1位数と1位数の乗法の計算ができること。		㉟ 四捨五入について知ること。	
		・2の段、5の段を唱えたり、適用したりする。		・4以下は切り捨て、5以上は切り上げになることが分かる。	
・1, 3, 4, 7, 8, 9の段を唱えたり、適用したりする。		・42948を四捨五入して千の位までの概数を表す場合、千の一つ下の位である百の位にある数「9」を見て、切り上げになると判断し、43000と表す。			
		㊲ 目的に応じて四則計算の結果の見積りをする事。			
		・何のために見当を付けるのかそのねらいを明らかにし、ねらいに応じた詳しさの概数にする。			
		・ねらいに応じて切り上げや切り捨てを用いて大きく見積もったり、小さく見積もったりする。			

算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
数と計算	思考力・判断力・表現力等	<p>⑦ 数量の関係に着目し、数を適用する範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。</p> <p>・乗法九九のよさを実感し、唱え方を記憶する。</p> <p>・数（一つ分の大きさ）と量（幾つ分）の関係に着目して乗法九九を日常生活の中で活用する。</p>	<p>⑦ 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。</p> <p>・交換法則や分配法則を使って、計算の確かめをしたり、簡単な2位数と1位数との乗法の場面でも計算の仕方を考えて説明したりする。</p>	<p>⑦ 日常の事象における場面に着目し、目的に合った数の処理の仕方を考えとともに、それを日常生活に生かすこと。</p> <p>・ある物を千円で買うことができるかどうかを見積もる場合、値段を大きくみて（切り上げて）概算するように、どの程度の概数にすればよいか、目的に合った数の処理の仕方を考え判断する。</p> <p>・どの位までの概数にするか、切り上げるのか、切り捨てるのか、四捨五入するのか、ということ判断したり、適切であるかどうかを振り返ったりする。</p>	<p>⑦ 分数の意味や表現に着目し、計算の仕方を考えること。</p> <p>・分母の異なる分数の加法及び減法について、分母と分子を用いて表現された分数の意味や大きさに着目して、分母の異なる分数の大きさを比べる場合に用いた方法を振り返り、通分を用いた計算の仕方を考える。</p>
	知識及び技能	—	エ 整数の除法	エ 整数の加法及び減法	エ 分数の乗法及び除法
		—	<p>⑦ 除法が用いられる場合や意味について理解すること。</p> <p>・飲み物などを等分する意味を理解する。（連続量による等分除の意味を知る。）</p> <p>・飴などの個数を等分する意味を理解する。（分離量による等分除の意味を知る。）</p> <p>・飴などの個数を同じ数ずつ分ける意味を理解する。（分離量による包含除の意味を知る。）</p> <p>・飲み物などを一定量ずつ分ける意味を理解する。（連続量による包含除の意味を知る。）</p> <p>④ 除法が用いられる場면을式に表したり、式を読み取ったりすること。</p> <p>・÷の記号を用いて式に表す。</p>	<p>⑦ 大きな数の加法及び減法の計算が、2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。</p> <p>・位ごとに計算することを理解する。</p> <p>・繰り上がりのない3位数＋3位数の筆算をする。</p> <p>・空位のある3位数＋3位数の筆算をする。</p> <p>・繰り上がりのある3位数＋2位数の筆算をする。</p> <p>・繰り上がりのある3位数＋3位数の筆算をする。</p> <p>・繰り下がりのない3位数－2位数の求残（残りはいくつ）を求める。</p>	<p>⑦ 乗数や除数が整数や分数である場合も含めて、分数の乗法及び除法の意味について理解すること。</p> <p>・Bを「基準にする大きさ」、pを「割合」、Aを「割合に当たる大きさ」とするとき、<math>B \times p = A</math>と表すことができることが分かる。</p> <p>・Bを「基準にする大きさ」、pを「割合」、Aを「割合に当たる大きさ」とするとき、<math>A \div B = p</math>、あるいは<math>A \div p = B</math>と表すことができることが分かる。</p> <p>④ 分数の乗法及び除法の計算ができること。</p> <p>・<math>a/b \times c/d</math>の計算は<math>(a \times c) / (b \times d)</math>と表すことができることが分かる。</p> <p>・<math>a/b \div c/d</math>の計算は<math>a/b \times d/c</math>と表すことができることが分かる。</p> <p>・整数や小数の乗法や除法を分数の場合の計算にまとめて表す。 例 <math>5/1 \times 1/2 \times 3/10 = (5 \times 1 \times 3) / (1 \times 2 \times 10)</math></p>



算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
数と計算	知識及び技能		<ul style="list-style-type: none"> <li>・式を読み取って、場面を図や具体物で表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り下がりのない3位数－3位数の求残を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥ 分数の乗法及び除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 除法と乗法との関係について理解すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り下がりのある3位数－2位数の求残を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数についても、整数や小数の場合と同じように交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことが分かる。</li> <li>・乗数が2倍、3倍、4倍、…になると積も2倍、3倍、4倍、…になることが分かる。</li> <li>・除数及び被除数に同じ数をかけても、同じ数で割っても商は変わらないことが分かる。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・①等分除は(<math>\square \times 2 = 8</math>)の<math>\square</math>を乗法九九を用いて答えを求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り下がりのある3位数－2位数の求差を求める。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 加法及び減法の計算が確実にでき、それらを適切に用いること。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・包含除(<math>2 \times \square = 8</math>)の<math>\square</math>を乗法九九を用いて答えを求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・位を揃えて筆算により、加法の計算をする。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤ 除数と商が共に1位数である除法の計算ができること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8÷2や35÷5などの乗法九九を1回用いて商を求めることができる計算をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・位を揃えて筆算により、減法の計算をする。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧ 余りについて知り、余りの求め方が分かること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を操作する活動を通して、余りが出ることを知る。</li> <li>・具体物を操作する活動を通して、余りの大きさは除数よりも小さくなることについて理解する。</li> </ul>		
	思考力・判断力・表現力等		<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活に生かすこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり、計算の確かめをしたりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 数の意味と表現、計算について成り立つ性質に着目し、計算の仕方を多面的に捉え考えること。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて計算の方法を選択し、処理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2位数の加法及び減法の計算の仕方を基にして、位ごとに足したり引いたりすることで、3位数以上の計算をする。</li> <li>・足して100になる計算について、<math>387+75+25</math>を<math>387+(75+25)</math>などいくつかの数をまとめたり、順序を変えたりして計算を工夫したり確かめたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>a/b</math>を<math>1/b \times a</math>とみたり、<math>a \div b</math>を<math>a/b</math>とみたり、<math>a/b</math>を<math>a \div b</math>とみたりするなど、分数を除法の結果と捉える。</li> </ul>	
			オ 小数の表し方	オ 整数の乗法	オ 数量の関係を表す式
知識及び技能			<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知ること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 数量を表す言葉や<math>\square</math>、<math>\Delta</math>などの代わりに、<math>a</math>、<math>x</math>などの文字を用いて式に表したり、文字に数を当てはめて調べたりすること。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・くつのサイズや体重、1.5Lのペットボトルなどを取り上げ、端数部分の大きさを表していることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2位数×1位数の筆算をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量を表す言葉や<math>\square</math>、<math>\Delta</math>などの代わりに、<math>a</math>、<math>x</math>などの文字を用いて式に表す。</li> </ul>	

算数・数学

		中 1 段階	中 2 段階	高 1 段階	高 2 段階
数と計算	知識及び技能		<p>① 1/10 の位までの小数の仕組みや表し方について理解すること。</p> <p>・十進位取り記数法の仕組みを基に、1を10等分した単位(0.1)を理解する。</p> <p>・0.1の単位の幾つ分かで端数部分を表す。</p> <p>・整数の数直線と関係付けて小数の理解を深める。</p>	<p>・2位数×2位数の筆算をする。</p> <p>・3位数×1位数の筆算をする。</p> <p>・3位数×2位数の筆算をする。</p> <p>・23×4の計算は、23を20+3とみて、20×4と3×4と分けて計算する。</p> <p>・乗法九九などの基本的な計算を基にしていることを理解し、筆算をする。</p> <p>① 乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。</p> <p>・位ごとに分けて乗法の計算をする。</p> <p>・乗法の筆算の計算の仕方が分かる。</p> <p>② 乗法に関して成り立つ性質について理解すること。</p> <p>・交換法則<math>a \times b = b \times a</math>が分かり、計算する。</p> <p>・分配法則<math>a \times (b \pm c) = a \times b \pm a \times c</math>が分かり、計算する。</p> <p>・結合法則<math>(a \times b) \times c = a \times (b \times c)</math>が分かり、計算する。</p>	<p>・文字には、小数や分数も整数と同じように当てはめることが分かる。</p> <p>・文字が表す未知の数量を、逆算をしたり、文字に順序よく数を当てはめたりして求める。</p>
	思考力・判断力・表現力等		<p>② 数のまとまりに着目し、数の表し方の適用範囲を広げ、日常生活に生かすこと。</p> <p>・1/10の位という用語や意味、小数点を理解し、日常生活に生かす。</p>	<p>③ 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり、計算の確かめをしたりすること。</p> <p>・自らその計算の仕方を考える。(例 18×4は「18+18+18+18=72、18を9+9とみて9×4と9×4とみて、36+36=72」、 「18を10+8とみて10×4と8×4に分けて40+32=72」などと考える。)</p> <p>・計算の仕方を図で表現し、式と関係付ける。</p> <p>・乗法の計算に関して成り立つ性質を活用して計算を工夫する。4×7×25の場合、交換法則を用いて、4×7×25を7×4×25とする。つぎに、結合法則を用いて先に4×25を計算し、7にその積の100をかけることで700を求める。</p>	<p>④ 問題場面の数量の関係に着目し、数量の関係を簡潔かつ一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすること。</p> <p>・文字を用いて表した式について、具体的な事柄を読み取ったり、文字に順序よく数を当てはめたりして、問題解決に生かす。</p>

算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
		—	カ 分数の表し方	カ 整数の除法	—
数と計算	知識及び技能	<p>⑦ 1/2, 1/4 など簡単な分数について知ること。</p>	<p>⑦ 1/2, 1/4 など簡単な分数について知ること。</p> <p>・折り紙やひも、計量カップや計量スプーンで半分の大きさを作ったり、量ったりする。</p> <p>・半分のさらに半分にした大きさを作ったり量ったりしながら分数の意味や表し方について美感的に理解する。</p>	<p>⑦ 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。</p> <p>・72÷3など、2位数÷1位数の計算を取り上げ、筆算の仕方を理解する。</p> <p>・962÷4など、3位数÷1位数の計算を取り上げ、筆算の仕方を理解する。</p> <p>・多数桁の除法が基本的な計算を基にしてできていることが分かる。</p> <p>・350÷50は35÷5として考えるなど、数量の関係に着目し、計算について考えたり、計算の確かめをしたりする。</p> <p>・除数が2位数のとき、10を基準とみて商の見当を付ける。(例 171÷21を17÷2とみて商がおよそ8であると見当を付ける。)</p> <p>・見当を付けた商を修正する。</p> <p>・96÷24など、2位数÷2位数の計算を取り上げ、筆算の仕方を理解する。</p> <p>・171÷21など、3位数÷2位数の計算を取り上げ、筆算の仕方を理解する。</p>	
				<p>⑧ 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。</p> <p>・96mのリボンは、24mのリボンの何倍の長さかなど、「基準量」、「比較量」から「倍」を求める。</p> <p>・「黄色のリボンの長さは72mで、白いリボンの長さの4倍です。白いリボンの長さは何mでしょう。」などのように「比較量」、「倍」から「基準量」を求める。</p> <p>・図などを用いて、等分除や包含除とみられることに気付く。</p> <p>・重さが4kg、長さが2mである棒1mの重さを求める場合、2kgで400円のもの1kgの値段を求める場合など、比例関係を仮定できる、伴って変わる二つの数量がある場合に除数を用いることが分かる。</p>	

算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
数と計算	知識及び技能			<p>㉞ 除法について、次の関係を理解すること。  <math>(被除数) = (除数) \times (商) + (余り)</math></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>(被除数) = (除数) \times (商) + (余り)</math> の関係を理解する。</li> <li>・ 余りは、除数より小さくなることが分かる。</li> <li>・ 被除数、除数、商、余りの関係を、計算の確かめなどに用いる。</li> </ul> <p>㉟ 除法に関して成り立つ性質について理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 除数及び被除数に同じ数をかけても、同じ数で割っても商は変わらないという性質を理解する。</li> <li>・ 除法の性質を式に表す。<math>a \div b = c</math> のとき、<math>(a \times m) \div (b \times m) = c</math>、<math>(a \div m) \div (b \div m) = c</math></li> </ul>	
	思考力・判断力・表現力等		<p>㉞ 数のまとまりに着目し、数の表し方の適用範囲を広げ、日常生活に生かすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>1/2</math>、<math>1/4</math> など簡単な分数の用語や意味、表し方を理解し、日常生活に生かす。</li> </ul>	<p>㉞ 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり、計算の確かめをしたりすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>6000 \div 30</math> の計算は除数と被除数を10で割ることで、<math>600 \div 3</math> として考えたり、<math>300 \div 25</math> の計算は除数と被除数に4をかけることで、<math>1200 \div 100</math> と考えたりするなど、除数に関しての性質を用いながら計算の工夫を考える。</li> </ul>	
			キ	キ	キ
	知識及び技能		<p>㉞ 数量の関係を式に表したり、式と図を関連付けたりすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図に表された数量の関係を読み取ってそれを式に表す。</li> <li>・ 式に表された数量の関係を読み取ってそれを図に表す。</li> <li>・ 加法と減法、乗法と除法の相互関係について、式と図を関連付けて捉えたり、説明したりする。</li> <li>㉟ □などを用いて数量の関係を式に表すことができることを知ること。</li> <li>・ 未知の数量を表す□などの記号を用いて文脈通りに数量の関係を式に表す。</li> </ul>	<p>㉞ ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4mを基にすると、10mは4mを1としたときちょうど2.5mに位置付いていることが分かる。</li> <li>㉟ 小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めること。</li> <li>・ <math>1/100</math> や <math>1/1000</math> などを単位とした小数を用いることにより、<math>1/10</math> に満たない大きさを表すことができることを理解する。</li> <li>・ ある位の左の位は、10倍の大きさを単位にしていることを理解する。</li> <li>・ 小数の大小比較や計算について、整数と同じ考え方でできることに気付く。</li> </ul>	

算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
数と計算	知識及び技能		<p>㉞ □などに数を当てはめて調べること。</p> <p>・□に当てはまる数を調べる。</p>	<p>・1.68は0.01が168集まった数とみるように、小数の場合についてもある位の単位に着目してその幾つ分とみるなど、数の相対的な大きさについて理解する。</p> <p>㉞ 小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができること。</p> <p>・小数の計算は、小数点を揃えて計算することが分かる。</p> <p>・小数の計算も整数と同じ原理、手順でできることを理解する。</p> <p>㉞ 乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算ができること。</p> <p>・<math>0.1 \times 3</math> など、乗数が整数である場合の計算をする。</p> <p>・<math>0.8 \div 2</math> など、除数が整数である場合の計算をする。</p>	
	思考力・判断力・表現力等		<p>㉞ 数量の関係に着目し、事柄や関係を式や図を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりすること。</p> <p>・図は具体物や絵、ブロック図等を並べたものからテープ図を用いて抽象化できるようにし、百や千のような数をテープ図や線分図で表すよさに気付く。</p> <p>・式は数量の事柄や関係を一般的に表現できるよさがあることに気づき、数量の関係を的確にとらえて式に表したり、式の意味を読み取ったり、式を用いて考えを説明したりする。</p>	<p>㉞ 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考えるとともに、それを日常生活に生かすこと。</p> <p>・数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考える。 (例 <math>1.2 \times 4</math> の計算では、1.2は0.1を単位とするとその12個分であるから、<math>12 \times 4</math> で、0.1が48個分と考える。)</p>	
	知識及び技能			ク 小数の乗法及び除法	
	知識及び技能			<p>㉞ 乗数や除数が小数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解すること。</p> <p>・乗数が小数の場合でも、これまで学習した整数の乗法の意味を基にして式の形は同じに表すことができることを理解する。</p> <p>・除数が小数の場合にも、整数と同じように表すことができることを理解する。</p> <p>・除法は乗法の逆として、割合を求める場合があることを理解する。(例 9 mのリボンを1.8mずつ切り取ると何本できるか。式は <math>9 \div 1.8</math>)</p> <p>・除法は乗法の逆として、基準にする大きさを求める場合があることを理解する。(例 2.5mで200円の布は1 mではいくらか。式は <math>200 \div 2.5</math>)</p>	

算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
数と計算	知識及び技能	-	-	<p>㊦ 小数の乗法及び除法の計算ができること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小数点の位置に着目して移動し、整数に置き換えれば、整数の計算と同様の考え方で積や商を求めることができることを理解する。</li> <li>・乗数を10倍すると積も10倍になる乗数の性質を生かして、小数の乗法を整数の乗法に直して計算する。</li> <li>・除数と被乗数に同じ数をかけても商は変わらないという除法の性質を生かして計算する。</li> </ul> <p>㊧ 余りの大きさについて理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小数点の位置に気を付けて余りを表す。</li> <li>・余りは除数より小さいことが分かる。</li> <li>・(被除数) = (除数) × (商) + (余り) の式に当てはめて、商、除数、余りの大きさの関係を捉える。</li> </ul> <p>㊨ 小数の乗法及び除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小数の乗法と除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを確かめる。</li> <li>・小数の場合でも分配法則が成り立つことが分かる。</li> </ul>	-
	思考力・判断力・表現力等	-	-	<p>㊩ 乗法及び除法の意味に着目し、乗数や除数が小数である場合まで数の範囲を広げて乗法及び除法の意味を捉え直すとともに、それらの計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小数の乗法や除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことが分かり、計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりする。</li> </ul>	-
	-	-	-	ケ 分数とその計算	-
	知識及び技能	-	-	<p>㊪ 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることについて理解すること。また、分数の表し方について知ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分母、分子の用語が分かる。</li> <li>・等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることが分かる。(例 2/3は具体物を3等分したものの二つの大きさを表す。)</li> </ul>	-

算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
数と計算	知識及び技能			<p>㊦ 分数が単位分数の幾つ分かで表すことができることを知ることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>1/3</math>, <math>1/4</math>, <math>1/5</math> のように、分子が1である分数を単位分数といい、その幾つ分かで表すことができることを知る。</li> </ul> <p>㊧ 簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知ることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 真分数の用語と意味が分かる。( <math>1/2</math>, <math>3/5</math> のように分子が分母より小さい分数)</li> <li>・ 仮分数の用語と意味が分かる。</li> <li>・ 帯分数の用語と意味が分かる。</li> </ul> <p>㊨ 簡単な場合について、大きさの等しい分数があることを知ることを知る。</p> <p>① <math>1/2</math> と <math>2/4</math> など、テープ図などを用いたり、数直線上の並べた分数を観察したりしながら、大きさの等しい分数を探す。</p> <p>㊩ 同分母の分数の加法及び減法の計算ができることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同分母で和が1までの真分数どうしの加法を理解する。</li> <li>・ 同分母で和が1より大きい分数どうしの加法を理解する。</li> <li>・ 同分母で差が1までの真分数どうしの減法を理解する。</li> <li>・ 同分母で差が1より大きい分数どうしの減法を理解する。</li> </ul>	
	思考力・判断力・表現力等			<p>㊪ 数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり、計算したりできるかどうかを考えるとともに、分数を日常生活に生かすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単位分数の個数に着目することによって、分数の大きさを比べ、整数と同じように、分数でも計算ができるかどうかを考える。</li> </ul> <p>㊫ 数を構成する単位に着目し、大きさの等しい分数を探したり、計算の仕方を考えたりするとともに、それを日常生活に生かすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分母が異なる場合であっても、 <math>1/2</math> と <math>2/4</math>, <math>4/8</math> などの場合は、テープ図を用いたり、数直線上に並べた分数を観察することを通して大きさの等しい分数を探す。</li> </ul>	

算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
数と計算	思考力・判断力・表現力等	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位分数の個数に着目することによって、真分数の加法の考え方を基に、仮分数の加法についても同様に考える。(例 <math>7/5 + 6/5 = 13/5</math>)</li> <li>・帯分数どうしの加法、減法の計算の仕方を考える。(整数と分数に分けて計算する仕方を考える。仮分数に直して計算する。)</li> <li>・時刻や時間の計算は、分母が60や6の分数の計算として処理できるなど、分数の計算を日常生活に生かす。</li> </ul>	—
	知識及び技能	—	—	<p>コ 数量の関係を表す式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>㉞ 四則の混合した式や、( ) を用いた式について理解し、正しく計算すること。</li> <li>・乗法、除法を加法、減法より先に計算することが分かる。</li> <li>・( ) の中を先に計算することが分かる。</li> <li>・四則を混合させたり ( ) を用いて一つの式に表すことは、数量の関係を簡潔に表すことができるなどのよさがあることが分かる。</li> <li>・四則を混合させたり ( ) を用いたりして一つの式に表す。</li> <li>㉟ 公式についての考え方を理解し、公式を用いること。</li> <li>・公式は、数量を言葉で表しているというものの理解と、言葉で表されているものにはいろいろな数が当てはまるということが分かる。</li> <li>・公式は、どんな数値に対しても成り立つ一般的な関係であることを理解する。</li> <li>㊱ 数量を□、△などを用いて表し、その関係を式に表したり、□、△などに数を当てはめて調べたりすること。</li> <li>・□、△などの記号にはいろいろな数が当てはまり、□、△の一方の大きさが決まれば、それに伴って、他方の大きさが決まることについて理解する。</li> <li>・同じ記号には同じ数を入れることが分かる。</li> </ul>	—



算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
数と計算	知識及び技能	—	—	<p>㊦ 数量の関係を表す式についての理解を深めること。</p> <p>・式の中にある二つの数量の対応や変化の関係の仕方にどんな特徴があるかを、表などを用いて調べながら、伴って変わる二つの数量の関係を読み取ったり、対応の関係や変化の関係を、□や△などの記号や言葉を用いたりして表す。</p>	—
	思考力・判断力・表現力等	—	—	<p>㊧ 問題場面の数量の關係に着目し、数量の關係を簡潔に、また一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすること。</p> <p>・場面を変えるとどんな式になるかを考え、伝えあったりしながら、数量の關係や思考の過程を表したり、式を読み取ったりする。 (例 ジュースとパンをまとめて買った場合 <math>500 - (150 + 260) = 90</math> ジュースとパンを別々に買った場合 <math>500 - 150 = 350</math> <math>350 - 260 = 90</math>)</p> <p>㊨ 二つの数量の対応や変わり方に着目し、簡単な式で表されている関係について考察すること。</p> <p>・<math>\square = 2 + \triangle</math>, <math>\square = 2 \times \triangle</math>, <math>\square = 3 \times \triangle + 1</math>などの式で、<math>\triangle</math>に1, 2, 3, …を入れたときの□が幾つになるかを調べ、表に表し、伴って変わる二つの数量の変化の仕方について、表を使って考察する。</p>	—
	知識及び技能	—	—	<p>㊩ 計算に関して成り立つ性質</p> <p>㊪ 四則に関して成り立つ性質についての理解を深めること。</p> <p>・交換法則を理解する。 <math>\square + \triangle = \triangle + \square</math>, <math>\square \times \triangle = \triangle \times \square</math></p> <p>・分配法則を理解する。 <math>\square \times (\triangle + \bigcirc) = \square \times \triangle + \square \times \bigcirc</math>, <math>\square \times (\triangle - \bigcirc) = \square \times \triangle - \square \times \bigcirc</math>, <math>(\square + \triangle) \times \bigcirc = \square \times \bigcirc + \triangle \times \bigcirc</math>, <math>(\square - \triangle) \times \bigcirc = \square \times \bigcirc - \triangle \times \bigcirc</math></p> <p>㊫ 結合法則を理解する。 <math>\square + (\triangle + \bigcirc) = (\square + \triangle) + \bigcirc</math>, <math>\square \times (\triangle \times \bigcirc) = (\square \times \triangle) \times \bigcirc</math></p>	—
	知識及び技能	—	—	<p>㊬ 計算に関して成り立つ性質</p>	—

算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
数と計算	思考力・判断力・表現力等	—	—	<p>⑦ 数量の関係に着目し，計算に関して成り立つ性質を用いて計算の仕方考えること。</p> <p>・整数の計算に関して，交換法則，結合法則，分配法則を活用して計算を簡単に行う工夫をしたり，乗法の筆算形式の中に分配法則を見つけたりするなど，四則に関して成り立つ性質に対しての理解を深め，必要に応じて活用する。</p>	—

算数・数学

段階の目標		小1段階	小2段階	小3段階
図形	知識及び技能	ア 身の回りのものの上下や前後、形の違いに気付き、違いに応じて関わることについての技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りのものの形に着目し、集めたり、分類したりすることを通して、図形の違いが分かるようにするための技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りのものの形の観察などの活動を通して、図形についての感覚を豊かにするとともに、ものについて、その形の合同、移動、位置、機能及び角の大きさの意味に関わる基礎的な知識を理解することなどについての技能を身に付けるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	イ 身の回りのものの形に注目し、同じ形を捉えたり、形の違いを捉えたりする力を養う。	イ 身の回りのものの形に関心を持ち、分類したり、集めたりして、形の性質に気付く力を養う。	イ 身の回りのものの形に着目し、ぴったり重なる形、移動、ものの位置及び機能的な特徴等について具体的に操作をして考える力を養う。
	学びに向かう力、人間性等	ウ 図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	ウ 図形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 図形や数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。
内容		小1段階	小2段階	小3段階
図形	知識及び技能	ア ものの類別や分類・整理	ア ものの分類に関わる数学的活動	ア 身の回りにあるものの形
		㉞ 具体物に注目して指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。	㉞ 色や形、大きさに着目して分類すること。	㉞ ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えること。
		・玩具の中から興味のあるものを注視したり、指差したり、つかもうとしたりする。	・複数の事物を色に着目して分ける。	・身の回りにあるものの中から、角の個数に着目して、丸、三角、四角の特徴を捉える。
		㉟ 形を観点に区別すること。	・複数の事物を形に着目して分ける。	㉟ 具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。
		・2種類の形の具体物を形に着目して分ける。	・複数の事物を大きさに着目して分ける。	・積み木や空き箱等の立体を用いて、身の回りにおける具体物を作る。
		・○や△などの絵カード等を形に着目して分ける。	㉟ 身近なものを目的、用途及び機能に着目して分類すること。	・具体物を用いて形を作る活動を通して、箱の形の多くは四角で構成されていることを理解する。
㉟ 形が同じものを選ぶこと。	・皿やコップなどの食器類など、身近なものを目的、用途及び機能に着目して分ける。	・タングラムや色板を組み合わせて、身の回りにおけるものの形を作る。		
・見本の具体物を見て、同じ具体物を選ぶ。		・タングラムや色板を組み合わせて、四角は三角2枚で構成されていることを理解する。		
・透明なアクリル板に貼ったイラストを見て、同じアクリル板イラストを重ねる。		・タングラムや色板を組み合わせて、長四角は真四角2枚で構成されていることを理解する。		
・見本の写真（イラスト）を見て、同じ写真（イラスト）を選ぶ。		・身の回りにおける立体や色板等を用いて作ったものの中から、三角や四角などを見付ける。		
・○、△、□などの図形のうち2種類の図形から、教師が提示したものと同じ形を選ぶ。		㊱ 前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を用いて、ものの位置を表すこと。		

算数・数学

段階の目標		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
図形	知識及び技能	ア 三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形について理解し、図形についての感覚を豊かにするとともに、図形を作図したり、構成したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。	ア 二等辺三角形や正三角形などの基本的な図形や面積、角の大きさについて理解し、図形についての感覚を豊かにするとともに、図形を作図や構成したり、図形の面積や角の大きさを求めたりすることなどについての技能を身に付けるようにする。	ア 図形の形や大きさが決まる要素や立体を構成する要素の位置関係、図形の合同や多角形の性質について理解し、図形を作図したり、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めたりする技能を身に付けるようにする。	ア 平面図形を縮小したり、拡大したりすることの意味や、立体図形の体積の求め方について理解し、縮図、拡大図を作図したり、円の面積や立方体、直方体、角柱、円柱の体積を求めたりする技能を身に付けるようにする。
	思考力、判断力、表現力	イ 三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形を構成する要素に着目して、平面図形の特徴を捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から関連付けて考えたりする力を養う。	イ 二等辺三角形や正三角形などの基本的な図形を構成する要素に着目して、平面図形の特徴を捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、図形を構成する要素に着目し、図形の計量について考察する力を養う。	イ 図形を構成する要素や図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり、図形の性質を見いだしたりするとともに、三角形、平行四辺形、ひし形の面積の求め方を考え、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導く力を養う。	イ 図形を構成する要素や図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり、図形の性質を見いだしたりするとともに、円の面積や立方体、直方体、角柱、円柱の体積の求め方を考え、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導く力を養う。
	学びに向かう力、人間性等	ウ 図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことよさに気づき、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ 図形や数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ 図形や数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ 図形や数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさを実感し、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
図形	知識及び技能	ア 図形	ア 図形	ア 平面図形	ア 平面図形（縮図や拡大図）
		⑦ 直線について知ること。	⑦ 二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に着目すること。	⑦ 平行四辺形、ひし形、台形について知ること。	⑦ 縮図や拡大図について理解すること。
		・定規を使って直線を引く。	・二辺の長さが等しい三角形を二等辺三角形、三辺の長さが等しい三角形を正三角形ということが分かる。	・向かい合った二組の辺が平行な四角形を平行四辺形ということが分かる。	・方眼の縦、横の両方の向きに同じ割合で縮小、拡大して縮図や拡大図を作図する。
		④ 三角形や四角形について知ること。	④ 二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスなどを用いて作図すること。	・四つの辺の長さが等しい四角形をひし形ということが分かる。	・一つの頂点に集まる辺や対角線の長さの比を一定にして縮図や拡大図を作図する。
		・身の回りのものの中から三角形や四角形の形をしたものを探す。 ・三角形は3本の直線で囲まれている形、四角形は4本の直線で囲まれている形だということが分かる。	・二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスなどを用いて作図する。 ⑨ 基本的な図形と関連して角について知ること。	・向かい合った一組の辺が平行な四角形を台形ということが分かる。 ④ 図形の形や大きさが決まる要素について理解するとともに、図形の合同について理解すること。	④ 対称な図形について理解すること。 ・線対称な図形が分かる。（1本の直線を折り目として折ったとき、ぴったり重なる図形）
		⑦ 正方形、長方形及び直角三角形について知ること。	・紙を切り抜いて作った二等辺三角形や正三角形について長さの等しい辺を重ねるように折ることによって、二つの角の大きさがぴったり重なり、それらが等しいことを確かめる。	・形も大きさも同じ図形をぴったり重ねる活動などを通して、図形の合同について理解する。	・点対称な図形が分かる。（一つの点Oを中心にして180度回転したときに重なり合う図形）
・身の回りから正方形、長方形、直角三角形の形をしたものを探す。	⑨ 直線の平行や垂直の関係について理解すること。	・合同な図形を見つけたら、かいたりつくったりする活動を通して、図形の形や大きさが一つに決まる要素について理解する。	・線対称な図形、点対称な図形、線対称かつ点対称な図形を弁別する。		

算数・数学

		小1段階	小2段階	小3段階
知識及び技能		<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の図形の中から教師が提示したものと同一図形を選ぶ。</li> <li>○, △, □などのはめ板を正しくはめ込む。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>指示を聞いて、具体物を上下に移動させる。</li> <li>指示を聞いて、一列に並んでいる具体物を前後に動かす。</li> <li>指示を聞いて、具体物を並べる活動を通して、左右が分かる。</li> <li>前後、左右、上下などの言葉を正しく用いて、ものの位置を表す。</li> <li>一番前や何番目、真ん中などの指示を聞いて、事物を操作する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>② 似ている二つのものを結び付けること。</li> <li>見本の写真(イラスト)を見て、同じ具体物を選ぶ。</li> <li>見本の具体物を見て、同じ物の写真(イラスト)を選ぶ。</li> <li>似ている具体物を選ぶことができる。</li> <li>③ 関連の深い一対のものや絵カードを組み合わせること。</li> <li>関連の深い一対のもの(靴, 手袋, 靴下, おはしなど)を対にして揃える。</li> <li>机といす, 画用紙とクレヨンのように関連の深いものの絵カードを組み合わせる。</li> <li>④ 同じもの同士の集合づくりをすること。</li> <li>同じ遊び道具を集める。</li> <li>色や形などの属性に着目して集める。</li> <li>用途や機能などの属性に着目して集める。</li> </ul>		
図形		<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 対象物に注意を向け、対象物の存在に気づき、諸感覚を協応させながら具体物を捉えること。</li> <li>ものに直接触れたり、いろいろな方向から見たりするなど、目や耳や手などを協応させながら具体物を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ ものを色や形, 大きさ, 目的, 用途及び機能に着目し, 共通点や相違点について考えて, 分類する方法を日常生活で生かすこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 身の回りにあるものから, いろいろな形を見付けたり, 具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧ ものの属性に着目し, 様々な情報から同質なものや類似したものに気づき, 日常生活の中で関心をもつこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りにあるものを用いて, ものの色や形, 大きさ, 目的, 用途及び機能に着目し, 共通点や相違点について考えて, 区別したり, 分類したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りにあるものから, いろいろな形を見付け, 「丸の仲間」「三角の仲間」「四角の仲間」「その他の形」に分けたり, 表したりする。</li> <li>具体物を用いて形を作ったり分解したりする活動の中で, 三角や四角などでものの形を表したり, 表したのから三角や四角などを見付けたりする。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>スタンプ遊びや型抜きなどの遊びを通して, ものの色や形などに着目して, 同じものや似ているものに関心を持ち, その遊びを繰り返ししたり, 同じものを集めたりする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 身の回りにあるものの形を図形として捉えること。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨ ものともとの関係に注意を向け, ものの属性に気づき, 関心をもって対応しながら, 表現する仕方を見つけ出し, 日常生活で生かすこと。</li> <li>ものの色や形などに注目して似ているものを集めたり「おなじ」「ちがう」で区別したりする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りにあるものの形を見て, 丸, 三角, 真四角(正方形), 長四角(長方形)などで表現する。</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>⑩ 身の回りにあるものの形の観察などをして, ものの形を認識したり, 形の特徴を捉えたりすること。</li> <li>身の回りにあるものの形を三角, 真四角(正方形), 長四角(長方形)などで分けたり, これらの形の特徴を捉えたりする。</li> </ul>

		中 1 段階	中 2 段階	高 1 段階	高 2 段階
図形	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りでかどが直角のものを見ついたり、紙を折って直角を作ったりするなどの活動を通して直角の意味（平角（<math>180^\circ</math>）が2等分されたものであること）を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>垂直の意味（二つの直線が直角に交わる）を理解する。</li> <li>平行の意味（一つの直線に垂直な二つの直線は平行である）を理解する。</li> <li>直線の垂直，平行は2本の直線の位置関係を表していることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 三角形や四角形など多角形についての簡単な性質を理解すること。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 正方形や長方形で捉えられる箱の形をしたものについて理解し，それらを構成したり，分解したりすること。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形について，どんな三角形でも，3つの角の大きさを加えると<math>180</math>度になるという性質を理解する。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・6枚の正方形や長方形を貼り合わせて箱の形を構成する。</li> <li>・12本のひごを用いて正方形や長方形の箱の形を構成する。</li> <li>・紙の箱から面を切り取って正方形や長方形の形を取り出したり，それを組み合わせて箱の形を構成したりする。</li> <li>・立体図形は平面図形によって構成されていることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 円について，中心，半径及び直径を知ること。また，円に関連して，球についても直径などを知ること。</li> <li>・円による模様作りなどの活動を通して，コンパスの操作に慣れる。</li> <li>・球を平面で切ると切り口はどれも円になることに気付く。</li> <li>・紙で作った円を折ったり，コマ作りをしたりする活動を通して，円の中心を見つける。</li> <li>・具体的な活動を通して，円の概念（円周上のどの点も中心から等距離にあること）や，半径や直径が無数にあることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四角形について，どんな四角形でも，4つの角の大きさを加えると<math>360</math>度になるという性質を理解する。</li> <li>・五角形についても，三角形の性質を用いると，5つの角の大きさを加えると<math>540</math>度になるという性質を理解する。</li> <li>④ 円と関連させて正多角形の基本的な性質を知ること。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 直角，頂点，辺及び面という用語を用いて図形の性質を表現すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球をちょうど半分に切った場合の切り口が最大になることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正多角形には円の内側にぴったり入る（円に内接する），円の外側にぴったり接する（円に外接する）などの性質があることを理解する。</li> <li>・この性質を基に正多角形を円と組み合わせて作図をする活動を通して，正多角形の性質を，円の性質と関連付けて理解する。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を通して，直角，頂点，辺，面という用語を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直方体などの立体ではさむなどで，球の直径の大きさを体験的に理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 円周率の意味について理解し，それを用いること。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 基本的な図形が分かり，その図形をかいたり，簡単な図表を作ったりすること。</li> </ul>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形，四角形，正方形，長方形，直角三角形が分かり，それらの図形をかき，簡単な図表を作る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・円について直径の長さ，円周の長さとの間の関係を調べる活動を通して，円周の長さは直径の長さが常に同じ比率の関係になっていることに気付く。</li> <li>・円周の長さは，円に内接する正六角形の周りの長さ（半径の6倍）より大きいことが分かる。</li> <li>・円周の長さは，円に外接する正方形の周りの長さ（直径の4倍）より小さいことが分かる。</li> <li>・実際にいくつかの円について直径の長さ，円周の長さを測定するなどして帰納的に考えることにより，どんな大きさの円についても円周の長さの直径の長さに対する割合が一定であることを理解する。</li> <li>・直径の長さから円周の長さを，逆に円周の長さから直径の長さを計算する。</li> <li>・直径の長さ，円周の長さ，円周率の関係について理解する。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 正方形，長方形及び直角三角形をかいたり，作ったり，それらを使って平面に敷き詰めたりすること。</li> </ul>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・正方形，長方形，直角三角形をかいたり，ひごを並べたり，紙を折ったり，色板を並べたりする。</li> </ul>			

算数・数学

		小1段階	小2段階	小3段階
図形	知識及び技能		イ 身の回りにあるものの形	イ 角の大きさ
			㊦ 身の回りにあるものの形に関心をもち、丸や三角、四角という名称を知ること。	㊦ 傾斜をつくると角ができることを理解すること。
			・提示された図形を用いながら、丸、三角、四角という名称を知る。	・斜面にビー玉を転がしたり、ミニカーを滑らせたりするなどの活動を通して、傾斜の大きさによって速さが決まることが分かる。
			㊧ 縦や横の線、十字、△や□をかくこと。	・角の大きい・小さいを理解する。
			・縦や横の線を書く。 ・十字や△や□を書く。	㊦ 傾斜が変化したときの斜面と底面の作り出す開き具合について、大きい・小さいと表現すること。
			㊦ 大きさや色など属性の異なるものであっても形の属性に着目して、分類したり、集めたりすること。	・転がる速さを比べたり、抽出した角の大きさを比べたりする活動を通して、角の大きさについて大きい・小さいと判断したり、表現したりする。
		・身の回りにある具体物を「丸の仲間」「三角の仲間」「四角の仲間」に分ける。		
思考力・判断力・表現力等			㊦ 身の回りにあるものの形に関心を向け、丸や三角、四角を考えながら分けたり、集めたりすること。	㊦ 傾斜が変化したときの斜面と底面の作り出す開き具合について、大きい・小さいと表現すること。
			・身の回りにある具体物を丸や三角、四角を考えながら、分けたり、集めたりする。	・転がる速さを比べたり、抽出した角の大きさを比べたりする活動を通して、角の大きさについて大きい・小さいと判断したり、表現したりする。

算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
図形	思考力・判断力・表現力等	<p>⑦ 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えとともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉えること。</p> <p>・図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を見だし、身の回りのものの形を図形として捉える。</p>	<p>⑦ 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を見だし、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉え直すこと。</p> <p>・垂直や平行、辺の長さや角の大きさなどから図形の性質を見出すとともに、三角形、四角形などの図形を説明したり、表したりする。</p>	<p>⑦ 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を見だし、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉え直すこと。</p> <p>・図形を構成する要素（辺の長さや角の大きさ）や位置関係に着目し、構成の仕方を見だし、図形の性質を見出す。</p> <p>⑧ 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を見だし、図形の性質を見だし、その性質を筋道を立てて考え説明したりすること。</p> <p>・ぴったりと重なる（合同）という具体的な操作で、対応する辺の長さや角の大きさが等しいことに置き換えて考えたり、説明したりする。</p>	<p>⑦ 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を見だし、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉え直すこと。</p> <p>・縮図や拡大図では、対応する角の大きさが等しいことに気付く。</p> <p>・縮図や拡大図では、対応している角の大きさが全て等しく、対応している辺の長さの比がどこでも一定であることが分かる。</p> <p>・縮図や拡大図の辺の長さや角の大きさの相等関係について考察し、縮図や拡大図を作図する。</p> <p>・線対称や点対称の性質を利用して線対称な図形や点対称な図形を作図する。</p>
	知識及び技能	<p>イ 面積</p> <p>⑦ 面積の単位 [平方センチメートル(<math>\text{cm}^2</math>), 平方メートル(<math>\text{m}^2</math>), 平方キロメートル(<math>\text{km}^2</math>)] について知り、測定の意味について理解すること。</p> <p>・一辺の長さが1 cmの正方形の面積を <math>1 \text{ cm}^2</math> と表すことが分かる。</p> <p>・一辺の長さが1 mの正方形の面積を <math>1 \text{ m}^2</math> と表すことが分かる。</p> <p>・一辺の長さが1 kmの正方形の面積を <math>1 \text{ km}^2</math> と表すことが分かる。</p> <p>・敷き詰めた単位図形の個数によって数値化したり、単位図形の一辺の長さの単位を手掛かりに単位を選んだりする。</p> <p>・広さは縦横2方向に広がって決まることに気付く。</p> <p>⑧ 正方形及び長方形の面積の求め方について知ること。</p> <p>・一辺の長さが1 cmの正方形の面積などの単位図形が縦横にそれぞれ何個ずつ並ぶかを求める。</p> <p>・縦横の辺の長さに注目して、単位図形の個数を計算によって求める。</p>	<p>イ 立体図形</p> <p>⑦ 立方体、直方体について知ること。</p> <p>・立方体は、六つの正方形で囲まれた立体図形であることが分かる。</p> <p>・直方体は、六つの長方形で囲まれた立体図形、または、二つの正方形と四つの長方形で囲まれた立体図形であることが分かる。</p> <p>⑧ 直方体に関連して、直線や平面の平行や垂直の関係について理解すること。</p> <p>・直方体の辺や面について、向かい合う面は平行になることが分かる。</p> <p>・直方体の辺や面について、隣り合う面は垂直になることが分かる。</p> <p>・直方体の辺や面について、12本の辺のうち4本ずつ三組の辺がそれぞれ平行になることが分かる。</p> <p>・直方体の辺や面について、一つの辺が二つの面に垂直であることが分かる。</p> <p>・直方体の辺や面について、一つの頂点に集まる三つの辺が互いに垂直であることが分かる。</p> <p>⑨ 見取り図、展開図について知ること。</p> <p>・見取り図や展開図は立体図形を平面上に表現するための方法であることが分かり、そのよさが分かる。</p> <p>・一つの立体図形から、一通りではなくいくつかの展開図をかくことができることを実際に数種類の展開図から立体を作って同じになることを確かめる。</p>	<p>イ 概形やおよその面積</p> <p>⑦ 身の回りにある形について、その概形を捉え、およその面積などを求めること。</p> <p>・対象物を三角形や四角形のように測定しやすい形に捉えたり、それらの図形に分割した形として捉えたりして、およその面積を求める。</p>	



算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
知識及び技能				<ul style="list-style-type: none"> <li>立体を切り開き展開図を作る活動を通して、展開図からできあがる立体図形を想像する。</li> <li>㊸ 基本的な角柱や円柱について知ること。</li> <li>模型や具体物を観察するなどの活動を通して、角柱や円柱の構成要素である頂点や辺や面の個数や面の形を捉えたり、辺と辺、辺と面、面と面の平行、垂直の関係を捉える。</li> </ul>	
	思考力・判断力・表現力等		<ul style="list-style-type: none"> <li>㊸ 面積の単位に着目し、図形の実積について、求め方を考えたり、計算して表したりすること。</li> <li>面積の測定も長さやかさ、重さと同様に単位を決めればそれを基準に測定した数で表せることに気付く。</li> <li>面積は計算によって求められるが、計器を用いて直接数値化できないことに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊸ 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、立体図形の平面上での表現や構成の仕方を考察し、図形の性質を見いだすとともに、日常の事象を図形の性質から捉え直すこと。</li> <li>図形を構成する要素である底面、側面に着目し、図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直す。</li> <li>見取り図や展開図をかくことを通して、辺と辺、辺と面、面と面のつながりや位置関係を調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊸ 図形を構成する要素や性質に着目し、筋道を立てて面積などの求め方を考え、それを日常生活に生かすこと</li> <li>身の周りの具体的な形を基本的な図形と対応させ、測定する見通しをもち、筋道を立てて面積や体積を求める。</li> </ul>
			ウ 角の大きさ	ウ ものの位置	ウ 円の面積
図形	知識及び技能		<ul style="list-style-type: none"> <li>㊸ 角の大きさを回転の大きさとして捉えること。</li> <li>一つの頂点から出る2本の辺が作る形が角であることが分かる。</li> <li>頂点を中心にして1本の辺を回転させたとき、その回転の大きさを角の大きさということを理解する。</li> <li>㊸ 角の大きさの単位(度(°))について知り、測定の意味について理解すること。</li> <li>角の大きさの単位を定めることによって、単位の幾つかによって数値化できることを理解する。</li> <li>分度器の目盛りの構造を調べて単位を知る。</li> <li>角の大きさは、辺の長さや図形の大きさによらず、辺の開き具合が大きさを表すことが分かる。</li> <li>㊸ 角の大きさを測定すること。</li> <li>分度器で角の大きさを測定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊸ ものの位置の表し方について理解すること。</li> <li>ものの位置を特定するには基準となる位置をどこかに定める必要があることに気付く。</li> <li>空間の中にあるものの位置の表し方について、縦、横、高さの3方向からどのくらいの距離にあるかによってその位置が特定できることが分かる。</li> <li>左右、上下の平面的な広がりがあるときは、左右上下の二つの方向から表現していく必要があることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊸ 円の面積の計算による求め方について理解すること。</li> <li>円の面積は、(半径)×(半径)×(円周率)で求めることができることを理解し、円の面積を求める。</li> <li>公式が半径を一辺とする正方形の面積の3.14倍を意味していることを、図と関連付けて理解する。</li> </ul>
	思考力・判断力・表現力等		<ul style="list-style-type: none"> <li>㊸ 角の大きさの単位に着目し、図形の角の大きさを的確に表現して比較したり、図形の考察に生かしたりすること。</li> <li>角の大きさの単位や測定の意味を理解することで、図形の角の大きさを的確に表現して比較したり、図形の考察に生かしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊸ 平面や空間における位置を決める要素に着目し、その位置を数を用いて表現する方法を考察すること。</li> <li>平面上の位置を定める方法として基準点を定め、縦、横の2方向からどのくらいの距離にあるかに着目し、その位置を数を用いて表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊸ 図形を構成する要素などに着目し、基本図形の実積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。</li> <li>円の面積は、一辺の長さが半径に等しい正方形の実積の2倍と4倍の間にあると捉える。</li> </ul>

算数・数学

	思考力・判断力等	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
		—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間の位置を定める方法として縦、横、高さの3方向からどのくらいにあるか着目し、その位置を数を用いて表現する。</li> </ul>
図形	知識及び技能	—	—	エ 平面図形の面積 ㉞ 三角形, 平行四辺形, ひし形, 台形の面積の計算による求め方について理解すること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>三角形は, 長方形や正方形の面積の半分であることが分かり, 計算によって面積を求める。</li> <li>平行四辺形は, 長方形や三角形の面積の求め方を用いて平行四辺形の面積を計算によって求める。</li> <li>ひし形は, 長方形や正方形の面積の半分であることが分かり, 計算によって求める。</li> <li>台形は, 正方形や平行四辺形など既習の計算による求積が可能な図形にすることで面積を計算によって求める。</li> </ul>	エ 立体図形の体積 ㉞ 体積の単位(立方センチメートル(c㎥), 立方メートル(m <sup>3</sup> ))について理解すること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>一辺の長さが1cmの立方体の体積が1c㎥であることを知り, 立体の体積の単位となる大きさであることが分かる。</li> <li>一辺の長さが1mの立方体の体積が1m<sup>3</sup>であることを知り, 立体の体積の単位となる大きさであることが分かる。</li> </ul> ㉟ 立方体及び直方体の体積の計算による求め方について理解すること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>単位体積の立方体を敷き詰めた1段分の個数を(縦)×(横), その段の個数を(高さ)でそれぞれ表すことができることについて分かる。</li> <li>直方体(立方体)の体積を(縦)×(横)×(高さ)で求めることが分かる。</li> </ul> ㊱ 基本的な角柱及び円柱の体積の計算による求め方について理解すること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>角柱や円柱の体積は, (底面積)×(高さ)で求められることが分かる。</li> </ul>
		—	—	㉞ 図形を構成する要素などに着目して, 基本図形の面積の求め方を見いだすとともに, その表現を振り返り, 簡潔かつ的確な表現に高め, 公式として導くこと。 <ul style="list-style-type: none"> <li>図形の一部を移動して, 計算による求積が可能な図形に等積変形させたり, 既習の計算による求積が可能な図形の半分であるとみたり, 既習の計算による求積が可能な図形に分割して考えたりする中で, 数学的な見方・考え方を働かせて自ら工夫して面積を求める。</li> <li>計算による求め方を通して三角形や平行四辺形, ひし形, 台形の面積は公式で求められることを理解し, 公式を使って求められるようにする。</li> </ul>	㉞ 体積の単位や図形を構成する要素に着目し, 図形の体積の求め方を考えとともに, 体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>立方体や直方体には, 単位体積となる立方体が規則正しく並んでいることをもとに, 計算を用いて体積を求めたり, (直方体の体積) = (縦) × (横) × (高さ) という公式を見いだしたりする。</li> </ul> ㊱ 図形を構成する要素に着目し, 基本図形の体積の求め方を見いだすとともに, その表現を振り返り, 簡潔かつ的確な表現に高め, 公式として導くこと。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(直方体の体積) = (縦) × (横) × (高さ) = (底面積) × (高さ)と捉え直して, (角柱や円柱の体積) = (底面積) × (高さ)と考える。</li> </ul>
	思考力・判断力・表現力等	—	—	—	—

算数・数学

段階の目標		小1段階	小2段階	小3段階
測定	知識及び技能	ア 身の回りのものの量の大きさに気付き、量の違いについての感覚を養うとともに、量に関わることについての技量を身に付けるようにする。	ア 身の回りにおける具体物の量の大きさに注目し、量の大きさの違いが分かるとともに、二つの量の大きさを比べることについての技量を身に付けるようにする。	ア 身の回りにおける長さや体積などの量の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、測定することなどについての技量を身に付けるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	イ 身の回りにおけるもの大きさや長さなどの量の違いに注目し、量の大きさにより区別する力を養う。	イ 量に着目し、二つの量を比べる方法が分かり、一方を基準にして他方と比べる力を養う。	イ 身の回りにおける量の単位に着目し、目的に応じて量を比較したり、量の大小及び相等関係を表現したりする力を養う。
	学びに向かう力、人間性等	ウ 数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	ウ 数量や図形に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことをのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。
内容		小1段階	小2段階	小3段階
測定	知識及び技能	ア 具体物のもつ大きさ	ア 二つの量の大きさ	ア 身の回りのものの量の単位と測定
		<p>㉞ 大きさや長さなどを、基準に対して同じか違うかによって区別すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びや生活の中にある体験的な活動を通して、大きさや長さ、量などの違いに気付く。</li> <li>・大小二つの○の形をはめ板に入れる。(□や△の形はめでも同様に)</li> <li>・大中小3つの○の形をはめ板に入れる。(□や△の形はめでも同様に)</li> <li>・大きさなどの異なる同種の二つの具体物について、「大きい」「小さい」「多い」「少ない」と区別し表現する。</li> </ul>	<p>㉞ 長さ、重さ、高さ及び広さなどの量の大きさが分かること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を操作する中で、長いことが分かる。</li> <li>・具体物を操作する中で、重いことが分かる。</li> <li>・具体物を操作する中で、高いことが分かる。</li> <li>・体験的な活動をする中で、広いことが分かる。</li> </ul>	<p>㉞ 長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの長さを比べるとき、一方の端を揃えて他方の端の位置によって、長さを直接比較する。</li> <li>・二つの長さを直接並べることができないとき、紙テープなどに置き換えて長さを測る。(間接比較)</li> <li>・二つの広さを比べるとき、ハンカチなどを重ねることで、広さを直接比較する。</li> <li>・二つの広さを直接比較することができないとき、紙テープなどに置き換えて縦と横の長さを測る。(間接比較)</li> </ul>
		<p>㉟ ある・ない、大きい・小さい、多い・少ない、などの用語に注目して表現すること。</p>	<p>㉟ 二つの量の大きさについて、一方を基準にして相対的に比べること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つのかさを比べるとき、容器に入る水の量を直接比べる。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・量の大きさの違いを感じ取ったり、その違いによって二つの量を区別したりする。</li> <li>・二つの量を「大きい」「小さい」「多い」「少ない」などの用語を用いて区別する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの量を並べたときに、出っ張っているほうを長いと判断したり、一方を基準とした場合は、他方が長くなったり、短くなったりすることに気付いたりする。</li> <li>・二つの量を持ったときに、力が必要な方を重いと判断したり、一方を基準とした場合は、他方が重くなったり、軽くなったりすることに気付いたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの広さを直接比較することができないとき、容器に入った砂の量で比べる。(間接比較)</li> </ul> <p>㉟ 身の回りにおけるもの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比較すること。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・量の大きさの違いを感じ取ったり、その違いによって二つの量を区別したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの量を見たときに、出ているほうを高いと判断したり、一方を基準とした場合は、他方が高くなったり、低くなったりすることに気付いたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉛筆や教科書など、任意単位を用いて、あるものの幾つ分かで大きさを比較する。</li> </ul>		

算数・数学

段階の目標		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
測定	知識及び技能	ア 身の回りにある長さ、体積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、それらを測定することについての技能を身に付けるようにする。	-	-	-
	思考力等	イ 身の回りの事象を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力を養う。	-	-	-
	学力、人間性等	ウ 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	-	-	-
内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
測定	知識及び技能	<p>ア 量の単位と測定</p> <p>㉞ 目盛の原点を対象の端に当てて測定すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものさしやメジャーなどの目盛りの原点を対象の端に当てて測る。</li> </ul> <p>㉟ 長さの単位 [ (mm), (cm), (m), (km) ] や重さの単位 [ (g), (kg) ] について知り、測定の意味を理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長さの単位 [ (mm), (cm), (m), (km) ] について知る。</li> <li>・重さの単位 [ (g), (kg) ] について知る。</li> <li>・普遍単位を基準に数値化することによって、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりすることができることを理解する。</li> </ul> <p>㊱ かさの単位 [ (mL), (dL), (L) ] について知り、測定の意味を理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かさの単位 [ (mL), (dL), (L) ] について知る。</li> <li>・普遍単位を基準に数値化することによって、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりすることができることを理解する。</li> </ul>	-	-	-

算数・数学

		小1段階	小2段階	小3段階
測定	知識及び技能		<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの量を見たときに、空間にゆとりがあるほうを広いと判断したり、一方を基準とした場合は、他方が広くなったり、狭くなったりすることに気付いたりする。</li> <li>㉞ 長い・短い、重い・軽い、高い・低い及び広い・狭いなどの用語が分かること。</li> <li>・体験的な活動の中で、長い・短い用語を用いて表現する。</li> <li>・体験的な活動の中で、重い・軽い用語を用いて表現する。</li> <li>・体験的な活動の中で、高い・低い用語を用いて表現する。</li> <li>・体験的な活動の中で、広い・狭い用語を用いて表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折り紙やハンカチなど、任意単位を用いて、あるものの幾つ分かで大きさを比較する。</li> <li>・コップ何杯分など、任意単位を用いて、あるものの幾つ分かで大きさを比較する。</li> </ul>
	思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉞ 大小や多少等で区別することに関心を持ち、量の大きさを表す用語に注目して表現すること。</li> <li>・二つの量を「大きい」「小さい」「多い」「少ない」などの用語を用いて表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉞ 長さ、重さ、高さ及び広さなどの量を、一方を基準にして比べることに関心をもったり、量の大きさを用語を用いて表現したりすること。</li> <li>・一方を基準にして比べることで、長い・短い、重い・軽い、高い・低いと判断したり、表現したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉞ 身の回りのものの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりすること。</li> <li>・同じ数値であっても単位とする量の大きさを見比べることで、大小を判断したり、表現したりする。（長い鉛筆3本分と短い鉛筆3本分など）</li> <li>・違う数値であっても単位の大きさによって同じ大きさがあると判断したり、表現したりする。</li> </ul>
	知識及び技能			<ul style="list-style-type: none"> <li>㉞ 日常生活の中で時刻を読むこと。</li> <li>・短針が時間、長針が分を表すことが分かる。</li> <li>・何時ちょうどが分かる。（1時～12時）</li> <li>・時計の短い針が数字と数字の間にあったとき、どの数字を過ぎたかが分かる。</li> <li>・長針が6を示すとき、何時半が分かる。</li> <li>・長針が1～12を示すとき、何分が分かる。</li> <li>・何時何分が分かる。</li> <li>㉞ 時間の単位（日、午前、午後、時、分）について知り、それらの関係を理解すること。</li> <li>・1日が24時間であることが分かる。</li> <li>・午前・午後・正午が分かる。</li> <li>・1時間が60分であることが分かる。</li> </ul>
	思考力・判断力・表現力等			<ul style="list-style-type: none"> <li>㉞ 時刻の読み方を日常生活に生かして、時刻と生活を結び付けて表現すること。</li> <li>・時刻と生活を結び付けて表現する。（起きるのは○時、寝るのは○時など）</li> </ul>

算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
測定	知識及び技能	<p>㊦ 長さ、重さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を選択したり、計器を用いて測定したりすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・およその大きさを見積り、測定する計器や方法について見通しをもつ。</li> <li>・目的に応じて計器や単位を選択したり、量の大きさを的確に測定したりする。</li> </ul>			
	思考力・判断力・表現力等	<p>㊧ 身の回りのものの特徴に着目し、目的に適した単位で量の大きさを表現したり、比べたりすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・測定する対象の大きさや形状に応じた単位や計器を適切に選んで測定し、量を数値化して比較する。</li> </ul>			
		イ 時刻や時間			
	知識及び技能	<p>㊨ 時間の単位(秒)について知ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1分が60秒であることが分かる。</li> </ul> <p>㊩ 日常生活に必要な時刻や時間を求めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間後や前の時刻を模型時計などで表す。</li> <li>・時間を時計の文字盤の目盛りや数直線表示を手掛かりに求めたりする。</li> </ul>			
	思考力・判断力・表現力等	<p>㊨ 時間の単位に着目し、簡単な時刻や時間の求め方を日常生活に生かすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵図などを用いて時刻や時間を求めたり、説明したりする。</li> <li>・生活の中で時刻や時間と生活を結び付けて考えたり、表現したりする。</li> </ul>			

算数・数学

段階の目標		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
変化と関係	知識及び技能	-	ア 二つの数量の関係や変化の様子を表や式、グラフで表すことについて理解するとともに、二つの数量の関係を割合によって比べることについての技能を身に付けるようにする。	ア 比例の関係や異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方、百分率について理解するとともに、目的に応じてある二つの数量の関係と別の二つの数量とを比べたり、表現したりする方法についての技能を身に付けるようにする。	ア 比例や反比例の関係、比について理解するとともに、伴って変わる二つの数量を見いだし、それらの関係について表や式を用いて表現したり、目的に応じて比で処理したりする方法についての技能を身に付けるようにする。
	思考力、表現力、判断力	-	イ 伴って変わる二つの数量の關係に着目し、変化の特徴に気付く、二つの数量の關係を表や式、グラフを用いて考察したり、割合を用いて考察したりする力を養う。	イ 伴って変わる二つの数量の關係に着目し、その変化や対応の特徴を表や式を用いて考察したり、異種の二つの量の割合を用いた数量の比べ方を考察したりする力を養う。	イ 伴って変わる二つの数量の關係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いて変化や対応の特徴を考察したり、比例の關係を前提に二つの数量の關係を考察したりする力を養う。
	学びに向かう力、人間性等	-	ウ 数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ 数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付く学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ 数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさを実感し、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
変化と関係	知識及び技能	-	ア 伴って変わる二つの数量	ア 伴って変わる二つの数量	ア 伴って変わる二つの数量
		-	<p>㉞ 変化の様子を表や式を用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和や差が一定の場合など、伴って変わる二つの数量の關係について表を用いて調べる。</li> <li>・積や商が一定の場合など、伴って変わる二つの数量の關係について表を用いて調べる。</li> <li>・変量を□や○などを用いて表す。</li> <li>・ある場面での数量や図形についての事柄が、ほかのどんな事柄と關係するかを理解する。</li> <li>・二つの事柄の変化や対応の特徴を調べる。</li> <li>・見出した変化や対応の特徴を問題解決に活用し、考え方や結果を表現する。</li> </ul>	<p>㉞ 簡単な場合について、比例の關係があることを知ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表を用いて一方が2倍、3倍、4倍になるとき、それに伴って他方も2倍、3倍、4倍になる二つの数量の關係が分かる。</li> </ul>	<p>㉞ 比例の關係の意味や性質を理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比例の關係とは、二つの数量の一方がm倍になれば、それと対応する他方の数量もm倍になるということが分かる。</li> <li>・比例の關係において、<math>y = (\text{決まった数}) \times x</math>の式で表されることが分かる。</li> <li>・比例する二つの数量についてのグラフが直線になることが分かる。</li> <li>㉟ 比例の關係を用いた問題解決の方法について理解すること。</li> <li>・その数量を直接調べるのが難しい場面において、調べやすく、かつ、その数量と比例の關係にあるとみることのできる別の数量を見いだす。</li> <li>・二つの数量の比例關係に着目することで、目的に応じて表や式、グラフを用いて關係を表現し、変化や対応の特徴を見いだす。</li> <li>・一方の数量がm倍ならば、他方の数量もm倍になるなど、比例の変化や対応の特徴を確認した後、それらの考えを用いて、問題の解決を行う。</li> </ul>

算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
変化と関係	知識及び技能				<p>㊦ 反比例の関係について理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反比例の関係においては、二つの数量の一方がm倍になれば、それと対応する他方の数量は1/m倍になるということが分かる。</li> <li>・二つの数量の対応している値の積に着目すると、それがどこも一定になっているということが分かる。</li> <li>・反比例の関係を表す式は、<math>x \times y = (\text{決まった数})</math> という形の式で表すことができることが分かる。</li> </ul>
	思考力・判断力・表現力等		<p>㊦ 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、表や式を用いて変化の特徴を考察すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある数量の大きさを知りたいとき、他の関係する数量に注目して、それらの関係を見いだし、ある数量を求める。</li> </ul>	<p>㊦ 伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比例の関係にあるとみてよいかどうかを確認し、変化や対応の規則性を見付けだし、それらの関係を表や式で表し、変化や対応の特徴を見いだす。</li> <li>・見いだしたきまりを基に、数値を変えるなどして問題場面の条件を変更することで、変化や対応の特徴を発展的に考察する。</li> </ul>	<p>㊦ 伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して、変化や対応の特徴を見いだすとともに、それらを日常生活に生かすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比例の関係にあるとみてよいかどうかを確認し、比例の関係にあるとみることのできる数量として、幾つかの候補がある場合、どの数量に着目するかを、目的や状況を考えながら判断し、選択する。</li> <li>・目的に応じて、表や式、グラフなど適切な表現を選択して、変化や対応の特徴を考察する。</li> <li>・比例の関係をを用いると能率よく問題を解決できる場面において、得られた結果について、現実場面でどういう意味をもつかを考え、目的に照らして、問題解決につながるかどうか予想する。</li> </ul>
				イ 二つの数量の関係	イ 異種の二つの量の割合として捉えられる数量
	知識及び技能		<p>㊦ 簡単な場合について、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを知ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの数量AとBの関係でBのを基準にする大きさ(基準量)としたとき、A(比較量)がどれだけに相当するかを、<math>A \div B</math>の商で比べることができることを理解する。</li> <li>・A、Bという二つの数量の関係と、C、Dという二つの数量の関係を割合で比べる際には、二つの数量の間が比例関係であることを理解する。</li> </ul>	<p>㊦ 速さなど単位量当たり大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・速さを、一定の長さを移動するのにかかる時間や、単位時間当りに移動する長さとして捉え、それぞれを数値化する。</li> <li>・<math>(\text{速さ}) = (\text{長さ}) \div (\text{時間})</math> として表す。</li> </ul>	<p>㊦ 比の意味や表し方を理解し、数量の関係を比で表したり、等しい比をつくらうすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>a : b</math> という比の表し方が分かり、数量の関係を比で表す。</li> <li>・<math>a/b</math> を <math>a : b</math> の比の値ということが分かり、比の値を求める。</li> </ul>



算数・数学

知識及び技能	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
思考力・判断力・表現力等		<p>⑦ 日常生活における数量の関係に着目し、図や式を用いて、二つの数量の関係を考察すること。</p>	<p>⑦ 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり、表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすこと。</p>	<p>⑦ 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。</p>
		<p>・値上げた2種類の物の値段を見比べながら考えるとき、Aは100円が200円に、Bは50円が150円としたとき、値上げた値段はAが2倍、Bが3倍に値上がりしたということが分かり、基準とする数量が異なっても、割合が変わらないとき、割合で比べることができるという数量の関係について着目する。</p> <p>・二つの数量の組について、基準量をそれぞれ決めて、基準量を1とみたとき、比較量がどれだけに当たるかを図や式で表す。</p> <p>・割合を用いて、数量の二つの数量の関係どうしを比べる。</p>	<p>・一つの量だけでは比較することができない事象に着目し、そのような量についてどのようにすれば比べられるのか、数値化できるのかということを考え、目的に応じた処理の仕方を工夫する。</p> <p>・速さは、単位時間当たり移動する長さとして捉えたり、一定の長さの移動に要する時間として捉えたりする。</p> <p>・どちらか一方の量を揃えて、もう一方の量の大小で比べると比べやすいことに気付く。</p>	<p>・比べるために必要となる二つの数量の関係を、比例の関係を前提に、割合でみてよいかを判断し、簡単な整数の組としての二つの数量の関係に着目する。</p> <p>・関係を図や式などを用いて表したり、それらを読み取ったりすることを通じて数量の関係を考察する。</p> <p>・二つの液量を混合したり、二つの長さを組み合わせたりするなど、部分と部分の関係どうしを考察する場面、二つの数量を配分する場面で、数量の関係を比で表現し、等しい比をつくるなどして考察する。</p>
変化と関係			ウ 二つの数量の関係	
			<p>⑦ ある二つの数量関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。</p> <p>・基準量を1として、比較量を割合として小数で表すことが分かる。 (例 全シュート数を基準量とし、その大きさを1として、それに対する入ったシュート数の割合を小数で表すことで、シュートのうまさ比べる。10回中6回入ると0.6の割合で入るうまさ)</p> <p>・資料の全体と部分、部分と部分の関係どうしを比べる場合があることを知る。</p> <p>・「Bを基にしたAの割合」「Bの□倍がA」など、割合を示す表現から、基準量や比較量を明確にする。</p> <p>⑧ 百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。</p>	
知識及び技能				

算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
変化と関係	知識及び技能			<ul style="list-style-type: none"> <li>・百分率(パーセント, %) (基準量を100として, それに対する割合で表す方法)が分かる。</li> <li>・「定価の20%引き」, 「降水確率は20%」など, 日常生活の中で用いられている百分率をチラシやテレビなどから見つける。</li> <li>・百分率が日常生活の中で用いられている割合の便利な表現であることに気付く。</li> <li>・実際の場面などで, 計算機等を用いて百分率を求める。</li> </ul>	
	思考力・判断力・表現力等			<p>⑦ 日常の事象における数量の関係に着目し, 図や式などを用いて, ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し, それを日常生活に生かすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比べる対象を明確にし, 比べるために必要となる二つの数量の関係を, 比例関係を前提に, 割合をみてよいかを判断する。</li> <li>・二つの数量の関係を, 得られた割合の大小から判断したり, 割合を使って計算をした結果から問題を解決したりする。(例 打率やシュート率, 勝率など割合を用いて比べることや, 10%の増量, 1割引きなど割合を用いて考える。)</li> </ul>	

算数・数学

段階の目標		小1段階	小2段階	小3段階
データの活用	知識及び技能	—	ア 身の回りのものや身近な出来事につながりに関心を持ち、それを簡単な絵や記号などを用いた表やグラフで表したり、読み取ったりする方法についての技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りにある事象を、簡単な絵や図を用いて整理したり、記号に置き換えて表したりしながら、読み取り方について理解することについての技能を身に付けるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	—	イ 身の回りのものや身近な出来事につながりなどの共通の要素に着目し、簡単な表やグラフで表現する力を養う。	イ 身の回りの事象を、比較のために簡単な絵や図に置き換えて簡潔に表現したり、データ数を記号で表現したりして、考える力を養う。
	学びに向かう力、人間性等	—	ウ 数量や図形に関心を持ち、算数で学んだことをのよさや楽しさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。
内容		小1段階	小2段階	小3段階
データの活用	知識及び技能	—	ア ものの分類に関わる数学的活動	ア 身の回りにある事象を簡単な絵や図、記号に置き換えること
		—	⑦ 身近なものを目的、用途、機能に着目して分類すること。	⑦ ものともとの対応やものの個数について、簡単な絵や図に表して整理したり、それらを読んだりすること。
		—	・動物や野菜など、身近なものを、「〇〇のなかま」で分ける。 ・乗り物や生活に使う道具など、目的や用途などで共通点や相違点を見つけて仲間分けをする。	・ものの個数を数えたり比べたりするとき、種類ごとに分類したり、整頓して並べたりしながら数の大小を比べる。 ⑧ 身の回りにあるデータを簡単な記号に置き換えて表し、比較して読み取ること。
	—	—	・得点表などで、数をシールなどに置き換えて表にして多少を比べる。	
思考力・判断力・表現力等	—	⑦ 身近なものの色や形、大きさ、目的及び用途等に関心に向け、共通点や相違点を考えながら、興味をもって分類すること。	⑦ 個数の把握や比較のために簡単な絵や図、記号に置き換えて簡潔に表現すること。	
	—	・身近なものの色や形、大きさ、目的及び用途等に注目し、同じや違いを考えながら分類する。	・毎日の天気調べの際に、晴れ・曇り・雨マーク等を種類ごとに並べて整理する。「長さ」「高さ」によって、事柄の多少を比較できるようにする。	

算数・数学

段階の目標		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
データの活用	知識及び技能	ア 身の回りにあるデータを分類整理して簡単な表やグラフに表したり、それらを問題解決において用いたりすることについての技能を身に付けるようにする。	ア データを表や棒グラフ、折れ線グラフで表す表し方や読み取り方を理解し、それらを問題解決における用い方についての技能を身に付けるようにする。	ア データを円グラフや帯グラフで表す表し方や読み取り方、測定した結果を平均する方法について理解するとともに、それらの問題解決における用い方についての技能を身に付けるようにする。	ア 量的データの分布の中心や散らばりの様子からデータの特徴を読み取る方法を理解するとともに、それらを問題解決における用い方についての技能を身に付けるようにする。
	思考力・判断力・表現力等	イ 身の回りの事象を、データの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり、考察したりする力を養う。	イ 身の回りの事象について整理されたデータの特徴に着目し、事象を簡潔に表現したり、適切に判断したりする力を養う。	イ 目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して、表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力を養う。	イ 目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して、表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に捉え考察したりする力を養う。
	学びに向かう力、人間性等	ウ データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気づき、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ データの活用について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ データの活用について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさを実感し、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
データの活用	知識及び技能	ア 身の回りにあるデータを簡単な表やグラフで表したり、読み取ったりすること	ア データを表やグラフで表したり、読み取ったりすること	ア データの収集とその分析	ア データの収集とその分析
		㉗ 身の回りにある数量を簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりすること。	㉗ データを日時や場所などの観点から分類及び整理し、表や棒グラフで表したり、読んだりすること。	㉗ 数量の関係を割合で捉え、円グラフや帯グラフで表したり、読んだりすること。	㉗ 代表値の意味や求め方を理解すること。
		・好きな遊び調べなど、データを整理する観点を定め、分類整理する。	・日時、曜日、時間や場所などの観点から分類の項目を選び、分かりやすく整理する。	・数量の関係を割合で捉え、基準量と比較量との関係を円グラフや帯グラフで表したり、読んだりする。	・平均値、中央値、最頻値の意味が分かり、求める。
		・簡単な表で表したり、簡単な記号を並べたグラフで表したりする。	・身の回りにある事象について、表を用いて表したり、表を読んだりする。	① 円グラフや帯グラフの意味やそれらの用い方を理解すること。	① 度数分布を表す表や柱状グラフの特徴及びそれらの用い方を理解すること。
・表やグラフから特徴を読み取る。	・表と関連付けながら、棒グラフで表す。	・円グラフは、 $1/2$ や $1/4$ といった割合を捉えやすいという特徴があるということを知る。	・度数分布表や柱状グラフの読み方が分かる。		
	・野菜の収穫数をまとめた表などを使い、数量の大小や差、最大値、最小値、項目間の関係、集団のもつ全体的な特徴などを読み取る。	・帯グラフは、複数のデータについて項目の割合を比較しやすいという特徴があるということを知る。	㉘ 目的に応じてデータを収集したり、適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を理解すること。		
	① データを二つの観点から分類及び整理し、折れ線グラフで表したり、読み取ったりすること。	② データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ること。	・統計的に解決する問題を設定し、その解決のために適したデータを収集し分類整理する。		

算数・数学

		小1段階	小2段階	小3段階
データの活用		—	イ 同等と多少	—
	知識及び技能	—	<p>⑦ ものともを対応させることにより、ものの同等や多少が分かること。</p> <p>・コップと歯ブラシなど、「組になるもの」を結びつけながら一対一の対応により、数が「同じ」が分かる。</p> <p>・カップと皿など、「組になるもの」を結びつけながら一対一の対応により、数が合わないことに気付き、「多い」「少ない」を判断する。</p>	—
	思考力・判断力・表現力等	—	<p>⑦ 身の回りにあるものの個数に着目して絵グラフなどに表し、多少を読み取って表現すること。</p> <p>・身近なものの数を絵グラフなどに表し、多い少ないを読み取って表現する。</p>	—
		—	ウ ○×を用いた表	—
	知識及び技能	—	<p>⑦ 身の回りの出来事から○×を用いた簡単な表を作成すること。</p> <p>・的当てゲームなどの活動の中で、当たったら○、当たらなかったら×など、○×を用いた簡単な表を作成する。</p> <p>⑧ 簡単な表で使用する○×の記号の意味が分かること。</p> <p>・○×の記号の意味が分かる。</p>	—

算数・数学

		中 1 段階	中 2 段階	高 1 段階	高 2 段階
データの活用	知識及び技能		<ul style="list-style-type: none"> <li>日時、曜日、時間や場所などの観点から項目を二つ選び、分類整理して表を用いて表したり、表を読んだりする。</li> <li>横軸に時間経過、縦軸にデータの値を記入し、各時間に相当する大きさを点で表し、それらを結んだ折れ線グラフで表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データに基づいて判断する統計的な問題解決の方法（問題、計画、データ、分析、結論）について知る。</li> <li>身の回りの事象について、興味・関心や問題意識に基づき、統計的に可能な問題を設定する。</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 表や棒グラフ、折れ線グラフの意味やその用い方を理解すること。</li> <li>棒グラフは、数量の大きさの違いを一目で捉えることができることが分かる。</li> <li>表やグラフは、データの特徴や傾向を捉えたり、考察したことの裏付けとして用いたりすることが分かる。</li> <li>折れ線グラフは、時間の経過に伴ってデータがどのように変化するかなど、変化の様子を把握することができることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しを立て、どのようなデータをどのように集めるかについて計画を立てる。</li> <li>データを集めて分類整理する。</li> <li>目的に応じて、観点を決めてグラフや表に表し、データの特徴や傾向をつかむ。</li> <li>問題に対する結論をまとめるとともに、さらなる問題を見いだす。</li> </ul>	
	思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、簡単な表やグラフを用いながら読み取ったり、考察したりすること。</li> <li>表やグラフを用いると視覚的に分かりやすくなることに気付き、用いることの有用性を実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、表や棒グラフを用いながら、読み取ったり、考察したり、結論を表現したりすること。</li> <li>⑧ 目的に応じてデータをまとめて分類及び整理し、データの特徴や傾向を見付けて、適切なグラフを用いて表現したり、考察したりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 目的に応じてデータをまとめて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して読み取り、その結論について多面的に捉え考察すること。</li> <li>⑧ 自分たちが出した結論やデータについて、別の観点から見直してみることで、異なる結論が導き出せないかを考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 目的に応じてデータをまとめて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察すること。</li> <li>⑧ 自分たちが出した結論や問題解決の過程が妥当なものであるかどうかを別の観点や立場から検討する。</li> <li>⑨ 第三者によって提示された統計的な結論が信頼できるだけの根拠を伴ったものであるかどうかを検討する。</li> </ul>

算数・数学

データの活用	知識及び技	小1段階	小2段階	小3段階
	思考力・判断力・表現力等	—	—	<p>・○を横に並べ、○の数を比べたり、数えたりするなどして、「同じ」「多い」「少ない」で表す。</p> <p>⑦ 身の回りの出来事を捉え、○×を用いた簡単な表で表現すること。</p> <p>・ゲームやチェック表など、身の回りの出来事を捉え、○×を用いて簡単な表で表現する。</p>

数学的活動

	小1段階	小2段階	小3段階
〔数学的活動〕	ア 内容の「A数量の基礎」、 「B数と計算」、「C図形」及び 「D測定」に示す学習については、 次のような数学的活動に取り組む ものとする。	ア 内容の「A数と計算」、「B 図形」、「C測定」及び「Dデ ータの活用」に示す学習につい ては、次のような数学的活動に取 り組むものとする。	ア 内容の「A数と計算」、「B 図 形」、「C測定」及び「Dデ ータの活用」に示す学習につい ては、次のような数学的活動に取 り組むものとする。
	(ア) 身の回りの事象を観察したり、 具体物を操作したりして、数量 や形に関わる活動	(ア) 身の回りの事象を観察したり、 具体物を操作したりする活動	(ア) 身の回りの事象を観察したり、 具体物を操作したりして、算数に主 体的に関わる活動
	(イ) 日常生活の問題を取り上げたり 算数の問題を具体物などを用い て解決したりして、結果を確かめ る活動	(イ) 日常生活の問題を具体物など を用いて解決したり結果を確かめ たりする活動	(イ) 日常生活の事象から見いだした 算数の問題を、具体物、絵図、式 などを用いて解決し、結果を確か める活動
	—	(ウ) 問題解決した過程や結果を、 具体物などを用いて表現する活動	(ウ) 問題解決した過程や結果を、 具体物や絵図、式などを用いて表 現し、伝え合う活動

算数・数学

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
データの活用	知識及び技能	—	—	イ 測定した結果を平均する方法	イ 起こり得る場合
		—	—	⑦ 平均の意味や求め方を理解すること。  ・多いところから少ないところへ移動しなからず方法が分かる。  ・全てを足し合わせたのち等分する方法が分かる。  ・平均（平均＝合計÷個数）の求め方が分かる。	⑦ 起こり得る場合を順序よく整理するための図や表などの使い方を理解すること。  ・規則に従って正しく並べたり、図や表に整理して見やすくしたりして、誤りなく全ての場合を明らかにする。
	—	—	⑦ 概括的に捉えることに着目し、測定した結果を平均する方法について考察し、それを学習や日常生活に生かすこと	⑦ 事象の特徴に着目し、順序よく整理する観点を決めて、落ちや重なりなく調べる方法を考察すること。	
			・何らかの対象を測定した結果について、全体の傾向を把握したいような場合に、平均の考え方をを用いてそれを妥当な数値として示し、全体の傾向を捉える。  ・多いところから少ないところへ移動させなからずという方法や、全てを足し合わせたのち等分するという方法を考察し、日常生活に生かす。	・あるものを固定して考えるなどして観点を決めて考えていき、落ちや重なりなく調べる。  ・図や表などに整理して表すことで、落ちや重なりなく調べる。	

数学的活動

		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
〔数学的活動〕	ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。	ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。	ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。	ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。	
	(ア) 日常生活の事象から見いだした数学の問題を、具体物や図、式などを用いて解決し、結果を確かめたり、日常生活に生かしたりする活動	(ア) 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数学の学習に関わる活動	(ア) 日常の事象から数学の問題を見いだして解決し、結果を確かめたり、日常生活等に生かしたりする活動	(ア) 日常の事象を数理的に捉え、問題を見いだして解決し、解決過程を振り返り、結果や方法を改善したり、日常生活等に生かしたりする活動	
	(イ) 問題解決した過程や結果を、具体物や図、式などを用いて表現し伝え合う活動	(イ) 日常の事象から見いだした数学の問題を、具体物や図、表及び式などを用いて解決し、結果を確かめたり、日常生活に生かしたりする活動	(イ) 数学の学習場面から数学の問題を見いだして解決し、結果を確かめたり、発展的に考察したりする活動	(イ) 数学の学習場面から数学の問題を見いだして解決し、解決過程を振り返り統合的・発展的に考察する活動	
	—	(ウ) 問題解決した過程や結果を、具体物や図、表、式などを用いて表現し伝え合う活動	(ウ) 問題解決の過程や結果を、図や式などを用いて数的に表現し伝え合う活動	(ウ) 問題解決の過程や結果を、目的に応じて図や式などを用いて数的に表現し伝え合う活動	





# 6 理 科

## ○内容の構造

- ・内容は、(ア)「知識及び技能」、(イ)「思考力、判断力、表現力等」の柱で示されています。なお、「学びに向かう力、人間性等」については、解説書の各段階の目標に、それぞれ示されています。
- ・(ア)「知識及び技能」、(イ)「思考力、判断力、表現力等」には、系統的・発展的を踏まえた内容の違いが示されていますので、下表にまとめています。

	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
(ア) 知識 及び 技能	それぞれの項目の内容について、 <u>各段階において以下のような活動を通してそれぞれの事項を身に付けるとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けることができるようにする。</u>			
	項目の内容を比較しながら調べる。	項目の内容を関係付けて調べる。	項目の内容を関係付けて調べたり、項目の内容に関わる条件を制御しながら調べたりする。	項目の内容を多面的に調べる。
(イ) 思考力、 判断力、 表現力等	それぞれの項目の指導内容について調べる中で、 <u>各段階について以下のような活動を通して、自分の考えを表現することができるようにする。</u>			
	項目の内容について調べる中で、差異点や共通点に気づき、疑問を持つ。	項目の内容について調べる中で、見出した疑問点について、既習の内容や生活経験を基に予想する。	項目の内容について調べる中で、それらの関係についての予想や仮説を基に、解決の方法を考える。	項目の内容について調べる中で、より妥当な考えを作り出す。

- ・指導内容は、以下の項目で構成されています。

生命	生物の構造と機能	生命の連続性	生物と環境の関わり
地球・自然	地球の内部と地表面の変動	地球の大気と水の循環	地球と天体の運動
物質・エネルギー	物質(粒子)の存在・結合・保存性・エネルギー	エネルギーの捉え方	エネルギーの変換と保存

## ○表の見方

- ・「中1段階」の内容は、小学部生活科とのつながりを考慮して設定されています。系統的・発展的に指導できるようにすることを念頭において指導に当たってください。
- ・解説の「指導計画の作成と内容の取扱い」に、指導上の配慮事項が示されています。
- ・次のように表記しています。

「ア、イ、…」：内容項目、「㉠、㉡、…」：指導内容、「・」：内容例、「※」：留意点

理科

理 科				
目標	自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって、観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって、観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1) 自然の事物・現象についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。		(1) 自然の事物・現象についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2) 観察、実験などを行い、疑問をもつ力と予想や仮説を立てる力を養う。		(2) 観察、実験などを行い、解決の方法を考える力とより妥当な考えをつくりだす力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	(3) 自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。		(3) 自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に生活に生かそうとする態度を養う。	
段階の目標	中 1 段階	中 2 段階	高 1 段階	高 2 段階
知識及び技能	ア 身の回りの生物の様子について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 生命の連続性についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わりについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 身の回りの生物の様子から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。	イ 人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについて、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。	イ 生命の連続性について調べる中で、主に予想や仮説を基に、解決の方法を考える力を養う。	イ 生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わりについて調べる中で、主にそれらの働きや関わりについて、より妥当な考えをつくりだす力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 身の回りの生物の様子について進んで調べ、生物を愛護する態度や学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	ウ 人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについて見いだした疑問を進んで調べ、生物を愛護する態度や学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。	ウ 生命の連続性について進んで調べ、生命を尊重する態度や学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。	ウ 生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わりについて進んで調べ、生命を尊重する態度や学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。
内容	中 1 段階	中 2 段階	高 1 段階	高 2 段階
生 命  生物の構造と機能	ア 身の回りの生物  ⑦ 生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあること。 ・身の回りで見られる様々な生物の色、形、大きさなどの特徴について調べる。 ・生物にはそれぞれに固有の形態があることが分かる。 ※タンポポやチューリップなどの植物やアリやカエルなどの動物を観察する際に、見たり、触れたり、においを感じたりするなど、諸感覚で確認すること。  ⑧ 昆虫や植物の育ち方には一定の順序があること。 ・様々な昆虫の成長の過程や成長による体の変化を調べる。 ・昆虫の育ち方には、「卵→幼虫→蛹→成虫」というような一定の順序があることが分かる。 ・「卵→幼虫→成虫」などの変態の仕方が違う昆虫と比較する。 ・植物の成長の過程や成長による体の変化を調べる。 ・植物の育ち方には、種子から発芽し子葉が出て、葉がしげり、花が咲き、花が果実になった後に個体は枯死するという一定の順序があることが分かる。	ア 人の体のつくりと運動  ⑦ 人の体には、骨と筋肉があること。 ・人や他の動物の運動器官について調べる。 ・体を支えたり体を動かしたりするときに使われる骨と筋肉があることが分かる。 ・硬い部分としての骨と柔らかい部分としての筋肉があることを捉える。  ⑧ 人が体を動かすことができるのは、骨、筋肉の働きによること。 ・人や他の動物の骨や筋肉のつくりについて調べる。 ・自分の体を動かしたり他の動物が運動しているところを観察したりして、体の動きと骨や筋肉との関係を調べる。 ・体の各部分には、手や足のよう曲がるところと曲がらないところがあり、曲がるところを関節ということを捉える。		ア 人の体のつくりと働き  ⑦ 体内に酸素が取り入れられ、体外に二酸化炭素などが出されていること。 ・吸気と呼気の成分など基に調べる。  ⑧ 食べ物は、口、胃、腸などを通る間に消化、吸収され、吸収されなかった物は排出されること。 ・食べたものは口から、食道、胃、小腸、大腸へと移動する間に消化される。 ・口では咀嚼しやくが行われ、吸収されなかった物はふんとして肛門から排出されることを捉える。  ⑨ 血液は、心臓の働きで体内を巡り、養分、酸素及び二酸化炭素などを運んでいること。 ・心臓の拍動と脈拍とが関係していることにも触れる。  ⑩ 体内には、生命活動を維持するための様々な臓器があること。 ・肺、胃、小腸、大腸、肝臓、腎臓、心臓を扱い、その位置を捉える。

理科

内容	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
生物の構造と機能				<p>イ 植物の養分と水の通り道</p> <p>㉞ 植物の葉に日光が当たるとでんぷんができること。 ・希釈したヨウ素液などを使った実験や観察を行う。</p> <p>㉟ 根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されること。</p>
生命の連続性			<p>ア 植物の発芽、成長、結実</p> <p>㉞ 植物は、種子の中の養分を基にして発芽すること。 ・希釈したヨウ素液などを使用し、でんぷんがあるかを調べる。</p> <p>㉟ 植物の発芽には、水、空気及び温度が関係していること。</p> <p>㊱ 植物の成長には、日光や肥料などが関係していること。 ※実験に利用した植物を枯らさないように配慮する。</p> <p>㊲ 花にはおしべやめしべなどがあり、花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になり、実の中に種子ができること。 ・おしべ、めしべ、がく、及び花びらを扱う。 ・花粉が風や昆虫などにより受粉することに触れる。</p>	
			<p>イ 動物の誕生</p> <p>㉞ 魚には雌雄があり、生まれた卵は日がたつに連れて中の様子が変化してかえること。 ・雌雄では体の形状が異なることを捉える。 ・卵の中には育つための養分が含まれていることを捉える。</p> <p>㉟ 人は、母体内で成長して生まれること。 ※人の卵と精子が授精に至る過程は取り扱わない。</p>	

理科

内容	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
生 命  生物と環境の関わり		<p>イ 季節と生物</p> <p>㉞ 動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。                      ・季節ごとの身近な動物の活動の様子と季節の変化について調べる。                      ・身近に見られる動物は、暖かい季節には出現する数も多く活発に活動するが、寒い季節には活動が鈍くなったり、卵で越冬したりするなど、それぞれに適した姿で越冬状態になるものが多いこと。                      ・魚類や両生類は季節による水温の変化によって活動の様子などに違いがあること。                      ・鳥類は季節によって見られる種類や産卵、巣立ちなどに違いがあること。</p> <p>㉟ 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。                      ・季節ごとの身近な植物の成長の様子と季節の変化について調べる。                      ・植物を育てたり、身近な植物について一年を通して定期的に観察したりする。                      ・身近な植物は、暖かくなる夏までは体全体の成長が顕著に見られ、寒くなり始めると体全体の成長はほとんど見られないが結実するなど、季節によって成長の仕方に違いがあることや、冬になると種子をつくって枯れたり形態を変えて越冬したりすることなどを捉える。</p> <p>※㉞については、身近で危険のない動物、㉟については身近で、季節による成長の変化が明確な植物とする。観察の時期については、「暖かい季節」、「寒い季節」として、それぞれ夏、冬を想定しているが、春や秋の特徴的な生物の活動や植物の成長も含める。                      ※野外での学習に際しては、毒をもつ生物に注意するとともに事故に遭わないように安全に配慮する。</p>		<p>ウ 生物と環境</p> <p>㉞ 生物は、水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていること。                      ・地球上の水は海や川などから蒸発して水蒸気や雲となり、雨となるなど、循環していることを捉える。</p> <p>㉟ 生物の間には、食う食われるという関係があること。                      ・水中の小さな生物を観察の仕方を知り、それらが魚などの食べ物になっていることを捉える。</p> <p>㊱ 人は環境と関わり、工夫して生活していること。</p>

理科

段階の目標		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
地球・自然	知識及び技能	ア 太陽と地面の様子について、気づき、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。	ア 雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 流れる水の働き、気象現象の規則性についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 土地のつくりと変化、月の形の見え方と太陽との位置関係についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	イ 太陽と地面の様子から、主に採点や共通点に気づき、疑問を持つ力を養う。	イ 雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星について、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。	イ 流れる水の働き、気象現象の規則性について調べる中で、主に予想や仮説を基に、解決の方法を考える力を養う。	イ 土地のつくりと変化、月の形の見え方と太陽との位置関係について調べる中で、主にそれらの働きや関わりについて、より妥当な考えをつくりだす力を養う。
	学びに向かう力、人間性等	ウ 太陽と地面の様子について進んで調べ、学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	ウ 雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星について見いだした疑問を進んで調べ、学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。	ウ 流れる水の働き、気象現象の規則性について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。	ウ 土地のつくりと変化、月の形の見え方と太陽との位置関係について進んで調べ、生命を尊重する態度や学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。
	内容	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
		<p>ア 雨水の行方と地面の様子</p> <p>㉞ 水は、高い場所から低い場所へと流れて集まること。 ・雨水の流れの方向を観察したり、地面の傾きの違いについて調べる。 ・雨水の流れる方向と地面の傾きの関係を捉える。</p> <p>㉟ 水のしみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがあること。 ・水のしみ込み方について調べる。 ・虫眼鏡で土の粒の大きさを観察したり、校庭や教材園、砂場などから採取した粒の大きさの異なる土を用いて、水がしみ込むまでの時間を比べたりする。</p> <p>※校庭での観察については、急な天候の変化や雷等に留意し、安全に配慮する。</p>	<p>ア 流れる水の働きと土地の変化</p> <p>㉞ 流れる水には土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること。</p> <p>㉟ 川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあること。 ・川を流れる水の速さや量に着目する。</p> <p>㊱ 雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する可能性があること。 ・長雨や集中豪雨などにより、自然災害が起こることに触れる</p> <p>※川の現地調査の際には、気象情報に注意し、事故防止に配慮する。</p>	<p>ア 土地のつくりと変化</p> <p>㉞ 土地は、礫、砂、泥、火山灰などからできており、層をつくって広がっているものがあること。また層には化石が含まれているものがあること。</p> <p>㉟ 地層は、流れる水の働きや火山の噴火によってできること。 ・流れる水の働きでできた岩石として、礫岩、砂岩、泥岩を扱う。 ・火山の噴火によってできた火山灰や多くの穴を持つ岩石が地層に含まれていることを捉える。</p> <p>㊱ 土地は火山の噴火や地震によって変化すること。 ・火山の噴火や地震により、自然災害がもたらされることにも触れる。</p> <p>※野外観察においては安全を第一に考え、事故防止に配慮する。 ※岩石サンプルを採る際には、保護眼鏡を使用するなど、安全に配慮する。</p>	

理科

内容	中 1 段階	中 2 段階	高 1 段階	高 2 段階
地球の大気と水の循環		<p>イ 天気の様子</p> <p>㊦ 天気によって1日の気温の変化の仕方に違いがあること。 ・晴れの日や雨の日など天気の異なる日の気温を1時間おきに測定して、その結果をグラフに表すと、太陽が出ている晴れた穏やかな日には、日中に気温が上がる山型のグラフになり、太陽が雲などでさえぎられている曇りや雨の日には高低差の小さいグラフになることから、1日の気温の変化は天気によって違いがあることを捉える。 ※気温の適切な測り方については、百葉箱の中に設置した温度計を利用するなど、場所を決めて定点で観測する方法が身に付くようにする。 ※生徒の実態に応じて、自記温度計や気温をデータとして記録する機器などを使用する。</p> <p>㊧ 水は、水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくこと。 ・湿った地面が乾くなどの水の行方について調べる。 ・二つの容器に同じ量の水を入れ、一つには蓋をして、もう一方には蓋をしないで日光の当たる場所に数日間置いておくと、容器内の水の量に違いが見られることを調べる。</p> <p>※1日の気温の変化の様子を調べた結果を、他教科との関連を図りながら、グラフを用いて表したり、その変化の特徴を読み取ったりするような活動の充実を図る。 ※自然界での水の状態変化を捉えるために、中2段階の「水や空気と温度」の学習との関連を図る。</p>	<p>イ 天気の変化</p> <p>㊦ 天気の変化は雲の量や動きと関係があること。 ・1日の雲の量や動きを調べる。 ・雲の形や量、様々な動きをするものなど、雲には様々なものがあることを捉える。</p> <p>㊧ 天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できること。 ・気象衛星などから得た映像などを用いる。 ・天気はおよそ西から東へ変化していくという規則性があることを捉える。 ・台風の進路はこの規則性が当てはまらなかったり、台風がもたらす降雨は短時間に多量になることも捉える。</p> <p>※野外で観察する際には、気象情報に注意する。 ※太陽を直接見ないように注意する。</p>	
地球と天体の運動	<p>ア 太陽と地面の様子</p> <p>㊦ 日陰は太陽の光を遮るとできること。 ・建物によってできる日陰や物によってできる影の位置、太陽と日陰や影の位置について調べる。 ・資料や映像で調べるだけでなく、実際に校庭で日陰や影を観察し、太陽や影の位置について、地面に描いたり、方位磁針を用いて方位を調べたりする。 ・雲が太陽の光を遮ることから、曇っているときには影や日陰ができないことを確かめる。</p>	<p>ウ 月と星</p> <p>㊦ 月は日によって形が変わって見え、1日のうちでも時刻によって位置が変わること。 ・月の位置の変化や時間の経過について調べる活動を通して、月は三日月や半月、満月など日によって形が変わって見え、1日のうちでも時刻によって位置が変わることについての理解を図る。</p>		<p>イ 月と太陽</p> <p>㊦ 月の輝いている側に太陽があること。また、月の形の見え方は、太陽と月との位置関係によって変わることを。 ・地球から見た太陽と月の位置で考え、図やモデルをで表して捉える。</p>

理科

内容		中 1 段階	中 2 段階	高 1 段階	高 2 段階
地球・自然	地球と天体の運動	<p>① 地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさに違いがあること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽の光が当たっている地面と当たっていない地面の暖かさや地面の様子について調べる。</li> <li>・手や足で地面に触れて感じとったり、温度計を用いて地面の温度を測定したりする。</li> <li>・地面は太陽によって暖められることを捉えるため、太陽の光がよく当たる場所で、朝と昼頃の日なたの地面の温度を測定し、測定結果を数値化する。</li> </ul> <p>※太陽の観察においては、JIS規格の遮光板を必ず用いるようにし、安全に配慮する。また、方位については、日常生活や他教科との関連を図り、日常生活において使えるようにする。</p>	<p>① 空には、明るさや色の違う星があること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・星の明るさや色について調べる活動を通して、星には明るさの違う星があること、星には、青白い色や赤い色など色の違いがあることについての理解を図る。</li> </ul>		
	段階の目標	中 1 段階	中 2 段階	高 1 段階	高 2 段階
物質・エネルギー	知識及び技能	ア 物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 水や空気の性質についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 物の溶け方、電流の働きについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性及び電気の性質や働きについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	イ 物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。	イ 水や空気の性質について、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。	イ 物の溶け方、電流の働きについて調べる中で、主に予想や仮説を基に、解決の方法を考える力を養う。	イ 燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性及び電気の性質や働きについて調べる中で、主にそれらの働きや関わりについて、より妥当な考えをつくりだす力を養う。
	学びに向かう力、人間性等	ウ 物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路について進んで調べ、学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	ウ 水や空気の性質について見いだした疑問を進んで調べ、学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。	ウ 物の溶け方、電流の働きについて進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。	ウ 燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性及び電気の性質や働きについて進んで調べ、生命を尊重する態度や学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。



理科

内容	中 1 段階	中 2 段階	高 1 段階	高 2 段階
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">物質（粒子）の存在・結合・保存性・エネルギー</p>	<p>ア 物と重さ</p> <p>⑦ 物は、形が変わっても重さは変わらないこと。 ・粘土やアルミニウム箔、新聞紙など、数種の身の回りにある形の変えられる物を、広げたり、いくつかに分けて丸めたりすることで形を変え、そのときの重さの違いを調べる。 ・生徒の実態に応じて、自動上皿はかりを用いて、重さを数値化し、その結果を記録したり、表に整理したりする。</p> <p>⑧ 物は、体積が同じでも重さは違うことがあること。 ・身の回りにおける粘土や砂などの物を、容器などを用いて体積を同じにし、そのときの重さの違いを調べる。 ・生徒の実態に応じて、てんびんを用いて比べたり、自動上皿はかりを用いて重さを数値化したりする。 ・同体積の木球や樹脂球、金属球などを用いたり、身の回りにおけるいろいろな物を測定したりして、重さの違いを調べる。</p> <p>※測定に際して、機器の使用や重さの単位については、他教科の学習との関連を図る。</p>	<p>ア 水や空気と温度</p> <p>⑦ 水や空気は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わること。</p> <p>⑧ 水は、温度によって水蒸気や氷に変わること。 ・沸騰した水の中から出てくる泡は、空気ではなく水が変化したものであることに気付く。 ・見えない水蒸気の存在を温度の変化と関係付けて捉える。 ・寒材を使って水の温度を0℃まで下げると、水が凍って氷に変わることを捉える。 ・水は温度によって液体、気体、又は固体に状態が変化することを捉える。</p> <p>※中2段階「Bイ天気の様子」における自然界での水の状態変化の学習との関連を図る。</p>	<p>ア 物の溶け方</p> <p>⑦ 物が水に溶けても、水と物を合わせた重さは変わらないこと。 ・物が水に溶けてもなくならないことを捉える。 ・水溶液の中では、溶けているものが均一に広がることにも触れる。</p> <p>⑧ 物が水に溶ける量には、限度があること。</p> <p>⑨ 物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うことや、この性質を利用して、溶けている物を取り出すことができること。</p> <p>※水の温度によって溶ける量の大きい物と変化が小さいの物を用いる。 ※加熱によって分解しにくく、安全性の高いものを扱う。 ※実験を行う際には、メスシリンダーや電子てんびん、ろ過器具、加熱器具、温度計などの器具の適切な操作について安全に配慮する。</p>	<p>ア 燃焼の仕組み</p> <p>⑦ 木片や紙など植物体が燃えるとき、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができること。 ・植物体の例として、木片や紙などを扱う。</p> <p>※燃焼実験の際の火の取扱いや気体検知管の扱い方について十分指導し、保護眼鏡を使用するなど、安全に配慮する。</p>
				<p>イ 水溶液の性質</p> <p>⑦ 水溶液には酸性、アルカリ性及び中性のものがあること。 ・リトマス紙を用いて炭酸水や薄い塩酸、薄い水酸化ナトリウム水溶液などの水溶液の性質の違いを捉える。</p> <p>⑧ 水溶液には、気体が溶けているものがあること。</p> <p>⑨ 水溶液には、金属を変化させるものがあること。 ・鉄やアルミニウムを扱う。</p> <p>※実験に使用する薬品については、その危険性や扱い方に十分指導し、保護眼鏡を使用するなど、安全に配慮する。 ※使用した廃液は環境に配慮し、適切に処理する。</p>

	内容	中 1 段階	中 2 段階	高 1 段階	高 2 段階
物質・エネルギー	<p>イ 風やゴムの力の働き</p> <p>㉞ 風の力は、物を動かすことができること。また、風の力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること。 ・風の力で動く物をつくり、うちわや板目紙などを用いて、物に風を当てた時の力の大きさと物の動く様子について調べる。</p> <p>㉟ ゴムの力は、物を動かすことができること。また、ゴムの力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること。 ・ゴムの力で動く物をつくり、長さや太さが同じゴムを複数束ねたり、引っ張る長さを変えたりしたときの元に戻ろうとする力の大きさについて調べる。 ・生徒の実態に応じて、風の強さやゴムの伸びなどと物の動きとの関係を簡単な表や画像、動画記録などを使って整理することや、移動させた距離を測ったり、紙テープなどを用いて比べたりする。</p> <p>※風の強さを変えるには送風機を用いることなども考えられるが、生徒の実態から判断すること。また、ゴムを扱う際には生徒の実態を考慮し、安全な使用に配慮する。</p>			<p>ウ てこの規則性</p> <p>㉞ 力を加える位置や力の大きさを変えると、てこを傾ける働きが変わり、てこがつり合うときにはそれらの間に規則性があること。 ・1か所で支えて水平になった棒の視点から左右の等距離の位置にものをつりさげて、両側のものの重さが等しいとき棒が水平になってつり合うことも捉える。</p> <p>㉟ 身の回りにはてこの規則性を利用した道具があること。 ・ペンチ、くぎ抜き、空き缶つぶし、トンクなどを扱う。</p> <p>※ものづくりを通して指導を行うよう配慮する。</p>	
	<p>エ ネ ル ギ ー の 捉 え 方</p> <p>ウ 光や音の性質</p> <p>㉞ 日光は直進すること。 ・平面鏡などに日光を当てたときの、平面鏡の向きや光の様子について調べる。 ※平面鏡やアルミニウム板などで、光を反射する。</p> <p>㉟ 物に日光を当てると、物の明るさや暖かさが変わること。 ・光を当てたときの物の明るさや暖かさについて調べる。 ※実態に応じて、放射温度計やデジタルサーモテープなどを使用する。</p> <p>㊱ 物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること。 ・身の回りにある物を使って音を出したときの物の震え方や音の大きさを変えたときの現象の違いについて調べる。 ※音の大きさと物の震え方との関係を捉える際は、打楽器を用いる。音の伝わりを捉える際は、鉄棒や糸電話を用いる。</p> <p>※生活との関連として、光の反射が照明の反射板に活用されていることやスピーカーなどから音が出るときそれが震えていることを取り上げる。 ※平面鏡などを扱う際には、破損して、指を切ったり手を傷つけたりする危険が伴うので、その扱い方には十分留意する。</p>				

理科

内容	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>物質・エネルギー</p> <p>エネルギーの変換と保存</p>	<p>エ 磁石の性質</p> <p>㊦ 磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・磁石を身の回りの物に近付けたときの物の様子や特徴について調べる。</li> <li>・磁石に引き付けられる物や引き付けられない物を調べる。</li> <li>・磁石に物が引き付けられる力を手ごたえなどで感じとったり、磁石を方位磁針に近付けて、その動き方を調べたりする。</li> </ul> <p>㊧ 磁石の異極は引き合い、同極は退け合うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの磁石を近付け、磁石が相互に引き合ったり、退け合ったりする様子について調べる。</li> <li>・磁石の極を調べたり、磁石に引き付けられる物、引き付けられない物を調べたりする際に、生徒の実態に応じて、実験の結果を簡単な表などに分類、整理する。</li> </ul> <p>※㊦㊧ともに、生徒が扱いやすい棒磁石やU字型磁石を用いる。</p> <p>※生活との関連として、身の回りの道具などには、磁石の性質を利用した物が多数あることを取り上げる。</p> <p>※磁石を使用する際には、コンピュータなど磁気の影響を受けやすい物に近付けないなど、適切な取り扱いについて指導する。</p>		<p>イ 電流の働き</p> <p>㊦ 乾電池の数やつなぎ方を変えると、電流の大きさや向きが変わり、豆電球の明るさやモーターの回り方が変わること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直列つなぎや並列つなぎを扱い、簡易検流計を使って調べる。</li> </ul> <p>※一つの回路で違う種類の電池が混在しないよう、安全に配慮する。</p>	<p>エ 電気の利用</p> <p>㊦ 電気は、つくりだしたり、蓄えたりできること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気を作り出す道具として、手回し発電機や光電池などを扱う。</li> </ul> <p>㊧ 電気は、光、音、熱、運動などに変換できること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豆電球や発光ダイオード、電子オルゴールや電熱線の発熱、モーターを回転させたりしたときの電気の働きに着目する。</li> </ul> <p>㊨ 身の回りには、電気の性質や働きを利用した道具があること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンデンサーなどの蓄電器や豆電球や発光ダイオードの点灯やモーターの回転などの実験や観察により、電気は発電したり、蓄電したり、変換させたりしながら利用されていることを捉える。</li> </ul> <p>※ものづくりを通して指導を行うよう配慮する。</p>
	<p>オ 電気の通り道</p> <p>㊦ 電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1個の乾電池と1個の豆電球などを導線でつないだときの、つなぎ方と豆電球などの様子について調べ、回路ができると電気が通り、豆電球などが動作することが分かる。</li> </ul> <p>㊧ 電気を通す物と通さない物があること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回路の一部に、身の回りにあるいろいろな物を入れたときの豆電球などの様子について調べる。</li> <li>・実験の結果を簡単な表や画像記録などを使って整理する。</li> <li>・身の回りにある物として、鉄やアルミニウム、ガラスや木などを用いる。</li> </ul> <p>※豆電球を使わないで、乾電池の二つの極を直接導線でつなぐことのないようにするなど、安全に配慮する。</p>			

# 7 音楽

## ○内容の構造

- ・ 音楽の内容は、ア「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力、イ「知識」に関する資質・能力として示されていました。

## ○概要

- ・ 内容項目は、9つの項目で示しています。

## ○表の見方

- ・ 事項に関する解説があるものは、より具体的に記されている部分を示しています。
- ・ 表については、小学部は1・2・3段階、中学部は4・5段階、高等部は内容項目の6・7段階までの階層を示しています。
- ・ 特別支援学校学習指導要領の解説にある「例えば」に続くそれぞれの事項の内容を補う具体例や記述部分は、優先的に示しています。また、共通事項、指導計画作成上の配慮事項等より周知しておきたい項目として、「音符・休符・記号や用語」「国歌君が代」「音楽づくり」「歌唱共通教材」を共通事項の項目として示しています。
- ・ 指導内容とも配慮事項ともとれるところは省いているので、特別支援学校学習指導要領解説を読んで指導内容等を設定してください。

## ○教科の特質や作成者の思い

- ・ 今回の改訂で、「音楽遊び」と類似の事項として、小学部の2段階の音楽づくり分野の中に「音遊び」が示されています。「音楽遊び」とは違う概念として用いていることを明確にするため、「A表現」の項目の後に、「留意点」として、「音楽遊び・音遊び」という項目を新たにし、小学部1段階の音楽遊びと小学部2段階の音楽づくりの参考として加えている。さらに、中学部の内容が4・5段階の二つの段階で表され、学習が質的に高まっていくように示されています。
- ・ 小学部、中学部、高等部の音楽科の特別支援学校学習指導要領の目標・内容を、特別支援学校学習指導要領解説を元に、各教科編の巻末の目標・内容の一覧を参考にまとめました。年間計画や指導案作成において、共通事項、指導計画作成上の配慮事項等、より具体的に知りたいときには、この一覧表を元に、学習指導要領解説をみていただくとありがたいです。

音楽

音 楽				
目標	表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活の中の音や音楽に興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
知識及び技能	(1) 曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、感じたことを音楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。			
思考力、判断力、表現力等	(2) 感じたことを表現することや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音や音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。			
学びに向かう力、人間性等	(3) 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、身の回りの様々な音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。			
段階の目標	小1段階	小2段階	小3段階	
知識及び技能	ア 音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心を向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。	ア 曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	ア 曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	イ 音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。	イ 音楽表現を工夫することや、表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。	イ 音楽表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。	
学びに向かう力、人間性等	ウ 音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしてようとする態度を養う。	ウ 音や音楽に関わり、教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしてようとする態度を養う。	ウ 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に興味をもつとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしてようとする態度を養う。	
内容	小1段階	小2段階	小3段階	
A 表 現	音楽遊び ・ 歌唱 (中1～高2段階は歌唱)	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたいという思いをもつこと。 ・好きな歌、なじみの歌、特徴的で分かりやすいところのある歌、旋律やその中の言葉の一部に繰り返しのある歌などの一部分。	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたいということ。	
		(イ) 表現する音や音楽に気付くこと。 ・自分なりの表し方によって聴こえてくる音や音楽に気付くこと。	(イ) 次の⑦及び⑧について気付くこと。 ⑦ 歌詞に繰り返しがあったり、歌詞の「音(おん)」が繰り返されてリズムとして分かりやすいものなどに気付いたりすること。 ⑧ 曲名に出てくる具体的な事物に気付いたり、「ぐるぐる」、「ギューギュー」などの擬声語や擬態語、繰り返しや抑揚の面白さのある言葉などに気付いたりすること。	(イ) 次の⑦及び⑧について気付くこと。 ⑦ 曲の雰囲気と曲の速さや強弱との関わりに気付くこと。 ⑧ その言葉に含まれている物の名前や風景などのイメージをふくらませ、感じたこととその曲の速度や強弱などとの関わりに気付くこと。

音楽

<p>表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 音楽表現を考えることや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、様々な音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。</p>		<p>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。</p>	
中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>ア 曲名や曲の雰囲気と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。</p> <p>イ 音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、音や音楽を味わいながら聴くことができるようにする。</p> <p>ウ 進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に触れるとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしよとする態度を養う。</p>	<p>ア 曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。</p> <p>イ 音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。</p> <p>ウ 主体的に楽しく音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしよとする態度を養う。</p>	<p>ア 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。</p> <p>イ 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを自分なりに見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。</p> <p>ウ 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>	<p>ア 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。</p> <p>イ 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。</p> <p>ウ 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図をもつこと。 ・元気な歌は大きな声で元気よく、ゆっくり穏やかな歌は優しい声でそっと歌うなど、その曲の雰囲気を感じて、それに合いそうな歌い方を考えること。</p> <p>(イ) 次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗ 元気が出る雰囲気の曲や穏やかな気持ちになる雰囲気の曲など、その曲から受ける印象と、速度や音の大きさ、音の重なりなどとの関係について気付くこと。 ㉘ 速度や曲の調性などによって生み出されるその音楽の雰囲気や表情、味わいと、歌詞で表されている情景やイメージとの関係とといったことに気付くこと。</p>		<p>ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。</p> <p>(イ) 次の㉗及び㉘について理解すること。 ㉗ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。 ㉘ 曲種に応じた声の出し方などによる声の音色や響きがあり、それらは発声の仕方の違いによって生まれるものであることを理解すること。</p>	

音楽

内容		小1段階	小2段階	小3段階
A 表 現	音楽遊び ・ 歌唱  (中1～高2段階は 歌唱)	<p>(ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の⑦から⑩までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 音楽が流れる中で手足を動かしたり、全身を揺すったりする動きのこと。</p> <p>⑧ 手足を使って楽器を鳴らしたり、ばちを使って音を出したりする動きのこと。</p> <p>⑨ 音楽が流れている中で、それに合わせて声を出したり、音楽が止まった時などに声を出したりすること。</p>	<p>(ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の⑦から⑩までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 教師の歌声を聴いて、まねをしてみようと声を出したり、曲の歌詞に使われている言葉の一部分を歌ったり、曲の抑揚をまねて声を出したりすること。</p> <p>⑧ 声を出している自分に気付いて意図的に声を出したり、出した声を自分なりに聴いていたりすること。出す声の大きさや高さなどは、3段階の指導で取り扱っていく。</p> <p>⑨ 思いに合った表現をするために互いの歌声を聴いて、教師や友達と声を合わせて歌うこと。</p>	<p>(ウ) 思いに合った歌い方で歌うために必要な次の⑦から⑩までの技能を身に付けること。</p> <p>・自分なりに楽しんで声を出したり、うれしそうな表情で歌ったり、曲を自分なりに思い浮かべて、思わず声を出しているような様子など。</p> <p>⑦ 思いに合った表現をするために必要な範唱を聴いて歌ったり、歌詞やリズムを意識して歌うこと。</p> <p>⑧ 「こう歌いたい」という思いをもちながら、それを実現するために、自分の歌声や発音などに注意を向けて歌うこと。</p> <p>⑨ 思いに合った表現をするために必要な互いの歌声や伴奏を聴いて、教師や友達と声を合わせて歌うこと。</p>
	器楽		<p>イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身近な打楽器などに親しみ音を出そうとする思いをもつこと。</p> <p>・自分で楽器をたたいたり振ったりして、意図的に音を出してみようという気持ちをもつこと。</p> <p>・1段階で取り上げた打楽器に加えて、例えば、両手で操作するタンバリン、ウッドブロック、ギロなどの楽器や、音階や和音を鳴らすことができる木琴、キーボードなどの楽器のこと。</p>	<p>(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現に対する思いをもつこと。</p>
			<p>(イ) 次の⑦及び⑧について気付くこと。</p> <p>⑦ 曲の特徴的なリズムを体で感じながら楽器の音を出そうとすること。</p> <p>⑧ 楽器によって音が違うことや、鳴らし方、たたき方等によって音が変ることなどに気付くこと。</p>	<p>(イ) 次の⑦及び⑧について気付くこと。</p> <p>⑦ 音の強弱の違いや速度の違いに気付いたり、「タンタン」と「タタタタ」などのリズムの違いに気付いたりすること。</p> <p>⑧ そとと音を出したときと強く音を出した時の音色の違いに気付くこと。</p>

音楽

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>(ウ) 思いや意図にふさわしい歌い方で歌うために必要な次の⑦から⑩までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 範唱を聴いて歌ったり、歌詞を見て歌ったりすること。</p> <p>⑧ 声の大きさをコントロールしたり、きれいな声で歌うために姿勢や口形、呼吸法などに留意したりして歌うこと。</p> <p>⑨ 友達の歌声を聴いて合わせて歌ったり、合図を送って歌ったり、伴奏を聴いて速さや歌い出しなどを合わせて歌ったりすることなど、友達と合わせる、ということに意識を向けながら歌うこと。</p>	<p>(ウ) 思いや意図にふさわしい歌い方で歌うために必要な次の⑦から⑩までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 歌詞を覚え、歌詞の表す情景や曲想について、イメージを持ち、歌詞の内容を意識して歌ったり、リズムや音の高低を意識して発声したりすること。</p> <p>⑧ 歌を歌うときに、発音に意識を向けたり、姿勢や口形、呼吸法などに留意したりして歌うこと。</p> <p>⑨ 自分の思いや意図に合った歌唱表現をしたり、教師や友達の歌や伴奏の響きを聴きながら思いや意図にふさわしい歌声になるように意識したり、相手に合わせて自分の声の大きさや声の出し方などをコントロールしながら歌ったりすること。</p>	<p>(ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦から⑩までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ リズムや旋律に気を付けて聴くだけでなく、音楽を形づくっている要素や表現の仕方などについて、課題意識をもって聴き、それを聴いて自分の表現がより豊かになるように聴唱すること。</p> <p>⑧ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連及び音符、休符、記号や用語の指導も併せて行い、音楽の流れを感じながら読譜できるようにすること。</p> <p>⑨ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うこと。</p> <p>⑩ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。</p>	<p>(ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦及び⑩の技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けること。</p> <p>⑩ 全体の響きや各声部の声などを聴きながら、他者と合わせて歌う技能を身に付けること。</p>
<p>イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>		<p>イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	
<p>(フ) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気合いに合うような表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと。</p> <p>・元気な曲は元気よく、ゆっくり穏やかな曲は、やさしく演奏するなど、その曲の雰囲気を感ずると、それに合うような演奏の仕方を考えること。</p>	<p>(フ) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと。</p> <p>・曲のリズムや速度、その曲のもつ雰囲気などを感ずると、そのことを生かせるような演奏の仕方を考えること。</p>	<p>(フ) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。</p> <p>・曲に対するイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表したい器楽表現について考え、どのように器楽表現するかについて思いや意図をもつこと。</p>	
<p>(イ) 次の⑦及び⑩について気付くこと。</p> <p>⑦ 「ゆったりとした感じから弾んだ感じに変わったのは、途中からタッカのリズムが多くなった」といったことに気付くこと。</p> <p>⑩ 自分一人の演奏だけでなく友達と合わせた時の響きといったことに気付くこと。</p>	<p>(イ) 次の⑦及び⑩について理解すること。</p> <p>⑦ 曲想と音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みの関わり合いを理解すること。</p> <p>⑩ 小学部や中学部1段階で経験した楽器に加えて、和楽器や諸外国の楽器などの様々な楽器を用いて、友達と一緒に演奏した時に、楽器の組合せなどを工夫することにより、その音色や響きは変化すると理解すること。</p>	<p>(イ) 次の⑦及び⑩について理解すること。</p> <p>⑦ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。</p> <p>⑩ 様々な楽器を用いて、友達と一緒に演奏した時に、中学部2段階までに学んだ楽器の組合せを変え、自分の演奏の仕方を変えることによって、その音色が変化するということを理解すること。</p>	<p>(イ) 次の⑦及び⑩について理解すること。</p> <p>⑦ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。</p> <p>⑩ 声の音色や響き及び言葉の特性が生み出す特質や雰囲気を感受し、感受したことで発声との関わりを自分自身で捉えていくこと。</p>



音楽

内容	小1段階	小2段階	小3段階
<p>器楽</p>		<p>(7) 思いに合った表現をするために必要な次の⑦から⑩までの技能を身に付けること。合図に合わせて楽器を鳴らしたり、教師の演奏の様子を見たり演奏を聴いたりして、同じように音の強弱や鳴らし方などをやってみようと思っ、演奏すること。            ⑦ 教師の範奏を見ることと聴くことを同時に行い、音の出し方を模倣して演奏すること。            ⑧ 身近な打楽器を使って、楽器の持ち方や音の出し方がわかり、演奏すること。            ⑨ 教師や友達演奏を聴きながら、あるいは教師の合図を手掛かりに、それに合わせて一緒に演奏すること。</p>	<p>(7) 思いに合った表現をするために必要な次の⑦から⑩までの技能を身に付けること。            ⑦ 楽器の絵を順番に並べて書いた絵譜や「どみどみ」のように文字で音符、リズム、旋律、和音を描いた楽譜など簡単な楽譜を用いて、見ることに演奏することを同時に行い、教師の演奏を模倣したり、合図に合わせてりしながら、さぐり弾きや部分奏、簡単な合奏などをする。また、自由に演奏するだけでなく指揮や合図を見て、「タンタンタン」や「タンウンタンウン」などを意識して演奏すること。            ⑧ 2段階の打楽器に加えて、鍵盤楽器やリコーダーなどの旋律楽器や、単音グロッケンやハンドベルなどの一音一音が別々に出せる有音程の打楽器など身近な打楽器や旋律楽器を使って、曲の一部を演奏すること、また、旋律楽器を打楽器のように演奏して、和声の一部を奏でることである。その際、楽器の固有の音色を意識した「打ち方」や「弾き方」などを身に付けるようにすること。            ⑨ 自分の音だけではなく友達音を聴きながら演奏する技能を身に付けること。</p>
<p>A 表 現</p> <p>音楽づくり ・ 創作 (高1・高2段階は 創作)</p>		<p>ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の⑦及び⑩をできるようにすること。            ⑦ 音遊びを通して、音の面白さに気付くこと。            ・音遊びとは、友達と関わりながら、声や身の回りの様々な音に親しみ、その場で様々な音を選んだりつなげたりして表現すること。            リズムを模倣したり、言葉を唱えたり、そのリズムを打ったりする遊び、言葉の抑揚を短い旋律にして歌う遊び、身の回りの音や自分の体を使って出せる音などから気に入った音を見つけて表現する遊びなど。            ⑩ このような音楽をつくりたいといった考えをもつこと。</p> <p>(4) 次の⑦及び⑩について、それらが生み出す面白さなどに触れて気付くこと。            ⑦ 歌声だけでなく、ささやき声やため息のように、息を使った声、擬声語や擬態語などや、自然や生活の中で耳にする音、身近な楽器や身の回りのもので出せる音のこと。            ⑩ 音楽の仕組みを手掛かりにして、それぞれの音を関連付けながら一つのまとまりを形づくるようにしていくこと。            ・わらべうたに使われている音を用いて、「よびかけ」と「こたえ」になるような短い旋律をつくる活動や、短いリズムをつくり、それを反復して簡単な音楽にする活動など。</p>	<p>ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の⑦及び⑩をできるようにすること。            ⑦ 音遊びを通して、音の面白さに気付いたり、声や身の回りの様々な音を、その場で選んだりつなげたりする中で生まれる、「これらの音をこうしたら面白くなる」という考えをもつこと。            ⑩ どのように音を音楽にしていくなかについて思いをもつこと。</p> <p>(4) 次の⑦及び⑩について、それらが生み出す面白さなどに関わって気付くこと。            ⑦ 声や身の回りの様々な音の特徴に気付くこと。            ⑩ 簡単なリズムや児童にとってわかりやすい、例えば、「タンタンタンウン」、「タン・タタ・タン・ウン」のパターンについて、それが生み出す面白さなどに関わって気付くこと。</p>

音楽

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>(ウ) 思いや意図にふさわしい表現をするために必要な次の⑦から⑨までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 簡単な楽譜を見てリズムや速度を意識して演奏する技能を身に付けること。</p> <p>⑧ 力をコントロールして強弱やアクセントを意識し、全体の響きを感じながら演奏すること。</p> <p>・合奏にあたっては、卓上木琴、卓上鉄琴、卓上ベル、リードを交換して音を出す笛などの打楽器や音の高さが変わる楽器を利用し、和音としての響きや、旋律を奏でる楽しさを味わうことができるようにすること。</p> <p>⑨ 友達の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けること。</p>	<p>(ウ) 思いや意図にふさわしい表現をするために必要な次の⑦から⑨までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 簡単な楽譜を見てリズムや速度、音色などを意識して、演奏すること。</p> <p>⑧ 打楽器や旋律楽器の基本的な扱いを意識して、音色や響きに気を付けて演奏すること。</p> <p>⑨ 友達の演奏を聴きながら、自分の演奏のリズムや速度をそろえようと意識して演奏すること。</p> <p>・演奏する人数を少なくすることによって、他者の音と自分の音の聞き分けやすくなり、パートごとに演奏を行うこと。</p>	<p>(ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦から⑨までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 楽譜と音との関連を意識した指導の一層の充実を図り、音楽を形づくっている要素や要素同士の関わり及び音符、休符、記号や用語の指導も合わせて行い、音楽の流れを感じながら読譜できるようにすること。</p> <p>⑧ 木琴や鉄琴の演奏では、表現したい思いや意図に合った音色になるようマレットで打つ強さに気を付けたり、リコーダーの演奏では、音域や表現方法にふさわしい息の吹き込み方やタンギングの仕方に気を付けたりするなど、音色や響きに応じた演奏の仕方を身に付けるようにすること。</p> <p>・中学部2段階までに身に付けた演奏の技能を生かすことができるよう、生徒の実態を踏まえて、易しいリズムや旋律の演奏から徐々に難易度を上げるなど、継続的に取り組むようにすること。</p> <p>⑨ 各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けること。</p>	<p>(ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦及び⑧の技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 楽器固有の演奏方法、身体の使い方など、生徒が思いや意図との関わりを捉えられるようにしながら行うこと。</p> <p>・姿勢や楽器の構え方、発音する際の身体の動かし方など身体の使い方について、鏡を用いてまねたり、写真や動画などを使ったりすること。</p> <p>⑧ アンサンブルを行う際の各声部の他に、伴奏、我が国の伝統音楽における掛け声なども、声部として含み、自分と同じ声部の他者の音や、他の声部の音などとの重なりやつながりを聴きながら演奏する技能や生徒が思いや意図をもち、全体の響きと各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けられるようにすること。</p>
<p>ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>			
<p>(ア) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の⑦及び⑧をできるようにすること。</p> <p>⑦ 音遊びを通して、どのように音楽をつくるのかについて発想を得ること。</p> <p>⑧ 音楽の仕組みを手掛かりとして、いくつかの音を関連付けてまとまりのある音にしていくこと。</p>	<p>(ア) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の⑦及び⑧をできるようにすること。</p> <p>⑦ 即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。</p> <p>・楽譜に示されているとおりに表現するのではなく、その場で直観的に選択したり判断したりして表現すること。</p> <p>⑧ 音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと。</p>	<p>(ア) 創作表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。</p> <p>・音楽をつくっていく過程で、思いや意図を伝え合うことと実際に音で試すこととを繰り返しながら、表現を工夫し、思いや意図を膨らませるように促すこと。</p>	<p>(ア) 創作表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。</p> <p>・音や音楽に対する自分のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表現したい創作表現について考え、どのように創作表現するかについて思いや意図をもつこと。</p>
<p>(イ) 次の⑦及び⑧について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くこと。</p> <p>⑦ 一つの楽器でも音の高さや演奏の仕方を変えることによって響き方が異なったり、楽器の材質によって音の特徴や雰囲気異なったりするといったことに気付くこと。</p> <p>⑧ リズム・パターンや短い旋律のつなげ方の特徴に気付くこと。</p>	<p>(イ) 次の⑦及び⑧について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて理解すること。</p> <p>⑦ 音の素材や楽器そのものもつ固有の響き、材質による音の響きの違い、音を出す道具による音色の違いといったことを理解すること。</p> <p>⑧ 音を組み合わせてつくったリズム・パターンや短い旋律を反復させたり、呼びかけ合うようにしたり、それらを変化させたりといったことを理解すること。</p>	<p>(イ) 次の⑦及び⑧について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて理解すること。</p> <p>⑦ 音の素材や楽器そのものもつ固有の音の響き、木、金属、皮など、それぞれの材質がもつ音の響き、音を出す道具によって変わる音の響き等を理解すること。</p> <p>⑧ 音を組み合わせてつくったリズム・パターンや短い旋律を反復させたり、呼びかけ合うようにしたり、それらを変化させたりすることやリズム・パターンや短い旋律を同時に重ねたり、時間をずらして重ねたりといったことを理解すること。</p>	<p>(イ) 次の⑦及び⑧について、表現したいイメージと関わらせて理解すること。</p> <p>⑦ 音の高さに着目すると、順次進行であるか跳躍進行であるか、上行しているか下行しているかといったことや、八分音符が連続してつながるのか二分音符が連続してつながるのかによって、動きを感じたり、落ち着きを感じたりすること。</p> <p>・順次進行であるか跳躍進行であるかによって、滑らかさを感じたり勢いを感じたりすること。また、八分音符が連続してつながるのか二分音符が連続してつながるのかによって、動きを感じたり、落ち着きを感じたりすること。</p> <p>⑧ 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴を理解すること。</p>

音楽

内容		小1段階	小2段階	小3段階
A 表 現	音楽づくり ・ 創作 (高1・高2段階は 創作)		<p>(ウ) 気付きを生かした表現や思いに合った表現をするために必要な次の㉗及び㉘の技能を身に付けること。</p> <p>㉗ あらかじめ決められたとおりに表現するのではなく、設定した条件に基づいて、その場で選んだりつなげたりして表現すること。</p> <p>㉘ 教師や友達が発する声や音の特徴を注意深く聴きながら、音を簡単な音楽にしていくこと。</p>	<p>(ウ) 気付きや発想を生かした表現や、思いに合った表現をするために必要な次の㉗及び㉘の技能を身に付けること。</p> <p>㉗ 音を選んだりつなげたりして表現すること。</p> <p>㉘ 呼びかけとこたえになるようなリズムや旋律をつくり、それを反復させたり変化させたりする活動、擬声語や擬態語など、ことばのリズムにのせて反復したり組み合わせたりするなど、教師と一緒に音楽の仕組みを使って、音を音楽にしていくこと。</p>
	身体表現		<p>エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムの特徴を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。</p>	<p>(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムや旋律の特徴、歌詞を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。</p>
			<p>(イ) 次の㉗及び㉘について気付くこと。</p> <p>㉗ 覚えやすい特徴のあるリズムの曲を使用する場合に、繰り返し動くことで、そのリズムの特徴を身体で受け止めて気付くこと。</p> <p>㉘ 「マーチ」、「タンゴ」、「ぞうさん」、「うさぎのダンス」といったそれぞれの曲に見られる特徴的なリズムや固有名詞等から、ゆったりと歩く、リズムカルに跳ねるなどという動きの種類を想起すること。</p>	<p>(イ) 次の㉗及び㉘の関わりについて気付くこと。</p> <p>㉗ 曲のリズム、速度、旋律に気付くこと。</p> <p>㉘ 児童が、ある動物名が付いている曲名やその歌詞の一部に出てくる動きを表す言葉と、それらを表すリズムや速度、旋律のつながりに気付くこと。</p>
			<p>(ウ) 思いに合った動きで表現するために必要な次の㉗から㉘までの技能を身に付けること。</p> <p>㉗ はじめは示範をまねして動き、拍や特徴的なリズムを感じ取った動きで表現しながら、徐々に主体的に表現できるようにすること。</p> <p>㉘ 音や音楽を聴いて感じた思いに合った手足の動きで表現したり、身体全体を使った動きで表現したりすること。</p> <p>㉙ 近くにいる教師や友達と手をつないで、小さな動きから、揺れる動きを徐々に大きくしていくことで、動きの広がりによる豊かな表現にすること。</p>	<p>(ウ) 思いに合った体の動きで表現するため(2段階で表現した動きから、よりふさわしいと思う動きで表現することを大事にしていること)に必要な次の㉗から㉘までの技能を身に付けること。</p> <p>㉗ 示範の表現を見ながら、自分が意識した拍やリズム、旋律を表現すること。</p> <p>㉘ 拍は足踏みで表現し、旋律は腕の動きで表現すること。</p> <p>㉙ 旋律やリズム、和音の響きといった音の厚みを、友達と一緒に感じながら表現すること。</p>

音楽

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>(ウ) 発想を生かした表現、思いや意図に合った表現をするために必要な次の⑦及び④の技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 設定した条件に基づいて、音を選択したり組み合わせたりして表現すること。</p> <p>④ 音楽の仕組みを使って、音を簡単な音楽にしていくことができること。</p> <p>・「呼びかけとこたえ」を使い、一つの声部の呼びかけに、他の声部がこたえるように音楽をつかっていくなどといったこと。</p>	<p>(ウ) 発想を生かした表現、思いや意図に合った表現をするために必要な次の⑦及び④の技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 「ソラシの三つの音を使い、一人一人が4拍で即興的に表現し、順番に旋律をつなぐ」といった設定条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現すること。</p> <p>④ 音楽の仕組みを使って、音を音楽へと構成することができること。</p> <p>・「反復と変化を使い、短いフレーズを反復させた後、変化させて、また最初の短いフレーズを反復させてつっていく」などといったこと。</p>	<p>(ウ) 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。</p> <p>・旋律や音楽をつくる前提として課された内容やつくる際の約束事のことであり、旋律や音楽をつくる学習をする際に必要な「〇〇の音(楽器)を用いて、〇〇のような旋律をつくらう」というような場合である。したがって、指導のねらいに応じて適切な課題や条件を設定することや、「課題や条件」のイメージがもちにくい生徒には具体的な音の選択肢を提示したり、教師と一緒に音を出しながら説明したりすること。</p>	<p>(ウ) 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。</p> <p>・技能が、生徒にとって思いや意図を表すために必要なものとなるよう指導すること。</p> <p>・旋律や音楽をつくる前提として課された内容やつくる際の約束事の「課題や条件」のイメージがもちにくい生徒には具体的な音の選択肢を提示したり、教師と一緒に音を出しながら説明したりすること。</p>
<p>エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>		<p>エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	
<p>(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、リズムの特徴や曲の雰囲気を感じ取り、体を動かすことについての思いや意図をもつこと。</p>	<p>(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、リズムの特徴や曲想を感じ取り、体を動かすことについての思いや意図をもつこと。</p>	<p>(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身体表現を創意工夫すること。</p> <p>・身体表現を創意工夫するためには、その過程で新たな知識や技能を習得することと、これまでに習得した知識や技能を活用すること。</p>	<p>(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身体表現を創意工夫すること。</p> <p>・音や音楽に対する自分のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働きや動きなどを試行錯誤しながら、表現したい身体表現について考え、どのように身体表現するかについて思いや意図をもつこと。</p>
<p>(イ) 次の⑦及び④の関わりについて気付くこと。</p> <p>⑦ 旋律と和声のような、音楽の構造に気付いて、自分がふさわしいと思う動きで表現しようとするなどにより、それらの関わりについて気付くこと。</p> <p>④ 「ダンス」、「ポルカ」のような曲名や「煙たなびく」のような歌詞から想起する動きを体の動きで表現できるといったことに気付くこと。</p>	<p>(イ) 次の⑦及び④の関わりについて理解すること。</p> <p>⑦ ゆったりした感じから弾んだ感じに変わったことなどについて、旋律と和声のような、音楽の構造との関係といったことを理解すること。</p> <p>④ 「ダンス」、「ポルカ」などのような曲名や「煙たなびく」などのような歌詞から想起する情景と動きとの関係といったことを理解すること。</p>	<p>(イ) 次の⑦及び④の関わりについて理解すること。</p> <p>⑦ 音楽固有の雰囲気や表情、味わい、音楽の構造によって生み出されるもの。音楽を形づくっている要素そのものや要素同士の関わり方及び音楽全体がどのように成り立っているかなど、音や要素の表れ方や関係性、音楽の構成や展開の有り様などとの関わりについて理解すること。</p> <p>④ 「この曲はリズムカルな明るい雰囲気がする」と感じ取った生徒が、リズムに着目してスキップをしながら、身体表現すること。生徒が音楽活動を通して、実感を伴って理解できるようにすること。</p>	<p>(イ) 次の⑦及び④の関わりについて理解すること。</p> <p>⑦ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどが、どのような音楽の構造によって生み出されているのかを捉えていくこと。</p> <p>④ 「この曲の前半は、ゆったりとしていて静かな雰囲気を感じ取り、後半は躍動的で力強い雰囲気がある」と感じ取った生徒が、旋律やリズムの変化に着目して、手や身体全体をゆったりと滑らかな動きのある身体表現から、力強い動きで大きな動きに変化させながら身体表現することなど。</p>
<p>(ウ) 思いや意図にふさわしい動きで表現するために必要な次の⑦から④までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 示範を参考にして動き、速度やリズム、曲の雰囲気など、感じ取ったものをより複合的に身体表現できるようにすること。</p> <p>④ 音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせるために、感じたことを話し合ったり、動きのアイデアを出し合ったりしたことを、動きに表す技能を身に付けること。</p>	<p>(ウ) 思いや意図にふさわしい動きで表現するために必要な次の⑦から④までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 示範を参考にしたり、速度やリズム、曲の雰囲気など、感じ取ったものをより複合的に身体表現したりすること。</p> <p>④ 音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせるために、感じたことを話し合うことや、出したアイデアを、まとめて動きに表すこと。</p>	<p>(ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦から④までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 右手で旋律の動き、左手で左足に触れる動きでリズムを表現するなど、創意工夫を生かした表現をする技能を身に付けること。</p> <p>④ ⑦で示した動きを、複数で行うことにより、統一感が感じられる動きに表すこと。</p> <p>⑦ ⑦や④の技能を活用した動きについて、生徒が考え工夫した表現を組み合わせる動きに表すこと。</p>	<p>(ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦から④までの技能を身に付けること。</p> <p>⑦ 曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現する技能を身に付けること。</p> <p>④ ⑦で示した動きを、複数で行うことにより、統一感が感じられる動きに表すことや、感じたままに自由に動きながら、ふさわしいと思う表現にまとめていくこと。</p> <p>⑦ 曲の特徴を捉えて、どのように表現するかについて思いや意図をもつこと、【共通事項】との関連を十分に図り、指導する教師が動きを見本として提示することや、曲の雰囲気を感じ取りやすく自ら創意工夫したり、友達と一緒に表現したりする喜びを味わうことができる音や音楽を取り上げるようにすること。</p> <p>・友達と一緒に意欲的に身体表現の活動を進めること。</p>

音楽

内容		小1段階	小2段階	小3段階
留意点	音楽遊び・音遊び	※「音楽遊び」とは、発達段階が初期の児童にとっての音楽活動として、歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の活動を通して育成を目指す資質・能力の基礎を培う重要な活動。 ※新たな知識や技能を習得することと、これまでに習得した知識や技能を活用すること。	※音楽的な約束事を決めて音で表現していく「音遊び」と遊びの中で自然に音や音楽に気付き自分なりに表現していく「音楽遊び」とは違う概念として用いていることに留意すること。 ※1段階の音楽遊び分野では、2段階の歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現、及び鑑賞の基礎となるような知識や技能、「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力を育てていくこと。 ※児童が音や音楽に気付くように教材や指導の手立てを工夫しながら、児童が表現する音や音楽に関心や興味を示し、自ら関わろうとする気持ちをもてるように指導すること。	
	音楽遊び・鑑賞 (小2～高2段階は鑑賞)	ア 音楽遊びの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。  (ア) 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見付けようとする事と。	ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。  (ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、身近な人の演奏を見たり、体の動きで表したりしながら聴くこと。	(ア) リズムや速度の面白さに気付き、自然と体が動いたり、自分の好きな部分を口ずさんだり、踊ったりしながら聴いたり、逆に自分の好きな曲に対し、動きを止めてじっと耳を傾けて聴くこと。
B 鑑賞		(イ) 聴こえてくる音や音楽に気付くこと。 ・音が聴こえてきたと思うなど、音に反応できるということ。	(イ) 身近な人の演奏に触れて、好きな音色や楽器の音を見付けること。	(イ) 曲想や楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴に気付くこと。
共通事項	音符・休符・記号や用語	イ 絵譜や色を用いた音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて、その意味に触れること。 ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関する絵譜や色を用いた音符、休符、記号や用語については、児童の発達の段階に合わせた理解を促しやすい色の付いた音符や色分けした絵譜などを活用しながら、知識を増やし生活の中でも活用できるようになることに配慮して指導すること。 ・「用語や記号など」については、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(9)に示すものに加え、生徒の実態や学習状況を考慮して、中学校学習指導要領第2章第5節音楽の第3の2の(10)に示すものを音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるよう取り扱うこと。		
		コ 2の目標及び内容の【共通事項】の(1)の(ア)に示す「音楽を形づくっている要素」については、児童の発達の段階や指導のねらいに応じて、次の(ア)及び(イ)を適切に選択したり関連付けたりして必要に応じて指導すること。		
		(ア) 音楽を特徴付けている要素 ⑦ 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど (イ) 音楽の仕組み ⑦ 反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など ※特別支援学校学習指導要領解説各教科編(小学部・中学部)平成30年3月 P.180～181参照		
	国歌「君が代」	オ 国歌「君が代」は、時期に応じて適切に指導すること。 ・入学式や卒業式等の様々な場面において、小学部は6学年間、中学部は3学年間を通じて歌われるものである。 ・国歌「君が代」は、時期に応じて適切に指導すること。児童の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、教師や友達が歌うのを聴いたり、楽器の演奏やCD等による演奏を聴いたり、みんなと一緒に歌ったりするなど、親しみをもてるよう、個々の児童に即した指導の工夫を行うこと。 ・国歌「君が代」は、日本国憲法の下において、日本国民の総意に基づき天皇を日本国及び日本国民統合の象徴とする我が国の末永い繁栄と平和を祈念した歌であることを踏まえること。		

音楽

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
(ア) 曲の雰囲気や表情を感じ取ったり、音楽がどのように形づくられているのかを捉えたりしながら、その音楽について自分が気に入ったところなどを見付けて聴くこと。	(ア) 曲のある一部のフレーズやリズムを聴くだけでなく、曲全体の流れを聴くようになること。	(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。	(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどについて自分なりに考え、曲全体を味わって聴くこと。
(イ) 「楽しく感じるのは、カッコカッコと同じリズムを繰り返して打っているのに、時々リズムが変わったり、途中からチリリリリンという音が入ったりするから」といったことが分かること。	(イ) 曲の雰囲気や表情、味わい及びその変化と音楽の構造との関わり合いといったことを理解すること。	(イ) 曲全体の雰囲気や表情、味わいとその移り行く変化について、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連との関係で理解すること。 ・「ゆったりとしておだやかな感じから、動きのあるにぎやかな感じに変わったのは、低音の楽器が単独でテンポもゆっくり演奏された音楽になったから」といった生徒が感じ取った曲想及びその変化を基にしなが、曲想を生み出している音楽の構造に目を向けるようにすること。	(イ) 次の⑦及び⑧について理解すること。 ⑦ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。 ⑧ 生活年齢からみた体験の広がりからその背景となる文化や歴史などを考える基盤ができていくことや、卒業後の生涯を見通して地域に学習の場が広がっていくことなどを生かして、音楽への興味関心を引き出すこと。
イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。		イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。	
・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語については、生徒の発達の段階に合わせた絵譜や色を付けた音符などを活用しながら、知識を増やし生活の中でも進んで活用できるようにすることに配慮して指導すること。		・音楽を形づくっている要素については、生徒の発達の段階や指導のねらいに応じて、音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などから、適切に選択したり関連付けたりして必要に応じて適切に指導すること。	
※小学部学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(9)に示す「音符・休符・記号や用語」を参照（P. 125 平成29年3月告示）			
コ 2の目標及び内容の【共通事項】の(1)のイに示す「音楽を形づくっている要素」については、生徒の発達の段階や指導のねらいに応じて、次の(ア)及び(イ)を適切に選択したり関連付けたりして必要に応じて適切に指導すること。		サ 【共通事項】の(9)のイに示す「用語や記号など」については、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(9)に示すものに加え、生徒の実態や学習状況を考慮して、中学校学習指導要領第2章第5節音楽の第3の2の(10)に示すものを音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるよう取り扱うこと。	
(ア) 音楽を特徴付けている要素 ⑦ 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど (イ) 音楽の仕組み ⑧ 反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など ※特別支援学校学習指導要領解説各教科編（小学部・中学部）平成30年3月 P. 180～181参照		※小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2参照 ※中学校学習指導要領第2章第5節音楽の第3の2参照	
オ 国歌「君が代」は、時期に応じて適切に指導すること。		オ 国歌「君が代」は、時期に応じて適切に指導すること。	
・国歌「君が代」は、時期に応じて適切に指導すること。 ・生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、教師や友達が歌うのを聴いたり、楽器の演奏やCD等による演奏を聴いたり、みんなと一緒に歌ったり、歌詞や楽譜を見て覚えて歌ったりするなど、親しみをもてるよう、個々の生徒に即した指導の工夫を行うこと。 ・国歌「君が代」は、日本国憲法の下において、日本国民の総意に基づき天皇を日本国及び日本国民統合の象徴とする我が国の永久の繁栄と平和を祈念した歌であることを踏まえること。		・国歌「君が代」は、時期に応じて適切に指導すること。 ・生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、教師や友達が歌うのを聴いたり、楽器の演奏やCD等による演奏を聴いたり、みんなと一緒に歌ったり、歌詞や楽譜を見て覚えて歌ったりするなど、親しみをもてるよう、個々の生徒に即した指導の工夫を行うこと。 ・教師や友達が歌うのを聴いたり、楽器の演奏やCD等による演奏を聴いたり、みんなと一緒に歌ったり、歌詞や楽譜を見て覚えて歌ったりするなど、親しみをもてるよう、個々の生徒に即した指導の工夫を行うこと。	

## 音楽

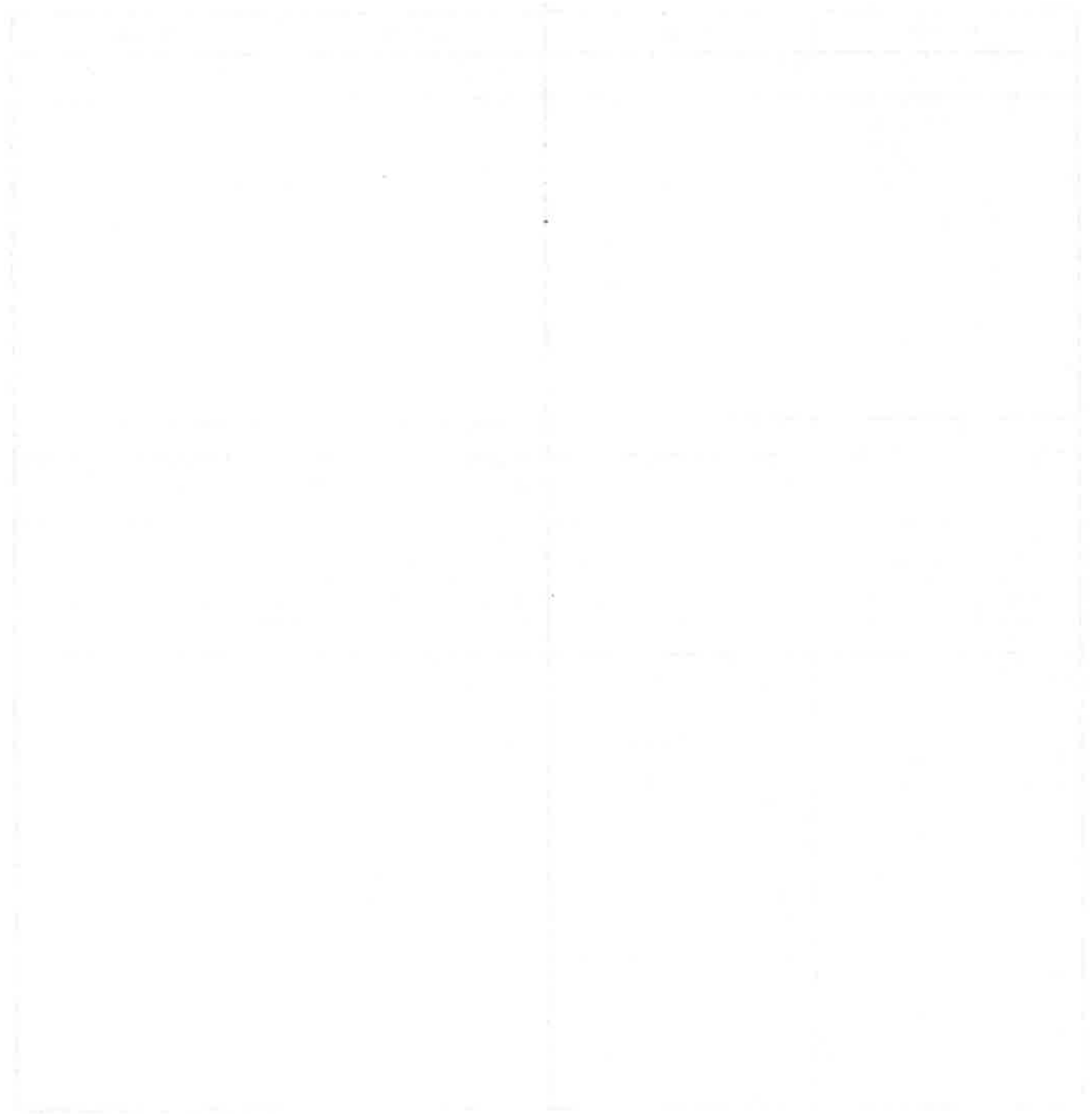
内容	小1段階	小2段階	小3段階																								
音楽づくり (6～7段階は 創作教材)		<p>ク 2段階及び3段階の「A表現」のウの音楽づくりの指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>(7) 音遊びや即興的な表現では、リズムや旋律を模倣したり、身近なものから多様な音（既製の楽器に拘らず、自分の体を叩いたり、音や床や壁を踏みしめたりして出る音）を探したりして、音楽づくりのための発想を得ることができるよう指導すること。</p> <p>(4) どのような音楽を、どのようにしてつくるかなどについて、児童の実態に応じて児童の目の前で実際に動いて見本を見せることや、つくる長さを図や絵にして、始まりと終わりを分かりやすくするなど具体的な例を示しながら指導すること。</p> <p>(9) つくった音楽については、指導のねらいに即し、必要に応じて記録できるようにすること。</p> <p>・記録の仕方については、自分が関わってつくった音楽のリズムや旋律、長さなどが分かりやすいような記録の工夫が求められ、図や絵によるものなど、柔軟に指導すること。</p> <p>(5) 拍のないリズム、我が国の音楽に使われている音階（わらべうたや民謡など）や調性にとらわれない音階などを児童の実態に応じて取り上げるようにすること。</p>																									
共通事項	<p>シ 歌唱教材は、次に示すものを取り扱うこと。</p> <p>・共通教材については、児童の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮しながら、各段階で1曲以上は選択して扱うものとする。</p> <p>(7) 児童の生活年齢及び発達の段階に応じた、日常の生活に関連した曲。</p> <p>(4) 主となる歌唱教材については、(9)の共通教材を含めて、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の曲。</p> <p>・6年間の指導の中で適切に取り扱うと同時に、交流及び共同学習や地域の行事に参加する場合にも、一緒に音楽活動ができる一助になること。</p>																										
	<p>(9) 共通教材は、次に示すものとする。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">「うみ」 (文部省唱歌)</td> <td style="width: 30%;">林 柳波 (はやしりゅうは) 作詞</td> <td style="width: 30%;">井上武士 (いのうえ たけし) 作曲</td> </tr> <tr> <td>「かたつむり」 (文部省唱歌)</td> <td>高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞</td> <td>岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲</td> </tr> <tr> <td>「日のまる」 (文部省唱歌)</td> <td>高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞</td> <td>岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲</td> </tr> <tr> <td>「ひらいたひらいた」 (わらべうた)</td> <td>林 柳波 (はやしりゅうは) 作詞</td> <td>下総皖一 (しもふさ かんいち) 作曲</td> </tr> <tr> <td>「かくれんぼ」 (文部省唱歌)</td> <td>高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞</td> <td>岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲</td> </tr> <tr> <td>「春がきた」 (文部省唱歌)</td> <td>高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞</td> <td>岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲</td> </tr> <tr> <td>「虫のこえ」 (文部省唱歌)</td> <td>中村雨紅 (なかむら うこう) 作詞</td> <td>草川 信 (くさかわ しん) 作曲</td> </tr> <tr> <td>「夕やけこやけ」</td> <td>中村雨紅 (なかむら うこう) 作詞</td> <td>草川 信 (くさかわ しん) 作曲</td> </tr> </table>			「うみ」 (文部省唱歌)	林 柳波 (はやしりゅうは) 作詞	井上武士 (いのうえ たけし) 作曲	「かたつむり」 (文部省唱歌)	高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞	岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲	「日のまる」 (文部省唱歌)	高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞	岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲	「ひらいたひらいた」 (わらべうた)	林 柳波 (はやしりゅうは) 作詞	下総皖一 (しもふさ かんいち) 作曲	「かくれんぼ」 (文部省唱歌)	高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞	岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲	「春がきた」 (文部省唱歌)	高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞	岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲	「虫のこえ」 (文部省唱歌)	中村雨紅 (なかむら うこう) 作詞	草川 信 (くさかわ しん) 作曲	「夕やけこやけ」	中村雨紅 (なかむら うこう) 作詞	草川 信 (くさかわ しん) 作曲
「うみ」 (文部省唱歌)	林 柳波 (はやしりゅうは) 作詞	井上武士 (いのうえ たけし) 作曲																									
「かたつむり」 (文部省唱歌)	高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞	岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲																									
「日のまる」 (文部省唱歌)	高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞	岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲																									
「ひらいたひらいた」 (わらべうた)	林 柳波 (はやしりゅうは) 作詞	下総皖一 (しもふさ かんいち) 作曲																									
「かくれんぼ」 (文部省唱歌)	高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞	岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲																									
「春がきた」 (文部省唱歌)	高野辰之 (たかの たつゆき) 作詞	岡野貞一 (おかの ていいち) 作曲																									
「虫のこえ」 (文部省唱歌)	中村雨紅 (なかむら うこう) 作詞	草川 信 (くさかわ しん) 作曲																									
「夕やけこやけ」	中村雨紅 (なかむら うこう) 作詞	草川 信 (くさかわ しん) 作曲																									



音楽

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>ク 各段階の「A表現」のウの音楽づくりの指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>(ア) 音遊びや即興的な表現では、リズムや旋律を模倣したり、身近なものから多様な音を探したりして、音楽づくりのための発想を得ることができるよう指導すること。</p> <p>(イ) どのような音楽を、どのようにしてつくるかなどについて、生徒の実態に応じて生徒の目の前で実際に動いて見本を見せることや、つくる長さを図や絵にして、始まりと終わりを分かりやすくすることなど具体的な例を示しながら指導すること。</p> <p>(ウ) つくった音楽については、指導のねらいに即し、必要に応じて記録できるようにすること。</p> <p>・記録の仕方については、図や絵によるものなど、柔軟に指導すること。</p> <p>(エ) 拍のないリズム、我が国の音楽に使われている音階（わらべうたや民謡など）や調性にとられない音階などを生徒の実態に応じて取り上げるようにすること。</p>	<p>ク 各段階の「A表現」のウの音楽づくりの指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>(ア) 即興的に音を出しながら音のつながりを試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。</p> <p>(イ) どのような音楽を、どのようにしてつくるかなどについて、生徒の実態に応じて具体的な例を示しながら指導すること。</p> <p>(ウ) つくった音楽については、指導のねらいに即し、必要に応じて記録できるようにすること。</p> <p>・記録の仕方については、図や絵によるものなど、柔軟に指導すること。</p> <p>(エ) 拍のないリズム、我が国の音楽に使われている音階や調性にとられない音階などを生徒の実態に応じて取り上げるようにすること。</p>	<p>ク 各段階の「A表現」のウの音楽づくりの指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>(ア) 即興的に音を出しながら音のつながりを試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。</p> <p>(イ) どのような音楽を、どのようにしてつくるかなどについて、生徒の実態に応じて具体的な例を示しながら指導すること。</p> <p>(ウ) つくった音楽については、指導のねらいに即し、必要に応じて記録できるようにすること。</p> <p>・記録の仕方については、図や絵によるものなど、柔軟に指導すること。</p> <p>(エ) 拍のないリズム、我が国の音楽に使われている音階や調性にとられない音階などを生徒の実態に応じて取り上げるようにすること。</p>	<p>ク 各段階の「A表現」のウの音楽づくりの指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>(ア) 即興的に音を出しながら音のつながりを試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。</p> <p>(イ) どのような音楽を、どのようにしてつくるかなどについて、生徒の実態に応じて具体的な例を示しながら指導すること。</p> <p>(ウ) つくった音楽については、指導のねらいに即し、必要に応じて記録できるようにすること。</p> <p>・記録の仕方については、図や絵によるものなど、柔軟に指導すること。</p> <p>(エ) 拍のないリズム、我が国の音楽に使われている音階や調性にとられない音階などを生徒の実態に応じて取り上げるようにすること。</p>
<p>シ 歌唱教材は、次に示すものを取り扱うこと。</p> <p>・共通教材については、生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮しながら、各段階で1曲以上は選択して扱うものとする。</p> <p>(ア) 生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた、日常生活に関連した曲。</p> <p>(イ) 主となる歌唱教材については、各段階とも(ウ)の共通教材を含めて、独唱、斉唱で歌う曲。</p> <p>・3年間の指導の中で適切に取り扱うと同時に、交流及び共同学習や地域の行事に参加する場合にも、一緒に音楽活動ができる一助になること。</p>	<p>シ 歌唱教材は、次に示すものを取り扱うこと。</p> <p>・共通教材については、生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮しながら、各段階で1曲以上は選択して扱うものとする。</p> <p>(ア) 生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた、日常生活に関連した曲。</p> <p>(イ) 主となる歌唱教材については、各段階とも(ウ)の共通教材を含めて、独唱、斉唱で歌う曲。</p> <p>・3年間の指導の中で適切に取り扱うと同時に、交流や地域の行事に参加する場合にも、一緒に音楽活動ができる一助になること。</p>	<p>シ 歌唱教材は、次に示すものを取り扱うこと。</p> <p>・共通教材については、生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮しながら、各段階で1曲以上は選択して扱うものとする。</p> <p>(ア) 生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた、日常生活に関連した曲。</p> <p>(イ) 主となる歌唱教材については、各段階とも(ウ)の共通教材を含めて、独唱、斉唱で歌う曲。</p> <p>・3年間の指導の中で適切に取り扱うと同時に、交流や地域の行事に参加する場合にも、一緒に音楽活動ができる一助になること。</p>	<p>シ 歌唱教材は、次に示すものを取り扱うこと。</p> <p>・共通教材については、生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮しながら、各段階で1曲以上は選択して扱うものとする。</p> <p>(ア) 生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた、日常生活に関連した曲。</p> <p>(イ) 主となる歌唱教材については、各段階とも(ウ)の共通教材を含めて、独唱、斉唱で歌う曲。</p> <p>・3年間の指導の中で適切に取り扱うと同時に、交流や地域の行事に参加する場合にも、一緒に音楽活動ができる一助になること。</p>
<p>(ウ) 共通教材 ⑦ 1段階の共通教材は、次に示すものとする。</p> <p>「うさぎ」(日本古謡) 「茶つみ」(文部省唱歌) 「春の小川」(文部省唱歌) 高野辰之(たかのたつゆき)作詞 岡野貞一(おかのていいち)作曲 「ふじ山」(文部省唱歌) 巖谷小波(いわやささなみ)作詞 「さくらさくら」(日本古謡) 「とんび」 葛原(くずはら)しげる作詞 梁田貞(やなただだし)作曲 「まきばの朝」(文部省唱歌) 船橋栄吉(ふなばしえいきち)作曲 「もみじ」(文部省唱歌) 高野辰之(たかのたつゆき)作詞 岡野貞一(おかのていいち)作曲</p>	<p>(ウ) 共通教材 ⑧ 2段階の共通教材は、次に示すものとする。</p> <p>「こいのぼり」(文部省唱歌) 「子もり歌」(日本古謡) 「スキーの歌」(文部省唱歌) 林 柳波(はやしりゅうは)作詞 橋本国彦(はしもとくにひこ)作曲 「冬げしき」(文部省唱歌) 「越天楽今様(歌詞は第2節まで)」(日本古謡) 慈鎮(じちん)和尚作歌 「おぼろ月夜」(文部省唱歌) 高野辰之(たかのたつゆき)作詞 岡野貞一(おかのていいち)作曲 「ふるさと」(文部省唱歌) 高野辰之(たかのたつゆき)作詞 岡野貞一(おかのていいち)作曲 「われは海の子(歌詞は第3節まで)」(文部省唱歌)</p>	<p>(ウ) 共通教材 ⑨ 1段階及び2段階の共通教材は、次に示すものとする。</p> <p>「赤とんぼ」 三木露風(みきろふう)作詞 山田耕筰(やまだこうさく)作曲 「荒城の月」 土井晩翠(どいばんすい)作詞 滝廉太郎(たきれんたろう)作曲 「早春賦」 吉丸一昌(よしまるかずまさ)作詞 中田 章(なかだあきら)作曲 「夏の思い出」 江間章子(えましょうこ)作詞 中田喜直(なかだよしなお)作曲 「花」 武島羽衣(たけしまはごろも)作詞 滝廉太郎(たきれんたろう)作曲 「花の街」 江間章子(えましょうこ)作詞 團伊玖磨(だんいくま)作曲 「浜辺の歌」 林 古溪(はやしこけい)作詞 成田為三(なりたためぞう)作曲</p>	<p>(ウ) 共通教材 ⑩ 1段階及び2段階の共通教材は、次に示すものとする。</p> <p>「赤とんぼ」 三木露風(みきろふう)作詞 山田耕筰(やまだこうさく)作曲 「荒城の月」 土井晩翠(どいばんすい)作詞 滝廉太郎(たきれんたろう)作曲 「早春賦」 吉丸一昌(よしまるかずまさ)作詞 中田 章(なかだあきら)作曲 「夏の思い出」 江間章子(えましょうこ)作詞 中田喜直(なかだよしなお)作曲 「花」 武島羽衣(たけしまはごろも)作詞 滝廉太郎(たきれんたろう)作曲 「花の街」 江間章子(えましょうこ)作詞 團伊玖磨(だんいくま)作曲 「浜辺の歌」 林 古溪(はやしこけい)作詞 成田為三(なりたためぞう)作曲</p>





## 8 図画工作・美術

### ○概要

- ・ 図画工作科，美術科の目標と内容を段階別に記載しています。
- ・ 今回の改訂で，「表現」「材料・用具」「鑑賞」の内容構成を，「A表現」及び「B鑑賞」の二つの領域と〔共通事項〕に改めています。
- ・ 教科の目標及び各段階の目標を受けた内容は，「A表現」と「B鑑賞」及び〔共通事項〕が三つの柱に沿った資質・能力の整理をふまえて構成されています。
- ・ 「A表現」と「B鑑賞」は，本来一体である内容の二つの側面として，図画工作科，美術科を大きく特徴付ける領域です。〔共通事項〕は，この二つの領域の活動において共通に必要な資質・能力であり，指導事項として示されています。
- ・ 「A表現」は「技能」や「思考力，判断力，表現力等」，「B鑑賞」は「思考力，判断力，表現力等」，〔共通事項〕は「知識」や「思考力，判断力，表現力等」（高1，高2段階は「知識」のみ）の育成を目指しています。

### ○表の見方及び留意点等

- ・ この表では，学習指導要領に記載されている内容をまとめるに当たって，「学習内容の概要」「目指す姿の例」「表現する対象」などの独自の項目を立て，段階毎にマトリックス状にまとめています。各段階の記載内容を読み解いて，各段階でどのような指導内容が求められているのかを見極める際の参考にしてください。
- ・ 学習指導要領に記載されている具体的な例を指導内容表に記載していますが，それは一例に過ぎません。各段階に合わせた内容について，材料や用具も含めてしっかりと検討する必要があります。
- ・ 段階毎に微妙に言い回しが異なる表現については，ゴシック体で表記しています。

### ○指導計画の作成に当たって

- ・ 各段階において，必要な経験などに考慮しながら，それぞれにふさわしい内容を選択して指導計画を作成し，目標の実現を目指すこととなります。
- ・ 指導計画の作成の配慮点として，児童の主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を行うことや他教科や特別活動等との関連を図り，総合的に活動することで，指導の効果を高めることなどが挙げられています。
- ・ 図画工作科，美術科の目標を実現するためには，3つの資質・能力を相互に関連させながら育成できるようにすることが大切です。

図画工作・美術

図画工作・美術					
目標	表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
知識及び技能	(1) 形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくることができるようにする。				
思考力、判断力、表現力等	(2) 造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。				
学びに向かう力、人間性等	(3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。				
段階	小1段階	小2段階	小3段階		
各段階の目標	知識及び技能	ア 形や色などの違いに気付き、表したいことを基に材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。	ア 形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。		
	思考力、判断力、表現力等	イ 表したいことを思い付いたり、作品などの面白さや楽しさを感じ取ったりすることができるようにする。	イ 造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。		
	学びに向かう力、人間性等	ウ 進んで表したり見たりする活動に取り組み、つくりだすことの楽しさに気付くとともに、形や色などに関わることにより楽しい生活を創造しようとする態度を養う。	ウ 進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを感じるとともに、感性を育み、形や色などに関わることにより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。		
内容	A 表現	内容	ア 線を引く、絵をかくなどの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身近な出来事や思ったことを基に絵をかく、粘土で形をつくるなどの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 日常生活の出来事や思ったことを基に絵をかく、作品をつくりだす活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思考力、判断力、表現力等	(ア) 材料などから、表したいことを思い付くこと。	(ア) 材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付くこと。	(ア) 材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付くこと。
		知識及び技能のうち技能	(イ) 身の回りの自然物などに触れながらかく、切る、ぬる、はるなどすること。	(イ) 身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくりだすこと。	(イ) 様々な材料や用具を使い、工夫して絵をかいたり、作品をつくりだすこと。
		学習内容の概要	・目で見る、手で触れる、力を加えて可塑性を楽しむといった遊びを展開する。	・経験したことから感じたこと、関心のあることから想像したこと、見たことをかいたりつくりだすこと。	・形や色などを工夫してあらわしたり、想像したことなどを表現するために、何を表したいのか明確にして、かいたりつくりだすこと。
		目指す姿の例	・かいたりつくりだすときに、手指や体の動きによって自然に出てきた形や色などに気付いている。	・自分のイメージを基に、児童自身が表したいことを思い付いたり、見付けたりしている。(大きく感じた動物はより大きく、赤いと感じた色はより赤く、小さなものや関心の低いものは表現の対象から除かれる。)	・好きなものを絵に表すとき、クレヨンやパスの色を選び、表し方を工夫して表している。 ・思い浮かべた花を紙で表すとき、紙の切り方を工夫して表している。 ・乗ってみたい乗り物を表すとき、粘土を丸めたりひねりだしたりするなど工夫している。

図画工作・美術

<p>表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		<p>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>	
<p>(1) 造形的な視点について理解し、表現したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。</p>		<p>(1) 造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p>	
<p>(2) 造形的なよさや面白さ、美しさ、表現したいことや表し方などについて考え、経験したことや材料などを基に、発想し構想するとともに、造形や作品などを鑑賞し、自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。</p>		<p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p>	
<p>(3) 創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を営む態度を養い、豊かな情操を培う。</p>		<p>(3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。</p>	
中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>ア 造形的な視点について気付き、材料や用具の扱い方に親しむとともに、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。</p>	<p>ア 造形的な視点について理解し、材料や用具の扱い方などを身に付けるとともに、多様な表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。</p>	<p>ア 造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。</p>	<p>ア 造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができるようにする。</p>
<p>イ 造形的なよさや面白さ、表現したいことや表し方などについて考え、経験したことや思ったこと、材料などを基に、発想し構想するとともに、身近にある造形や作品などから、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。</p>	<p>イ 造形的なよさや面白さ、美しさ、表現したいことや表し方などについて考え、経験したことや想像したこと、材料などを基に、発想し構想するとともに、自分たちの作品や美術作品などに親しみ自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。</p>	<p>イ 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。</p>	<p>イ 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p>
<p>ウ 楽しく美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を営む態度を養う。</p>	<p>ウ 主体的に美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を高め、心豊かな生活を営む態度を養う。</p>	<p>ウ 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。</p>	<p>ウ 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。</p>
<p>ア 日常生活の中で経験したことや思ったこと、材料などを基に、表現したいことや表し方を考えて、描いたり、つくったり、それらを飾ったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>ア 経験したことや想像したこと、材料などを基に、表現したいことや表し方を考えて、描いたり、つくったり、それらを飾ったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>ア 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、描いたり、つくったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>ア 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、描いたり、つくったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>
<p>(ア) 経験したことや思ったこと、材料などを基に、表現したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。</p>	<p>(ア) 経験したことや想像したこと、材料などを基に、表現したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。</p>	<p>(ア) 対象や事象を見つめ感じ取ったことや考えたこと、伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、構成を創意工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</p>	<p>(ア) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</p>
<p>(イ) 材料や用具の扱いに親しみ、表現したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具を選んで使い表すこと。</p>	<p>(イ) 材料や用具の扱い方を身に付け、表現したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組み合わせたりして計画的に表すこと。</p>	<p>(イ) 材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を工夫して表すこと。</p>	<p>(イ) 材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を追求し、自分らしさを発揮して表すこと。</p>
<p>・意識を働かせて何かを得ようとしたり、自分の感覚を大切に日常生活の中から価値などを創出したりする。</p>	<p>・自分の表現したいことや用途などを考えながら、それを基に、新しいことを考えて発想や構想を練る。</p>	<p>・感じ取ったことや考えたことなどから生み出された主題を基に、構成を創意工夫して発想や構想を練る。</p>	<p>・感じ取ったことや考えたことなどから生み出された主題を基に、自己の心を見つめて考えたことを十分に取り入れながら構想を練る。</p>
<p>・経験したことや思ったこと、材料などから、生徒自らが強く表現したいことを心の中に思い描いている。</p>	<p>・どの色とどの色が合うのかを考えたり、仕掛けや動く仕組みを工夫したり、表現したいことに合った材料を集めたりしている。</p>	<p>・自然や人物、動植物、身近にあるものや、出来事などに対して、感性を豊かに働かせることにより、形や色彩の特徴や、それらがもたらす様々なよさ、雰囲気、情緒、美などを感じ取っている。</p> <p>・体験などを基に感じたことや考えたこと、実際にはあり得ないこと、自分の思いや願いを思い浮かべている。</p>	<p>・感性や想像力を豊かに働かせながら対象や事象を深く見つめ、形や色彩などの特徴やイメージ、対象の内面や全体の感じ、生命観や心情などから生じた思いや考えなどを感じ取っている。</p>

図画工作・美術

段階		小1段階	小2段階	小3段階
内容 A 表現	表現する対象	・身近にある砂や水、紙や木などの材料に対して、手や体全体を使って自発的に働きかける。	・身近な人、動植物、自然、体験したことなどを題材に表現する。	・学校行事、社会の行事、自然現象の体験、親しみのある話などを題材に、共同でかいたりつくったりする。
	具体的な表現方法の例	・素材そのものに触れて楽しむように遊ぶ。 ・つぶす、伸ばす、ちぎる、丸める、破る、接合する、積み上げる、崩す、並べる、穴をあけるなど、手や体全体を働かせてつくる。	・クレヨンやパス、水彩絵の具、カラーペンなどを使って表現する。 ・器物の型を押したり、スタンプングを連続して模様をつくったりする。 ・土、紙材、草木、アルミ箔、箱、空き缶などを用い、のり、粘着剤、ステープラー、はさみ、へら、シャベルなどを使って、表したい形をつくる。	・学校行事で使う飾りや用具を協力してつくる。 ・児童が自分の表したいことを基に技能を働かせる。 ・様々な材料を用いたり、用具を使ったりする中から感じたことを生かしながら表す。
	表現に関する配慮事項	・造形遊びなどをするによって、形や色などに気付いたり、興味や関心をもったりする中で、表現の楽しさを体感していくということを大切にすることが必要である。	・かいたり形をつくったりする活動が豊かになることに留意する。	・感じたこと、想像したこと、見たこと、思ったことを互いにつながりのあるものとして捉え、指導に生かすことが必要である。 ・造形的な創造活動を目指していることを踏まえ、具体的なものの形や色などを単に再現することを強いるものではない。
	材料	・そのものの自体の形は変えにくい、並べたりつないだりすることや、ちぎったり丸めたりするなど、そのものの自体の形を変えることを思い付きやすいもの。 ・身の回りにある土、粘土、砂、小石、木の葉、小枝、木の実、貝殻、雪や氷、水といった自然物。	・土、砂、石、粘土、草木などの造形遊びでかかわる身近な自然物。 ・紙、新聞紙、段ボール、布、ビニル袋やシート、包装紙、紙袋、縄やひも、空き箱、スチレンボード、プラスチックなどの人工の材料。	・土、砂、石、粘土、草木などの自然物や、紙、布、積み木、アルミ箔、空き缶、スチレンボード、針金、プラスチック、ゴムなどの人工物。
	用具	・手指そのもの。 ・棒きれなどたまたま手にしているものがペンやクレヨンなどに代わることもある。	・クレヨンやパス、水彩絵の具、カラーペン、のり、粘着剤、ステープラー、はさみ、へら、シャベル。	・2段階に例示したのものに加えて、かなづち、ペンチ、のこぎり、彫刻刀、くぎ、ねじ、接着剤など日常生活で扱われる簡易な木工加工用具、金属加工用具。
	材料や用具の使用に関する配慮事項	・素材そのものに触れて楽しむような遊びや、造形材料の可塑性に気付き手や体全体を働かせてつくることが大切である。 ・造形遊びの楽しさを味わうことのできる活動が展開できるようにする。	・意図に合う材料・用具を選択したり、使い方を工夫したりし、材料や用具に関わる時間を十分にとることが必要である。 ・児童が手や体全体の感覚などを働かせている様々な材料に触れ、材料を扱う楽しさを味わい、「もっと使ってみよう」という関心や意欲をもつような機会を設定することが大切である。	・繰り返して経験することで、材料の性質がわかり、用具の使い方を習得するとともに、材料・用具の選択や使い方の工夫をする。 ・生活経験や発達によって異なる一人一人の表現能力を一層伸ばせるよう、児童個々に必要な材料や用具を整えることが大切である。

図画工作・美術

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
<p>・静物や風景の観察や描写，学校行事や社会行事などの印象，想像画，ポスター，案内表示，標識，表紙装丁，デザイン，カット，模様・装飾，彫刻や立体の題材としては，人，動物，乗り物，建物，工芸品としては，箱，筆立て，ペン皿，焼き物の器物など。</p>	<p>・直接経験したことだけでなく，想像したことを題材として表現する。</p>	<p>・人物や動植物，静物や風景を観察や描画をしたり，学校行事や社会行事などを印象・想像画を題材として表現する。</p>	<p>・社会的な出来事や場面，学校に関わる人々や地域の人々などに目を向け，主体的に地域や社会に働きかけるような学習活動等を題材として表現する。</p>
<p>・自然の形や幾何学的な形を並べたり，繰り返したりして，表現する。 ・知らせる事項を考え，形や色彩の組み合わせを工夫するなどして伝達機能をもつポスターなどの平面デザインとして表現する。 ・塑像や焼成工程のある器物の活用，いろいろな造形材料の性質を生かした加工，塗装加工などをする。 ・水彩絵の具を使いながら水の加減や色の混ぜ方を工夫したり，金づちを使いながら，釘を並べるように打ったりする。</p>	<p>・一人一人の生徒が心に思い描いたことを簡単な絵や図でかきとめたり，直接材料を置いて表し方やつくり方を決めたりする。</p>	<p>・絵に描く，版画にする，目的や用途に合わせたポスターや表示物をデザインする。 ・彫刻などの立体に表す，生活に役立つ器物や装飾品などをつくる。</p>	<p>・使用する多くの人たちの気持ちや身体に優しいデザイン，多様な人々が共有できる機能について考える。</p>
<p>・自分が一番表したいことを，およその表したいことも含めて捉える必要がある。 ・鑑賞の学習と関連させて自分たちの作品や身近な造形品の制作の過程などの鑑賞をすることにより，表したいことを見付けたり表し方を考えたりできるようにすることが大切である。</p>	<p>・明確な手順通りに表すだけでなく，試しながら表したり，次第に表したいことや用途などが明確になったりするような指導を工夫する必要がある。</p>	<p>・生徒に身の回りの具体的な出来事や場面，人々が生活する姿に目を向けさせ，主体的に周囲に働きかける学習活動を通して，気持ちや情報を伝える楽しさを味わわせる。</p>	<p>・表現方法から構想を練る際には，材料，表現方法，構想内容が技術的に可能なかななどを十分に検討しておく。 ・表現方法を試す場の設定や，性質や特徴の違う材料を複数準備するなどの条件整備を整えておく。</p>
<p>・粘土，紙，石，木，布，金属，プラスチック，スチレンボードなど。</p>	<p>・粘土，紙，石，布，木，金属，プラスチック，スチレンボード，建築，土木工業用資材など。</p>	<p>・粘土，木，石，紙，布，金属，プラスチック，スチレンボード，ニス，水性・油性塗料など。</p>	<p>—</p>
<p>・描画では水彩絵の具やポスターカラー，色鉛筆，ペン，パステルなど。立体では彫刻刀，金づち，のこぎり，電動糸のこぎりなど。</p>	<p>・水彩絵の具，塗装用具，接着剤，彫刻刀，簡単な木材・金属加工用具電，動糸のこぎりや研磨機などの電動工具など。</p>	<p>・水彩絵の具やポスターカラーの具，墨，色鉛筆，ペン，パステル，色紙，塗装用具，接着剤，彫刻刀，簡易な木材・金属加工用具，糸のこ盤や研磨機などの電動工具など。</p>	<p>—</p>
<p>・道具・機械等の取扱いや安全・衛生に関する指導と合わせて，安全への関心を高め，適切な使用により，表現の活動が一層楽しくなることを経験できるようにする。 ・材料の中から表現に合う素材を選択し，その特徴と使い方や用具の扱い方を理解し，生かしていくことができるように体験を積み重ねていくことが必要である。</p>	<p>・これまでの経験を提示物や画像などから振り返る時間を設定したり，新たな材料や道具との出会い方を工夫したりしながら，生徒自身が材料や用具を活用しながらその効果や可能性に気付くようにする。 ・用具の操作の難易度が，生徒の手指等の機能や活動に対する理解の状態に応じたものであることに留意する。</p>	<p>・生徒の意図に応じて工夫して表すためには材料や用具の生かし方だけでなく，形や色彩の生かし方なども身に付けることが必要である。</p>	<p>・制作していく中で，生徒が「やってみたい，試してみたい」と思ったときに，材料や用具と自由に関わるような学習環境を工夫する。</p>

図画工作・美術

段階		小1段階	小2段階	小3段階	
内容	各段階の内容	内容	ア 身の回りにあるものや自分たちの作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。		
		思考力、判断力、表現力等	(ア) 身の回りにあるものなどを見ること。	(ア) 身近にあるものなどの形や色の面白さについて感じ取り、自分の見方や感じ方を広げること。	(ア) 自分たちの作品や、日常生活の中にあるものなどの形や色、表し方の面白さなどについて、感じ取り、自分の見方や感じ方を広げること。
	学習内容の概要	・自分たちの作品や身近な材料など、目の前にある対象を見る。	・身近にあるものを見つめたり、触ったり、手に取ったりすることを通して、その形を面白いと感じたり、心地よいと思ったりする。	・自他の作品に題名や名前を付けて飾ったり、作品を見ながら表現した内容を説明したり聞いたりして、形や色、表し方の面白さなどについて感じ取る。	
	目指す姿の例	・自分や友達の作品や造形活動で用いられる材料などを見たり触ったりしたときに、素直な驚きや喜びを感じている。	・自然に手を動かしながら材料の形を確かめたり、材料を並べたり、つないだり、積んだりしながら何かを思い付いたりしている。	・見たり触ったりした作品や材料などとの出会いの中で見方や感じ方を広げている。	
	指導上の工夫	・児童の意欲や関心を重視しながら、それを広げたり確かめたりできるように工夫する。	・指先で触る、手のひらで包むこむように触る、抱きかかえるように触る、持ち上げるなど、さまざまに作品などを触ることができるようにする。	・材料や用具を取りに行ったり自分の場所に戻ってきたりする途中で鑑賞できるようにする。	
	鑑賞方法の例	—	・見たり、触ったり、話したりするなど、自ら働きかける能動的な鑑賞活動を行う。	・作品を保管する棚や机を、作品置き場としてだけでなく、児童が自分の作品や友達の作品を鑑賞する場とする。	
	鑑賞に関する配慮事項	・児童の意欲や関心を重視するためには、日頃から児童の様子をよく見て、どのようなことに興味や関心をもっているのかを把握しておく必要がある。	・材料や触ってもよい作品などを鑑賞の対象として設定し、児童が様々に作品などを触ることができるようにすることも大切である。	・座席配置を班の形にして、互いの活動や作品が目に入るようにする。	

図画工作・美術

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
ア 自分たちの作品や身近な造形品の鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分たちの作品や美術作品などの鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 美術作品や生活の中の美術の働き、美術文化などの鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。
(ア) 自分たちの作品や身近な造形品の制作の過程などの鑑賞を通して、よさや面白さに気づき、自分の見方や感じ方を広げること。	(ア) 自分たちの作品や美術作品などを鑑賞して、よさや面白さ、美しさを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めること。	(ア) 美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。	(ア) 美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。
(イ) 表し方や材料による印象の違いなどに気づき、自分の見方や感じ方を広げること。	(イ) 表し方や材料による特徴の違いなどを捉え、自分の見方や感じ方を深めること。	(イ) 生活の中の美術や文化遺産などのよさや美しさを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げること。	(イ) 生活の中の美術や文化遺産などのよさや美しさを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。
・対象を自分の見方や感じ方で捉え、そこに新しい意味や価値を発見するなどして、生活の中で生きて働く見方や感じ方を広げる。	・対象がもつ形や色彩などのよさや面白さ、美しさを自分なりに味わいながら、自分の見方や感じ方を深める。	・対象をじっくりと見つめる時間を大切に、自分の感覚で素直に味わうとともに、教師が示した課題や助言などを基に、形や色彩、材料などに視点を置いて感じ取ったりする。	・対象の形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、価値や情緒などを感じ取り、外形には見えない本質的なよさや美しさなども捉えようとする。
・対象や事象と自分の印象を分けて捉えたり、他の生徒の作品から自分の考えが異なる点を見つけてその思いを汲み取ったり自分の表現に生かしている。また、感じ取ったことや想像したことなどを誰かに話したり他の生徒と共感し合ったりしている。	・一人一人の生徒が自分の見方や感じ方を大切に、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい意味や価値をつくりだしている。	・作者の関心や発想、作品に込められた心情、その作品によって何を表現したかったのかという意図と、それがどのように表現されているかという工夫について考えている。	・主題などに基づき、作品の背景を見つめたり自分の生き方との関わりの中で作品や制作に対する姿勢を捉えたりするとともに、表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして鑑賞の視点を豊かにし、見方や感じ方を深めている。
・生徒が自分で見つけたよさや面白さを、生徒自身が自ら気付くようにし、鑑賞の学習だけでなく、表現の学習にも生かせるように工夫する。	・実物と直接向かい合い、作品のもつよさや美しさについて実感を伴いながら捉えさせることができない場合は、大きさや材質感など実物に近い複製、作品の特徴がよく表されている印刷物、ビデオ、コンピュータなどを使うなどの工夫をする。	・作品が表している内容や形、色彩、材料、表現方法などから、生徒が自分の感覚や言葉で感じ取れるように助言や指導を工夫する。	・生徒が鑑賞の学習を通して考えたことや、発想や構想したことを表現の学習に生かしたり、表現した作品を相互に鑑賞し合ったりするなど、鑑賞と表現が関連し合いながら繰り返されるように指導を工夫する。
・形や色彩に着目し、造形の要素の働きを捉えさせることで見方や感じ方を広げられるようにする鑑賞活動を行う。	・自分たちの作品や美術作品を進んで見たり、触ったり、他の生徒と感じ取ったことを話し合ったりするなど、自ら働きかける鑑賞活動を行う。	・身の回りにある身近な風景や自然現象、街で見られる人工物などの形や色彩、材料などに視点を置いて意識して捉え、造形的な美しさを感じ取ったり、文化遺産などの特性やよさに気付いたりする鑑賞活動を行う。	・動植物や自然物、四季や自然現象、風景などの自然や、公園や建造物、街並みなどの環境の中に見られる造形的な美しさを感じ取ったり、独自の文化を生み出してきた日本の美術文化のよさを味わったりする鑑賞活動を行う。
・完成した作品だけでなく、後日の学習の初めに途中の作品を見合う時間を取り入れることや、授業時間以外でも制作途中の作品が鑑賞できるようにする。	・校外学習などと関連させて美術館を見学したり、校内の作品展などを開催し、自分たちの作品を重点的に鑑賞したりできるようにする。	・鑑賞の活動に必要な地域の人材や施設等の活用を図り、実感の伴う学びを実現することで、積極的に鑑賞しようとする気持ちを高めたり、見方や感じ方を広げたりする。	・異なった見方や感じ方を尊重する雰囲気をつくるとともに、作品に対する生徒の興味・関心をより高めたり、いくつかの鑑賞の視点を設定したりしながら、生徒それぞれに多様な見方や感じ方ができるようにして、鑑賞を深めていけるような配慮をする。



図画工作・美術

段階		小1段階	小2段階	小3段階
内容 〔共通事項〕	内容	ア 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「知識」	(ア) 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などについて気付くこと。	(ア) 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などの違いに気付くこと。	(ア) 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じに気付くこと。
	「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」(高1, 高2段階は「知識」)	(イ) 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	(イ) 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	(イ) 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。
	学習内容の概要	・目の前にある対象の形や色を捉える。	・砂や粘土、紙などの材料や自分たちの作品などを自分の視覚や触覚などの感覚で捉える。	・絵の具や板材などの材料や自分たちの作品などを自分の視覚や触覚などの感覚で捉える。
	行為や活動の概要	・自分が見たり触ったりして感じたことや、並べたり、積んだりするなどの行った活動。	・並べたり積んだりするなどの行為や活動。	・混ぜたり切ったりするなどの行為や活動。
	目指す姿	・感じたことや行ったことを通して、形、線、色、触った感じなどに気付く。 ・形や色などに着目して活動する。	・形や色などを比べて選ぶ、様々な材料に触れるなどの、多様な学習活動を通して、楽しみながら形や色などの違いに気付く。	・感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどに気付く。(形の柔らかさ、色の暖かさ、色の組合せによる優しい感じ、面と面の重なりから生まれる前後の感じ、色の明るさによる感じの違い、質感など)
	目指す姿の具体的な例	・材料の大きさを自分の体と比べている。 ・ふわふわした材料の感触を体中で味わっている。	・形や色などが似ているか、似ていないか、大きい、小さい、長い、短い、丸、三角、四角など大まかなまとまりで捉えたときの違いに気付いている。	・絵の具を混ぜたり水量を考えたことで色の感じの違いに気付いている。 ・様々な板材を組み合わせることで形を組み合わせた感じに気付いている。 様々な材料に触れ選ぶことで材料の質感に気付いている。
	イメージについて	・社会や大人のもつ知識や習慣を受動的に理解することではなく、自分の感覚や行為とともにイメージをもつ。	・社会や大人のもつ知識や習慣を受動的に理解することではなく、自分の感覚と行為が一体であるようなイメージをもつ。	・形や色の感じ、自分の思いや経験など、様々な手掛かりを基にイメージをもつ。
	イメージの例	・自分の手の動きから生まれた線を「ぐんと伸びている」と感じたり、色が「ぱっと広がる」と感じたりする。	・浮かんでいる雲を「わたあめみたい」と話したり、色水を混ぜて、「ジュースみたい」とつぶやいたりする。	・「材料が白くてふわふわしていたから、ウサギを思い付いた」、「絵の具のにじんだ様子を生かして不思議な世界を表した」、「粘土をかき出して大きな穴を開けたら、穴の中に住む生き物を思い付いた」など、具体的である。

図画工作・美術

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
ア 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。			
(ア) 形や色彩、材料や光などの特徴について知ること。	(ア) 形や色彩、材料や光などの特徴について理解すること。	(ア) 形や色彩、材料や光などの働きを理解すること。	
(イ) 造形的な特徴などからイメージをもつこと。	(イ) 造形的な特徴などからイメージを捉えること。	(イ) 造形的な特徴などから全体のイメージで捉えることを理解すること。	
・形や色彩などの特徴に気づき、それが表現したり鑑賞したりするときの手掛かりになることに気付いたり知ったりする。	・形や色彩などの特徴について理解し、それらの特徴について表現したり鑑賞したりするときの手掛かりにする。	・作品や身の回りの生活の中の形や色彩などの要素や全体に意識を向けて着目したり、造形の要素の働きやイメージを捉えたりする。	・表したいイメージを捉えて、豊かに発想し構想を練ったり、作品などからイメージを捉えて豊かに鑑賞したりする。
—	—	—	—
・表現及び鑑賞の活動の学習過程を通して、個別の感じ方や考え方等に応じながら活用したり身に付けたりする。	・対象などの形や色彩などの造形の要素に着目し、感覚や行為を働かせながら、それらの特徴について表現したり鑑賞したりする。	・造形を豊かに捉える多様な視点をもつ。	・形や色彩、材料、光などの働きや、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風で捉える。
・自分が感じたイメージを他者と伝え合ったり、根拠について話し合ったりするなどして、他者とイメージを共有したり新たな視点に気付いたりしている。	・「ここは動いている雰囲気にしたいため勢よく描こう」や「この材料とこの材料を組み合わせると、見た印象はどうなるだろう」など豊かに発想し構想を練っている。 ・「ずっと奥にいけるような感じがする」「絵の具で描いているのに、布を張ったように見える」など、見方や感じ方が深まっている。	・視覚や触覚等で、色彩の味わいや明るさ、鮮やかさや材料の性質や質感を感じている。 ・形の優しさ、色の楽しさや寂しさ、木の温かさ、光の柔らかさ、形や色彩などの組み合わせによる美しさなどについて心で感じ取っている。	・作風や様式などで捉えるということの理解から、全体を文化的な視点から捉え、美術文化について見方や感じ方を深めることにもつながっている。 ・直感的な捉え方を重ねることを大切にする中で、一人一人の独自の造形的な視点が豊かになり、自分らしい見方が育っている。
・作品などの全体に着目させて、造形的な特徴などを基に見立てたり、心情と関連付けたりしてイメージをもつ。	・形や色彩などの部分だけに着目するのではなく、作品などの全体に着目して、造形的な特徴などからイメージを捉える。	・造形的な特徴などを基に見立てたり心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉える。 ・作風などの視点で捉えることなどについて、実感を伴いながら理解できるようにする。	・対象を具体的に見立てたり心情などと関連付けたりするなど全体のイメージで捉える。
・造形的な特徴などから何かに見立てたり、「かわいい」「寂しい」の心情と関連付けたりすることで、具体的に自分なりのイメージをもつ。	・造形的な特徴などから「この木の葉は手に見える」などのように見立てる。 ・「絵から感じられる寂しさが、夕焼けの景色を見た情景と似ている」など心情と関連付けてイメージを捉える。	—	・「霧のかかった景色が水墨画のようだ」、「この作品は印象派の雰囲気がある」、「ラッパを見て花びらのように見えた」などに見立てる。



## 9 体育・保健体育

### ○内容の構造

- ・ 体育・保健体育科の目標（以下、教科の目標）は、三つの柱（(1) 知識及び技能 (2) 思考力, 判断力, 表現力等 (3) 学びに向かう力, 人間性等）の目標が相互に密接な関連をもちつつ、体育・保健体育科の究極的な目標である、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を目指すことが示されています。
- ・ さらに段階の目標は、教科の目標を実現していくための具体的な指導目標を三つの柱（アに「知識及び技能」、イに「思考力, 判断力, 表現力等」、ウに「学びに向かう力, 人間性等」）で示しています。
- ・ 「内容」及び「内容例」は、9項目（運動領域）を7段階（小～高）で示しています。但し、武道や体育理論は一部の段階でのみ扱う内容であるため、該当段階のみで示すようにしています。
- ・ 各領域の「内容」及び「内容例」は、ア～ウの三つの柱で段階毎の全体内容を示した上で、下位項目に特別支援学校学習指導要領解説各教科編小学校・中学校、高等学校（以下、解説）の体育科・保健体育科に記されている例示を内容例として示しています。ただし、保健と体育理論には、例示が示されていなかったため、解説文を抜粋して示しています。
- ・ 資質・能力によって指導内容が変わることはありません。

### ○表の見方

- ・ 段階毎に発展的に指導内容を示すことができた内容項目もありますが、指導内容は変わらず、支援の状態の違いを（例えば、教師と一緒に～する、一人で～するのよう）内容的発展と捉えて示したものもあります。
- ・ 体育・保健体育科では、走・跳の運動遊び（走・跳の運動）と陸上競技、水遊び（水の中での運動）と水泳は、内容の性質の違いが大きいと考え、他の部分と示し方を変えています。
- ・ 解説には、「～が大切である」という、指導内容とも配慮事項とも受け止めることができる記述がありましたが、指導内容としては示しておりません。指導内容を設定する際は、解説内の記述内容も参照してください。
- ・ きまりについては、内容を各領域の「内容のウ」に示していますが、内容例は選定した題材によって異なるため、示していません。

体育・保健体育

体育・保健体育			
目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題に気付き、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	(1) 遊びや基本的な運動の行い方及び身近な生活における健康について知るとともに、基本的な動きや健康な生活に必要な事柄を身に付けるようにする。		
思考力、判断力、表現力等	(2) 遊びや基本的な運動及び健康についての自分の課題に気付き、その解決に向けて自ら考え行動し、他者に伝える力を養う。		
学びに向かう力、人間性等	(3) 遊びや基本的な運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。		
段階の目標	小1段階	小2段階	小3段階
知識及び技能	ア 教師と一緒に、楽しく体を動かすことができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようにする。	ア 教師の支援を受けながら、楽しく基本的な運動ができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようにする。	ア 基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けるとともに、健康や身体の変化について知り、健康な生活ができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにするとともに、健康な生活を営むために必要な事柄について教師に伝えることができるようにする。	イ 基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現できるようにするとともに、健康な生活に向け、感じたことを他者に伝える力を養う。	イ 基本的な運動の楽しみ方や健康な生活の仕方について工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝える力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 簡単な合図や指示に従って、楽しく運動をしようとしたり、健康に必要な事柄をしようとしたりする態度を養う。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく運動をしようとしたり、健康に必要な事柄をしようとしたりする態度を養う。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとするとともに、自分から健康に必要な事柄をしようとする態度を養う。

体育・保健体育

<p>目標</p>	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p>		<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p>	
<p>知識及び技能</p>	<p>(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び自分の生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p>		<p>(1) 各種の運動の特性に応じた技能等並びに個人生活及び社会生活における健康・安全についての理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。</p>	
<p>思考力、判断力、表現力等</p>	<p>(2) 各種の運動や健康・安全についての自分の課題を見付け、その解決に向けて自ら思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p>		<p>(2) 各種の運動や健康・安全についての自己や社会の課題を発見し、その解決に向けて仲間と思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p>	
<p>学びに向かう力、人間性等</p>	<p>(3) 生涯にわたって運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p>		<p>(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむことや、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>	
<p>段階の目標</p>	<p>中1段階</p>	<p>中2段階</p>	<p>高1段階</p>	<p>高2段階</p>
<p>知識及び技能</p>	<p>ア 各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。</p>	<p>ア 各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けるようにする。</p>	<p>ア 各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活に必要な健康・安全に関する事柄などを理解するとともに、技能を身に付けるようにする。</p>	<p>ア 各種の運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活及び社会生活に必要な健康・安全に関する事柄などの理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。</p>
<p>思考力、判断力、表現力等</p>	<p>イ 各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。</p>	<p>イ 各種の運動や健康な生活における自己やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。</p>	<p>イ 各種の運動や健康・安全な生活を営むための自己の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを、他者に伝える力を養う。</p>	<p>イ 各種の運動や健康・安全な生活を営むための自己の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p>
<p>学びに向かう力、人間性等</p>	<p>ウ 各種の運動に積極的に取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に積極的に取り組む態度を養う。</p>	<p>ウ 各種の運動に積極的に取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進と回復に積極的に取り組む態度を養う。</p>	<p>ウ 各種の運動における多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自己の最善を尽くして自主的に運動をする態度を養う。また、健康・安全に留意し、健康の保持増進と回復に積極的に取り組む態度を養う。</p>	<p>ウ 各種の運動における多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。また、健康・安全に留意し、健康の保持増進と回復に自主的に取り組む態度を養う。</p>

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	小1段階	小2段階	小3段階	
体づくり運動遊び（小1段階） ・体づくり運動（小2・3段階）	内容	<p>体づくり運動遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 教師と一緒に、手足を動かしたり、歩いたりして楽しく体を動かすこと。</p> <p>イ 手足を動かしたり、歩いたりして体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。</p> <p>ウ 簡単な合図や指示に従って、体づくり運動遊びをしようとする事</p>	<p>体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 教師の支援を受けながら、楽しく基本的な体づくり運動をすること。</p> <p>イ 基本的な体づくり運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。</p> <p>ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、基本的な体づくり運動をしようとする事</p>	<p>基本的な体づくり運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。</p> <p>イ 基本的な体づくり運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。</p> <p>ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく基本的な体づくり運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする事</p>	
	体づくり運動遊び	<p>・しゃがんだり立ったり、その場跳びをしたり、転がったりするなどの運動遊びをすること。</p> <p>・なわやテープの上を歩いたり、踏まないようにまたいで歩いたりするなどの運動遊びをすること。</p>	—	—	
	体ほぐしの運動	—	—	・伸び伸びとした動作で運動を行うこと。	・伸び伸びとした動作で用具などを用いた運動を行うこと。
		—	—	・リズムに乗って運動を行うこと。	・リズムに乗って弾むような動作で運動すること。
		—	—	・歩いたり走ったりする運動を行うこと。	・動作や人数などの条件を整えて、歩いたり走ったりする運動を行うこと。
		—	—	—	・伝承遊びや集団による運動を行うこと。
		—	—	—	—
	多様な動きをつくる運動	—	—	・片足を軸にして、右回り・左回りに回転すること。	・立った姿勢からリズムよくはねながら、右回り・左回りに回転などをする事。
		—	—	・片足立ちでバランスを保つ運動をすること。	—
		—	—	・大また小またなどの歩き方をしたり、直線上を歩いたり、一列に並んで歩いたりすること。	・後ろ歩き、横歩きなどいろいろな歩き方をしたり、リズムに合わせて行進したりすること。
—		—	・大きな円を右回りや左回りに這ったり、歩いたり、走ったりすること。	・横や後ろ、斜めに走ったり、曲線やジグザグなどの走路や細い走路を走ったりすること。	
—		—	・無理のない速さで続けてかけ足をすること。	・無理のない速さでかけ足を3～4分程度続けること。	

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
体づくり運動		体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。			
	内容	ア 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさに触れるとともに、その行い方が分かり、友達と関わったり、動きを持続する能力などを高めたりすること。	ア 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、その行い方を理解し、友達と関わったり、動きを持続する能力などを高めたりすること。	ア 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、その行い方や方法を理解するとともに、仲間と積極的に関わったり、動きを持続する能力などを高める運動をしたりすること。	ア 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを深く味わい、その行い方や方法の理解を深めるとともに、仲間と自主的に関わったり、動きを持続する能力などを高める運動をしたりするとともに、それらを組み合わせること。
		イ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自他の課題を発見し、工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	イ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。
		ウ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	ウ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	ウ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動の多様な経験を通して、きまりを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	ウ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動の多様な経験を通して、きまりを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすること。
	体づくり遊び運動	-	-	-	-
		-	-	-	-
	体ほぐしの運動	・伸び伸びとした動作で用具などを用いた運動を行うこと。			・緊張したり緊張を解いて脱力したりする運動を行うこと。
		・リズムに乗って心が弾むような動作で運動を行うこと。	・ペアになって互いの心や体の状態に気付き合いながら体をゆらすなどの運動を行うこと。	・リズムに乗って心が弾むような運動を行うこと。	・いろいろな条件で、歩いたり走ったり跳びはねたりする運動を行うこと。
		・動作や人数などの条件を変えて、歩いたり走ったりする運動を行うこと。	・動作や人数などの条件を変えて、歩いたり走ったりする運動を行うこと。	・いろいろな条件で、歩いたり走ったり跳びはねたりする運動を行うこと。	・仲間と協力して課題を達成するなど、集団で挑戦するような運動を行うこと。
		・伝承遊びや集団による運動を行うこと。		-	-
	・ラジオ体操や学校や地域で親しまれている簡単なリズムに合わせて行う体操などを行うこと。	-		・ラジオ体操や地域で親しまれている曲に合わせて行う体操などを行うこと。	
体の動きを高める運動				・大きくリズムカルに全身や体の各部位を振ったり、回したり、ねじったり、曲げ伸ばしたりすること。	・体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動の中から、一つのねらいを取り上げ、それを高めるための運動を効率よく組み合わせる行うこと。
				・人と組んだり、用具を利用したりしてバランスを保持すること。	・体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動の中から、ねらいが異なる運動をバランスよく組み合わせる行うこと。
	・平均台など、少し高さのある器具の上を動物歩きや横歩きなどで渡ること。				
	・物や用具の間を速さ、方向を変えて這ったり、歩いたり、走ったりすること。	・用具などを等間隔に並べた走路や、跳び箱や平均台などの器具で作った段差のある走路をリズムカルに走ったり跳んだりすること。		・床やグラウンドに設定した様々な空間をリズムカルに歩く、走る、跳ぶ及び素早く移動することなど。	
	-	-	-	-	-



体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	小1段階	小2段階	小3段階
体づくり運動遊び(小2・3段階)	多様な動きをつくる運動	-	・大きさや重さの異なるボールを両手でつかんで、持ち上げたり、下ろしたりすること。	・ボールや棒など大きさや種類の異なる用具を片手や両手で投げたり、捕ったりすること。
		-	・長なわでの大波・小波をすること。	・短なわを揺らしたり、回旋したりしながら前や後ろの連続両足跳びをすること。
		-	・なわを引きながら、力比べをすること。	・押し合いずもうで、重心を低くして相手を押したり、相手から押されないように踏ん張ったりすること。
		-	-	・友達と手をつないだり肩を組んだり背中を合わせたりして、立ったり座ったりすること。
		-	-	・友達をおんぶしたり、おんぶして歩いたりすること。
		-	-	-
器械・器具を使つての遊び(小1段階) 器械・器具を使つての運動(小2・3段階)	内容	器械・器具を使つての遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	器械・器具を使つての運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
		ア 教師と一緒に、器械・器具を使つて楽しく体を動かすこと。	ア 教師の支援を受けながら、楽しく器械・器具を使つての基本的な運動をすること。	ア 器械・器具を使つての基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。
		イ 器械・器具を使つて体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	イ 器械・器具を使つての基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	イ 器械・器具を使つての基本的な運動の行い方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	ウ 簡単な合図や指示に従って、器械・器具を使つての遊びをしようとする。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、器械・器具を使つての基本的な運動をしようとする。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲良く楽しく器械・器具を使つての基本的な運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。	
	マットを使つた運動遊び・マット	・マットの上に背中をつけ、いろいろな転がりをして遊ぶこと。	・マットに背中を順番に接触させるなどして、様々な方向に転がりをする。	・手を上に上げ体をまっすぐ伸ばした状態でマットの上に寝転がり、連続してまっすぐ横転がりをする。
	1. 低鉄棒を使つた運動遊び(小2・3段階) 基本的な運動	・ぶら下がりをして遊ぶこと。	・跳び上がって支持したり、支持から跳び下りたりすること。	・鉄棒にぶら下がり、支持した状態から体を前後に振ること。
	-	-	-	-

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
体づくり運動	体の動きを高める運動	-	・用具をコントロールしながら投げる、捕る、回す、転がすなどの操作をすること。	-	-
		-	・短なわ、長なわを使っての跳躍やエアロビクスなどの全身運動を続けること。	・走や縄跳びなどを、一定の時間や回数、又は、自己で決めた時間や回数を継続して行うこと。	-
		・人数を変えて綱引きをすること。	・様々な姿勢での腕立て伏臥腕屈伸をすること。	・重い物を押す、引く、投げる、受ける、振る及び回すことなど。	-
		・友達と手をつないだり、背中合わせになったりしながら、立ったり座ったりすること。	・体の各部位を大きく広げたり曲げたりする姿勢を維持すること。	・体の各部位をゆっくり伸展し、そのままの状態を約10秒間維持すること。	-
		・登り棒や肋木をしっかり握り、数を数えながら一定の時間ぶら下がること。	・全身に力を含めて登り棒に捕まったり、肋木や雲梯にぶら下がったりすること。	-	-
		・両足で跳び、手足の動作を伴って全身じゃんけんをすること。	・ゴムひもを張りめぐらせて作った空間や、棒の下や輪の中をくぐり抜けること。	-	-
器械運動	内容	器械運動について、次の事項を身に付けることができるように指導する。			
		ア 器械・器具を使った運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技を身に付けること。	ア 器械運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技を身に付けること。	ア 器械運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに、技を身に付けること。	ア 器械運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた技を身に付け、演技すること。
		イ 器械・器具を使った運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 器械運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 器械運動についての自分の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	イ 器械運動についての自分の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し、判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。
		ウ 器械・器具を使った運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や器械・器具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動すること。	ウ 器械運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や器械・器具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動すること。	ウ 器械運動の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や器械・器具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	ウ 器械運動の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし、仲間と協力したり、場や器械・器具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動すること。
		・前転を連続してすること。	・後転を連続してすること。	・マット運動では、回転技や倒立技に取り組み、一連の動きを滑らかに行ったり、バランスよく姿勢を保ったり、それらを組み合わせで演技すること。	・マット運動では、回転技や倒立技に取り組み、一連の動きを滑らかに安定して行ったり、バランスの崩れを復元したり、それらを構成し演技すること。
		・しゃがんだ姿勢から体を丸めて尻・背中・後頭部・足裏の順にマットに接して腰を上げながら後方へ回転し、両手で押してしゃがみ立ちになること。	・しゃがんだ姿勢から、体を丸めながら尻・背中・後頭部・足裏の順にマットに接して腰を上げながら後方に回転し、膝を伸ばして足を左右に大きく開き、両手で押して膝を伸ばしたまま開脚立ちすること。	・補助倒立では、体を前方に振り下ろしながら片足を振り上げ両手を着き、体を真っすぐ伸ばして逆さの姿勢になり、補助者の支えで倒立すること。	・伸膝後転では、直立の姿勢から前屈しながら後方へ倒れ、尻をつき、膝を伸ばして後方に回転し、両手でマットを押して膝を伸ばしたまま立ち上がる。
・傾斜を作った場で、両手を着き、腰を高く上げながら、後頭部をつき前方へ回転し、膝を伸ばして足を左右に大きく開き接地するとともに、素早く両手を股の近くに置いて膝を伸ばしたまま開脚立ちをすること。	・壁に向かって体を前方に振り下ろしながら片足を振り上げ、両手を着き体を真っすぐ伸ばして壁に足をもたれかけて倒立すること。	・補助倒立前転では、片足を振り上げ補助倒立を行い、前に倒れながら腕を曲げ、頭を入れて前転すること。	・側方倒立回転では、正面を向き、体を前方へ振り下ろしながら片足を振り上げ、前方に片手ずつ着き、腰を伸ばした姿勢で倒立位を経過し、側方回転しながら片足を振り下ろして起き上がる。		
・低鉄棒を掴み、掴んだ手の間の鉄棒に足を掛けて回ること。	・補助具を利用して、連続して逆上がりをする。	・鉄棒運動では、支持系の基本的な技に取り組み、それらの発展技に取り組んだり、技を繰り返したりすること。	・鉄棒運動では、支持系などの技に取り組み、それらの一連の動きを滑らかに安定して行ったり、自己やグループで組み合わせたりすること。		

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	小1段階	小2段階	小3段階
器械・器具を使つての遊び(小1段階) 器械・器具を使つての運動(小2・3段階)	1 低鉄棒を使った運動遊び(小3段階) 2 鉄棒を使った運動遊び(小3段階) 低鉄棒を使った運動	-	-	・低鉄棒に跳び上がり、前回り下りをする。
	跳び箱を使った運動遊び・跳び箱を使った基本的な運動	-	-	-
	・よじ登ったり、低い位置から跳び下りたりして遊ぶこと。	・跳び箱に両手を着いてまたぎ乗ったり、またいだ姿勢で手を支点に体重を移動させてまたぎ下りたりすること。	・教師の支援を受けながら、両手を着いて跳び乗ったり、跳び下りたりすること。	
	-	-	-	
	-	-	-	
	-	-	-	
	-	-	-	
	-	-	-	
	固定施設を使った運動遊び・固定施設を使った基本的な運動	・ジャングルジムで登り下りやぶら下がりなどを体験しながら遊ぶこと。	・ジャンピングボードやトランポリンを使った基本的な運動では、上下にはねるなどをする。	・細い平均台を前向きに歩いたり、後ろ向きに歩いたりすること。
	・ブランコに乗って前後の揺れなどを体験しながら遊ぶこと。	・渡り歩きや跳び下りなどをする。	-	
	・トランポリンの上に乗る、上下の揺れなどを体験しながら遊ぶこと。	-	-	
	-	-	-	
-	-	-		

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階	
器械運動	鉄棒運動	・鉄棒にぶら下がり、支持した状態から体を前後に振り、前方へ跳ぶこと。	・鉄棒上の支持姿勢から回転して着地まで、一連の動きとしてスムーズに下りること。	・前方かかえ込み回りでは、支持の姿勢から前方へ大きく振り出して、腰を曲げたまま回転し、両足を揃えて開始した側に着地すること。	・前方支持回転では、支持の姿勢から腰と膝を曲げ、体を前方に勢いよく倒して腹を掛けて回転し、その勢いを利用して手首を返ししながら支持の姿勢に戻る。	
		—	—	・逆上がりでは、足の振り上げとともに腕を曲げ上体を後ろに倒し手首を返して鉄棒に上がること。	・後方支持回転では、支持の姿勢から腰と膝を曲げたまま体を後方に勢いよく倒し、腹を鉄棒に掛けたまま回転し、手首を返して支持の姿勢に戻る。	
	跳び箱運動	・両手を跳び箱について、両足で踏み切り、跳び箱の外側を跳び越すこと。	・助走から両脚で踏み切り、足を左右に開いて着手し、跳び越えて着地すること。	・かかえ込み跳びなどに取り組み、それらを安定して行ったり、一連の動きを滑らかに行ったりすること。	・跳び箱運動では、伸膝台上前転などに取り組み、それらを安定して行ったり、それらの発展技に取り組んだりすること。	
		—	—	・かかえ込み跳びでは、助走から両足で踏み切って着手し、足をかかえ込んで跳び越し着地すること。	・伸膝台上前転では、助走から両足で強く踏み切り、足を伸ばしたまま腰の位置を高く保って着手し、前方に回転して着地すること。	
	平均台を使った運動（中1・2段階） 平均台運動（高1・2段階）	・平均台の上で、バランスを取り、回れ右で後ろに方向転換すること。	—	—	・平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技に取り組み、それらを安定して行ったり、一連の動きを滑らかに行ったりすること。	・平均台運動では、体操系やバランス系の技に取り組み、それらを安定して行ったり、それらの発展技に取り組んだりすること。
		・平均台の上で、片足立ちでポーズをとるなどをする。	—	—	・前方走では、平均台の上で、重心を乗せバランスよく前方に走ること。	・台上を歩いたり走ったりして移動する（体操系歩走）では、台の位置を確認しながら振り出す足の動かし方、重心を乗せバランスよく移動する動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて移動すること。
		—	—	—	・片足水平バランスでは、平均台の上で、片足を後方に上げながら上半身を前方に倒し、上げた足と上半身が水平になるようにして両腕を左右に広げバランスを取ること。	・姿勢、動きのリズムなどの条件を変えて移動すること。
		—	—	—	—	・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで移動すること。
		—	—	—	—	・台上へ跳び上がる、台上で跳躍する、台上から跳び下りるなど（体操系跳躍）では、跳び上がるための踏み切りの動き方、空中で姿勢や動きを変化させて安定した着地を行うための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて跳躍すること。
		—	—	—	—	・姿勢、組合せの動きなどの条件を変えて跳躍すること。
		—	—	—	—	・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳躍すること。
		—	—	—	—	・台上でいろいろな姿勢でポーズをとる（バランス系ポーズ）では、バランスよく姿勢を保つための力の入れ方とバランスの崩れを復元させるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させてポーズをとること。
—	—	—	—	・姿勢の条件を変えてポーズをとること。		

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	小1段階	小2段階	小3段階	
階) 器械・器具を使った遊 <small>び</small> (小1段階) 2・3段階) 器械・器具を使った遊 <small>び</small> (小1段階)	固定施設を使った運動遊 <small>び</small> ・固定施設を使った基本的な運動	-	-	-	
		-	-	-	
		-	-	-	
		-	-	-	
走・跳の運動遊 <small>び</small> (小2段階)	内容	小1段階 走・跳の運動遊 <small>び</small> について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 教師と一緒に、走ったり、跳んだりして楽しく体を動かすこと。 イ 走ったり、跳んだりして体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。 ウ 簡単な合図や指示に従って、走・跳の運動遊 <small>び</small> をしようとする。	小2段階 走・跳の運動遊 <small>び</small> について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 教師の支援を受けながら、楽しく走・跳の基本的な運動をすること。 イ 走・跳の基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。 ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに、安全に楽しく、走・跳の基本的な運動をしようとする。		
		走(走る運動遊 <small>び</small> ) ・教師が方向や速さを加減しながら、教師の言葉掛けのリズムに合わせて一定の時間や距離と一緒にゆっくり走ったり、速く走ったりすること。	・30m程度のかげっこやトラックなど緩やかなカーブを蛇行して走ったり、教師の手拍子や言葉掛けに合わせて一定の速度で走ったりすること。 ・折り返しのリレーなどで、教師や友達と手のひらを向けてタッチするなどをする。		
		(跳ぶ運動遊 <small>び</small> ) ・正面や横で教師が介助しながら、教師の合図や言葉掛けに合わせてその場で上方に両足や片足で跳んだり、前方に跳んだりすること。	・教師の言葉掛けなどでタイミングを計りながら、一人で片足や両足で連続して上方に跳んだり、前方に跳んだりすること。 ・低い障害物などを使って、歩いたり走ったりしながらまたいだり、跳び越えたりすること。		
		-	-		
	陸上運動	内容	中1段階 陸上運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 陸上運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること。 イ 陸上運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 陸上運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	中2段階 陸上運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付けること。 イ 陸上運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 陸上運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	
			短距離走・リレー ・距離を決めて調子よく走る、全力疾走をする、速度や方向を変えて走ること。 ・30～60m程度の短距離走をすること。 ・座った状態や後ろ向きの状態などのいろいろな走り出しの姿勢から、素早く走り始めること。 ・リレーにおいて、走る順番を守ったり、走りながらバトンパスをしたりすること。	・走る距離やルールを定めて競走したり、目標を目指しながら一定の距離を全力で走ったりすること。 ・50～80m程度の短距離走をすること。 ・リレーにおいて、約束を守ったり、走りながらバトンパスをしたりすること。	
長距離走 ・スポーツテストや持久走などを踏まえ、一定の時間や距離を決めて、走り続けること。			・一定の時間や距離を決めて、個々のタイムなどの目標を目指しながら走り続けること。		
-			-		
小型ハードル走(障害物走)		・幅広い障害物や小型ハードルを自分に合ったリズムで走り越すこと。	・幅広い障害物や小型ハードルをリズムカルに走り越えること。		
		-	-		

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
器械運動	平均台運動	-	-	-	・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きでポーズをとること。
		-	-	-	・台上で方向転換する（バランス系ターン）では、バランスよく姿勢を保つための力の入れ方、回転をコントロールするための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて方向転換すること。
		-	-	-	・姿勢の条件を変えて方向転換すること。
		-	-	-	・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで方向転換すること。
走・跳の運動（小3段階）	内容	小3段階			
		走・跳の運動遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。			
		ア 走・跳の基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。 イ 走・跳の基本的な運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。 ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく走・跳の基本的な運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。			
走る運動	・3～4分程度の時間を一定の速さでゆっくり走ったり、30～50m程度の距離を全力で走ったり、ジグザグ、S字のレーン、リレーなどで走ること。				
	跳ぶ運動	・ケンパー跳びで片足や両足で連続して前方に跳ぶこと。 ・輪や段ボールなどの低い障害物を使って、走る運動と合わせながら、助走をつけて、勢いよく跳び越えること。			
陸上競技		内容	高1段階		高2段階
	陸上競技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。				
	ア 陸上競技の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに、技能を身に付けること。 イ 陸上競技についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。 ウ 陸上競技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。		ア 陸上競技の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けること。 イ 陸上競技についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し、判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。 ウ 陸上競技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすること。		
	短距離走・リレー	・短距離走では、スタンディングスタートから、素早く走り始めること。 ・体を軽く前傾させて全力で走ること。 ・リレーでは、テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンの受渡しをすること。		・短距離走では、クラウチングスタートから徐々に上体を起こしていき加速すること。 ・自己に合ったピッチとストライドで速く走ること。 ・リレーでは、次走者がスタートするタイミングやバトンを受け渡すタイミングを合わせる。	
		長距離走	・長距離走では、腕に余分な力を入れないで、リラックスして走ること。 ・自己に合ったピッチとストライドで、上下動の少ない動きで走ること。 ・ペースを一定にして走ること。		・長距離走では、リズムカルに腕を振り、力みのないフォームで軽快に走ること。 ・呼吸を楽にしたり、走りのリズムを作ったりする呼吸法を取り入れて走ること。 ・自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ること。
	走 <small>小型ハードル走</small> （ハードル走） 走 <small>障害物</small> （高2段階）		・40～50m程度のハードル走をすること。 ・第1ハードルを決めた足で踏み切って走り越えること。 ・スタートから最後まで、体のバランスをとりながら真っ直ぐ走ること。 ・インターバルを3又は5歩で走ること。		・ハードル走では、遠くから踏み切り、勢いよくハードルを走り越すこと。 ・抜き足の膝を折りたたんで前に運ぶなどの動作でハードルを越すこと。 ・インターバルを3又は5歩でリズムカルに走ること。

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	中1段階	中2段階	
陸上運動	跳ぶ運動	—	・ゴム跳びなどで助走を付けて片足で地面を蹴って上方に跳ぶこと。	
		—	・助走を付けて片足でしっかりと地面を蹴って遠くに跳ぶこと。	
	走り幅跳び	—	—	
		—	—	
		—	—	
	走り高跳び	—	—	
—		—		
—		—		
水遊び(小1段階) 水の中の運動(小2段階)	内容	小1段階 水遊びについて、次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 教師と一緒に、水の特性を生かした簡単な水遊びを楽しくすること。 イ 水の中で体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。 ウ 簡単な合図や指示に従って、水遊びをしようとする事。	小2段階 水の中での運動について、次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 教師の支援を受けながら、楽しく水の中での基本的な運動をすること。 イ 水の中での基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。 ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、水の中での基本的な運動をしようとする事。	
		水遊び(小1段階) / 水かけゲーム(小2段階) / 水につかつかつ / 水につかつかつ	・プールの周りでじょうろを使って遊ぶこと。 ・個々の状態に適した浅い深さのプールの中で、遊具を浮かべたり沈めたりして遊ぶこと。 ・水をすくったりかけたりするなどして遊ぶこと。 ・水をすくって体の様々な部分にかけたり、様々な方向に飛ばしたり、友達や教師とかけ合ったりすること。	・水につかつかつ様々な動物(アヒル、カニ、カエル、ワニなど)の真似をしながら、腰やひざを伸ばした一直線の姿勢になり、手を使って歩いたりすること。 ・自ら水を頭や顔にかけたり、お互いにかけてやること。 ・教師の言葉掛けに合わせて、息を止めて顔や頭を水の中に入れて、水の中で目を開けたりすること。
		バングリングやポビ	—	—
		るか足ば 足えやた	—	—
	水泳運動	内容	中1段階 水泳運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 初歩的な泳ぎの楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること。 イ 初歩的な泳ぎについての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 初歩的な泳ぎに進んで取り組み、きまりなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	中2段階 水泳運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 水泳運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付けること。 イ 水泳運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 水泳運動に積極的に取り組み、きまりなどを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。
			きく 大の字 浮き 伏し 浮	・壁や補助具につかまったり、友達に支えてもらったりして浮くこと。 ・補助具や友達につかまり、体を伸ばした姿勢にして浮いて進むこと。 ・息を吸って止め、全身の力を抜いて浮くこと。
け 伸び			・プールの底を両足でけり、体を一直線に伸ばした姿勢で進んだり、友達の股の下をくぐり抜けたたりすること。	—

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	高1段階	高2段階
陸上競技	跳ぶ運動	—	—
	走り幅跳び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7～9歩程度のリズムカルな助走をすること。</li> <li>・幅30～40cm程度の踏切りゾーンで力強く踏み切ること。</li> <li>・かがみ跳びから両足で着地すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走り幅跳びでは、自己に適した距離又は歩数の助走をすること。</li> <li>・踏切線に足を合わせて踏み切ること。</li> <li>・かがみ跳びなどの空間動作からの流れの中で着地すること。</li> </ul>
	走り高跳び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5～7歩程度のリズムカルな助走をすること。</li> <li>・上体を起こして力強く踏み切ること。</li> <li>・はさみ跳びで、足から着地すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムカルな助走から力強い踏み切りに移ること。</li> <li>・跳躍の頂点とバーの位置が合うように、自己に合った踏切位置で踏み切ること。</li> <li>・脚と腕のタイミングを合わせて踏み切り、大きなはさみ動作で跳ぶこと。</li> </ul>
	水中ゲーム	<p>小3段階</p> <p>水の中での運動について、次の事項を身に付けることができるように指導する。</p> <p>ア 水の中での基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。</p> <p>イ 水の中での基本的な運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。</p> <p>ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく水の中での基本的な運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする事。</p>	—
	ンバグリングやボビ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きく息を吸ってもぐり、水中で息を止めたり吐いたりすること。</li> <li>・息を止めてもぐり、口や鼻から少しずつ息を吐きながら水面まで跳び上がって息をまとめて吐いた後、空中ですぐに吸ってまたもぐること。</li> <li>・頭の上に手を挙げながら（膝を曲げて）もぐり、手をさげながら（膝を伸ばして）跳び上がる動きを繰り返すこと。</li> </ul>	—
	るか足ば 足えやた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壁や補助具につかまり、もの付け根からのばた足や足の裏で水を押すかえる足をする事。</li> </ul>	—
水泳	内容	<p>高1段階</p> <p>水泳について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 水泳の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに泳法を身に付けること。</p> <p>イ 水泳についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。</p> <p>ウ 水泳の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。</p>	<p>高2段階</p> <p>水泳について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 水泳の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた泳法を身に付けること。</p> <p>イ 水泳についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。</p> <p>ウ 水泳の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、見直しをもって自主的に運動をすること。</p>
	クロール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロールの行い方を理解するとともに、左右の手を入れ替える動きに呼吸を合わせて泳ぐこと。（25m程度を目安にしたクロール）</li> <li>・手を左右交互に前方に伸ばして水に入れ、水を大きくかくこと。</li> <li>・柔らかく足を交互に曲げたり伸ばしたりして、リズムカルなばた足をする事。</li> <li>・肩のローリングを用い、体を左右に傾けながら顔を横に上げて呼吸をすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定のリズムで強いキックを打つこと。</li> <li>・水中で肘を曲げて腕全体で水をキャッチし、S字やI字を描くようにして水をかくこと。</li> <li>・ブルとキック、ローリングの動作に合わせて横向きで呼吸をすること。</li> </ul>
		—	—
		—	—



体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	中1段階	中2段階	
水泳運動	け伸び	・体を縮めた状態になってプールの壁に両足を揃えてから、力強く両足で蹴りだした勢いで、顎を引いて腕で頭を挟んで体を一直線に伸ばした姿勢で進むこと。	-	
	様々なもぐり方(中1段階) 呼吸をしながらの泳ぎ(中2段階)	・プールの底から足を離して、体の一部分をプールの底につけるようにもぐること。 ・手や足を動かした推進力を利用して、上体からもぐったり、友達の股の下やプールの底に固定した輪の中をくぐり抜けたりすること。	・補助具を使って浮き、呼吸をしながら手や足を動かして泳ぐこと。 ・補助具を使いながら頭の上方に腕を伸ばした姿勢で、ばた足泳ぎやかえる足泳ぎなど、手や足をバランスよく動かし、呼吸をしながら進むこと。	
	2使ったクロールや平泳ぎ(中1段階) 補助具を使う(中2段階)	・補助具を使って浮きながら、手や足を動かして進む初歩的な動きをすること。	・補助具を使って、手を左右交互に前に出し水をかくクロールのストロークや、手の平を下向きにそろえ両手を前方に伸ばし水をかく平泳ぎのストロークをすること。	
ボールを使った遊び(小1段階) 2・3段階	内容	小1段階	小2段階	小3段階
		ボール遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ボールを使った運動やゲームについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。
		ア 教師と一緒に、ボールを使って楽しく体を動かすこと。	ア 教師の支援を受けながら、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをすること。	イ ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	高1段階		高2段階	
水泳	口ゆとりとしたク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1ストロークで進む距離が伸びるように、頭の上方で両手を揃えた姿勢で、片手ずつ大きく水をかくこと。</li> <li>・1ストロークで進む距離が伸びるように、ゆっくりと動かすばた足をする。</li> <li>・呼吸する側の手をかく動きに合わせて、呼吸をすること。</li> </ul>		-	
	平泳ぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平泳ぎの行い方を理解するとともに、手の動きに合わせて呼吸し、キックの後には息を止めてしばらく伸びて、続けて長く泳ぐこと。(25m程度を目安にした平泳ぎ)</li> <li>・両手を前方に伸ばし、ひじを曲げながら円を描くように左右に開き、水をかくこと。</li> <li>・足の親指を外側に開いて左右の足の裏や脚の内側で水を挟み出すとともに、キックの後に伸びの姿勢を保つこと。</li> <li>・手を左右に開き水をかきながら、顔を前に上げ呼吸をすること。</li> <li>・伸びた姿勢から顔を前方にゆっくりと起こしながら手をかきはじめ、肘を曲げながら顔を上げ呼吸した後、キックをした勢いを利用して伸びること。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・蹴り終わりで長く伸びるキックをすること。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1ストロークで進む距離が伸びるように、キックの後に顎を引いた伏し浮きの姿勢を保つこと。</li> <li>・キックの勢いをしっかりと利用するようにゆっくりと手をかくこと。</li> </ul>		-	
		-		-	
		-		-	
	背泳ぎ	-		<ul style="list-style-type: none"> <li>・両手を頭上で組んで、腰が「く」の字に曲がらないように背中を伸ばし、水平に浮いてキックをすること。</li> <li>・水中では、肘が肩の横で60～90度程度曲がるようにしてかくこと。</li> <li>・水面上の腕は、手と肘を高く伸ばした直線的な動きをすること。</li> <li>・呼吸は、ブルとキックの動作に合わせて行うこと。</li> </ul>	
		-		-	
		-		-	
	バタフライ	-		<ul style="list-style-type: none"> <li>・気をつけの姿勢やビート板を用いて、ドルフィンキックをすること。</li> <li>・両手を前方に伸ばした状態から、鍵穴（キーホール）の形を描くように水をかくこと。</li> <li>・手の入水時とかき終わりのときに、それぞれキックをすること。</li> <li>・ブルのかき終わりと同時にキックを打つタイミングで、顔を水面上に出して呼吸をすること。</li> </ul>	
		-		-	
		-		-	
	スタート及びターンについて	-		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタート及びターンについて、クロール、平泳ぎ、バタフライでは、水中で両足あるいは左右どちらかの足をプールの壁につけた姿勢から、スタートの合図と同時に顔を水中に沈め、抵抗の少ない流線型の姿勢をとって壁を蹴り泳ぎだすこと。</li> <li>・背泳ぎでは、両手でプールの縁やスターティンググリップをつかんだ姿勢から、スタートの合図と同時に両手を前方に伸ばし、抵抗の少ない仰向けの姿勢をとって壁を蹴り泳ぎだすこと。</li> <li>・クロールと背泳ぎでは、片手でプールの壁にタッチし、膝を抱えるようにして体を反転し蹴りだすこと。</li> <li>・平泳ぎとバタフライでは、両手で同時に壁にタッチし、膝を抱えるようにして体を反転し蹴りだすこと。</li> </ul>	
-		-			
-		-			
-		-			
球技	内容	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
		球技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。			
		ア 球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。	ア 球技の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な動きや技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。	ア 球技の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。	ア 球技の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付け、ゲームを行うこと。
		イ 球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 球技についての自分やチームの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 球技についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	イ 球技についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	小1段階	小2段階	小3段階
	内容	ウ 簡単な合図や指示に従って、ボール遊びをしようとする事。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、ボールを使った基本的な運動やゲームをしようとする事。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする事。
ボール遊び(小1段階) ボールを使った運動やゲーム(小2・3段階)	ゲをいろいろ使う(小2・3段階)	・ボールを転がす、投げる、蹴ること。	・つく、転がす、投げる、当てる、捕る、打つ、蹴る、止めるなどの簡単なボール操作をすること。	・友達と一緒にボールを投げる、捕る、蹴る、止めるなどの動きでキャッチボールやパスをしたり、ゴールに向かってシュートをしたりすること。
	・ボールを捕ったり、止めたりすること。	・先生や友達にボールを転がしたり、投げたり、先生や友達が転がしたり、投げたりしたボールを止めたり、捕ったりすること。	・止まっているボールを手で打つこと。	
	—	・先生や友達とボールの蹴り合いをすること。	・ねらったところにボールを転がしたり、投げる、蹴るなどしてゴールにシュートをして得点したりすること。	
	・ボールを転がす、投げる、蹴るなどして、的に当てること。	・ねらったところにボールを転がしたり、投げたり、蹴ったりして的に当てたり得点したりすること。	・一定の区域内で、相手が転がしたり、投げたりしたボールに当たらないように避けたり、逃げたりすること。	
	—	・先生や友達にボールを手渡したり投げたりしてゴールにボールを運ぶこと。	・ボールを手で打ったり、蹴ったり、捕ったり、止めたりすること。	
	—	・教師や友達など逃げる相手を追いかけてタッチすること。	・ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースに入る事。	
	—	・鬼にタッチされないように、速く走ったり、急に曲がったり、身をかわしたりすること。	・逃げる相手を追いかけて、しっぽ(マーク)を捕ったりすること。	
	—	・教師や友達と手をつないで鬼にタッチされないように走ったり、身をかわしたりすること。	・相手にしっぽ(マーク)を捕られないように、速く走ったり、急に曲がったり、身をかわしたりすること。	

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
球技	内容	ウ 球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	ウ 球技に積極的に取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	ウ 球技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	ウ 球技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすること。
	バスケットボール・フットボール・バレーボール・サッカー・ハンドボール・バドミントン・卓球・テニス・ソフトボール・ソフトボール	・味方にパスを出す、シュートをする、ドリブルをすること。	・ボールを持ったときにゴールに体を向けること。	・攻守が入り交じって行うゴール型簡易化ゲームでは、近くにいるフリーの味方にパスを出すこと。	・攻守が入り交じって行うゴール型ゲームでは、ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすること。
	様々な球技を基にして簡易化したゲーム(例えば、フットボール・バレーボール・ソフトボール)	・ごく軽量のボール(風船やビーチボールなど)を使用して、ボールを落とさないように片手もしくは両手ではじいたり、友達と打ち続けたりすること。	・ボール保持者と自分の間に守る者がいないように移動すること。	・相手に捕られない位置でドリブルをすること。	・マークされていない味方にパスを出すこと。
	様々なゲームとは、中1段階は、中2段階は、高2段階は、	・相手コートから飛んできたボールを自陣の味方にパスをしたり、相手コートに返球したりすること。	・コート内で攻守入り交じって、味方にパスをする、シュートをする、ドリブルをすること。	・ボール保持者と自己の間に守備者が入らないようにして攻撃に参加すること。	・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すこと。
	様々なゲームとは、中1段階は、中2段階は、高2段階は、	・止まっているボールをフェアグラウンド内に蹴ったり、打ったりすること。	・相手コートから飛んできたシャトルやボールを、ラケットを使用して打つこと。	・ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすること。	・パスやドリブルなどでボールをキープすること。
	様々なゲームとは、中1段階は、中2段階は、高2段階は、	・ベースに向かって全力で走ること。	・ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすること。	・ネット型簡易化ゲームでは、自陣のコートの中央付近から相手コートに向けサービスを打ち入れること。	・ボールとゴールが同時に見える場所に立つこと。
	様々なゲームとは、中1段階は、中2段階は、高2段階は、	—	・バットを使用してボールを打ったり、静止したボールを打ったりすること。	・ボールやシャトルの方向に体を向けること。	・パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くこと。
	様々なゲームとは、中1段階は、中2段階は、高2段階は、	—	・ベースに向かって全力で走り、かけ抜けること。	・片手、両手もしくは用具を使って、相手コートにボールやシャトルを打ち返すこと。	・ボールを持っている相手をマークすること。
	様々なゲームとは、中1段階は、中2段階は、高2段階は、	—	・向かってくるボールの方向に移動すること。	・攻守交代する野球型簡易化ゲームでは、止まったボールや易しく投げられたボールをバットでフェアグラウンド内に打つこと。	・ネット型ゲームのサービスでは、ボールをラケットの中心付近で捉えること。
	様々なゲームとは、中1段階は、中2段階は、高2段階は、	—	—	・打球方向に移動し、捕球すること。	・ボールを返す方向にラケット面を向けて打つこと。
	様々なゲームとは、中1段階は、中2段階は、高2段階は、	—	—	・捕球する相手に向かって、投げること。	・味方が操作しやすい位置にボールをつなぐこと。
	様々なゲームとは、中1段階は、中2段階は、高2段階は、	—	—	・塁間を全力で走塁すること。	・相手側のコートの空いた場所にボールを返すこと。
	様々なゲームとは、中1段階は、中2段階は、高2段階は、	—	—	・守備の隊形をとって得点を与えないようにすること。	・テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むこと。
	様々なゲームとは、中1段階は、中2段階は、高2段階は、	—	—	—	・相手の打球に備えた準備姿勢をとること。
	様々なゲームとは、中1段階は、中2段階は、高2段階は、	—	—	—	・プレイを開始するときは、各ポジションの定位置に戻る。
	様々なゲームとは、中1段階は、中2段階は、高2段階は、	—	—	—	・ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対すること。
様々なゲームとは、中1段階は、中2段階は、高2段階は、	—	—	—	・攻守交代する野球型ゲームのティーボールではホームベースの真横に立ち、ソフトボールでは投球の方向と平行に立ち、肩越しにバットを構えること。	
様々なゲームとは、中1段階は、中2段階は、高2段階は、	—	—	—	・地面と水平になるようにバットを振り抜くこと。	
様々なゲームとは、中1段階は、中2段階は、高2段階は、	—	—	—	・スピードを落とさずに、タイミングを合わせて塁を駆け抜けること。	

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	小1段階	小2段階	小3段階
表現遊び（小1段階） 表現運動（小2・3段階）		表現遊び（表現運動）について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	ア	教師と一緒に、音楽の流れている場所で楽しく体を動かすこと。	教師の支援を受けながら、音楽に合わせて楽しく表現運動すること。	基本的な表現運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付け、表現したり踊ったりすること。
	イ	音楽の流れている場所で体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	基本的な表現運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	基本的な表現運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	ウ	簡単な合図や指示に従って、表現遊びをしようとする事。	簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、基本的な表現運動をしようとする事。	きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく表現運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする事。
	「題材と動き」	・音楽を感じながら、自由に体を動かすこと。	・身近な動物や車、飛行機などの乗り物等の真似をすること。	・衣服が洗濯で洗われたり、干されたりする様子を捉え、全身の動きで表現すること。
	「表現遊び」	・音楽を感じながら、歩いたり、走ったりすること。	・弾む、回る、ねじるなどの動きで自由に踊ること。	・大空を自由に飛び回る様子や、海の中を深く潜ったり泳いだり波に揺られたりする様子、風に吹かれているような動きをしながら舞う様子などを自由に表現すること。
	「リズムと動き」	・音楽を感じながら、はねたり、跳んだりすること。	・音楽やリズムに合わせて歩く、走る、弾む、回る、ねじるなどの運動をすること。	・リズムに乗って、スキップなどで弾む動きを中心に、ねじる、回る、移動するなどの動きを繰り返して踊ること。
	（小1段階）	-	-	・友達と手をつないだり、友達の真似をしたりして踊ること。
	（小2・3段階）	-	-	・友達と向かい合って手をつなぎ、スキップしながら回ったり、ねじったり、手を叩き合ったりして踊ること。

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
球技	前に同じ	-	-	-	・打球の状況によって塁を進んだり戻ったりすること。
		-	-	-	・ボールの正面に回り込んで、緩い打球を捕ること。
		-	-	-	・投げる腕を後方に引きながら投げ手と反対側の足を踏み出し、体重を移動させながら、大きな動作でねらった方向にボールを投げる。
		-	-	-	・守備位置から塁上へ移動して、味方からの送球を受けること。
		-	-	-	・決められた守備位置に繰り返し立ち、準備姿勢をとること。
		-	-	-	・各ポジションの役割に応じて、ベースカバーやバックアップの基本的な動きをすること。
ダンス	内容	ダンスについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。			
		ア ダンスの楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付け、表現したり踊ったりすること。	ア ダンスの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付け、表現したり踊ったりすること。	ア ダンスの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、技能を身に付け、表現や踊りを通して交流をすること。	ア ダンスの楽しさや喜びを深く味わい、その行い方の理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付け、表現や踊りを通して交流や発表をすること。
		イ ダンスについての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ ダンスについての自分の課題やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ ダンスについての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	イ ダンスについての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。
		ウ ダンスに進んで取り組み、友達の動きを認め協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	ウ ダンスに積極的に取り組み、友達のよさを認め助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	ウ ダンスの多様な経験を通して、仲間の表現を認め合ったり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	ウ ダンスの多様な経験を通して、一人一人の表現や役割を認め助け合ったり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすること。
		・軽快なリズムに乗って、その場で弾む、スキップで移動するなど全身で即興的に踊ること。	・弾む動きにねじる、回るなどの動きを入れて変化を付けたり、素早い動きやストップなどでリズムの変化を付けたりして続けて踊ること。	・創作ダンスでは、身近な生活や日常動作などのテーマから連想を広げてイメージを出したり、思いついた動きで踊ったり、仲間の動きをまねたりすること。	・創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、動きに変化をつけて表現したり、踊ったりすること。
		・動きにアクセントを付けたり、ねじる・回るなどの動きを組み合わせて踊ること。	・日本の民謡に共通する特徴やそれぞれの踊り方の特徴を捉え、構成された基本的な踊り方を身に付けて踊ること。	・動きを誇張したり、繰り返したり、変化を付けたりして、ひと流れの動きで表現すること。	・取り組んでみたいテーマや題材や動きなどでグループを組み、思いついた動きを表現すること、仲間の動きをまねること、ひと流れの動きで表現すること。
	「音楽やリズムと動き」(中1・2段階)	・リズムの特徴をとらえ、体の各部分でリズムをとったり、体幹部(へそ)を中心にリズムに乗ったりして全身で踊ること。	・軽快なリズムの踊りでは、軽快な足さばきや手振りですること。	・フォークダンスでは、小道具を操作する踊りでは、曲調と手足の動きを一致させて、賑やかな掛け声と歯切れのよい動きで踊ること。	・緩急強弱のある動きや空間の使い方や場面転換などで、変化をつけたひと流れの動きで表現すること。
		・スキップやランニングなどの簡単なステップで、音楽に合わせてみんなで踊ること。	・力強い踊りでは、低く踏みしめるような足取りや腰の動きで踊ること。	・童謡の踊りでは、軽快で躍動的な動きで踊ること。	・フォークダンスでは、日本の民謡や外国の踊りのそれぞれの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊ること。
		-	・フォークダンスの特徴を捉え、構成された基本的な踊り方を身に付けて踊ること。	・パートナーチェンジのある踊りでは、なめらかにパートナーチェンジをするとともに、軽快なステップで相手と合わせて踊ること。	・小道具を操作する踊りでは、手に持つ鳴子のリズムに合わせて、沈み込んだり跳びはねたりする躍動的な動きで踊ること。

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	小1段階	小2段階	小3段階
表現遊び（小1段階） 表現運動（小2・3段階）	「題材と動き」 「表現遊び」（小1段階） ／ 「リズムと動き」（小2・3段階）			
保健	内容	健康な生活に必要な事柄について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 教師と一緒に、うがいなどの健康な生活に必要な事柄をすること。	ア 教師の支援を受けながら、健康な生活に必要な事柄をすること。	ア 健康や身体の変化について知り、健康な生活に必要な事柄に関する基本的な知識や技能を身に付けること。
		イ 健康な生活に必要な事柄に気づき、教師に伝えること。	イ 健康な生活に必要な事柄に慣れ、感じたことを他者に伝えること。	イ 健康な生活に必要な事柄について工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	「健康の保持増進」や「けがや疾病の予防」	-	・手の汚れの状態を見て、手洗いができること。	・発熱や咳、排便の状態などについて自分から意識すること。
		・関連する言葉に触れながら、示された手順に沿って、教師と一緒に手洗いやうがいをすること。	・簡単な言葉掛けや日課に応じて、自ら手洗いやうがいをすること。	・治療や休養が必要な場合に、知らせること。
		-	-	・個々の歯の状態に応じて、むし歯の予防について知ること。
	-	-	・健康な生活に関わる事象から課題を見付け、健康な生活を実現するために解決の方法を考え、それを実践すること。	
	-	-	-	

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
ダンス	「音楽やリズムと動き」 （中1・2段階） 「テーマやリズムと動き」	-	・みんなで手をつなぎ、かけ声をかけて力強くステップを踏みながら移動して踊ること。	・ロックやヒップホップなどの現代的なリズムの曲でリズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って踊ること。	・労働の作業動作に由来をもつ踊りでは、種まきや稲刈りなどの手振りの動きを強調して踊ること。
		-	・パートナーと組んで軽快なステップで動きを合わせたり、パートナーチェンジをスムーズに行ったりしながら踊ること。	・現代的なリズムのダンスでは、自然な弾みやスイングなどの動きで気持ちよく音楽のビートに乗れるように、簡単な繰り返しのリズムで踊ること。	・ゲーム的な要素が入った踊りでは、グランドチェンなどの行い方を覚えて次々と替わる相手と組み合わせ、踊ること。
		-	・厳かな挨拶の部分と軽快なスキップやアーチくぐりなどの変化を付けて、パートナーや全体でスムーズに隊形移動しながら踊ること。	・軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを踏んで手をたたき、ストップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり、相手の動きに合わせて、手をつなぎなど相手と対応しながら踊ること。	・軽やかなステップの踊りでは、グレイプバインステップなどをリズムカルに行って踊ること。
		-	-	-	・現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化とまとまりをつけて、リズムに乗って全身で自由に弾んで踊ること。
		-	-	-	・簡単なリズムの取り方や動きで、音楽のリズムに同調したり、体幹部を中心としたシンプルに弾む動きをしたりして自由に踊ること。
		-	-	-	・リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせ、動きに変化を付けて踊ること。
保健	「健康の保持増進」や「けがや疾病の予防」	健康・安全に関する事項について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。			
		ア 体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な知識及び技能を身に付けること。	ア 体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けること。	ア 心身の発育・発達、傷害の防止及び疾病の予防等を理解するとともに、健康で安全な個人生活を営むための技能を身に付けること。	ア 心身の発育・発達、傷害の防止及び疾病の予防等の理解を深めるとともに、健康で安全な個人生活及び社会生活を営むための目的に応じた技能を身に付けること。
		イ 自分の健康・安全についての課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 自分やグループの健康・安全についての課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 健康・安全に関わる自己の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	イ 健康・安全に関わる自己の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。
		・けがの防止のために運動の前後に体操をすること。	・体の発育・発達やけがの防止、病気の予防の仕方について理解し自ら行動できること。	-	-
		・病気の予防のため運動やゲームの後に汗を拭いたり、うがいをしたりすること。	・気持ちが意欲的であること、元気なこと、具合の悪いところがないことなど、心と体の調子が良い状態であることを理解し実践できること。	-	-
・進んで身体及び身の清潔に気を付けたり、寒暖に応じて衣服を調節したりすること。	・1日の生活リズムを整え、運動・食事・休養及び睡眠などについて自分や友達の課題を一緒に考えること。	-	-		
・消毒薬や体温計を適切に使ったり、薬を指示に応じて服用したりすること。	-	・自らできる簡単な応急手当の仕方を知り、実際の生活でできるようにすること。	・傷害の発生要因と防止について理解し、止血や患部の保護などの応急手当の行い方を身に付けること。		
・体調を考えて適度な運動をしたり、栄養が偏らないようにバランスのとれた食事をし、食べ過ぎないようにして健康的な生活を送るようにすること。	-	・健康を保持増進するための適度な運動や食事、睡眠などの必要性を知ること。	-		



体育・保健体育

領域	内容/内容例	小1段階	小2段階	小3段階	
保健	心身の機能の発達	-	・身体測定や各健康診断などの場の雰囲気慣れたり、それらに必要な態度を身に付けたりすること。	・身体計測の結果や身体の変化などから、自分の身体の成長に関心を持ち、知ること。	
		-	・身体測定の結果を通して、体重や身長の変化に興味や関心をもつこと。	・初経や月経、精通などへの対処法を知ること。	
		-	-	-	
		-	-	-	
	ストレスへの対処	-	-	-	-
		-	-	-	-
		-	-	-	-
	交通事故や自然災害への備えと対応	-	-	-	-
		-	-	-	-
		-	-	-	-
	その他	-	-	-	-
		-	-	-	-
・体調が悪いときやけがをしたときに、自らそのことに気付き、自分なりの方法でそのことを教師に伝えること。		・朝の会で、体調を言葉や絵カード、サインなどを利用して発表したり、教師等に痛い部位を伝えたりすること。	・自分や友達のけがや体調の変化を教師等に伝えたり、落ち着いた簡単な手当てを受けたりすること。		
武道（小1～3段階では扱いません）	内容	中1段階		中2段階	
		武道について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。			
		ア 武道の楽しさを感じ、その行い方や伝統的な考え方が分かり、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。	ア 武道の楽しさや喜びに触れ、その行い方や伝統的な考え方を理解し、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。		
		イ 武道についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 武道についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。		
ウ 武道に進んで取り組み、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	ウ 武道に積極的に取り組み、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。				

体育・保健体育

領域	内容/内容例	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
保健	心身の機能の発達	・身体測定の結果や性徴を通して身体の発育に関心を持ち、身体各部の働きを知ること。 ・初経や月経、精通などへ対応すること。	・施設や用具の安全な使い方を知り、けがのないように気を付けて行動できること。	・身体の形態的な発育や性徴に関心をもったり、自分の身体の状態を考えたりすること。	・身体の発育や健康に関心を持ち、身体の働きを理解すること。 ・身体的成熟や心理的発達に合わせて、異性との交際の在り方、身だしなみや服装、態度など社会生活の適応を図ること。
		—	—	・書籍やインターネット上などから得られる性情報への対処に関すること。	—
		—	—	・SNSなどを通じた性犯罪などの事件・事故に関すること。	—
	ストレスへの対処	—	・不安や悩み等を家族や教師、友達などに話したり、相談したりすること。	・心と身体の関係性について具体的に知り、欲求やストレスへの対処方法を理解すること。	・不安や悩みへの適切な対応方法とその活用に関すること。
		—	・不安や悩みがある時は、友達と遊ぶこと、運動したり音楽を聴いたりすること、呼吸法を行うなどによって気持ちを楽にしたり、気分を変えたりするなど心の健康について知ること。	—	・精神的な安定を図るための具体的な対処方法に関すること。
		—	—	—	・ストレスの原因についての受け止め方の見直しに関すること。
	交通事故への備えや自然災害への対応	—	—	・毎年多くの交通事故や水の事故などが発生していることを知り、それらの防止に向けた適切な行動の必要性を理解すること。	・自転車や自動車の特性理解と、交通法規遵守に関すること。
		—	—	—	・各車両、道路、気象条件などの周囲の状況に応じた安全な行動に関すること。
		—	—	—	・自転車事故などによる加害責任に関すること。
	その他	・部屋の明るさの調整や換気などの生活環境を整える必要性を理解すること。	・部屋の明るさの調整や換気などの生活環境について考えること。	・喫煙、飲酒、薬物乱用が健康に与える影響について知ること。	・喫煙、飲酒、薬物乱用などの健康への影響を理解し、適切な行動を取ること。
		・1日の生活リズムに合わせて運動、食事、睡眠及び休養をよりとること。	・1日の生活リズムを整え、運動、食事などに関する自他の課題を見付け、その解決方法を友達と考えること。	—	—
		・自分の体調の変化を捉え、けがや病気の際は教師や友達に伝えること。	・友達の体調の変化やけがをした際に教師に伝えること。	・健康に関わる事象や健康情報などにおける自他の課題を発見し、それについて思考と判断したことを他者に伝えること。	・健康に関わる事象や健康情報などにおける自他の課題を発見し、それについて考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。
武道（小1～3段階では扱いません）	内容	高1段階		高2段階	
		武道について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。			
		ア 武道の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。		ア 武道の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、基本動作や基本となる技を用いて、相手の動きの変化に応じた行動を展開すること。	
		イ 武道についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。		イ 武道についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。	
ウ 武道の多様な経験を通して、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。		ウ 武道の多様な経験を通して、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動すること。			

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	中1段階	中2段階
武道 (小1～3段階では扱いません)	柔道	・姿勢と組み方では、相手の動きに応じやすい自然体で組むこと。	・進退動作では、相手の動きに応じたすり足、歩み足及び継ぎ足で、体の移動をすること。
		・横受け身では、体を横に向けて下側の脚を前方に、上側の脚を後方にして、両脚と一方の腕全体で畳をたたくこと。	・後ろ受け身では、あごを引き、頭を上げ、両方の腕全体で畳を強くたたくこと。
		・投げ技である膝車は、取（技をかける人）が膝車をかけて投げ、受（技を受ける人）が受け身をとること。	・前回り受け身では、前方へ体を回転させ、背中側面が畳に着く瞬間に、片方の腕と両脚で畳を強くたたくこと。
		・固め技であるけさ固めは、取（技をかける人）はけさ固めで相手を抑え、受（技を受ける人）は抑えられた状態から、相手を体側に返すこと。	・投げ技である支え釣り込み足は、取（技をかける人）が膝支え釣り込み足をかけて投げ、受（技を受ける人）が受け身をとること。
		—	・固め技である横四方固めは、取（技をかける人）は横四方固めで相手を抑え、受（技を受ける人）は抑えられた状態から、相手を頭方向に返すこと。
	—	—	
	—	—	
	—	—	
	剣道	・構えでは、相手の動きに応じて自然体で中段に構えること。	・基本の打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、小手（右）の部位を打ったり受けたりすること。
		・体さばきでは、相手の動きに応じて歩み足や送り足を使用すること。	・二段の技は、最初の小手打ちに相手が反応したとき、隙ができた面を打つこと。（小手・面）
		・基本の打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、面や胴（右）の部位を打ったり受けたりすること。	・引き技は、相手が接近した状態にあるとき、隙ができた胴を退きながら打つこと。（引き胴）
	—	・二段の技で、最初の面打ちに相手が反応したとき、隙ができた胴を打つこと。（面・胴）	—
	相撲	・蹲踞姿勢と塵浄水では、正しい姿勢や形をとること。	・仕切りからの立ち合いでは、相手と動きを合わせること。
		・四肢、腰割りでは、重心を低くした動きをすること。	・相手の動きや技に応じて受け身をとること。
・中腰の構えでは、重心を低くした姿勢をとること。		・押しから体を開き相手の攻めの方向にいなすこと。（いなし）	
・運び足では、低い重心を維持して、すり足で移動すること。		・寄りから体を開き側方に出すように投げることで、これに対して受け身をとること。（出し投げ・受け身）	
・相手の両脇の下を押すこと。（押し）		—	
・相手のまわしを取って引きつけて寄ること。（寄り）		—	
—		—	
（小1～中2段階では扱いません）	内容	<b>高1段階</b>	
		体育理論について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義に気付くこと。	
		イ 運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義についての課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	
		ウ 運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義についての学習に積極的に取り組むこと。	
		・運動やスポーツの必要性和楽しさに関すること。	
		・運動やスポーツへの多様な関わり方に関すること。	
		・安全な運動やスポーツの行い方に関すること。	
		・準備運動や整理運動の適切な実施に関すること。	
		・運動やスポーツの実施中や実施後の適切な休憩や水分補給に関すること。	

体育・保健体育

運動領域	内容/内容例	高1段階	高2段階
武道（小1～3段階では扱いません）	柔道	・崩しでは、相手の動きに応じて相手の体勢を不安定にし、技をかけやすい状態をつくること。	・姿勢と組み方では、相手の動きの変化に応じやすい自然体で組むこと。
		・相手の投げ技に応じて横受け身、後ろ受け身、前回り受け身をとること。	・崩しでは、相手の動きの変化に応じて相手の体勢を不安定にし、技をかけやすい状態をつくること。
		・投げ技である大外刈りは、取（技をかける人）が大外刈りをかけて投げ、受（技を受ける人）は受け身をとること。	・進退動作では、相手の動きの変化に応じたすり足、歩み足、継ぎ足で、体の移動をすること。
		・固め技である上四方固めは、取（技をかける人）は上四方固めで相手を抑え、受は抑えられた状態から、相手を頭方向に返すこと。	・投げ技である体落としは、取（技をかける人）が体落としをかけて投げ、受（技を受ける人）は受け身をとること。
		—	・投げ技である大腰は、取（技をかける人）が大腰をかけて投げ、受（技を受ける人）は受け身をとること。
		—	・取（技をかける人）は相手の動きの変化に応じながら、けさ固め、横四方固め、上四方固めの連絡を行うこと。
		—	・受（技を受ける人）はけさ固め、横四方固め、上四方固めで抑えられた状態から、相手の動きの変化に応じながら、相手を体側や頭方向に返すことによって逃げること。
	剣道	・基本の打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、面や胴（右）や小手（右）の部位を打ったり受けたりすること。	・打突の仕方と受け方では、体さばきや竹刀操作を用いて打ったり、応じ技へ発展するよう受けたりすること。
		・相手と接近した状態にあるとき、隙ができた面を退きながら打つこと。（引き面）	・相手が小手を打つとき、体をかわしたり、竹刀を頭上に振りかぶったりして面を打つこと。（小手抜き面）
		・相手が面を打つとき、体をかわして隙ができた胴を打つこと。（面抜き胴）	・最初の面打ちに相手に対応したとき、隙ができた面を打つこと。（面一面）
	相撲	・蹲踞姿勢と塵浄水では、正しく安定した姿勢や形をとること。	—
		・四股、腰割りでは、重心を低くして安定した動きをすること。	—
		・中腰の構えでは、重心を低くし安定した姿勢をとること。	—
		・運び足では、低い重心を維持し安定して、すり足で移動すること。	—
・仕切りからの立ち合いでは、相手と動きを合わせて一連の動作で行うこと。		—	
・相手の動きや技に応じ、安定して受け身をとること。		—	
・相手の両脇の下や前まわしを取って押すこと、これに対し体を開き、相手の攻めの方向にいなすこと。（押しいなし）		—	
・相手のまわしを取って引き付けること、これに対し相手の差し手を逆に下手に差し替えること。（寄り巻き返し）	—		
・寄りから下手で投げること、これに対し受け身を取ること。（下手投げ-受け身）	—		
（小1～中2段階では扱いません） 体育理論	内容	高2段階	
		体育理論について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
		ア 運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義に関する基礎的な知識を身に付けること。	
		イ 運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義についての課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。	
		ウ 運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義についての学習に自主的に取り組むこと。	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動やスポーツの効果的な学び方に関すること。</li> <li>・運動やスポーツが心身に及ぼす効果に関すること。</li> <li>・運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果に関すること。</li> <li>・運動やスポーツを行っているときにおける健康・安全の確保の仕方に関すること。</li> <li>・国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な意義や役割に関すること。</li> </ul>	



## 10 職業・家庭（職業）（家庭）

### ○内容の構造

- ・『職業・家庭科（職業分野）及び職業科』と『職業・家庭科（家庭分野）及び家庭科』の2つに分けて整理を行いました。
- ・ A 職業生活のA 働くことの意義については、
  - （ア） 知識及び技能
  - （イ） 思考力，判断力，表現力等
  - （ウ） 学びに向かう力，人間性等の3つで示されています。
- ・ それ以外の内容については、
  - （ア） 知識及び技能
  - （イ） 思考力，判断力，表現力等の2つで示されています。
- ・ 中学部，高等部の各1段階目に当たる中1段階と高1段階の指導内容は，前段階である小学部の生活科や中学部職業・家庭科との関連を踏まえることとされています。また2段階目に当たる中2段階と高2段階は，前の段階を踏まえた発展的な学習内容になっています。

### ○表の見方

- ・ 職業・家庭科の表は，見やすく使いやすくなるよう，次のようにまとめました。
  - 「・」： 内容
  - 「\*」： 具体的な事例
  - 斜字： 関連付け

### ○教科の特質や作成者の思い

- ・ 特別支援学校学習指導要領解説各教科編（小学部・中学部）の巻末の一覧表を参考にまとめ，この一覧表を見れば，『職業・家庭科の特別支援学校学習指導要領の概要が分かる』ように作業を進めました。
- ・ 是非，授業の計画や指導案作成のときに，この一覧表を使っていただき，より具体的なことを知りたいときには学習指導要領解説で確認するといった「索引（インデックス）」としてお使いいただけるとありがたいです。

職業・家庭（職業分野）及び職業

職業・家庭（職業分野）及び職業				
目標	生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		職業に係る見方・考え方を働かせ、職業など卒業後の進路に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1)生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。		(1)職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2)将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。		(2)将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	(3)よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。		(3)よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。	
教科・分野	中学部・職業・家庭（職業分野）		高等部・職業	
段階の目標	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
—	職業に係る見方・考え方を働かせ、作業や実習に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	職業に係る見方・考え方を働かせ、作業や実習に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	—	—
知識及び技能	ア 職業について関心を持ち、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	ア 働くことに対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	ア 職業に関する事柄について理解するとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。	ア 職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 将来の職業生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気づき、実践し、学習したことを伝えるなど、課題を解決する力の基礎を養う。	イ 将来の職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを実現するなど、課題を解決する力を養う。	イ 将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価し、表現する力を養う。	イ 将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。	ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	ウ よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への参画に向けて、生活を工夫しようとする実践的な態度を養う。	ウ よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。

職業・家庭（職業分野）及び職業

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
A 職業生活	ア 働くことの意義・ 勤労の意義	ア 働くことの意義 働くことに関心をもち、 作業や実習等に関わる学習 活動を通して次の事項を身 に付けることができるよう 指導する。  小学部の生活科の内容構成 である「役割」や「手伝 い・仕事」の内容との関連 を踏まえる。	ア 働くことの意義 働くことに対する意欲や 関心を高め、他者と協力し て取り組む作業や実習等 に関わる学習活動を通して、 次の事項を身に付けること ができるよう指導する。  中1段階での学習を踏まえ る。	ア 勤労の意義 勤労に対する意欲や関心 を高め、他者と協働して取 り組む作業や実習等に関わ る学習活動を通して、次の 事項を身に付けることがで きるよう指導する。  中学部職業・家庭科の職業 分野の内容との関連を踏ま える。	ア 勤労の意義 勤労に対する意欲や関心 を高め、他者と協働して取 り組む作業や実習等に関わ る学習活動を通して、次の 事項を身に付けることがで きるよう指導する。  高1段階での学習を踏まえ る。
		(7) 働くことの目的など を知ること。  ・働いて物を作ったり、育 てたりすることが社会に役 立つこと、将来働くことを 通して自立的な社会参加が できるようになることなど を知る。 * 職場見学 * 就業体験	(7) 働くことの目的など を理解すること。  ・働くことで自己実現を 図っていくことや社会の一 員として役割を果たしてい くことの大切さを理解す る。 * 職場見学 * 就業体験	(7) 勤労の意義を理解す ること。  ・多くの人々が社会の中で 働きながら生活しているこ と、人々は働くことを誇り としていること、働くこと を通して充実感や生きがい をもてるようになることな どを理解する。 ・進んで働く経験を通し て、充実感や生きがいを実 感する。 * 職場見学 * 産業現場等での実習	(7) 勤労の意義について 理解を深めること。  ・働くことで生計を維持し 自己実現を図ることができ る。 ・自分たちが取り組んでい る生産や生育活動等が社会 貢献につながる事が分か り、働くことの意義を実感 する。 * 地域での販売会 * 地域貢献活動
		(イ) 意欲や見通しをもつ て取り組み、自分の役割に ついて気付くこと。  ・作業工程における自分の 分担や作業全体で担う自分 の役割に気付く。 ・必要な情報に気付き、判 断し生徒同士で伝え合う。 * 作業工程表等を用いた活 動	(イ) 意欲や見通しをもつ て取り組み、自分と他者と の関係や役割について考え ること。  ・自分の仕事と他者の仕事 分担や関連について理解す る。 ・相手の心情を知り、望ま しい関わり方や態度につい て考える。 * 作業学習	(イ) 意欲や見通しをもつ て取り組み、その成果や自 分と他者との協力について 考え、表現する。  ・意欲や見通しをもつて取 り組み、自分の役割を果た すことや協力の仕方につい て考える。 ・協力することで得られる 効率性や仲間との連帯感な どを自らの体験を通して実 感できる。 ・職場の一員として、互い の声掛けや、作業のペース を合わせること、報告や質 問など適切な関わり方につ いて考える。	(イ) 目標をもって取り組 み、その成果や自分と他者 との役割及び他者との協力 について考え、表現する。  ・作業工程全体における自 分や他者の役割を理解す る。 ・目標をもって取り組み、 作業の成果を確認し、自分 の役割に対する責任や協力 することの意義を考え、表 現する。
		(ウ) 作業や実習等で達成 感を得ること。  ・準備や片付けを含んだ一 連の活動を確実に成し遂 げ、達成感を得たり、製品 などへの感想を受けて満足 感を味わったりする。 ・学習記録を通して自己の 変容に気付く。 ・周囲の人の評価や感想に よって自分の成長を見つめ 直す。 * 作業学習 * 校内実習  「働くことの意義」と関連 させる。	(ウ) 作業や実習等に達成 感を得て、進んで取り組む こと。  ・自分の仕事や役割を成し 遂げたことや製品・生産物 等を通して地域に貢献でき たことを喜ぶ。 ・積極的に作業や実習等に 取り組む。 * 地域での販売会 * 地域貢献活動	(ウ) 作業や実習等に達成 感を得て、計画性をもって 主体的に取り組むこと。  ・作業を確実に成し遂げた り、自分が作ったものを販 売したりする活動を通して 成就感を得る。 ・準備や片付けを含んだ一 連の活動に見通しをもち、 自ら作業等に取り組む。 * 販売学習 * 実習	(ウ) 作業や実習等を通し て貢献する喜びを体得し、 計画性をもって主体的に取 り組むこと。  ・作業や実習を通して成就 感を得る。 ・他者から喜ばれたり、感 謝されたりする体験を通し て、自らの取組が作業全体 への貢献につながることを 知る。 ・働くことが地域への貢献 になることを実感し、生産 や生育活動等に努める意義 を理解する。 * 販売学習 * 実習



職業・家庭（職業分野）及び職業

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
A 職業生活	イ 職業  知識及び技能	イ 職業 職業に関わる事柄について、考えたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 職業 職業に関わる事柄について、考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 職業 職業に関わる事柄について、他者との協働により考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 職業 職業に関わる事柄について、他者との協働により考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		<p>(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。</p> <p>* 作業学習</p> <p>⑦ 職業生活に必要な知識や技能について知ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職業の名称や仕事の内容、生産品や製品及び商品の名称、商店や会社の役割などを知る。</li> <li>・ 道具や工具などを安全や衛生に気を付けて使用できる。</li> <li>・ 担当する作業内容や方法が分かり終了の見通しをもって実施できる。</li> <li>・ 一定時間、集中して作業に取り組める。</li> <li>・ 作業を進める上で必要なコミュニケーションを行える。</li> </ul> <p>⑧ 職業生活を支える社会の仕組み等があることを知ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困ったり、悩んだりする状況が生じたり、何かやりたいことがあっても、それをどのように表現したら良いのか分からなかったりした時に相談ができる。</li> <li>・ 相談できる機関として各市市区町村の福祉課等の役割などについて知る。</li> </ul>	<p>(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。</p> <p>* 作業学習</p> <p>⑦ 職業生活に必要な知識や技能について理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の長所や課題に気付く、自分が働きたい仕事に就くためにはどのような力を付けたらよいか考えた、自分の行動や生活を見直したりできる。</li> </ul> <p>⑧ 職業生活を支える社会の仕組みがあることを理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な仕事や職業生活を支える仕組みについて調べる。</li> </ul>	<p>(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。</p> <p>* 作業学習</p> <p>⑦ 職業生活に必要とされる実践的な知識及び技能を身に付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職場における生産活動等の社会的な意義を知る。</li> <li>・ 職場の役職やその役割、部、課及び係などの機能分担について知る。</li> <li>・ 勤務時間や残業などの労働時間、賃金、年次休暇などの基本的な労働条件を知る。</li> <li>・ 健康保険、雇用保険、年金などのあらましを知る。</li> <li>・ 職種によっては資格や検定等が必要であることを知る。</li> <li>・ 正確な作業を一定時間継続する。</li> <li>・ 作業目標の達成を意識して積極的に取り組む。</li> <li>・ 最後までやり遂げる。</li> <li>・ 時間帯や場所などに応じた服装、動作、挨拶や言葉遣いができる。</li> <li>・ 仕事に関連する伝達、作業伝票の処理、日報の記入などの簡単な実務を正確に行う。</li> </ul> <p>⑧ 職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法を理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雇用に関する各種援助や福祉サービス等の内容と利用方法を知る。</li> <li>・ サービスを利用することを通して、職業生活を送るうえで生じる諸問題を解決・改善できることを知る。</li> <li>・ 雇用に関する関係諸機関と福祉サービスの関係諸機関の見学</li> </ul>	<p>(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。</p> <p>* 作業学習</p> <p>⑦ 職業生活に必要とされる実践的な知識を深め技能を身に付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職場の組織が分かり、職場では組織の一員として働くことができる。</li> <li>・ 労働時間及び勤務時間、賃金、福利厚生及び資格と給与等との関係などの基本的な条件を理解する。</li> <li>・ 健康保険、雇用保険、年金などの制度と活用方法を理解する。</li> <li>・ 様々な技能検定や資格取得について知る。</li> <li>・ 製品や作物の規格や基準を知り、定められた手順に従い正確な作業を行う。</li> <li>・ 判定基準に基づいて製品や作物の良否の判断を行ったり、作業の標準的な動作を順守したりする。</li> <li>・ 給料や年金の管理、病気になったときの健康保険の取扱い方など、生活に基づく実践的な学習を通して理解する。</li> </ul> <p>* 作業学習 * 産業現場等での実習</p> <p>高1段階での学習を踏まえる。 「A職業生活」の「ア勤労の意義」と「C産業現場等における実習」を十分に関連付ける。</p> <p>⑧ 職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法について理解を深めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種援護制度や相談先、利用方法等について、見学や利用の登録をして実際的に・具体的に確認したり、資料にまとめたりする。</li> <li>・ 健やかな職業生活を維持するために、余暇活動に関するサービスを積極的な利用したり、地域資源を活用したりする。</li> </ul> <p>* 福祉サービス関係の諸機関等の見学</p>

職業・家庭（職業分野）及び職業

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階	
A 職業生活	イ 職業	知識及び技能	<p>㊶材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について知ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作ること、育てること、運ぶこと、計数や計量を行うことなど作業に関することを知る。</li> <li>・ 手洗いや身支度ができる。</li> <li>・ 作業手順や工程を理解し、材料や道具の用意などの作業の準備、半完成品の整理、完成品の計数や整理、材料や道具の片付け、諸点検などの作業の片付け等、一連の学習活動ができる。</li> <li>＊実践的・体験的な学習活動</li> </ul>	<p>㊶材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製品の材料となる素材や生育する生物等の保管・管理、確実な作業や整理整頓ができる。</li> </ul>	<p>㊶材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原材料や収穫物、半製品、完成品の管理や保管方法が分かり、適切に取扱う。</li> <li>・ 必要な原材料の名称が分かる。</li> <li>・ 必要な分量を量って使用すること、材料や製品を整理して保管すること、基本的な加工方法や生育方法などが分かる。</li> <li>＊材料に応じた加工の方法</li> <li>＊基礎的な技術や育成する生物の特性を踏まえた育成環境を調整する基本的な方法</li> </ul>	<p>㊶材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解を深めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 材料や製品、収穫物の特徴を理解し、それぞれに適した方法で決められた場所に安全や衛生に留意して保管する。</li> <li>・ 仕事に関連する作業指示書、在庫表、報告書が分かり、その記入や読み取りなどの実務を適切に行う。</li> <li>・ 危険な場所や状況を予測したり不衛生な状態にならないよう日常的に対応したりしながら、製品や作物等をより多く生産する。</li> </ul>
			<p>㊷作業課題が分かり、使用する道具の扱い方に慣れること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業時の服装や姿勢、材料や道具及び機械の持ち方や扱い方などの作業の適切な実施方法を知る。</li> <li>・ 手順の間違いや危険な取扱いなどについて取り上げ、安全に生産等するための要点に気付いたり、理解したりする。</li> </ul> <p>イ (I) ㊶及びイ (I) ㊷と関連させる。</p> <p>㊸作業の持続性や巧緻性などを身に付けること。</p>	<p>㊷作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業に必要な工具類や農具、工作機械等、安全に気をつけて操作することができる。</li> </ul> <p>㊸作業の確実性や持続性、巧緻性等を身に付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間帯や場所に応じた適切な服装や動作、言葉遣いを行うことができる。</li> <li>・ 自分の仕事に責任をもって最後まで成し遂げようとすることができる。</li> </ul>	<p>㊷使用する道具や機械等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道具や機械等の種類や用途が分かる。</li> <li>・ 作業内容に応じて使用する道具や機械を適切に選定する。</li> <li>・ 安全・衛生に留意して使用する。</li> <li>・ 道具や機械の手入れや簡単な修理及び管理を行う。</li> </ul> <p>㊸作業の確実性や持続性、巧緻性等を高め、状況に応じて作業すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業の準備、活動、片付けの一連の学習活動を積み重ねることを通して、正確な作業に安定して取り組んだり、身体の円滑な動きや手指の細やかさを身に付けたりする。</li> <li>・ 作業環境に応じて身支度を整えたり、急な作業内容の変更などにも対応して作業したりする。</li> <li>・ 他者と協力して作業を進めることができる。</li> </ul>	<p>㊷使用する道具や機械等の特性や扱い方の理解を深め、作業課題に応じて効果的に扱うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工具や農具、工作機械、運搬用の機器、製造機器などの特徴や構造、扱い方が分かり、効率を考慮して確実に扱う。</li> <li>・ 作業内容と使用する道具や機械の仕組みが分かり、道具や機械を安全かつ正確に使う。</li> </ul> <p>㊸作業の確実性や持続性、巧緻性等を高め、状況に応じて作業し、習熟すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業の要領や注意を集中するポイントが分かり、自分の作業を評価し、必要に応じて修正し、担当する作業について技術を高めることができる。</li> <li>・ 作業工程において全体の流れが合理的になるように調整することができる。</li> <li>・ 材料や完成品の配置や運搬方法を工夫し、無駄な動作をなくした作業をすることができる。</li> <li>・ 材料や生育の状態等を踏まえて作業する。</li> <li>・ 機械等が不調になったり、不良品が出たりしたときに適切に対応できる。</li> </ul>

職業・家庭（職業分野）及び職業

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
A 職業生活	イ 職業 思考力・判断力・表現力等	<p>(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。</p> <p>⑦職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。</p>	<p>(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。</p> <p>⑦職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について、考えて、発表すること。</p>	<p>(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。</p> <p>⑦作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。</p> <p>・自分の役割を確実に最後までやり遂げる。 ・自分の成長や課題に気が付き、さらなる向上や解決に向けた方策を考える。 ・他の生徒や保護者及び教師などに伝えたり、作業日誌に文章でまとめたりする。</p>	<p>(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。</p> <p>⑦作業や実習において、自ら適切な役割を見いだすとともに、自分の成長や課題について考え、表現すること。</p> <p>・自分の能力や適性について理解を深め、自分の得手不得手や作業の特質等を踏まえて適切な役割を選択することができる。</p> <p>卒業後の進路を選択する視点にもつながるため、思考力、判断力、表現力等の育成と相互に関連付ける。</p>
		<p>⑧作業に当たり安全や衛生について気付き、工夫すること。</p> <p>⑨職業生活に必要な健康管理について気付くこと。</p>	<p>⑧作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。</p> <p>⑨職業生活に必要な健康管理について考えること。</p> <p>・仕事に安定的に取り組むための健康管理の仕方を考える。</p>	<p>⑧生産や生育活動等に関する技術について考えること。</p> <p>・安全に品質の良い製品や生産物を作るための要点を技術面から確認する。 *生産や生育活動 *地域や産業界の人材からの技術指導</p> <p>⑨作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、改善を図ること。</p> <p>・危険な場所や状況に注意を払い、健康に悪影響を与えるような状況を避ける。 ・材料を大切に扱う。 ・安全や衛生に関する用語や表示を確認し、自分や他者の安全・衛生に気を配って作業をする。 ・機械の故障や危険な状況、あるいは不衛生な状態に気付いたら知らせたり、適切な処理を行ったりすることができる。 *作業学習 *実習</p> <p>⑩職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方について考えること。</p> <p>・自らの健康を守る方法や休日の有効な生かし方や職場での休憩時間などについて考える。 *健康管理の方法 *検診等の受け方 *公共施設やサービスの利用方法 *職場でのつきあい方 *休日の適切な過ごし方</p>	<p>⑧生産や生育活動等に係る技術に込められた工夫について考えること。</p> <p>・それぞれの工程において、工夫と安全性、品質や収量等の効率、環境に対する負荷、経済性等の関係などについて考える。</p> <p>⑨作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、他者との協働により改善を図ること。</p> <p>・他者と協調して効率よく仕事をする。 ・必要に応じて相談したり、助言を得たりして課題を解決する。</p> <p>⑩職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方の工夫について考えること。</p> <p>・自らの健康を維持する方法や職場での休憩等の時間を積極的に生かす方法について考える。 ・産業現場等における健康管理の方法や職場の習慣を踏まえ、効率のよい休憩時間の使い方を考える。 *福祉サービスの利用 *生涯学習への参加 *職場のレクリエーションやサークル活動への参加 *厚生施設の利用</p> <p>「A職業生活」の「イ職業」の(7)の⑦や、家庭科や保健体育科などの指導と関連付ける。</p>

職業・家庭（職業分野）及び職業

内容	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
	<p>職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器に触れることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>職業生活や社会生活で使われるコンピュータ等の情報機器に扱うことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>中学部職業・家庭科の職業分野の内容との関連を踏まえる。 音楽プレーヤー、ゲーム機、腕時計等にも情報通信機能が付加されているものがあることを踏まえて、その取扱いについては生徒指導と関連付ける。</p>	<p>職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>高1段階での学習を踏まえる。</p>
<p>B 情報機器の活用</p>	<p>知識及び技能</p> <p>ア コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット（携帯用端末）を含んだコンピュータ等の情報機器、固定電話やスマートフォンを含んだ携帯電話、ファクシミリ等の通信機器、複写機（コピー機）等の事務機器などの初歩的な操作の仕方について知る。</li> <li>・情報機器を使用する際のルールやマナー、インターネット利用上のトラブルなどの危険性を回避する具体的な方法について理解する。</li> </ul> <p>音楽プレーヤー、ゲーム機、腕時計等にも情報通信機能が付加されているものがあることを踏まえて、その取扱いについては生徒指導と関連付ける。</p>	<p>ア コンピュータ等の情報機器の基礎的な操作の仕方を知り、扱いに慣れること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータ等の情報機器、固定電話や携帯電話、ファクシミリ等の通信機器、複写機（コピー機）等の事務機器などの操作の仕方を意識しなくても円滑に扱うことができる。</li> </ul>	<p>ア 情報セキュリティ及び情報モラルについて知るとともに、表現、記録、計算、通信等に係るコンピュータ等の情報機器について、その特性や機能を知り、操作の仕方が分かり、扱えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全にインターネット等の情報通信ネットワークを利用する上で必要となる情報の管理方法を知る。</li> <li>・情報機器を使用する際のルールやマナーを知る。</li> <li>・作業で育成した農産物や作成した製品などの数量や出納簿の管理及び計算をする。</li> <li>・デジタルカメラなどを組み合わせて活動報告等を作成する。</li> <li>・仕事に関する要件を正確に伝えたり、受けたりすることができる。</li> </ul> <p>*表計算ソフトウェア *文書作成ソフトウェア *周辺機器の利用 *電話やファクシミリの操作方法</p>	<p>ア 情報セキュリティ及び情報モラルについて理解するとともに、表現、記録、計算、通信等に係るコンピュータ等の情報機器について、その特性や機能を理解し、目的に応じて適切に操作すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット等の情報の通信ネットワークを活用することの長所を十分に理解した上で、パスワードやアドレスなどの管理の重要性が分かり、情報を漏洩しない方法を身に付ける。</li> <li>・コンピュータウイルス対策ソフトウェアのインストールやそれらを最新のものに更新することの必要性を理解する。</li> <li>・情報通信ネットワークを適正に活用することができる。</li> <li>・「ネット依存」などの問題やトラブルに巻き込まれた際の対応について知る。</li> <li>・どのような操作をすれば効率よく最適に処理できるかについて判断し、その特性や機能を十分に活用する。</li> </ul>
<p>思考力、判断力、表現力等</p>	<p>イ コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。</p>	<p>イ コンピュータ等の情報機器を扱い、体験したことや自分の考えを表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット等の情報通信ネットワークを使った情報収集や、コンピュータやタブレットを使った画像や映像などにより体験したことや自分の考えを表現する。</li> <li>・インターネット上の情報収集や情報発信が自分の生活に及ぼす影響が分かる。</li> <li>・情報機器を使用する際のルールやマナー、人権侵害の防止、危険を回避する具体的な方法などを身に付け、適切な使用ができる。</li> </ul>	<p>イ 情報セキュリティ及び情報モラルを踏まえ、コンピュータ等の情報機器を扱い、収集した情報をまとめ、考えたことを発表すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット等の情報通信ネットワークを活用して情報収集し、プレゼンテーションソフトウェアなどを使用してデータを作成し、発表する。</li> </ul> <p>コンピュータや情報機器の活用により、コミュニケーションの補助や代替が効果的に行える可能性があることから、一人一人の生徒の実態に応じ、自立活動を関連付けて指導することが考えられる。</p>	<p>イ 情報セキュリティ及び情報モラルを踏まえ、コンピュータ等の情報機器を扱い、収集した情報をまとめ、考えたことについて適切に表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット等の情報通信ネットワークを活用し、自分が考えたことを表現するために必要な情報を収集してまとめ、資料を作成したり、発表したりする。</li> </ul> <p>*チラシ、パンフレット、ポスター作り *実習関係の資料作成</p>

職業・家庭（職業分野）及び職業

内容	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
	<p>実際の学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>「職場見学」や「校内実習」、「就業体験」などの実際の学習活動と相互に関連付ける。</p>	<p>実際の学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>産業現場等における実習を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>中学部職業・家庭科の職業分野の内容との関連を踏まえる。</p>	<p>産業現場等における実習を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>高1段階での学習を踏まえる。</p>
<p>C 産業現場における実習</p>	<p>知識及び技能</p> <p>ア 職業や進路に関わることについて関心をもったり、調べたりすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場見学や卒業生の進路先に行って聞き取る。</li> <li>・働いている人の様子や仕事の内容、職場での生活について調べる。</li> <li>・職場や家庭などでの過ごし方の実際を知ったり、それぞれの生活において必要となる事柄を身に付けたりする。</li> </ul> <p>*卒業生との職場訪問 *職場見学 *身近な地域の職場調べ</p>	<p>ア 職業や進路に関わることについて調べて、理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が直接働く人と関わりながら実践的な知識や技能に触れることを通して、働く活動の大切さが分かる。</li> <li>・職場のきまりを知ることや健康を維持することなど、働く上で必要となる基本的な事柄を理解する。</li> <li>・将来の進路について考える。</li> </ul> <p>*卒業生との職場訪問 *職場見学 *身近な地域の職場調べ</p>	<p>ア 職業など卒業後の進路に必要となることについて理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先で生産しているものが社会でどう利用されているかを理解する。</li> <li>・製品の良否が分かり、不良品を出さないように注意して仕事をする。</li> <li>・実習先のいろいろなきまりを守ったり、仕事に関する自分の分担に責任をもって最後までやり遂げたりする。</li> <li>・状況に応じて自ら職場の人と協力する。</li> <li>・実習中の健康、安全及び衛生に注意して生活する。</li> <li>・適切に余暇を過ごすことができる。</li> <li>・職場において適切なコミュニケーションが取れる。</li> </ul> <p>*産業現場等における実習 *上司や同僚とのコミュニケーションなどについてのロールプレイング</p>	<p>ア 職業など卒業後の進路に必要となることについて理解を深めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産品や製品又は商品の名称やその取扱い、それらの社会的な有用性を知る。</li> <li>・企業の組織体制及び配属された職場における職制を知る。</li> <li>・分業や協働における責任と職場で必要とされる作業態度を知る。</li> <li>・自分にも他者にも重要な安全・衛生及び健康の維持、休憩時間等の余暇の過ごし方について知る。</li> <li>・通勤の方法や通勤にふさわしい服装について理解する。</li> <li>・通勤中に起きたトラブルに対処する方法を身に付ける。</li> </ul> <p>*産業現場等における実習 *現場や公共でのマナーなどについてのロールプレイング</p> <p>「A職業生活」の「イ職業」を中心に各項目の内容を横断的・発展的に関連させる。</p>
	<p>思考力・判断力・表現力等</p> <p>イ 職業や職業生活、進路に関わることについて、気付き、他者に伝えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な製品がどのように作られるのか、身近な商店等でどのようなやりとりがあるのかなど、仕事のことを調べる。</li> <li>・働いている人々の話を聞く。</li> <li>・分かったこと気付いたことを話し合ったり資料にまとめたりする。</li> <li>・進路選択に向けて、希望する進路や職業等について考えたり、判断したことを伝えたりする。</li> </ul> <p>*職場見学 *就業体験 *アで調べたこと、分かったこと、気付いたこと、感じたことなどの話し合い活動・まとめ資料作成</p>	<p>イ 職業や職業生活、進路に関わることと自己の成長などについて考えて、発表すること。</p>	<p>イ 産業現場等における実習での自己の成長について考えたことを表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の課題を明らかにし、資料にまとめ発表する。</li> <li>・自己の能力や適性などについて理解を促し、以後の学習において改善を図る。</li> <li>・職場等で実際に働くことが、地域社会への貢献や人間関係の広がりなどにつながることに気付く。</li> <li>・自己の成長を実感することで働く意欲を一層高める。</li> </ul> <p>*職場実習の事前指導・事後指導</p>	<p>イ 産業現場等における実習で課題の解決について考えたことを表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような作業指示書があれば理解しやすいのか、どのような治具・補助具、マニュアル等の支援や援助があれば正確な作業ができるのかを比較・検討したり、これまでの学習経験から見立てたりして申し出る。</li> <li>・自己の成長を確かめ、働く意欲を一層向上させる。</li> <li>・自分に合った解決方法を見だし解決できる。</li> <li>・適切な表現で意思を伝えることができる。</li> </ul> <p>*職場実習の事前指導・事後指導</p> <p>自己の能力や適性への理解を促し、進路選択に生かすとともに、自立活動と関連付けて指導する。</p>

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

職業・家庭（家庭分野）及び家庭				
目標	生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次の通り育成することを目指す。		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1)生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。		(1)家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2)将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだし課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。		(2)家庭や地域における生活の中から問題を見いだし課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	(3)よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。		(3)家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	
教科・分野	中学部・職業・家庭（家庭分野）		高等部・家庭	
段階の目標	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	ア 家庭の中の自分の役割に気づき、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 家族や自分の役割について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 家族・家庭の機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 家庭生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気づき、実践し、学習したことを伝えるなど、日常生活において課題を解決する力の基礎を身を養う。	イ 家庭生活に必要な事柄について考え、課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、日常生活において課題を解決する力を養う。	イ 家庭や地域における生活の中から問題を見いだし課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	イ 家庭や地域における生活の中から問題を見いだし課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 家庭や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。	ウ 家庭や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする実践的な態度を養う。	ウ 家族や地域の人々との関わりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	ウ 家族や地域の人々との関わりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
A 家族・家庭生活	自分の成長と家族	ア 自分の成長と家族 自分の成長に気付くことや家族のことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(7) 自分の成長を振り返りながら、家庭生活の大切さを知ること。  ・自分の成長を具体的に明らかにすること(例：服をハンガーに掛けることができた、気持ちを相手に伝えられるようになった)で、気付きや喜び、意欲をもつことができる。	(7) 自分の成長を振り返り、家庭生活の大切さを理解すること。  ・家族それぞれの役割や立場が分かり、家庭内の仕事や役割を果たしていること、思いやりや愛情によって支え合いながら営まれていることを知る。 *調べ学習 *教師や友達家族との会話	(7) 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くこと。  ・自分がこれまで成長してきた過程を振り返り、自分の成長や生活は、家族や家庭生活に支えられてきたことが分かる。 ・健康、快適で安全な家庭生活は、家庭の仕事や協力をしているなど、家族の協力によって営まれていることに気付く。	(7) 自分の成長と家族や家庭生活の関わりが分かり、家庭生活が家族の協力によって営まれていることを理解すること。  ・家族の一員として自身の役割を果たす必要があることを理解する。
		(イ) 家族とのやりとりを通して、家族を大切にすることを、家族を大切にすることを、よりよい関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。  ・家庭には衣食住や家族に関する仕事があること、自分や家族の生活を支えていることに気付く。 ・家族が協力して分担する必要があることが分かる。 ・自分の成長を支えてくれる家族の存在に気付き、感謝の気持ちをもつ。 ・生活時間の有効な使い方の理解ができる。	(イ) 家族とのやりとりを通して、家族を大切にすることを、よりよい関わり方について考え、表現すること。	(イ) 家族とのよりよい関わり方について考え、表現すること。  ・家族の生活時間を見直し、触れ合いや団らの時間や場を生み出し楽しくする方法等について考え表現できる。	(イ) 家族とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。  ・家族の団らんに加わり、家族の心情を受け止めたりすることについて考え、工夫することができる。
	家庭生活での役割と地域との関わり	イ 家庭生活と役割 家庭の中の役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 家庭生活と役割 家庭生活での役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 家庭生活での役割と地域との関わり 家族との触れ合いや地域の人々と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 家庭生活での役割と地域との関わり 家族や地域の人々などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(7) 家庭における役割や地域との関わりについて関心をもち、知ること。  ・家庭の中で、自分でできることを行うことによって自分の役割を果たす。	(7) 家庭における役割や地域との関わりについて調べて、理解すること。  ・家族にはそれぞれの役割があり、相互に支え合っていることに気付く。 ・家族に対する感謝の気持ちを高める。	(7) 家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることに気付くこと。  ・地域で共に生活している幼児や高齢者など、異なる世代の人々との関わりについて問題を見いだすことができる。	(7) 家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることを理解すること。  ・
		(イ) 家庭生活に必要なことや自分の果たす役割に気付き、それらを他者に伝えること。  ・家族の役に立つことを実感し、自分なりに工夫する。	(イ) 家庭生活に必要なことに関して、家族の一員として、自分の果たす役割を考え、表現すること。  ・家族の一員として家庭生活の中で担う役割を考え、実際に役割を果たすことができる。	(イ) 家族と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、表現すること。  ・自分が協力できることは何かについて考え表現できる。	(イ) 家族と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
A 家族・家庭生活	家族生活における余暇・家族生活における健康管理と余暇	ウ 家庭生活における余暇 家庭生活における余暇に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 家庭生活における余暇 家庭生活における健康管理や余暇に関わる学習活動を通して次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 家庭生活における健康管理と余暇 家庭生活における健康管理や余暇に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 家庭生活における健康管理と余暇 家庭生活における健康管理や余暇に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		<p>(7) 健康や様々な余暇の過ごし方について知り、実践しようとする事。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での食事や睡眠等、生活習慣や生活リズム、余暇の過ごし方等の日常生活が健康に大きく影響をしていることを知る。</li> <li>・一人で楽しむだけでなく他者と共有する大切な時間でもあることに気付く。</li> <li>*文化・芸術的な活動 (読書、絵画制作・鑑賞、楽器演奏・音楽鑑賞、手芸、園芸、飼育、テレビ視聴など)</li> <li>*体育的な活動 (遊具・器具を使った遊び、運動・スポーツなど)</li> <li>*団らん</li> </ul>	<p>(7) 健康管理や余暇の過ごし方について理解し、実践すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に合った健康管理や余暇の過ごし方について理解し、家庭生活の中で実践できる。</li> <li>・家庭における自分の生活を見直し、規則正しく健康に気を付けて生活する。</li> </ul>	<p>(7) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解し、実践すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での食事、睡眠、生活習慣、生活リズム等の日常生活が、健康に影響を及ぼすことを理解する。</li> <li>・スポーツや音楽鑑賞、ペットの飼育、植物の栽培などを行うことなどにより、生活を楽しむことができる。</li> <li>・親戚や友達の家を訪問したり、来客の対応をしたりして過ごすことができる。</li> </ul>	<p>(7) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解を深め、実践すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人が自由に使える時間や休日を自分の趣味に有効に活用すること、家族などと有意義に余暇を過ごすことについて理解し、実践できる。</li> </ul>
	<p>(4) 望ましい生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、工夫すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での余暇活動について計画を立てる。</li> </ul>	<p>(4) 望ましい生活環境や健康管理及び自分に合った余暇の過ごし方について考え、表現すること。</p>	<p>(4) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、表現すること。</p>	<p>(4) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、工夫すること。</p>	
	幼児の生活と家族・乳幼児や高齢者などの生活	エ 幼児の生活と家族・乳幼児や高齢者などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 家族や地域の人々との関わり 家族との触れ合いや地域の人々と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 乳幼児や高齢者などの生活 乳幼児や高齢者と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 乳幼児や高齢者などの生活 乳幼児や高齢者と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
幼児の生活と家族・乳幼児や高齢者などの生活	<p>(7) 幼児の特徴や過ごし方について知ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児は、食事、排泄、着脱衣、清潔など様々な場面で他者の支えが必要なこと、遊びや睡眠の時間が多いなどの特徴があることを知る。</li> <li>・自分との違いに気付いたり、自分の幼い頃を振り返ったりするなどして自己理解を進め、他者への思いやりの気持ちをもつ。</li> </ul>	<p>(7) 地域生活や地域の活動について調べて、理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の周りの商店等で働く人や近所に暮らす人などと、様々な場所で交流する。</li> </ul>	<p>(7) 乳幼児や高齢者などの生活の特徴、乳幼児や高齢者などとの関わり方について気付くこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児と触れ合うことで、遊びや食事などの活動や着衣などから、乳幼児の生活の特徴に気付く。</li> <li>・療養中の家族や介護の必要な高齢者の食事、服薬、睡眠などの様子から、通常とは異なる配慮が必要なが分かり、適切に接することができる。</li> </ul>	<p>(7) 乳幼児や高齢者などの生活の特徴が分かり、乳幼児や高齢者などとの関わり方について理解すること。</p>	



職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
A 家族・家庭生活	幼児の生活と家族・家族や地域の人々との関わり ・乳幼児や高齢者などの生活	<p>(イ) 幼児への適切な関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。</p> <p>・幼児への言葉のかけ方や働きかけの仕方、相手を思いやりながら優しく関わることの必要性に気付く。</p>	<p>(イ) 家族との触れ合いや地域生活に関心をもち、家族や地域の人々と地域活動への関わりについて気付き、表現すること。</p> <p>・活動を通して地域の特色や文化、産業などのよさに気付く。</p> <p>・地域の人々との関わりを大切にす気持や地域に積極的に関わろうとする意欲をもつ。</p> <p>・近隣の人々や身近な環境との関わりを大切にすることにより、よりよい生活が実現できることに気付く。</p>	<p>(イ) 乳幼児や高齢者などとのよりよい関わり方について考え、表現すること。</p>	<p>(イ) 乳幼児や高齢者などとのよりよい関わり方について考え、工夫すること。</p>
	<p>思考力・判断力・表現力等</p>				
B 衣食住の生活	食事の役割・必要な栄養を満たす食事	<p>ア 食事の役割</p> <p>食事の仕方や食事の大切さに気付くことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>健康な生活と関連付ける。</p>	<p>ア 食事の役割</p> <p>楽しく食事をするための工夫などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>ア 食事の役割</p> <p>食事の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>ア 必要な栄養を満たす食事</p> <p>自分に必要な栄養を満たす食事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>
		<p>(7) 健康な生活と食事の役割について知ること。</p> <p>・健康を保ち、体の成長や活動のもとになることや、一緒に食事をする中で、人と楽しく関わったり、和やかな気持ちになったりすることについて気付く。</p> <p>・心身の状態により、食べる量が異なるなど、個人差があることを知る。</p>	<p>(7) 健康な生活と食事の役割や日常の食事の大切さを理解すること。</p> <p>・自分の食生活に関心をもち、健康によい食事のとり方について気付き、考える。</p> <p>・日常の食事に関心をもち課題点をあげる。</p> <p>・1日の生活の中で3食を規則正しくとり、栄養や食品をバランスよくとることの重要性を理解する。</p> <p>・自己の食事改善点や解決方法を考える。</p>	<p>(7) 生活の中で食事が果たす役割について理解すること。</p> <p>・食事を共にすることが人間関係を深めたり、偏食を改善し、栄養のバランスのよい食事にもつながったりすることが理解できる。</p> <p>・行事食や郷土料理など、食事が文化を伝える役割もあることを理解できる。</p> <p>・孤食と共食との比較から、重要性に気付く。</p> <p>・楽しく食べるための工夫が必要であることに気付く。</p>	<p>(7) 自分に必要な栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的特質について理解すること。</p> <p>・栄養素及びその働き、一日に必要な食物の量、いろいろな食品を組み合わせる必要があることが分かる。</p> <p>・食品に含まれる栄養素の種類と量など栄養的特質によって、食品は食品群に分類されることを理解する。</p> <p>・栄養素の種類と量については、日本食品標準成分表に示されていることが分かる。</p>
	<p>知識及び技能</p>	<p>(イ) 適切な量の食事を楽しくとることの大切さに気付き、それらを他者に伝えること。</p> <p>・必要な栄養や食事量を適切にとることに気付く。</p> <p>・家族や親しい人と一緒に食することや落ち着ける環境で食することにより、気持ちが一層満たされることを実感すること、食事の時間を楽しみにしたり、美味しいことを喜び、伝え合い共有したりする。</p>	<p>(イ) 日常の食事の大切さや規則正しい食事の必要性を考え、表現すること。</p> <p>・栄養のバランスや食品について考えたことを伝える。</p> <p>・改善や解決方法など自分の実践を発表する。</p>	<p>(イ) 健康によい食習慣について考え、工夫すること。</p> <p>・欠食や偏食を避け栄養のバランスがよい食事をとる。</p> <p>・1日3食を規則正しくとる。</p> <p>・健康保持増進のためには運動や休養も重要な要素であることが分かる。</p> <p>・適度な運動量を確保しながら、食事で必要な栄養量をとる。</p> <p>・よりよい食習慣について考え工夫する。</p>	<p>(イ) 一日分の献立について考え、工夫すること。</p>
<p>思考力・判断力・表現力等</p>					

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
B 衣食住の生活	栄養を考えた食事	—	イ 栄養を考えた食事 バランスのとれた食事について考えることに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	—
		—	(7) 身体に必要な栄養について関心を持ち、理解し、実践すること。  ・食品に含まれる栄養素の特徴により三つのグループ分けられることが分かる。 ・日常の食事に使われる食品をグループに分類できる。	—	—
		—	(4) バランスのとれた食事について気づき、献立などを工夫すること。  ・身近な給食や食事の場面を活用し、栄養のバランス、主食と副食、汁物の組み合わせ、彩り、味のバランスについて考える。	—	—
	調理の基礎・日常食の調理	イ 調理の基礎 必要な材料を使って食事の準備をすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。  *簡単な調理	ウ 調理の基礎 食事の準備や調理の仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 日常食の調理 日常食の調理に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 日常食の調理 日常食の調理に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階	
B 衣食住の生活	調理の基礎・日常食の調理	知識及び技能	<p>(7) 簡単な調理の仕方や手順について知り、できるようにすること。</p> <p>・電子レンジやホットプレートのような電気で加熱できるもの、家庭で身近に使用できる加熱用調理器具を使えるようにする。</p>	<p>(7) 調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできること。</p> <p>*家庭との連携 *宿泊を伴う学習</p>	<p>(7) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択、食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理、材料に適した加熱調理の仕方について知り、基礎的な日常食の調理ができること。</p> <p>・目的、栄養、価格、調理の能率、環境への影響などの諸条件を考えて選択することが大切であることを知る。</p> <p>・生鮮食品については、魚、肉、野菜などの鮮度や品質の見分け方について知る。</p> <p>・加工食品については、原材料や食品製造年月日、消費期限や消費期限との違いや見方、保存方法などの表示について理解し、用途に応じて選択し安全に調理ができるようにする。</p> <p>・ごみを適切に処理する必要があることを知る。</p> <p>・調理実習に用いる用具を中心に正しい使い方や安全な取扱い方を知る。</p> <p>・ゆでる、いためる、煮る、焼く、蒸す等、火加減の調節や、加熱器具を適切に操作して調理ができる。</p> <p>・材料の種類や切り方などによって煮方が異なること、調味の仕方が汁の量によって異なることなどを知る。</p> <p>・直火焼き、フライパンやオーブンなどを用いた間接焼きなどそれぞれ特徴があることを知る。</p> <p>・水蒸気で加熱する蒸し調理の特徴を知る。</p> <p>・魚や肉については、加熱することで衛生的で安全になることや、中心まで火を通す方法を知る。</p> <p>・加熱の方法や食材の部位によって調理法が異なることを知る。</p> <p>・種類や肉の部位等によって調理法が異なることやたんぱく質が加熱によって変性・凝固し、硬さ、色、味、においが変化するため、調理の目的に合った加熱方法が必要であることを知る。</p> <p>・野菜は、生食できること、食塩や加熱で組織が軟らかくなること、切り方や加熱のしすぎで色が悪くなり、それを防止する方法などを知る。</p> <p>・野菜は加熱によってかさが減り、食べやすくなることを知る。</p> <p>・適切な洗い方、安全な包丁の使い方、調理の目的に合った調味料の使い方、計量器の適切な使用方法について知る。</p> <p>・外観や料理の様式に応じた盛り付けや配膳があることを知る。</p>	<p>(7) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択、食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理、材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理ができること。</p>

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
B 衣食住の生活	調理の基礎・日常食の調理	<p>(イ) 簡単な調理計画について考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単なレシピで調理の見通しをもつ。</li> <li>・グループで役割分担をする。</li> <li>・タブレット端末等の情報機器等を効果的に用い、確認や振り返りに活用する。</li> <li>・調理の過程や料理のでき上がりや味、食べ方について関心を持ち、自分で調理をしようとする。</li> </ul>	<p>(イ) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な材料や調理器具、調理の手順を考えて、準備から後片付けまで見通しをもち、時間配分をしたり、調理に適した調理用具を準備したりする。</li> <li>・食中毒の予防のために、安全で衛生的な扱い方をする。</li> <li>・食品の保存方法と保存期間については食品の腐敗や食中毒の原因と関連づける。</li> <li>＊ガスや火の取扱い</li> <li>＊まな板や布巾の取扱い</li> <li>＊魚や肉などの生の食品の取扱い</li> </ul>	<p>(イ) 基礎的な日常食の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、表現すること。</p>	<p>(イ) 基礎的な日常食の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。</p>
	衣服の着用と手入れ	<p>ウ 衣服の着用と手入れ 衣服の着方や手入れの仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>＊日常着の着方</li> <li>＊活動に応じた衣服の着方</li> </ul>	<p>エ 衣服の着用と手入れ 衣服の手入れや洗濯の仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>ウ 衣服の選択 衣服の選択に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>ウ 衣服の手入れ 衣服の手入れに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>
	知識及び技能	<p>(ア) 場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などについて知り、実践しようとする。</p>	<p>(ア) 日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での学習や実習、家族との外出、余暇など、目的や時期、場所などを考えた衣服の着方や身だしなみを整える。</li> <li>・行事等によって衣服や着方に決まりがあることなどについて気付く。</li> <li>＊日本の伝統的な衣服</li> </ul>	<p>(ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所属や職業を表したり、行事によって衣服や着方にきまりがあったりすることが分かる。</li> <li>・和服と洋服の構成や着方の違いに気付く。</li> <li>・学校生活や行事、訪問などの目的に応じたそれぞれの場にふさわしい着方があることを理解する。</li> <li>・衣服の種類や組合せ、襟の形やゆとり、色などによって人に与える印象が違うことを理解する。</li> <li>・既製服での組成表示、取り扱い表示、サイズ表示などの意味を理解する。</li> <li>・衣服の購入には縫い方、ボタン付けなどの縫製の良否、手入れの仕方、手持ちの衣服との組み合わせ、価格などに留意し衣服を選択する。</li> <li>・サイズや身体部位の寸法で示されることや、計測の仕方を理解する。</li> <li>・他の人から譲り受けたり、リフォームしたりする方法があることを知る。</li> </ul>	<p>(ア) 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・綿、毛、ポリエステルなどの丈夫さ、防しわ性、アイロンかけの効果、洗濯による収縮性など、手入れに関わる基本的な性質とその違いに応じた手入れの仕方を理解し、適切にできる。</li> <li>・洗剤の働きと衣服の材料に応じた洗剤の種類などが分かる。洗剤を適切に選択して使用できる。</li> <li>・汚れの性質、洗剤の働き、電気洗濯機の水流の強弱、部分洗いの効果などに気付く。</li> <li>・布の収縮や型くずれに配慮した洗い方や干し方などがあることを知る。</li> <li>・電気洗濯機を用いた洗濯の方法と特徴を理解し、洗濯機を適切に使用できる。</li> <li>・衣服によっては専門業者に依頼する必要があることや、手入れをした衣服を適切に保管する必要があることに気付く。</li> <li>・衣服を大切にし、長持ちさせるために目的と布地に適した方法（裾上げ、ほころび直し、スナップ付けなどの補修の仕方）について理解し、適切にできる。</li> <li>・日常着の日常の手入れとして、ブラシかけなどが有効であることを理解し、適切にできる。</li> </ul>

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
B 衣食住の生活	・ 衣服の着用と手入れ ・ 衣服の手入れ	<p>(イ) 日常着の着方や手入れの仕方に気付き、工夫すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 季節や気温に応じた衣服の選択、汚れた衣服の始末や洗濯物の整理など、基本的な衣服の取扱いについて体験する。</li> <li>・ 学校生活や家庭生活において実践する。</li> </ul>	<p>(イ) 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。</p>	<p>(イ) 衣服の選択について考え、工夫すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康・快適などの視点から衣服の選択について考え、工夫することができる。</li> </ul>	<p>(イ) 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて考え、工夫すること。</p>
	布を用いた製作	-	-	エ 布を用いた製作 布を用いた製作に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 布を用いた製作 布を用いた製作に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	知識及び技能	-	-	<p>(ア) 目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手縫いでは、縫い方の違いや縫う部分や目的に応じて適した縫い方を選ぶことを理解し、できる。</li> <li>・ ミシン縫いでは、丈夫で速く縫えるという特徴や使い方が分かり、直線縫いを主としたミシン縫いができる。</li> </ul>	<p>(ア) 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミシンの使用に慣れ、簡単な物を縫うことができる。</li> </ul>
	思考力、表現力等	-	-	<p>(イ) 目的に応じた縫い方について考え、工夫すること。</p>	<p>(イ) 布を用いた簡単な物の製作計画を考え、製作を工夫すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 型紙に合わせて裁断し、ミシンを使って作る簡単な小物や袋物の製作計画を考え、ミシンを使った製作を工夫する。</li> </ul>
	・ 住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方 ・ 快適な住まい方 ・ 快適で安全な住まい方	エ 快適な住まい方 持ち物の整理や住まいの清掃などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	オ 快適で安全な住まい方 住まいの整理・整頓や清掃などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。  *避難訓練 *防災や防犯に対する学習	オ 住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方 住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	オ 住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方 住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	知識及び技能	<p>(ア) 住まいの主な働きや、整理・整頓や清掃の仕方について知り、実践しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 窓や換気扇、照明器具や日よけ、カーテンなどの役割、室内の整理整頓や清掃について取り上げ適切に行い、使用することにより、より快適で健康に暮らすことができることを実感する。</li> </ul> <p>日常生活の指導などと関連付ける。</p>	<p>(ア) 快適な住まい方や、安全について理解し、実践すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガスや火器、刃物などの危険物についての注意や、落下物や階段など、家庭内で起こる様々な事故や防ぎ方について知る。</li> <li>・ 住まいの整理・整頓や清掃が重要であることを知る。</li> <li>・ 扉や窓の施錠や鍵の管理、セールス等の訪問者への基本的な対応の仕方を知る。</li> <li>・ 地震や火事など緊急時に身を守ることや避難場所、連絡先等を理解する。</li> </ul> <p>学校生活の様々な場面を想定した避難訓練等と関連させる。</p>	<p>(ア) 家族の生活と住空間との関わりや住居の基本的な機能について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 我が国の座敷の住まい方、和式と洋式住居、住空間の使い方の工夫に気付く。</li> <li>・ 我が国の伝統的な住宅や住まい方に見られる様々な知恵に気付き、生活文化を継承する大切さに気付く。</li> <li>・ 布団とベッドによる就寝の形態や押し入れとクローゼットによる収納の形態の違いを知る。</li> <li>・ 住居は、心身の安らぎと健康を維持する働き、子供が育つ基盤としての働きがあることを知る。</li> <li>・ 住居には共同生活の空間、個人生活の空間などが必要であることを知る。</li> </ul>	<p>(ア) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 快適な住居、生活ができるよう定期的に整理整頓、清掃など行う。</li> </ul>

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
B 衣食住の生活	・住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方 ・快適な住まい方・快適で安全な住まい方 思考力・判断力・表現力等	(イ) 季節の変化に合わせてた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方に気が付き、工夫すること。	(イ) 季節の変化に合わせてた快適な住まい方に気が付き、工夫すること。	(イ) 家族の安全や快適さを考えた住空間について考え、表現すること。	(イ) 家族の安全や快適さを考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。
		ア 身近な消費生活 買物の仕組みや必要な物の選び方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身近な消費生活 身近な消費生活について考えることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 消費生活 消費生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 消費生活 消費生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
C 消費生活・環境	身近な消費生活・消費生活 知識及び技能	(7) 生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする。	(7) 生活に必要な物の選択や扱い方について理解し、実践すること。	(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。	(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店等で品物を購入する方法や、買物かごの扱い方、支払いや釣銭などの受け取りなど買物に係る一連の手順を理解する。</li> <li>・家族に頼まれた買物や自分が必要とする物を正しく選ぶ。</li> <li>*校内模擬店</li> <li>*買い物学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ物でも品質や価格などに違いがあることを知る。</li> <li>・必要な物であるかどうかを考える。</li> <li>・電子マネーやプリペイドカードなど現金以外の支払い方について知り、その適切な取扱いができる。</li> <li>*買い物体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*インターネットを介した無店舗販売</li> <li>*クレジットカードによる三者間契約</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*購入方法や支払方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性に気付くこと。</li> <li>・支払い時期（前払い、即時払い、後払い）の違いによる特徴を知る。</li> <li>・クレジットカードによる三者間契約と二者間契約を比較しながら利点と問題点を知る。</li> <li>・生活に必要な物資・サービスについての金銭の流れを知る。</li> <li>・多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理が必要であることに気付く。</li> <li>・収支のバランスが崩れた場合には、物資・サービスが必要か判断し、必要なものについては、優先順位を考慮して調整することが重要であることに気付く。</li> </ul>

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
C 消費生活・環境	身近な消費生活・消費生活			<p>④売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理ができること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択のための意思決定に必要な安全性、機能、価格、環境への配慮、アフターサービス等の観点や、関連する品質表示や成分表示、各種マークを基に、広告やパンフレットなどの情報源から、隔たりなく情報を収集し、購入目的に応じた観点で適切に整理し、比較検討できる。</li> <li>・情報の信頼性を吟味できる。</li> <li>・物資・サービスの選択・購入に必要な情報の収集・整理を適切に行うことが、消費者被害を未然に防いだり、購入後の満足感を高めたりすることに気付く。</li> </ul>	<p>④売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。</p>
	知識及び技能				
	思考力、判断力、表現力等	<p>(イ) 生活に必要な物を選んだり、物を大切に使うこと、物として扱うこと。</p>	<p>(イ) 生活に必要な物について考えて選ぶことや、物を大切に使う工夫をすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に合った物の選び方を知る。</li> <li>・使用目的を理解した上で、予算内の品物を選ぶことができる。</li> </ul>	<p>(イ) 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物資・サービスの選択、購入方法、支払い方法等について考え、表現できる。</li> </ul>	<p>(イ) 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。</p>
環境に配慮した生活	知識及び技能	<p>イ 環境に配慮した生活 身近な生活の中で環境に配慮することに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>イ 環境に配慮した生活 自分の生活と環境との関連などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	-	-
	知識及び技能	<p>(7) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて知り、実践しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの分別の仕方や、空き缶やペットボトルの回収の役割などを知る。</li> <li>*ごみの分別学習</li> </ul>	<p>(7) 身近な生活の中で、環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解し、実践すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコバックを活用したりすることが、ごみを減らすことにつながることに気付く。</li> <li>*エコ活動</li> </ul>	-	-
	思考力、判断力、表現力等	<p>(イ) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて考え、工夫すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの種類や量に気付き、再利用できるものやごみを減らすことの大切さを考える。</li> <li>*リサイクル工場見学</li> </ul>	<p>(イ) 身近な生活の中で、環境との関わりや環境に配慮した生活について考えて、物の使い方などを工夫すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気の消灯や水の使用などエネルギーの無駄使いを防ぐ。</li> </ul>	-	-

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
C 消費生活・環境	消費者の基本的な権利と責任			イ 消費者の基本的な権利と責任 消費者の基本的な権利と責任に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 消費者の基本的な権利と責任 消費者の基本的な権利と責任に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	知識及び技能			(7) 消費者の基本的な権利と責任，自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について気付くこと。  ・消費者の基本的な権利と責任について（具体的な場面でのどのような権利と責任が関わっているのか，権利の行使には責任の遂行がともなうことに）気付く。 ・購入した物資・サービスの不具合があったり，被害にあったりした場合に，そのことについて適切に主張し行動する責任を果たすことなどが，消費者被害の拡大を防ぐことにつながることに気付く。 ・物資・サービスの購入から廃棄までの自分や家族の消費行動が，環境への負荷を軽減させたり，企業の商品の改善につながったりすることに気付く。 ・衣食住に関わる多くのものが限りある資源であり，それらを有効に活用するには，自分や家族の消費行動が環境に与える影響を自覚し，自分だけでなく多くの人が行ったり，長期にわたって続けたりすることが，環境への負荷を軽減させるために大切だと気付く。 *消費者基本法	(7) 消費者の基本的な権利と責任，自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。  *消費者教育の推進に関する法律（消費者教育推進法）
	思考力・判断力・表現力等			(イ) 身近な消費生活について，自立した消費者として責任ある消費行動を考え，表現すること。  ・自立した消費者として責任ある消費行動を考える。	(イ) 身近な消費生活について，自立した消費者として責任ある消費行動を考え，工夫すること。



No.	Description	Amount	Total
1.	...	...	...
2.	...	...	...
3.	...	...	...
4.	...	...	...
5.	...	...	...
6.	...	...	...
7.	...	...	...
8.	...	...	...
9.	...	...	...
10.	...	...	...
11.	...	...	...
12.	...	...	...
13.	...	...	...
14.	...	...	...
15.	...	...	...
16.	...	...	...
17.	...	...	...
18.	...	...	...
19.	...	...	...
20.	...	...	...
21.	...	...	...
22.	...	...	...
23.	...	...	...
24.	...	...	...
25.	...	...	...
26.	...	...	...
27.	...	...	...
28.	...	...	...
29.	...	...	...
30.	...	...	...
31.	...	...	...
32.	...	...	...
33.	...	...	...
34.	...	...	...
35.	...	...	...
36.	...	...	...
37.	...	...	...
38.	...	...	...
39.	...	...	...
40.	...	...	...
41.	...	...	...
42.	...	...	...
43.	...	...	...
44.	...	...	...
45.	...	...	...
46.	...	...	...
47.	...	...	...
48.	...	...	...
49.	...	...	...
50.	...	...	...
51.	...	...	...
52.	...	...	...
53.	...	...	...
54.	...	...	...
55.	...	...	...
56.	...	...	...
57.	...	...	...
58.	...	...	...
59.	...	...	...
60.	...	...	...
61.	...	...	...
62.	...	...	...
63.	...	...	...
64.	...	...	...
65.	...	...	...
66.	...	...	...
67.	...	...	...
68.	...	...	...
69.	...	...	...
70.	...	...	...
71.	...	...	...
72.	...	...	...
73.	...	...	...
74.	...	...	...
75.	...	...	...
76.	...	...	...
77.	...	...	...
78.	...	...	...
79.	...	...	...
80.	...	...	...
81.	...	...	...
82.	...	...	...
83.	...	...	...
84.	...	...	...
85.	...	...	...
86.	...	...	...
87.	...	...	...
88.	...	...	...
89.	...	...	...
90.	...	...	...
91.	...	...	...
92.	...	...	...
93.	...	...	...
94.	...	...	...
95.	...	...	...
96.	...	...	...
97.	...	...	...
98.	...	...	...
99.	...	...	...
100.	...	...	...
101.	...	...	...
102.	...	...	...
103.	...	...	...
104.	...	...	...
105.	...	...	...
106.	...	...	...
107.	...	...	...
108.	...	...	...
109.	...	...	...
110.	...	...	...
111.	...	...	...
112.	...	...	...
113.	...	...	...
114.	...	...	...
115.	...	...	...
116.	...	...	...
117.	...	...	...
118.	...	...	...
119.	...	...	...
120.	...	...	...
121.	...	...	...
122.	...	...	...
123.	...	...	...
124.	...	...	...
125.	...	...	...
126.	...	...	...
127.	...	...	...
128.	...	...	...
129.	...	...	...
130.	...	...	...
131.	...	...	...
132.	...	...	...
133.	...	...	...
134.	...	...	...
135.	...	...	...
136.	...	...	...
137.	...	...	...
138.	...	...	...
139.	...	...	...
140.	...	...	...
141.	...	...	...
142.	...	...	...
143.	...	...	...
144.	...	...	...
145.	...	...	...
146.	...	...	...
147.	...	...	...
148.	...	...	...
149.	...	...	...
150.	...	...	...
151.	...	...	...
152.	...	...	...
153.	...	...	...
154.	...	...	...
155.	...	...	...
156.	...	...	...
157.	...	...	...
158.	...	...	...
159.	...	...	...
160.	...	...	...
161.	...	...	...
162.	...	...	...
163.	...	...	...
164.	...	...	...
165.	...	...	...
166.	...	...	...
167.	...	...	...
168.	...	...	...
169.	...	...	...
170.	...	...	...
171.	...	...	...
172.	...	...	...
173.	...	...	...
174.	...	...	...
175.	...	...	...
176.	...	...	...
177.	...	...	...
178.	...	...	...
179.	...	...	...
180.	...	...	...
181.	...	...	...
182.	...	...	...
183.	...	...	...
184.	...	...	...
185.	...	...	...
186.	...	...	...
187.	...	...	...
188.	...	...	...
189.	...	...	...
190.	...	...	...
191.	...	...	...
192.	...	...	...
193.	...	...	...
194.	...	...	...
195.	...	...	...
196.	...	...	...
197.	...	...	...
198.	...	...	...
199.	...	...	...
200.	...	...	...

# 11 外国語活動・外国語

## ○内容の構造

- ・外国語活動及び外国語科の内容は、「知識及び技能」として(1)「英語の特徴等に関する事項」、「思考力・判断力・表現力等」として(2)「情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項」と(3)「言語活動及び言語の働きに関する事項」を位置付けています。
- ・(3)「言語活動及び言語の働きに関する事項」は、「知識及び技能」及び「思考力・判断力・表現力等」を身に付けるための具体的言語活動、言語の働き等を整理しています。
- ・外国語活動では、「聞くこと」「話すこと」の2領域で言語活動を設定しています。
- ・外国語科では、「聞くこと」「話すこと[発表]」「話すこと[やり取り]」「書くこと」「読むこと」の5領域を設定しています。
- ・弾力的な指導のために、小学部・中学部は段階を設けられていません。

## ○表の見方

- ・内容の項目の、小学部から高等部までの系統性が分かるように表記しています。高等部段階の外国語教育への接続を意識しながら取り組んでください。
- ・取り扱う事項が、小学部では「身近で簡単なこと」、中学部では「日常生活に関する簡単な事柄」、高等部では「簡単な事柄」などのように、場面や状況がステップアップしています。内容項目の各所に、同様のことがあるので留意してください。
- ・「●」は学習指導要領解説の、具体的な内容として参考になるものを取り上げています。「・」は特に留意する必要があると思われる事項を取り上げています。その他にも多くの留意事項が書かれているので解説で確認してください。
- ・個々の児童や生徒の障害の状態や特性により、言語でコミュニケーションを図ることの表現方法は多様であるという認識のもと、それぞれの児童生徒が身に付けてきたコミュニケーション手段を活動に入れるなど、教材・教具の工夫により、英語に親しみ、コミュニケーションを図る楽しさを育成することが大切です。
- ・児童生徒が興味・関心をもったり、外国語の音声に慣れ親しんだりするために、日常生活に関わりのある初歩的な歌やゲーム、ネイティブスピーカーとの関わりなどによる、外国語を用いた体験的な活動を大切にしてください。
- ・活動内容は、児童生徒の興味・関心のあるものや既に経験している活動や事柄を扱うことが大切です。したがって、他教科との関連を図ることは大変有効です。

外国語活動・外国語

外国語活動・外国語				
目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語や外国の文化に触れることを通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語の音声や基本的な表現に触れる活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1) 外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語の音声の違いなどに気付き、外国語の音声に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語を用いた体験的な活動を通して、身近な生活で見聞きする外国語に興味や関心をもち、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2) 身近で簡単な事柄について、外国語に触れ、自分の気持ちを伝え合う力の素地を養う。	(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	(3) 外国語を通して、外国の文化などに触れながら、言語への関心を高め、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語を通して、外国語やその背景にある文化の多様性を知り、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	
段階の目標	小学部〔外国語活動〕	中学部〔外国語〕	高等部〔外国語〕（1段階）	高等部〔外国語〕（2段階）
知識及び技能	—	—	ア 音声や文字、語彙、表現などについて日本語と外国語との違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、話すことを中心とした実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な力を身に付けるようにする。	ア 音声や文字、語彙、表現などについて日本語と外国語との違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な力を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	—	—	イ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などを真似た外国語の文字をなぞって書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	イ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
学びに向かう力、人間性等	—	—	ウ 外国語の背景にある文化について理解し、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	ウ 外国語の背景にある文化について理解し、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
内容	小学部〔外国語活動〕	中学部〔外国語〕	高等部〔外国語〕（1段階）	高等部〔外国語〕（2段階）
知識及び技能	(1) 英語の特徴等に関する事項	(1) 英語の特徴等に関する事項	ア 英語の特徴等に関する事項	
	具体的な言語の使用場面や具体的な状況における言語活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	実際に英語を用いた場面や状況等における言語活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	実際に英語を用いた場面や状況等における言語活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
知識及び技能	ア 言語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを知ること。 ・言葉を使ってやり取りをする様子を見たり、既に知っている遊びや活動の中で相手とやり取りをしたりする体験。	ア 英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと。 ・英語の音声…英語の歌、文字、食べ物、スポーツ、生活用品など ・基本的な表現…挨拶、指示、質問などのうち初歩的なやり取り	(7) 英語の音声及び簡単な語句や基本的な表現などについて、日本語との違いに気付くこと。 ・英語の音声…英語の歌、文字、食べ物、スポーツ、生活用品など ・基本的な表現…挨拶、指示、質問などのやり取り	

外国語活動・外国語

内容	小学部〔外国語活動〕	中学部〔外国語〕	高等部〔外国語〕（1段階）	高等部〔外国語〕（2段階）
知識及び技能	—	(7) 英語の音声を聞き、真似て声を出したり、話したりしようとする。	㉗ 英語の音声を聞いて話したり、文字を見て読んだり書いたりして日本語の音声や文字などの違いに気付くこと。	㉗ 英語の音声を聞いて話したり、簡単な語彙などを読んだり書いたりして日本語の音声や文字などの違いに気付くこと。 ※語彙を中心に読んだり書いたりし、簡単な語句や基本的な表現については聞くこと、話すことで扱う。
	—	(4) 英語の音声や文字も、事物の内容を表したり、要件を伝えたりなどの働きがあることを感じ取ること。 ・体験的な活動の繰り返しにより、英語の音声、文字、表現が相手との意思疎通の手段であることへの気付きを促す。	㉘ 英語の音声や文字も、事物の内容を表したり、要件を伝えたりするなどの働きがあることに気付くこと。 ※高等部では、実際のコミュニケーションや体験的な繰り返しにより、物の名称を表したり要件を伝えたりするといった働きがあることへの気付きを促す。 ※国語科（中学部）での既習事項と関連を図った指導により、日本語や英語に同じ働きがあることに気付くようにする。	※1段階の気付きを自覚へ促す。 ※取り上げる事物や要件など題材を広げ題材が変わっても同じ働きがあることに気付かせる。 ※気付いたことを発表したり書いたりするなどの言語活動を通して理解につなげる。 ※意図的に言葉を使うよう、互いに事物の内容や要件を伝える活動を設定する。
	—	(7) 基本的な表現や語句が表す内容を知り、それらを使うことで相手に伝わることを感じ取ること。 ・基本的な表現や語句…(3)で示している言語活動や言語の使用場面で用いる表現や語句	㉙ 簡単な語句や基本的な表現を使うことで要件が相手に伝わることに気付くこと。 ＜聞くこと、話すこと＞ ・簡単な語句や基本的な表現…(3)で示している言語活動や言語の使用場面で用いる簡単な語句や基本的な表現	などが表す内容を知り、それらを使うことで要件が相手に伝わることに気付くこと。 ※内容を知っても使うまでに時間がかかるため、2段階まで通して指導。 ※簡単な語句や基本的な表現を相手や場面設定などに変化をもたせる。
	イ 日本と外国の言語や文化について、以下の体験を通して慣れ親しむこと。	イ 日本と外国の言語や文化に慣れ親しむこと。	—	—
	(7) 英語の歌や日常生活になじみのある語などを聞き、音声やリズムに親しむこと。 ・日常生活で繰り返し使用している言葉や国語科の学習で覚えた言葉等について、実物や絵カードを見ながら英語の音声を聞く。 ※英語特有のリズムやイントネーション、発音に親しませる。	(7) 体験的な活動を通して、日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知ること。	—	—
(4) 外国の生活や行事などに触れ、日本と外国の生活や違いを知ること。 ・ネイティブスピーカーや地域に住む外国人との交流で簡単な遊びやゲームをともにしたり、動画や写真等の映像資料を活用したりして、食生活・遊び・行事等の違いを知る。	(4) 対話的な活動を通して、相手の発言をよく聞こうとしたり、相づちや表情、ジェスチャーなどで応じようとしたりすること。 ・対話的活動…午前や午後及び就寝時など日常生活での挨拶。初対面の挨拶、体調や気分、好きなもの(こと)を尋ねる、「立つ」「座る」などの動作を指示する際のやり取り。 ・外国人が使う「OK.」「No good.」自分を指し示すジェスチャーなど。	—	—	
思考力、判断力、表現力等	(2) 自分の考えや気持ちなどを表現したり、伝えたりする力の素地に関する事項 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面などに応じて表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(2) 情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・友達や家族、先生との会話、食事や買い物などの場面を設定、遊びやゲームやクイズなどの活動	イ 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	

外国語活動・外国語

内容	小学部〔外国語活動〕	中学部〔外国語〕	高等部〔外国語〕（1段階）	高等部〔外国語〕（2段階）
思考力、判断力、表現力等	ア 身近で簡単な事柄について、注目して見聞きしようとする。こと。 ・よく知っているものや事柄、人のうち簡単な語などで表すことができるものについて、コミュニケーションの相手や動画や音声等の教材から再生される映像や音声に興味関心を持ってみたり聞いたりする。	ア 日常生活に関する簡単な事柄について、伝えたいことを考え、簡単な語などや基本的な表現を使って伝え合うこと。 ・自己紹介などの場面で、好きなもの(こと)や得意なことを簡単な語や基本的な表現で発表したり、それを聞いて相手のことを知ったりする。	(7) 簡単な事柄について、伝えようとした内容を整理した上で、簡単な語句などを用いて自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。 <聞くこと、話すこと〔発表〕、話すこと〔やり取り〕> ・買い物の場面において、相手とのやり取りの中で買いたい物の名称や色、数などを簡単な語句で伝え、買うことができる。	(7) 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で簡単な語句や基本的な表現などを用いて伝え合うこと。 ・これまでの学習で十分に活用されてきた、“Excuse me.”や“Thank you.”などの慣用表現。 “I have breakfast at seven every morning.”などの文で表現されているもの。
	イ 身近で簡単な事柄について、相手の働きかけに応じようとする。こと。 ・コミュニケーションの相手や活動をともしている人が話している英語を真似て話そうとしたり、相手の質問や要求に応じようとしたりする。	イ 日常生活に関する簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり、質問に答えたりすること。 ・自分の考えや気持ちを相手に伝えるために、合う語や基本的な表現を選んだり、具体物などで相手に伝えたりする。 ・話し手が伝えた内容に対してYes やNo, 簡単な語で返答、相づちや動作で反応する。分からない時や質問のある時は聞き返す。	※自分のこと、友達や家族、学校生活など身近で簡単な事柄について、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて内容を整理した上で、簡単な語句などの中から適切なものを選び、自分の考えや気持ちなどを伝え合う。	
			(4) 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり、書いたりすること。 <読むこと、書くこと> ・自分のこと、友達や家族、日常生活について、絵や写真等、言語外情報を伴って示された簡単な語彙などをそれが表す事柄を想像しながら読んだり、書いたりする。 ・語の綴りが添えられた写真や絵カードを見ながら何度も聞いたり話したりして音声に十分に慣れ親しんだ語が文字のみで提示された場合、その表す事物や動作などを思い浮かべながら読む。(“milk”で牛乳を思い浮かべる。“eat”で食べる動作を思い浮かべ「食べる」という言葉と結び付ける。)	・“dog”が思い浮かべられるようになつたら、“a black dog”から“dog”を見つけて犬を思い浮かべる。 ※取り上げる語彙を増やす。
	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項	ウ 言語活動及び言語の働きに関する事項	
	(1) 言語活動に関する事項	(1) 言語活動に関する事項	① 言語活動に関する事項	
	(2) に示す事項については、(1) に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を取り上げるようにする。	(2) に示す事項については、(1) に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。	イに示す事項については、アに示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。	
	ア 聞くこと (7) 既に経験している活動や場面で、英語の挨拶や語などを聞き取る活動。 ※外国語を正確に聞き取ったり、その内容を正しく聞き取り理解させたりすることを求めているのではないことに留意。	ア 聞くこと (7) 文字の発音を聞いて文字と結び付ける活動。 ※「文字の発音」…文字（英語の活字体の大文字と小文字）の名称の読み方を発音 ・アルファベット1文字での提示で、あるいは絵と単語を合わせたカードでの提示で一つの文字に着目させる。	(7) 聞くこと ⑦ 自分に関する簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。 ・自己紹介で述べるような出身地、得意なことなど、一日のスケジュール、週末の出来事、休暇の予定などについての簡単な語句や基本的な表現について、必要な情報を得ようと聞く。 “I belong to the chorus club. I’m good at singing.” “I get up at six every morning. And I go to school by bus.”	⑦ 自分ことや学校生活など身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。 ※学校での出来事や行事、友達のことなど生徒の興味・関心や実態に応じて話題を広げる。 ・複数の異なる人物のイラストを同時に提示し、“long hair” “a white shirt”“red glasses”と話されるのを聞いてこれらの表現に合うイラストを選ぶ活動。 ・生徒の絵やアルバムなどを見ながら教師が英語でゆっくり説明するのを聞く活動。

外国語活動・外国語

内容	小学部〔外国語活動〕	中学部〔外国語〕	高等部〔外国語〕（1段階）	高等部〔外国語〕（2段階）
思考力、 判断力、 表現力等	(イ) 既知している物や事柄に関する語などを聞き、それが表す内容を実物や写真などと結び付ける活動。 ※知識として語句や表現を与えるのではなく、児童自身が体験的活動を通して意味を理解し語句や表現に慣れ親しんでいくことが求められる。	(イ) 身近で具体的な事物に関する簡単な英語を聞き、それが表す内容をイラストや写真と結び付ける活動。 ※母語においてすでに理解できている、食べ物、動物、色、数字などが英語で話されるのを聞いてイラストや写真などを選ぶ。 ※教師の音声をリピートさせながら、聞くことを意識させる。 ・友達の音声を聞いて何を示しているか聞き取ったりする。	① 日付や時刻、値段などを表す表現など、身近で簡単な事柄について、表示などを参考にしながら具体的な情報を聞き取る活動 ・自己紹介の場面で、カレンダーを参考にしながら友達の誕生日などを聞き取ったり、時計や時刻が書かれたものなどを参考にしながら友達の起床時刻などを聞き取ったりする。	① 日付や時刻、値段などを表す表現など、身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動 ・授業の始めに日付を確認したり、ゲームや競争などで数を数えたりする。 ・(ウ)「話すこと〔やり取り〕」の⑦の取り組みで、話し手がインタビューで聞き取る活動。
	—	(ウ) 挨拶や簡単な指示に応じる活動。 ・「Good morning.」などの呼びかけに対して内容が分かり、返答する、話し手の方を向く、挙手するなどの動作で応じる。 ・指示に合うジェスチャーを教師が見せる、生徒に模倣させる、教師の動作を見ながら体を動かす。 Stand up./ Sit down./ Look at this card. Run./ Walk./ Stop.	—	② 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真を参考にしながら聞いて、必要な情報を聞き取る活動。 ・教師が、「Hello. I want to be a pilot. I want to visit many countries. …」などと話している英語を、その内容に関係するイラストや写真等を見ながら、就きたい職業、その理由などの情報を聞き取る活動。
	イ 話すこと	イ 話すこと〔発表〕	(イ) 話すこと〔発表〕	
	(ア) 既に経験している活動や場面で、実物や写真などを示しながら自分の名前や好きなものなどを簡単な語などを用いて伝える活動。 ・やり取りや人前での発表まではねらっていないが、伝える相手を意識して話す場面設定が大切。	(ア) 自分の名前、年齢、好みなどを簡単な語などや基本的な表現を用いて表現する活動。 ・人前での自己紹介などで、基本的な表現に事実を組み合わせる表現したり、簡単な語で自分の好みを端的に表現したりする。 I'm Mika. / I'm thirteen years old. / I like dogs.	② 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めて自己紹介をする活動。 ・「My birthday is ~.」 「I have/play/watch ~.」 「I'm good at ~.」 「I want to ~.」	② 簡単な語句や基本的な表現を用いて、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを話す活動。 ・身近で簡単な事柄…学校や家庭で起こる日常的な出来事や興味・関心のあること ・修学旅行で興味・関心があることとして、「Naha is a beautiful city. I like Naha. I want to go to Naha.」などの発表。
	(イ) 既知している歌やダンス、ゲームで、簡単な語や身振りなどを使って表現する活動。 ・他教科等で学習した内容を、簡単な語や身振りを使って表現する。 ・これまでに経験した活動を、簡単な語や身振りなどを使って行う。	(イ) 身近で具体的な事物の様子や状態を簡単な語などや基本的な表現、ジェスチャーを用いて表現する活動。 ・具体的な事物の数や色、形、大きさなどを表現する。 ・人前で実物やイラスト、写真を見せながらその様子や状態を簡単な語句や表現で発表する。 It's red and white. / Very small. ・二つの物を提示してその状態を比べ「long / short」などで表現する。 ・「One, two, three…」と数える、物に触り「warm / cold」で表現するなどの発表内容の構成による活動。	—	—

外国語活動・外国語

内容	小学部〔外国語活動〕	中学部〔外国語〕	高等部〔外国語〕（1段階）	高等部〔外国語〕（2段階）
思考力、判断力、表現力等		ウ 話すこと〔やり取り〕 (7) 簡単な挨拶をし合う活動。 ・挨拶の基本的な表現で話しかけたり、その挨拶に対して応じたりする。	(ウ) 話すこと〔やり取り〕 ⑦ 挨拶を交わしたり、簡単な指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。 ・年度始めに学級で行う自己紹介やレストランで客と店員になりきって行う活動。 A : What would you like? B : I'd like pizza. A : OK. How about drinks? B : No, thank you. ・「挨拶」、「自己紹介」、「買物」、「食事」、「道案内」、「旅行」など「②言語の働きに関する事項」の(7)の⑦で示す「特有の表現がよく使われる場面」を設定して行われる。	⑦ 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。 ・ A : I like sushi very much. It's delicious. B : Me, too. Sushi is delicious. I like salmon. Do you like it (salmon)? A : Yes, I like salmon, too. ・やり取りがある程度は継続するように、相手が言ったことを繰り返したり、応答したり、質問したりすることができるようになるための指導も必要。例えば、“You like sushi.”（繰り返し）や“Me, too.”（応答）“Do you like it(salmon)?” “How about you?”（質問）など。
		(イ) 自分のことについて、具体物などを相手に見せながら、好みや要求などの自分の考えや気持ちを伝え合う活動。 ・自分の好きなことや住んでいる所、家族、自分の気持ちなど伝えたい内容について、簡単な語句や表現で相手に伝える。 ・ How about you? などの表現で相手に聞き返したり、簡単な語句で答えたりする。 ・伝えたい内容について、知っている語を用いて話したり、教師のサポートを受けながら基本的表現を選んで話す。		
		(ウ) ゆっくり話される簡単な質問に、英語の語など又は身振りや動作などで応じる活動。 ・自分の好みや欲しいものなどの簡単な質問に対して答えたり、聞き返されたことに対して答えたりする。 Do you like sushi? - Yes./ No. How about you? - I like curry and rice. ・自分の意思を表す表現も含む。 Pardon? / I don't know.		
		エ 書くこと (ア) 身近な事物を表す文字を書く活動。 ・音声で十分慣れ親しんだ語を中心に、文字がその事物を表す役割があることを理解させながら、活字体の大文字、または小文字を書く。	(エ) 書くこと ⑦ 活字体の大文字、小文字を区別して書く活動 ・英語の文字（活字体）には大文字と小文字があることを知り、区別して書く。 ※小文字と大文字をマッチングさせた後に書く。	⑦ 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ語彙などを書き写す活動。 ※書き写す語彙を増やしたり、伝える相手や目的を広げたりしながら書くことに慣れ親しむ。 ※「書き写す」…語彙などを見ながらそのまま書くこと。

外国語活動・外国語

内容	小学部〔外国語活動〕	中学部〔外国語〕	高等部〔外国語〕（1段階）	高等部〔外国語〕（2段階）
思考力、判断力、表現力等	—	(イ) 例示を見ながら自分の名前を書き写す活動。 ・例示をなぞったり、真似たりしながら、自分の名前の表記に慣れ親しむことができる活動。	④ 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などを書き写す活動。 ・行ってみたい国を紹介するといった目的をもたせ、イラストを付した国紹介カードに国名を書き写したり、誕生会の招待状に“Birthday Party”と書き写したりする。	④ 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などを書き写す活動。 ※簡単な語句や基本的な表現については「聞くこと」、「話すこと」の領域で取り扱うこととしていることに留意。
	—	—	⑦ 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ語彙などを書き写す活動。	—
	—	オ 読むこと (7) 身の回りで使われている文字や単語を見付ける活動。 ・平仮名や片仮名、漢字の表記との違いに気付き、身の周りの文字の中から英語の文字がどれか分かる。 ・英語の文字には大文字と小文字があり、それぞれ似た表記であることに気付く。 ・適切な読み方の示範後に生徒に発音を促したり、その音声と文字や具体物を照らし合わせたりする。 ※生徒が文字には名称と文字が示す音があることに気付いた場合には、どちらの読み方もあることを伝える程度にする。	(オ) 読むこと ⑦ 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。 ・活字体で書かれた文字の中から、例えば A, B や a, b という文字を見て、それらが、/ei/, /bi:/を表した文字であることを認識する。 ・一文字ずつ書かれたカードの中から「/ei/」と文字の名称が読まれるのを聞いて、「A」や「a」のカードを選ぶゲームや、慣れ親しんできたカードなどに書いてある文字に注目させて一文字ずつ読ませる活動、また自分の名前の綴りを言ったりする。	⑦ 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。 ・海外旅行のパンフレットを模した紙面を読んで、行きたい国で有名な食べ物などの情報を得る活動や、テレビ番組欄を模した紙面を読み、曜日や見たいスポーツ（スポーツ番組名）などの情報を得る活動に取り組む。
	—	(イ) 日本の人の名前や地名の英語表記に使われている文字を読む活動。	④ 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を発音する活動。 ・⑦の活動と併せて、自己紹介の場面で、カードに書いてある自分の名前の綴りを発音する活動。 ※文字の音の読み方については、詳しく取り扱うことはせず、どちらの読み方もあることを伝える程度にとどめるようにする。	④ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などを、挿絵がある本などの中から識別する活動。 ※日記や身近な事柄についての紹介、簡単な物語などを取り扱う。 ・簡単な日記を示し、“I went to see a movie with my friends last weekend. It was so interesting.” “Where is ‘movie’?”と言ってその語を見付ける。
	② 言語の働きに関する事項 言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。	② 言語の働きに関する事項 言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。	②言語の働きに関する事項 言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。	②言語の働きに関する事項 2段階の言語活動を行うに当たっては、1段階の言語の働きに関する事項を踏まえ、生徒の学習状況に応じた言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。 ・1段階、2段階ともに同じ事項を扱うようにする。活動で取り扱う際には、記載されている具体例を参考にしながら、他の表現を取り入れることができる。その際に、使用頻度の高いもの、汎用性のあるものなどを優先的に取り入れるようにする。



外国語活動・外国語

内容	小学部〔外国語活動〕	中学部〔外国語〕	高等部〔外国語〕（1段階）	高等部〔外国語〕（2段階）
思考力、 判断力、 表現力等	ア 言語の使用場面の例 (ア) 児童の遊びや身近な暮らしに関わる場面 ⑦ 歌やダンスを含む遊び ・季節の行事に関する歌や誕生日を祝う歌、音楽科の授業や体育科などで取り扱った歌やダンスなど。 ・簡単な手遊び歌やゲームなどを英語の歌や言葉に替えた活動。	ア 言語の使用場面の例 (ア) 特有の表現がよく使われる場面 ⑦ 挨拶をする 例1 A : Good morning. How are you? B : I'm fine, thank you. 例2 A : Good bye. B : See you tomorrow.	(ア) 言語の使用場面の例 ⑦ 特有の表現がよく使われる場面 ・挨拶 例1 A : Good morning. How are you? B : I'm fine, thank you. I'm fine. 例2 A : Good bye. B : See you tomorrow.	
	① 家庭での生活 ・食事や遊びなど家庭で日常的に行っている動作や一日の生活の流れ（起床・着替え・朝食といった流れ）などの場面。	① 自己紹介をする 例1 Hi, I'm Suzuki Emi. I like baseball very much. 例2 My name is Shinya. I live in Tokyo. Nice to meet you.	・自己紹介 例1 Hi, I'm Suzuki Emi. I like baseball very much. 例2 My name is Shinya. I live in Tokyo. Nice to meet you.	
	⑧ 学校での学習や活動 など ・生活科で身なりを整える学習で扱う衣類や持ち物を英語で表す。 ・算数科で学習した数え方を英語で表す。 ・授業のあいさつを英語で表す。	⑧ 買物をする 例1 A : May I help you? B : Yes, I'm looking for a bag. 例2 A : How much is it? B : Five hundred yen, please.	・買物 例1 店員 : May I help you? 客 : Yes, I'm looking for a bag. 例2 客 : How much is it? 店員 : Five hundred yen, please.	
	—	⑨ 食事をする など 例1 A : Two hot dogs, please. B : Anything else? A : No, thank you. 例2 A : Would you like something to drink? B : Orange juice, please.	・食事 例1 店員 : What would you like? 客 : I'd like pizza. 例2 客 : How much is it? 店員 : It's two hundred yen.	
	—	—	・道案内 例 A : Where is the park? B : Go straight. Turn left. You can see it on your right.	
	—	—	・旅行 など 例1 I want to go to Izu. Which train should I take? 例2 A : Could you take a picture? B : Sure.	
	(イ) 特有の表現がよく使われる場面 ⑦ 挨拶 例1 Good morning / afternoon. 例2 Hello. Goodbye. See you.	(イ) 生徒の身近な暮らしに関わる場面 ⑦ ゲーム ・かるた、ビンゴゲーム、ミッシングゲーム、ジェスチャーゲーム	① 生徒の身近な暮らしに関わる場面	
	① 自己紹介 など 例1 Hello (Hi) , I am Haruto. I like baseball.	① 歌やダンス ・リズムに合わせながら聞いたまま歌い、英語をなめらかにかつリズムカルに発したり新しい語句に触れる。 ・歌に合わせながら身振りや手振り、他者とのやり取りを加え、意味の理解に結び付ける。		

外国語活動・外国語

内容	小学部〔外国語活動〕	中学部〔外国語〕	高等部〔外国語〕（1段階）	高等部〔外国語〕（2段階）
思考力、表現力、判断力等	—	㊦ 学校での学習や活動 ・他教科等の学習で学んだことを題材として扱う。（数学での計算や、家庭科の調理実習で使った材料の名称や作り方の説明を英語で表現） ※学校生活全体で、時刻を表す表現、場所の名称など身近な題材で語を増やす。	・学校での学習や活動 例1 A: Do you have a Japanese class today? B: Yes, I do. / No, I don't. 例2 A: Pass me that pen. B: Here you are. 例3 A: How many? B: Eight. 例4 This is the music room. 例5 A: When is your school trip? B: In October.	
	—	㊧ 家庭での生活など ・日常的に行っている動作や行動を表す語句や普段から使用している事物の名称など。 ・休日の過ごし方や1日のスケジュールなど。「get up」「go to bed」	・家庭での生活 例1 I get up at six every morning. I go to school. 例2 A: What time is it? B: It's ten thirty. 例3 I eat breakfast. 例4 This is my brother. He is twelve years old. 例5 A cat is under the table.	
	—	—	・地域での生活 など 例1 Let's go to the summer festival. 例2 A post office is near my house. 例3 I belong to the basketball club.  ※高等部になると、産業現場において働くことを体験したり、スポーツ大会等に出場したりするなど、校外で活動する機会も増えてくる。それらの場面での様子や体験したことなども題材として取り上げることも考えられる。	
	イ 言語の働きの例	イ 言語の働きの例	(イ) 言語の働きの例	
	(7) コミュニケーションを円滑にする	(7) コミュニケーションを円滑にする	㊦ コミュニケーションを円滑にする	
	㊦ 挨拶をする 例1 Hello. 例2 Hi!	㊦ 挨拶をする 例1 Hello, Ken. 例2 Hi, Yuki.	・挨拶をする 例1 Good morning. 例2 Good afternoon.	
	—	—	・呼び掛ける 例1 Hello, Ken. 例2 Excuse me.	
	—	㊨ 相づちを打つ 例1 Well, I know. 例2 Oh, really?	・相づちを打つ 例1 Oh, I see. 例2 Really?	
	—	—	・聞き直す など 例1 Sorry? 例2 Pardon me?	
	(イ) 気持ちを伝える	(イ) 気持ちを伝える	㊩ 気持ちを伝える	
	㊦ 礼を言う など 例1 Thank you.	㊦ 礼を言う 例1 Thanks. 例2 Thank you very much.	・礼を言う 例1 Thank you very much. 例2 Thanks.	
	—	㊩ 褒める 例1 Great. 例2 Good job.	・褒める 例1 Great. 例2 Good job.	
—	—	・謝る など 例1 Sorry. 例2 I'm sorry.		
—	—	㊪ 事実・情報を伝える		
—	—	・説明する 例1 This is my favorite food. 例2 He is very kind.		
—	—	・報告する 例1 She can play volleyball well. 例2 We went to Kyoto.		

外国語活動・外国語

内容	小学部〔外国語活動〕	中学部〔外国語〕	高等部〔外国語〕（1段階）	高等部〔外国語〕（2段階）
思考力、判断力、表現力等	—	—	・発表する など 例1 This is my brother. 例2 His birthday is April 6th.	
	—	—		㊦ 考えや意図を伝える
	—	—	・意見を言う 例1 I want to watch baseball on TV. 例2 It is exciting.	
	—	—	・賛成する 例1 Yes, let's. 例2 That's a good idea.	
	—	—	・承諾する 例1 A : Let's play soccer. B : O.K. 例2 A : I want to play basketball. B : Me, too.	
	—	—	・断る など 例1 A : May I help you? B : No, thank you. 例2 A : Let's play basketball. B : Sorry. I can't.	
	—	(ウ) 相手の行動を促す		㊦ 相手の行動を促す
	—	㊦ 質問する 例1 How about you? I'm hungry too. 例2 Do you like it? Yes, of course.		・質問する 例1 A : What sport do you like? B : I like soccer. 例2 A : Can you sing well? B : Yes, I can.
	—	—	・依頼する 例1 Please help me. 例2 Come here, please.	
	—	—	・命令する など 例1 Go straight. 例2 Close the door.	

# 12 情報

## ○改訂の要点

- ・近年、情報技術は急激な進展を遂げ、社会生活や日常生活に浸透するなど、生徒たちを取り巻く環境は劇的に変化しています。このような状況を踏まえ、高等部の情報科は、情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる力や情報モラル等、情報活用能力を含む学習を一層充実するとともに、生徒の卒業後の進路を問わず、情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育むことが一層重要となってきたため、これらの課題に適切に対応できるように改善されています。

## ○内容の構造

- ・情報科は、高等部の2段階で構成されています。
- ・「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の柱から示されており、「学びに向かう力、人間性等」については各段階の目標に示されています。内容は、「情報社会の問題解決」、「コミュニケーションと情報デザイン」、「情報通信ネットワークとデータの活用」の三つの大項目と6つの中項目で構成されています。

## ○表の見方

- ・目標と内容に関して、高1段階と高2段階との違いが分かるよう、学習指導要領解説の記載で異なる箇所にアンダーラインをつけています。

## ○内容を取り扱う際の配慮事項

- ・指導に当たっては、中学部の職業・家庭科の学習を踏まえることが大切です。また、職業科、家庭科などにおいても、コンピュータ等の情報機器の操作等に関する内容が示されているため、情報科の内容の指導に当たっては、それらと関連した指導の工夫に配慮する必要があります。

情報

情報			
目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、身近にある情報機器の操作の習得を図りながら、問題の解決を行う学習活動を通して、問題を知り、問題の解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	(1) 身近にある情報と情報技術及びこれらを活用して問題を知り、問題を解決する方法について理解し、基礎的な技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについて理解できるようにする。		
思考力、判断力、表現力等	(2) 身近な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題を知り、問題を解決するために必要な情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。		
学びに向かう力、人間性等	(3) 身近にある情報や情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に参画しようとする態度を養う。		
段階の目標	高1段階	高2段階	
知識及び技能	ア 効果的なコミュニケーションの方法や、身近にあるコンピュータやデータの活用について知り、基礎的な技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについて知る。	ア 効果的なコミュニケーションの方法や、身近にあるコンピュータやデータの活用について理解し、基礎的な技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについて理解する。	
思考力、判断力、表現力等	イ 身近な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題を知り、問題を解決するために必要な情報と情報技術を活用する力を養う。	イ 身近な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題を知り、問題を解決するために必要な情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	ウ 身近にある情報や情報技術を活用するとともに、情報社会に関わろうとする態度を養う。	ウ 身近にある情報や情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に参画しようとする態度を養う。	
内容	高1段階	高2段階	
A 情報社会の問題解決	ア 知識及び技能	(7) 身近にある情報やメディアの基本的な特性及びコンピュータ等の情報機器の基本的な用途、操作方法及び仕組みを知り、情報と情報技術を活用して問題を知り、問題を解決する方法を身に付けること。 ・情報には「形がない」、「消えない」、「簡単に複製できる」、「容易に伝播する」などの特性や、表現、伝達、記録などに使われるメディアの特性を知る。 ・コンピュータ等の情報機器やソフトウェア等に関する基本的な知識と操作方法について知る。	(7) 身近にある情報やメディアの基本的な特性及びコンピュータ等の情報機器の基本的な用途、操作方法及び仕組みを踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を知り、問題を解決する方法を身に付けること。 ・得られた情報を文章や図にするなど可視化させることによって、比較したり、組み合わせたり、新たな情報を生み出したりすることができることを理解する。 ・選択した解決方法によって作業の効率や得られる効果が異なる場合があることを理解する。 ・問題解決の各場面や解決後に自ら振り返ったり他者に評価してもらったりして改善することが大切なことを理解する。 ・成果を発信し、周りと共有することで情報が蓄積され、情報と情報技術を活用したら自らの問題解決が社会に役立つ可能性があることについて理解する。
		(4) 情報に関する身近で基本的な、法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて知ること。 ・知的財産に関する法律、個人情報保護に関する法律及び不正アクセス行為の禁止等に関する法律などを含めた法規や制度から求められる具体的な対応について知る。 ・電子メールやSNS (Social Networking Service) の書き方やファイルの添付などのマナーの意義や基本的な内容について知る。 ・情報を適切に管理するなど情報を扱う上では個人の責任があることを知る。 ・情報セキュリティの3要素である機密性・完全性・可用性の観点を踏まえた情報セキュリティの確保の重要性について知る。 ※「C情報通信とネットワークとデータの活用」との関連について配慮 ・情報セキュリティを確保するためにはパスワードの管理などの組織や個人が行うべき対策があり技術的対策だけでは対応できないことなどを知る。 ・人の心理的な隙や行動のミスにつけ込み情報通信技術を使わずにパスワードなどの情報を盗み出すソーシャルエンジニアリングなどについて知る。	(4) 情報に関する身近で基本的な、法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解すること。 ・法を遵守すること、情報モラルを養うこと、情報セキュリティを確保することの重要性、大量かつ多様な情報の発信・公開・利用に対応した法規や制度の必要性が増していることも理解する。 ※「C情報通信とネットワークとデータの活用」との関連について配慮

情報

内容		高1段階	高2段階
A 情報社会の問題解決	ア 知識及び技能	<p>(7) 身近にある情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について<b>知る</b>こと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報社会の変化に対応するために、人工知能やロボットなどで利用される情報技術の進展が社会の利便性を高めていることを知る。</li> <li>・情報技術の進展が、人の生活や経済活動を豊かにさせる反面、サイバー犯罪や情報格差、健康への影響などを生じさせていることなどについて知る。</li> </ul>	<p>(7) 身近にある情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について<b>基本的な理解</b>をすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人工知能などの発達により人に求められる仕事の内容が変化していくことを理解する。</li> <li>・情報化の「影」の影響を少なくし、「光」の恩恵をより多く享受するために問題解決の考え方が重要であることなども理解する。</li> </ul>
	イ 思考力、判断力、表現力等	<p>(7) 目的や状況に応じて、身近にある情報や情報技術を活用して問題を知り、問題を解決する方法について考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある情報と情報技術を活用し、思考を広げ、整理し、物事を判断する力を養う。</li> <li>・複数の解決策から選択する力、問題がどの程度解決されたのかを判断する力を養う。</li> </ul>	<p>(7) 目的や状況に応じて、身近にある情報や情報技術を<b>適切かつ効果的に</b>活用して問題を知り、問題を解決する方法について考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、思考を広げ、整理し、深め、根拠をもって物事を判断する力を養う。</li> <li>・問題解決のゴールを想定する力、複数の解決策を作り根拠に基づき合理的に選択する力、問題がどの程度解決されたのかを判断する力、他の方法を選択していた場合の結果を予想する力、問題を知り、問題を解決する過程を振り返って見直す力を養う。</li> </ul>
		<p>(4) 情報に関する身近で基本的な、法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報に関する法規や制度に適切に対応する力、情報モラルに配慮して情報を発信する力、情報セキュリティを確保する力などを養う。</li> </ul>	<p>(4) 情報に関する身近で基本的な、法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、<b>それらの背景を捉え</b>、考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報に関する基本的な法規や制度に適切に対応する力、情報モラルに配慮して情報を発信する力、情報セキュリティを確保する力などを養う。</li> <li>・法規や制度が改正されたり、マナーが変わったりしても、根拠や、法規、制度及びマナーの意義に基づいて正しい対応ができる。</li> </ul>
B コミュニケーションと情報デザイン	ア 知識及び技能	<p>(7) 身近なメディアの基本的な特性とコミュニケーション手段の基本的な特徴について、その変遷を踏まえて<b>知る</b>こと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを行うために、表現、伝達、記録などに使われるメディアの基本的な特性、同期や非同期、1対1や1対多数などのコミュニケーション手段の基本的な特徴について知る。</li> <li>・情報技術の発達によりコミュニケーション手段が変化したこと、情報の流通量や範囲が広がったこと、即時性や利便性が高まったこと、効果や影響が拡大したこと、コミュニケーションの役割が変化したことなどについて知る。</li> </ul>	<p>(7) 身近なメディアの基本的な特性とコミュニケーション手段の基本的な特徴について、その変遷を踏まえて<b>理解</b>すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報のデジタル化に関して標本化、量子化、符号化などを理解する。</li> </ul>
		<p>(4) 身近にある情報デザインが人や社会に果たしている役割を<b>知る</b>こと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく情報を表現するために、目的や受け手の状況に応じて伝達する情報を抽象化、可視化、構造化する方法を知る。</li> <li>・分かりやすく情報を表現するための知識や技能によって作成された情報デザインが人や社会に果たしている役割を知る。</li> </ul>	<p>(4) 身近にある情報デザインが人や社会に果たしている役割を<b>理解</b>すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく情報を表現するために、目的や受け手の状況に応じて伝達する情報を抽象化、可視化、構造化する方法、年齢、言語や文化及び障害の有無などに関わりなく情報を伝える方法を理解する。</li> <li>・知識や技術によって作成された情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解する。</li> </ul>

情報

内容		高1段階	高2段階
B コミュニケーションと情報デザイン	ア 知識及び技能	<p>(7) 身近にある情報デザインから、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの基本的な考え方や方法を<b>知り</b>、表現する基礎的な技能を身に付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>効果的なコミュニケーションを行うために、目的や受け手の状況に応じたコンテンツの制作過程、情報デザインの基本的な考え方や方法について知り、技能を身に付ける。</li> </ul> <p>情報デザインの基本的な考え方や方法については、情報科の「C情報通信ネットワークとデータの活用」でも扱う。</p>	<p>(7) 身近にある情報デザインから、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの基本的な考え方や方法を<b>理解し</b>表現する基礎的な技能を身に付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>効果的なコミュニケーションを行うために、目的や受け手の状況に応じたコンテンツの設計、制作、実行、見直しなどの一連の過程、情報デザインの基本的な考え方や方法について理解し、技能を身に付ける。</li> <li>情報デザインの重要性、一連の過程を繰り返すことの重要性などについて理解する。</li> </ul>
	イ 思考力、判断力、表現力等	<p>(7) 身近なメディアとコミュニケーション手段の関係を<b>考える</b>こと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>よりよくコミュニケーションを行うために、複数のメディアと複数のコミュニケーション手段の関係について考える力を養う。</li> </ul> <p>(4) コミュニケーションの目的に合わせて、<b>必要な情報が伝わるような情報デザイン</b>を考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションの目的を知り、目的に応じて必要な情報を伝える情報デザインを考える力を養う。</li> <li>扱う情報やメディアの種類によって適切な表現方法を選択する力を養う。</li> </ul> <p>(9) 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの基本的な考え方や方法に基づいて、<b>表現の仕方を工夫</b>すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>効果的なコミュニケーションを行うために、情報デザインの基本的な考え方や方法を用いて、表現の仕方を工夫しながらコンテンツを制作する力を養う。</li> </ul>	<p>(7) 身近なメディアとコミュニケーション手段の関係を<b>捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択</b>すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>よりよくコミュニケーションを行うために、複数のメディアと複数のコミュニケーション手段の組み合わせについて考える力、コミュニケーションの目的や受け手の状況に応じて適切で効果的な組み合わせを選択する力、自らの取組を振り返り、表現を見直す力を養う。</li> </ul> <p>(4) コミュニケーションの目的に合わせて、<b>適切かつ効果的な情報デザイン</b>を考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全ての人に情報を伝えるために、コミュニケーションの目的に合わせて、伝える情報を明確にする力、目的や受け手の状況に応じて適切かつ効果的な情報デザインを考える力を養う。</li> <li>扱う情報やメディアの種類によって適切な表現方法を選択する力、年齢、言語や文化及び障害の有無などに関わりなく情報を伝える方法について考える力を養う。</li> </ul> <p>(9) 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの基本的な考え方や方法に基づいて<b>表現し、振り返り、表現を見直す</b>こと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>効果的なコミュニケーションを行うために、情報デザインの基本的な考え方や方法を用いてコンテンツを設計する力、制作する力、実行する力、及び見直す力を養う。</li> <li>必要なコンテンツを企画する力、情報デザインの考え方や方法を活用する力、見直す方法を考える力を養う。</li> </ul>
C 情報通信ネットワークとデータの活用	ア 知識及び技能	<p>(7) 情報通信ネットワークの基本的な仕組みや情報セキュリティを確保するための基本的な方法について<b>知る</b>こと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータ等を使ってデータをやり取りするためにコンピュータ同士を接続する仕組みや情報通信ネットワークを構成する機器の名称や役割を知る。</li> <li>安全かつ効率的な通信を行うための個人認証や情報の暗号化、デジタル署名やデジタル証明書などの情報セキュリティを確保する仕組みと必要性などについて知る。</li> </ul> <p>(4) 身近なデータを蓄積、管理、提供する基本的な方法、情報通信ネットワークを介した情報システムによるサービスの提供に関する基本的な仕組みと特徴について<b>知る</b>こと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報システムが提供するサービスを安全かつ効率的に利用するために、情報システムにおけるデータの位置付け、データを蓄積、管理、提供するデータベースについて知る。</li> <li>データベースとは、ある目的のために収集した情報を一定の規則に従ってコンピュータに蓄積し利用するための仕組みであることなどについて知る。</li> </ul> <p>(7) データを表現、蓄積するための基本的な表し方と、データを収集、整理する基本的な方法について知り、基礎的な技能を身に付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データをファイルとして蓄積するためのデータの様々な形式、データを収集、整理する一連のデータ処理の流れ及びその評価について知る。</li> <li>データの内容や形式を踏まえて、その収集方法を知ることができるようにする。</li> <li>データに含まれる欠損値や外れ値の扱いやデータを整理、変換する必要性を知る。</li> </ul> <p>情報通信ネットワークの仕組み、情報システムにおけるデータを通信する技術については、中学部職業・家庭科の職業分野「B情報機器の活用」（中学校において技術・家庭科を履修した生徒については技術分野「D情報の技術」）の内容を踏まえて扱う。</p>	<p>(7) 情報通信ネットワークの基本的な仕組みや情報セキュリティを確保するための基本的な方法について<b>理解</b>すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要なときに正確かつ安全に保護された情報を扱うことができるようにするために、情報の信頼性、可用性、機密性を確保するための方法である個人認証や情報の暗号化、デジタル署名やデジタル証明書などの情報セキュリティを確保するための基本的な方法と必要性などについて理解する。</li> </ul> <p>(4) 身近なデータを蓄積、管理、提供する基本的な方法、情報通信ネットワークを介した情報システムによるサービスの提供に関する基本的な仕組みと特徴について<b>理解</b>すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報システムが提供するサービスを安全かつ効率的に活用するために、情報システムにおけるデータの位置付け、身近にあるデータを蓄積、管理、提供するデータベースについて理解する。</li> <li>情報通信技術の急速な発展により、情報システムが提供するサービスの多くが情報通信ネットワーク上のシステムで稼働していることなどについて理解する。</li> </ul> <p>(7) データを表現、蓄積するための基本的な表し方と、データを収集、整理分析する基本的な方法について理解し、基礎的な技能を身に付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データを収集、整理、分析する一連のデータ処理の流れ及びその振り返りと見直しについて理解する。</li> <li>データの分析としては、基礎的な分析及び可視化の方法を理解する。</li> </ul>

情報

内容		高1段階	高2段階
C 情報通信ネットワークとデータの活用	イ 思考力 判断力 表現力等	<p>(7) 情報通信ネットワークにおける情報セキュリティを確保する基本的な方法について考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータ等を用いて安全かつ効率的な通信を行う力を養う。</li> <li>・情報セキュリティを確保する基本的な方法について調べ、その意義を考えることにより、情報通信ネットワークを適切に利用しようとする態度を養う。</li> </ul>	<p>(7) <u>目的や状況に応じて</u>、情報通信ネットワークにおける情報セキュリティを確保する基本的な方法について考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータ等を用いて安全かつ効率的な通信を行う力を養う。</li> <li>・情報セキュリティを確保する方法について調べ、その意義を考えることにより、情報通信ネットワークを適切に活用しようとする態度を養う。</li> </ul>
		<p>(4) 情報システムが提供するサービスの<u>利用</u>について考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて適切なサービスを選択するために、様々なサービスが自らの生活にどのように役立っているのかを考え、よりよいサービスの使い方を模索する力を養う。</li> <li>・情報システムが提供するサービスを活用する際に、提供する個人情報と受けるサービスとの関係に留意することができる。</li> </ul>	<p>(4) 情報システムが提供するサービスの<u>効果的な活用</u>について考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて適切なサービスを選択するために、様々なサービスが自らの生活にどのように役立っているのかを考え、よりよいサービスの使い方を模索する力を養う。</li> <li>・複数のサービスを比較検討し、目的に応じて最適なものを選択したり、組み合わせたりして活用する力を養うことができる。</li> </ul>
		<p>(7) データの収集、整理及び結果の表現の<u>基本的な方法</u>を適切に選択し、<u>実行すること</u>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を知り、問題の解決にデータを利用するために、必要なデータの収集について、選択、判断する力、それに伴って適切なデータの整理や変換の方法を判断する力を養う。</li> </ul>	<p>(7) データの収集、整理、<u>分析及び結果の表現の基本的な方法</u>を適切に選択し、<u>実行し、振り返り、表現を見直すこと</u>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分析の目的に応じた方法を選択、処理する力、その結果について多面的な可視化を行うことにより、データに含まれる傾向を見いだす力を養う。</li> <li>・データの傾向に関して評価するために、客観的な指標を基に判断する力、生徒自身の考えを基にした適切な解釈を行う力を養う。</li> </ul>
		<p>統計的な内容については、中学部数学科及び中学校数学科の領域である「Dデータの活用」や高等部数学科の「Dデータの活用」の内容を踏まえて扱うとともに、地域や学校の実態及び生徒の状況等に応じて教育課程を工夫するなどの相互の内容の関連を図る。</p>	





# 13 流通・サービス

## ○内容の構造

- ・流通・サービス科では、産業界で必要とされる資質・能力を見据え、育成を目指す資質・能力を、「知識及び技術」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で示しています。
- ・流通・サービス科は、(1)流通業やサービス業の概要、(2)商品管理、(3)販売、(4)清掃、(5)事務の五つの指導項目で内容が構成されています。
- ・指導項目(1)「流通業やサービス業の概要」は、今回の改訂で新たに設けられました。

## ○表の見方

- ・流通・サービス科は、主として専門学科において開設される教科の一つです。学習指導要領解説では、特に段階は分けられていないため、指導内容表は一つの段階としてまとめました。
- ・分かりやすくなるよう、表記について次のような工夫をしました。
  - 「・」：高等部学習指導要領解説に記されている具体的な指導内容例
  - 「★」：岡山県内の知的障害特別支援学校高等部で取り組まれている内容例
  - 斜体表記：興味・関心を高めたい内容として、考慮して取り扱いたい内容

## ○教科の特質

- ・流通・サービス科においては、流通業やサービス業が人間の生活を支える産業の一つであるという視点を持ち、地域や社会の健全で持続的な発展に寄与する職業人として必要な資質・能力の育成を目指しています。
- ・「流通・サービスの見方・考え方」とは、「流通業やサービス業に関する事象を、企業の社会的責任に着目して捉え、適切な商品の流通やサービスの提供などに関連付けること」を意味しています。この「流通・サービスの見方・考え方」を働かせることが重要なポイントとなっています。

## ○内容を取り扱う際の配慮事項

- ・指導項目の(2)から(5)までについては、生徒や地域の実態、学科の特色等に応じて、いずれか一つ以上を選択して扱うことができます。
- ・指導項目で示していない事項についても、流通・サービス科に関する適切な事項があれば取り上げて指導することができます。(高等部学習指導要領第1章第2節第2款の3の(4)のアの規定)

流通・サービス

流通・サービス			
目標	流通・サービスの見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、流通業やサービス業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展に寄与する職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技術	(1) 流通やサービスに関することについて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。		
思考力、判断力、表現力等	(2) 流通業やサービス業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ課題を解決する力を養う。		
学びに向かう力、人間性等	(3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
(1) 流通業やサービス業の概要	知識及び技術	① 流通業やサービス業が社会で果たしている意義と役割などについて理解するとともに、事務機器の取扱いなどに関する技術を身に付ける。	
	思考力、判断力、表現力等	② 商品の流通やサービスの提供などを通して地域や社会の健全で持続的な発展に寄与する視点から、顧客のニーズに応じた商品の流通やサービスの提供などのために必要な課題を発見し、よりよい商品の流通やサービスの提供などのための工夫について考え、表現する。	
	学びに向かう力、人間性等	③ 流通業やサービス業の意義と役割などについて自ら学ぶ。	
	ア 流通業やサービス業の意義と役割	流通業やサービス業が人間の生活と深く関わっていること	
		産業社会の中で流通業やサービス業が重要な役割を果たしていること	
		多様な商品が流通し、多様な商品やサービスが販売、提供されていること	
	イ 流通業やサービス業の基礎	販売、提供される商品やサービスが人間の生活にとって必要不可欠なものであること	
		★飲食業などの接客や接遇についてなど	
		流通やサービスに係る職業に関すること	
		★接客業や接客業務についてなど	
ウ 事務機器、機械や道具、コンピュータ等の情報機器の取扱い	身近にある地域の流通業やサービス業の動向		
	商品の生産から商品が顧客に渡るまでの流れ		
	顧客のニーズに応じた商品の流通やサービスの質の向上を図ることの重要性		
(2) 商品管理	知識及び技術	① 流通業における商品管理業務の内容と特徴などについて理解するとともに、商品の包装・箱詰め、運搬・保管・管理の手順や方法など商品管理業務に関する技術を身に付ける。	
	思考力、判断力、表現力等	② 商品管理業務において、顧客のニーズに応じた商品の流通のために必要な課題を発見し、よりよい商品の流通のための工夫について考え、表現する。	
	学びに向かう力、人間性等	③ 商品管理業務の内容と特徴などについて自ら学び、商品管理に主体的かつ協働的に取り組む。	
	ア 商品管理業務の内容と特徴	商品管理業務の内容の概要と特徴について	
		商品管理業務の意義や役割、商品の特徴に即して取り扱うことの重要性	
	イ 商品管理の方法	・食料品、衣料品	
		★常温、冷凍、冷蔵倉庫など管理温度や鮮度、消費期限等に応じた商品管理、商品の重量、容量、形状や強度に応じた商品管理	
		★ケアマーク（天地無用・割れ物など）などの理解と表示に即した取扱いなど	
		品物の収納に関すること	
		・箱詰め、パレット積みなど	
★折りたたみコンテナ、段ボール箱、商品整理棚を用いた収納、入荷品や出荷品の検品、ピッキング、商品の登録、バーコードの発行と貼り付け、在庫管理など			
倉庫における保管に関すること			
★JANコードに即した保管など			
運搬に関すること			
・台車、コンベア、フォークリフト等			
★手運びによる積み込みや運搬、カゴ台車、ハンドリフト等の特徴や取扱い、運搬用エレベーターの使用、積載表示の読み取りなど			
運送に関すること			
★宅配業者や運送業者の役割、運送準備、伝票の作成や納期の確認など			
商品管理に必要な伝票の記入と取扱いに関すること			
★バーコード発行機の操作とラベル貼り、ハンディの操作など			
各種免許等の取得と活用について興味・関心を高めること			
・フォークリフトなど			

流通・サービス

	知識及び技術	① 販売業務の内容と特徴について理解するとともに、販売の手順や方法など販売業務に関する技術を身に付ける。
	目標 思考力、判断力、表現力等	② 販売業務において、顧客のニーズに応じた商品の販売やサービスの提供のために必要な課題を発見し、よりよい商品の販売やサービスの提供のための工夫について考え、表現する。
	学びに向かう力、人間性等	③ 販売業務の内容と特徴などについて自ら学び、販売業務に主体的かつ協働的に取り組む。
(3) 販売	ア 販売業務の内容と特徴	販売業務の内容の概要と特徴について ・スーパーマーケットなど ★ホームセンターやドラッグストア、衣料品や雑貨店などの各種店舗 ★喫茶店やレストランなどの飲食業 販売までの流れ、陳列の種類、接客の効果など
		情報通信ネットワークを活用した販売形態の重要性について ★オンラインストア、セルフレジ、ネットワークを活用した在庫確認など
		商品の特徴に即して取り扱ったり、販売したりすることの重要性について ★商品の温度、賞味期限や消費期限、大きさや形状など
	イ 販売の方法	商品の仕入れ、包装、陳列に関すること ★発注や品出し、前出し、先出し、フェイス、賞味期限の確認、価格やPOPの表示、ディスプレイ等様々な陳列の方法など ★袋詰めやパック詰め、マルチラッパーやシーラーによる包装と、その前後の個数、寸法、容量や重量の検品（計量）、値札やラベル貼り、タグ付けなど ★レジ袋や紙袋への袋詰め、箱折りや箱詰め、十字縛りや結束機の使用、贈答品など、包装紙やのし紙による包装、ラッピングなど
		接客に関すること ・挨拶、案内、礼、説明など ★場面や状況、相手に応じた挨拶や礼、声の大きさ、対応など
		接客に関すること ・身だしなみ、言葉遣い、姿勢など ★レジ対応中の案内や商品補充、清掃中の接客など ★飲食店での案内や誘導、注文時や給仕時の対応など
		金銭の受取やカード類の処理に関すること ★レジスターの取扱いや会計処理時の接客、対応など
		伝票類の記入や取扱いに関すること ★納品伝票、宅配伝票、レシートや領収書の概要と取扱いなど
		マーケティングに関する基礎的・基本的な実務について ・顧客のニーズに関する調査、提供したサービスに関する調査、販売データ等、収集した情報の分析結果に基づき、よりよい商品の販売やサービスの提供など ★特売や天候、曜日や時間帯、商品の内容量やメーカーの違いによる各商品の売れ行きや、顧客の動きや意見などの分析、それに即した商品の種類や量の増減、陳列、配置、表示や清潔感などの環境面や、接客、接客面の工夫など
		関連する技能検定等の受検と活用について興味・関心を高めること ★接客検定、清掃検定、S検B2級（全国スーパーマーケット協会）、電卓検定など
	知識及び技術	① 清掃業務の内容と特徴について理解するとともに、清掃の手順や方法など清掃業務に関する技術を身に付ける。
	目標 思考力、判断力、表現力等	② 清掃業務において、顧客のニーズに応じた清掃サービスの提供のために必要な課題を発見し、よりよい清掃サービスの提供のための工夫について考え、表現する。
	学びに向かう力、人間性等	③ 清掃業務の内容と特徴などについて自ら学び、清掃業務に主体的かつ協働的に取り組む。
(4) 清掃	ア 清掃業務の内容と特徴	清掃業務の概要と特徴 ・公共施設や宿泊施設など必要となる清掃業務の内容（概要）と特徴 ★屋外や建屋の外回り、廊下やトイレなどの場所に応じた清掃や、ガラスや布、木材など材質に応じた清掃についてなど
		清掃業務の重要性 ・清掃業務により美観が向上するだけでなく、環境衛生が向上したり建物等を傷みから守ることができたりすることなど
	イ 清掃の方法	清掃用具や道具の使用・保管 洗剤や薬剤の取扱いや保管 ★清掃用具や道具、洗剤や薬剤の使用や保管における安全面に対する配慮など
		清掃手順の理解や清掃技術の習得 清掃場所の床材等に応じた清掃方法の選択 ・依頼された清掃場所に適した清掃方法を顧客に提案 ・清掃時間内に作業を終えられるよう効率的な手順や役割分担を選択 ・サービス業として顧客のニーズに応えながら、協働的に業務を遂行する必要があること ・サービス業として、周囲に常に気を配りながら作業を行うことが求められること ★フロアスクイジー、自在ぼうき、糸モップ、ダスタークロス、ポリッシャー、床ワックス、掃除機などの床清掃や、タオルやスクイジー、モイスチャーなど窓清掃の道具の特徴と取扱いなど ★机、床、カーペット、教室、廊下階段、トイレなど、場所や材質に応じた清掃の特徴と方法など ★客室清掃やビルクリーニングなど、業務に応じた清掃の特徴と方法、業務中の周囲の人への配慮や態度など
		廃棄物の処理と再利用 ★市町村や企業に応じた廃棄物の分別や処理方法など
		清掃で使用する機械、機器、道具などの使用と保管 ・清掃で使用する機械、機器、道具などの使用と保管、使用前に安全点検を行うことや異常時の解決方法など、安全点検や異常時の対応に関することなど
		各種資格等の取得と活用について興味・関心を高めること ・ビルクリーニングなどの各種資格等 ★清掃検定、全国障害者技能競技大会（アビリンピック）など

流通・サービス

目標	知識及び技術	① 事務業務の内容と特徴について理解するとともに、事務処理の手順や方法など事務業務に関する技術を身に付ける。
	思考力、判断力、表現力等	② 事務業務において、企業でのニーズに応じた事務処理のために必要な課題を発見し、よりよい事務処理のための工夫について考え、表現する。
	学びに向かう力、人間性等	③ 事務業務の内容と特徴などについて自ら学び、事務業務に主体的かつ協働的に取り組む。
ア 事務業務の内容と特徴	事務業務の内容の概要と特徴について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業所で必要となる事務業務</li> <li>・ 文書等の作成と郵便物の集配</li> <li>・ 企業における事務業務の重要性</li> </ul>
	情報通信ネットワークの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務業務における情報通信ネットワークの活用の重要性</li> </ul>
イ 事務処理の方法	事務補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業内の書類の複写等の事務補助</li> <li>★カッターナイフやホッチキス、のり、パンチ等の文房具の使用</li> <li>★コピー機やスキャナーなどによる複写や書類の取り込み、書類の校正、印刷、製本、封入、仕分け、集配、郵送、処分、ラミネート、押印、スタンプ押し、ラベルや宛名作成、シール貼りなど</li> </ul>
	情報機器の操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務機器やコンピュータ等の情報機器などの操作</li> <li>★コピー機、シュレッダー、ラミネーターやラベラーなどの機械の操作、パソコンによる伝票、顧客の情報、日報、文章や数値等の入力、照合作業など</li> </ul>
	書類等の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書類等の分類や収納、保管などの取扱い</li> <li>★分類表に応じたインデックス、ラベルの作成、紐結び、クリップ、ファイルフォルダ等を用いてのファイリングなど</li> </ul>
	応対に関するビジネスマナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受付案内などの応対時の挨拶、言葉遣い、表情、電話応対などの応対</li> <li>★職場内での身だしなみ、整理整頓、郵便物や書類の集配時の応対、報告や依頼、名刺交換、来客対応、電話応対など</li> </ul>
	情報通信ネットワークの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メールを送受信などの情報通信ネットワークの活用</li> <li>・ 個人情報の取扱いを含む情報セキュリティ管理に関すること</li> <li>★電話、ファックス、Eメールやネットワークシステムなどの使用など</li> <li>★セキュリティポリシーに即した、情報の取扱いについてなど</li> </ul>
	各種検定等の受検と活用について興味・関心を高めること	<ul style="list-style-type: none"> <li>★岡山県特別支援学校技能検定（パソコン、接遇、オフィスアシスタント）、パソコンスピード検定、全国障害者技能競技大会（アビリンピック）など</li> </ul>

指導計画の作成に当たっての配慮事項

- ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、流通・サービスの見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動の充実を図ること。
- イ 地域や産業界との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験活動を積極的に取り入れるとともに、社会人講師を積極的に活用するなどの工夫に努めること。
- ウ [指導項目]の指導に当たっては、実験・実習を適切に取り入れること。

実験・実習を行うに当たって留意すること

- ※ 関連する法規等に従い、施設・設備や薬品等の安全管理に配慮し、学習環境を整えること。
- ※ コンピュータ等の情報機器などを適切に整備し、学習環境を整えること。
- ※ 事故防止や環境保全の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意すること。
- ※ 運搬機械や道具等の操作や保管・管理などの取扱い方法について十分理解を図り、安全に作業ができるようにし、危険防止の指導を徹底すること。
- ※ より一層の衛生管理や品質管理が求められていることから、例えば、換気やマスクの着用、異物混入を防ぐための作業服の着用、衛生的な手洗いなど、衛生面に配慮した実習環境を整備すること。
- ※ 校外で調査・研究・実習などを行う際においても、事故の防止や安全管理などに配慮し、指導計画を綿密に作成し、目的が効果的に達成されるよう、生徒指導にも十分留意すること。
- ※ 排気、廃棄物や廃液などの処理についても、十分留意すること。
- ※ 清掃に使用する薬品等については、使用、保管及び廃棄並びに排気及び廃液の取扱いについて常に適切な指導を行うこと。

## 14 特別の教科 道徳

## 道徳教育の目指すもの

道徳の項を進めるに当たり、まず、以下の文章を見てみましょう。

(2) 道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること。

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動及び自立活動のそれぞれの特質に応じて、児童又は生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと。

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、小学部においては、自己の生き方を考え、中学部においては、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。

(特別支援学校小学部中学部学習指導要領第1章第2節2の(2))

ここに示された道徳教育の目標は、小学校及び中学校学習指導要領にも全く同じことが書かれています。道徳性を養うことは障害の有無にかかわらず学齢期において重要なことを表しています。最初に、その点に留意しておきましょう。

道徳教育は、学校教育全体を通じて行うものです。その目標とするところは、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる**道徳性を養う**ことにあります。

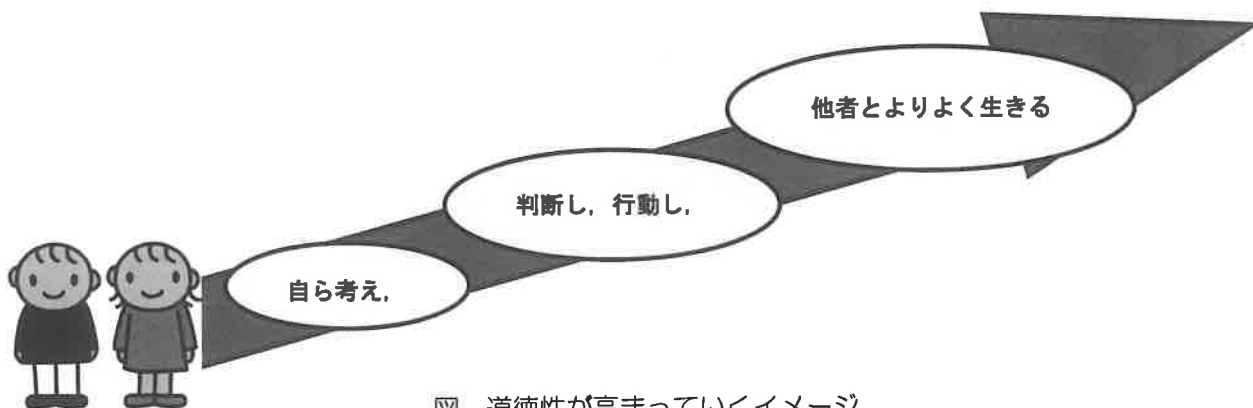


図 道徳性が高まっていくイメージ

なお、高等部においても、「学校における道徳教育は、人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことによりその充実に努めるもの」（特別支援学校高等部学習指導要領第1章第2節第1款2の(2)）と書かれており、人間としての在り方生き方について学校教育全体を通じて行うこととされています。

道徳教育の内容

【各教科等における内容について】

道徳教育は学校教育全体を通じて行いますが、後述する「特別の教科 道徳」はもちろんのこと、その他の各教科等においても、その特質に配慮しつつ指導をしていくことが求められます。小学校及び中学校の学習指導要領解説「特別の教科道徳編」でも触れられていますが、特別支援学校小学部中学部学習指導要領解説総則編第2章第7節1の(4)では、各教科等における道徳教育について、次のように例示しています。

表 各教科等における道徳教育の内容例

各教科等	指導内容例
国語科	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高めること
社会科	地域社会に対する誇りと愛情、我が国の国土と歴史に対する愛情を涵養すること
算数科 ・数学科	(小・算数科) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力を育てること 算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を育てること  (中・数学科) ある事象を数理的に考察し筋道を立てて考え、表現する能力を高めること 数学を活用して考えたり判断しようとしたりする態度を育てること
理科	(小学部) 栽培や飼育などの体験活動を通して自然を愛する心情を育てること 見通しをもって観察、実験を行うことや、問題解決の力を育てること  (中学部) 生物間相互の関係や自然界のつり合いについて考えさせ、自然と人間との関わりを認識させること 目的意識をもって観察、実験を行うことや、科学的に探求する能力を育て、科学的な見方や考え方を養うこと
生活科	自然に親しみ、生命を大切にするなど自然との関わりに関心をもつこと、自分のよさや可能性に気付くなど自分自身について考えさせること、生活上のきまり、言葉遣い、振る舞いなど生活上必要な習慣を身に付け、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成すること
音楽科	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うこと



特別の教科 道徳

図画工作科 ・美術科	(小・図画工作科) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培うこと
	(中・美術科) 創造する喜びを味わうようにすること
家庭科・ 技術・家庭科	(家庭科) 日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身に付け、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育てること
	(技術・家庭科) 生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を習得すること 進んで生活を工夫し創造しようとする態度を育てること
体育科 ・保健体育科	(体育科) 自己の課題の解決に向けて運動したり、集団で楽しくゲームを行ったりすること
	(保健体育科) 集団でのゲームなど運動をすること 健康・安全について理解すること
外国語科	(小学部) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うこと
	(中学部) 外国語を通じて、我が国や外国の言語や文化に対する理解を深めること
外国語活動	外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うこと
総合的な学習 の時間	横断的・総合的な学習を探求的な見方・考え方を働かせて行うこと 主体的に判断して学習活動を進めたり、粘り強く考え解決しようとしたり、自己の目標を実現しようとしたり、他者と協調して生活しようとしたりする資質・能力を育てること
特別活動	特別活動における学級や学校生活における集団活動や体験的な活動において、「集団活動に自主的、実践的に取り組み」「互いのよさや可能性を発揮」「集団や自己の生活上の課題を解決」など

【児童生徒の実態に応じた指導内容の重点化について】

特別支援学校においては、**児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、指導内容の重点化を図ることが求められています。**具体的には、小学部・中学部・高等部（知的障害）ごとに、次のように示されています。

## 特別の教科 道徳

### (小学部)

児童の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること。その際、各学年を通じて、自立心や自律性、生命を尊重する心や他者を思いやる心を育てることに留意すること。

(特別支援学校小学部中学部学習指導要領第1章第7節の2)

### (中学部)

生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること。その際、小学部における道徳教育の指導内容を更に発展させ、自立心や自律性を高め、規律ある生活をする事、生命を尊重する心や自らの弱さを克服して気高く生きようとする心を育てること、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重すること、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けることに留意すること。

(特別支援学校小学部中学部学習指導要領第1章第7節の4)

### (高等部)

中学部又は中学校までの特別の教科である道徳の学習等を通じて深めた、主として自分自身、人との関わり、集団や社会との関わり、生命や自然、崇高なものとの関わりに関する道徳的諸価値についての理解を基にしながら、様々な体験や思索の機会等を通して、人間としての在り方生き方についての考えを深めるよう留意すること。また、自立心や自律性を高め、規律ある生活をする事、生命を尊重する心を育てること、社会連帯の自覚を高め、主体的に社会の形成に参画する意欲と態度を養うこと、義務を果たし責任を重んじる態度及び人権を尊重し差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を養うこと、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重すること、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けることに関する指導が適切に行われるよう配慮すること。

(特別支援学校高等部学習指導要領第1章第2節第7款の2)

### 【要としての「特別の教科 道徳」について】

各教科等における道徳教育をさらに補充、深化、統合する役割として「特別の教科 道徳」が道徳教育の「要」として置かれています。これは、道徳教育において、これまで受け継がれ、共有されてきたルールやマナー、社会において大切にされてきた様々な道徳的価値などについて、児童生徒が発達の段階に即し、一定の教育計画に基づいて学び、それらを理解し身に付けたり、様々な角度から考察し自分なりに考えを深めたりする学習の過程が重要と

## 特別の教科 道徳

考えられるため、道徳の時間が設けられた、という経緯によります。

### 【「特別の教科 道徳」と各教科との違い】

道徳には、「特別の教科」という表現が用いられ、その他の各教科とは区別をされています。それは以下の三点が各教科と異なるためです。

- 道徳教育の要となって人格全体に関わる道徳性の育成を目指すものであること
  - 指導に当たっては、児童生徒をよく理解している学級担任が原則として担当することが適切と考えること
  - 指導要録等に示す評価として、数値などによる評価は導入すべきではないこと
- (「道徳に係る教育課程の改善等について」中央教育審議会平成26年10月答申)

この違いを念頭に置いた上で、道徳の指導及び評価について考えていくことが求められます。

### 【教育課程上の位置づけ】

特別支援学校小学部中学部学習指導要領第3章において、「小学部又は中学部の道徳科の目標、内容及び指導計画の作成と内容の取扱いについては、それぞれ小学校学習指導要領第3章又は中学校学習指導要領第3章に示すものに準ずる」と記述されており、道徳の時間は小学部・中学部ともに教育課程上に位置付けて指導することになります。

高等部においても、知的障害を有する生徒の場合、学習指導要領の中で「道徳科の目標及び内容については、小学部及び中学部における目標及び内容を基盤としさらに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めることに努めるものとする」とあり、同じく教育課程上に位置付けて指導することが求められています。

「教育課程上に位置付ける」とは、年間の授業時間数を適切に定めて指導するという事です。従って、知的障害を有する児童生徒を教育する特別支援学校においては次のような形態で指導を進めることになります。

### 【知的障害を有する児童生徒を教育する特別支援学校における指導形態】

時間における指導	週時程表上に位置付けて、道徳の指導を行う。
各教科等を合わせた指導	生活単元学習や作業学習、遊びの指導等のように各教科等を合わせた指導の中で道徳の指導を行う。
時間における指導と各教科等を合わせた指導の混合	年間を通じて、一定の期間を時間における指導で、それ以外を各教科等を合わせた指導で行う。

どの形態であっても、道徳科においては次に述べる内容項目を意識して取り組んでいくことが求められることは言うまでもありません。

## 道徳科の目標と内容

続いて、道徳科の目標と内容について考えていきましょう。

### 【道徳科の目標】

道徳科の目標については、先に示した特別支援学校小学部中学部学習指導要領において、「小学校学習指導要領第3章または中学校学習指導要領第3章に示されたものに準ずる」

## 特別の教科 道徳

と明記されています。

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度**を育てる。

小学校学習指導要領、中学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」の「第1 目標」

道徳教育の目標である道徳性を養うために、道徳科においては、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことが目標とされます。小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（以下、「解説道徳編」とする）からこれらの言葉の意味をもう少し拾い上げてみます。

道徳的判断力	それぞれの場面において善悪を判断する能力である。つまり、人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。的確な道徳的判断力をもつことによって、それぞれの場面において機に応じた道徳的行為が可能になる。
道徳的心情	道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情であるとも言える。それは、道徳的行為への動機として強く作用するものである。
道徳的実践意欲と態度	道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性を意味する。道徳的実践意欲は、道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働きであり、道徳的態度は、それらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構えである。

### 【道徳科の内容項目及びそれらを分類整理する四つの視点】

道徳科の目標に迫るために扱う内容項目は、別添の「**内容項目一覧**」にあるように、四つの視点で分類整理されています。「A 主として自分自身に関すること」「B 主として人との関わりに関すること」「C 主として集団や社会との関わりに関すること」「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」がその四つです。この視点に見られる様々な関わりにおいて、我々は様々な側面から道徳性を発現させ、身に付け、人格を形成していきます。

同じく解説道徳編から四つの視点についての説明を抜き出してみましょう。

A 主として自分自身に関すること	自己の在り方を自分自身との関わりで捉え、望ましい自己の形成を図ることに関するもの
B 主として人との関わりに関すること	自己を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図ることに関するもの

## 特別の教科 道徳

C 主として集団や社会との関わりに関する事	自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会との関わりにおいて捉え、国際社会と向き合うことが求められている我が国に生きる日本人としての自覚に立ち、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な道徳性を養うことに関するもの
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事	自己を生命や自然、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりにおいて捉え、人間としての自覚を深めることに関するもの

この四つの視点は、それぞれが単独にあるものではありません。「例えば、自律的な人間であるためには、Aの視点の内容が基盤となって、他の三つの視点の内容に関わり、再びAの視点に戻ることが必要になる。また、Bの視点の内容が基盤となってCの視点の内容に発展する。さらに、A及びBの視点から自己の在り方を深く自覚すると、Dの視点がより重要になる。そして、Dの視点からCの視点の内容を捉えることにより、その理解は一層深められる」と、相互に深い関連をもっていると説明されています。

そこで、各学年段階においては、このような関連を考慮しつつ、四つの視点に含まれる**全ての内容項目について適切に指導していく必要があります。**

別添の「内容項目一覧」で確認すると、四つの視点はそれぞれ、「小学校第1学年及び第2学年」「小学校第3学年及び第4学年」「小学校第5学年及び第6学年」「中学校」に分かれており、四つの視点の下位にある内容項目も低学年、中学年、高学年及び中学校で項目数が異なります。また、表に付記された内容項目を端的に表すキーワードも小学校と中学校では若干の変更が見られます。これは、児童生徒の発達の段階に応じた対応であり、指導の際には、まず当該学年の内容項目を確認し、それを実態に合わせて具体化していくことが求められています。なお、児童生徒の実態に合わせて内容項目を具体化していく際には、幼稚園教育要領及び特別支援学校幼稚部教育要領に掲げられた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」も参考にすることができると考えられます。

### 【特別支援学校における道徳科】

特別支援学校の道徳科において、道徳の目標、内容及び指導計画の作成と内容の取扱いについては小学校及び中学校に準ずる他、特別支援学校独自の項目が三点掲げられています。

- 1 児童又は生徒の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服して、強く生きようとする意欲を高め、明るい生活態度を養うとともに、健全な人生観の育成を図る必要があること。
- 2 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動及び自立活動との関連を密にしなが、経験の拡充を図り、豊かな道徳的心情を育て、広い視野に立って道徳的判断や行動ができるように指導する必要があること。
- 3 知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校において、内容の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じて、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化し、体験的な活動を取り入れるなどの工夫を行うこと。

特別支援学校小学部中学部学習指導要領第3章特別の教科 道徳

## 特別の教科 道徳

これらは、「児童生徒の障害による種々の困難さに配慮しつつ、強く生きようとする意欲を高め、明るい生活態度を養い、健全な人生観の育成を図ること」「各教科等との関連を密にしながら指導をしていく必要があること」「指導に当たっては、個々の児童生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じて適切に指導の重点を定め、指導内容の具体化と体験的な活動を取り入れる等の工夫をすること」を示しています。

### 【特別支援学校高等部の道徳科の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱いについて】

特別支援学校高等部学習指導要領においては、第3章に「目標及び内容」「指導計画の作成と内容の取扱い」が書かれています。以下にそれを掲げます。

#### 第1款 目標及び内容

道徳科の目標及び内容については、小学部及び中学部における目標及び内容を基盤とし、さらに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めることに努めるものとする。

#### 第2款 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、生徒や学校、地域の実態を十分考慮し、中学部における道徳科との関連を図り、計画的に指導がなされるよう工夫するものとする。
- 2 各教科、総合的な探究の時間、特別活動及び自立活動との関連を密にしながら、経験の拡充を図り、豊かな道徳的心情を育て、将来の生活を見据え、広い視野に立って道徳的判断や行動ができるように指導するものとする。
- 3 内容の指導に当たっては、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じて、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化し、体験的な活動を取り入れるなどの工夫を行うものとする。

(特別支援学校高等部学習指導要領第3章)

このように、高等部においては、小学部及び中学部での学びとの関連を図るとともに、青年期の特性も考慮して、健全な社会生活を営んでいくことをねらい、将来の生活を見据えた広い視野に立って道徳的判断や行動ができるように指導をしていくことが求められています。

小学部・中学部・高等部の各学習指導要領の「指導計画の作成と内容の取扱い」の中で共通している「適切に指導の重点を定める」とは、児童生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じ、現時点で重点的に指導していくことが効果的である内容を定めていくことを意味しています。障害の有無によらず、「道徳性を養う」ことは一人一人の児童生徒に求められていることであり、全ての内容項目を指導していくことは道徳性を養うための大前提であることに留意しましょう。

## 道徳科の評価

道徳科の評価にあたっては、児童生徒一人一人について、どこまで道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育ててきたかについて継続的に見取ってその変容を評価していきます。このことが、他の教科・領域とは大きく異なる点です。例えば、道徳科と生活科の内容には、重複していると感じられるものが少なくありません。生活科の場合には指導目標を設定し、その目標を達成することができたかどうかを観点別に評価していくことが重要になります。

一方で、道徳科では、児童生徒一人一人について、どのように道徳的な判断力、心情、実践意欲及び態度が育ててきたかを共感的・肯定的に受け止めた評価になります。従って、各教科で行われる学習状況を分析的に捉える観点別評価で見取することは、適切ではありません。

また、道徳の内容項目は道徳科の指導内容を構成するものですが、単に知識として理解させるだけであったり、特定の考え方に無批判に従わせたりしてはなりません。内容項目に含まれる道徳的諸価値についての理解を基にして、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考えを深める学習を通して、道徳科の目標である「道徳性を養う」ことを目指していきます。このため、道徳科の評価に当たっては、学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます視点から学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する個人内評価となることを強く意識しなければなりません。「個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすることや、他の児童との比較による評価ではなく、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行う」（解説道徳編 p.110）ように留意する必要があります。

## 【学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する工夫】

児童生徒の道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するに当たっては、次のような工夫があげられます。

- 学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積する。
- 道徳性を養っていく過程での児童生徒のエピソードを累積したものを評価に活用する。
- 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程を通じて児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する。
- 年度当初に自らの課題や目標を捉えるための学習を行ったり、年度途中や年度末に自分を振り返る学習をしたりする。

（解説道徳編 p. 112）

## 【発達障害等のある児童生徒についての留意事項】

その一方で、発達障害等のある児童生徒に対しては、学習過程で考えられる「困難さの状態」を十分に把握し、必要な配慮をした上で指導を行い、評価に当たっても困難さの状況を

## 特別の教科 道徳

踏まえることに留意しましょう。解説道徳編では、次のような例が挙げられています。

例えば、他者との社会的関係の形成に困難がある児童の場合であれば、相手の気持ちを想像することが苦手で字義通りの解釈をしてしまうことがあることや、暗黙のルールや一般的な常識が理解できないことがあることなど困難さの状況を十分に理解した上で、例えば、他者の心情を理解するために役割を交代して動作化、劇化したり、ルールを明文化したりするなど、学習過程において想定される困難さとそれに対する指導上の工夫が必要である。

そして、評価を行うに当たっても、困難さの状況ごとの配慮を踏まえることが必要である。前述のような配慮を伴った指導を行った結果として、相手の意見を取り入れつつ自分の考えを深めているかなど、児童が多面的・多角的な見方へ発展させていたり道徳的価値を自分のこととして捉えていたりしているかといったことを丁寧に見取る必要がある。

発達障害等のある児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するため、道徳的価値の理解を深めていることをどのように見取るのかという評価資料を集めたり、集めた資料を検討したりするに当たっては、相手の気持ちを想像することが苦手であることや、望ましいと分かっているにもかかわらずできないことがあるなど、一人一人の障害により学習上の困難さの状況をしっかりと踏まえた上で、評価することが重要である。

(解説道徳編 p. 113)

児童生徒の学習上の困難さを理解した上で、その困難さをもちながらも一人一人がどのように多面的・多角的な見方へと発展させていたり道徳的諸価値を自分のこととして捉えていたりしているかといったことを丁寧に見取っていくことが大切です。



特別の教科 道徳

「特別の教科 道徳(道徳科)」の内容項目の一覧

(小1～2は19項目、小3～4は20項目、小5～22項目)

キーワード	小学校第1学年及び第2学年(19)	小学校第3学年及び第4学年(20)
<b>A 主として自分自身に関すること</b>		
善悪の判断, 自律, 自由と責任	(1) よいことと悪いこととの区別をし, よいと思うことを進んで行うこと。	(1) 正しいと判断したことは, 自信をもって行うこと。
正直, 誠実	(2) うそをついたりごまかしをしたりしないで, 素直に伸び伸びと生活すること。	(2) 過ちは素直に改め, 正直に明るい心で生活すること。
節度, 節制	(3) 健康や安全に気を付け, 物や金銭を大切に, 身の回りを整え, わがままをしないで, 規則正しい生活をする。	(3) 自分でできることは自分でやり, 安全に気を付け, よく考えて行動し, 節度のある生活をする。
個性の伸長	(4) 自分の特徴に気付くこと。	(4) 自分の特徴に気付き, 長所を伸ばすこと。
希望と勇氣, 努力と強い意志	(5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。	(5) 自分でやろうと決めた目標に向かって, 強い意志をもち, 粘り強くやり抜くこと。
真理の探究		
<b>B 主として人との関わりに関すること</b>		
親切, 思いやり	(6) 身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること。	(6) 相手のことを思いやり, 進んで親切にすること。
感謝	(7) 家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	(7) 家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に, 尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。
礼儀	(8) 気持ちのよい挨拶, 言葉遣い, 動作などに心掛けて, 明るく接すること。	(8) 礼儀の大切さを知り, 誰に対しても真心をもって接すること。
友情, 信頼	(9) 友達と仲よくし, 助け合うこと。	(9) 友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合うこと。
相互理解, 寛容		(10) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに, 相手のことを理解し, 自分と異なる意見も大切にすること。
<b>C 主として集団や社会との関わりに関すること</b>		
規則の尊重	(10) 約束やきまりを守り, みんなが使う物を大切にすること。	(11) 約束や社会のきまりの意義を理解し, それらを守ること。
公正, 公平, 社会正義	(11) 自分の好き嫌いにとらわれないで接すること。	(12) 誰に対しても分け隔てをせず, 公正, 公平な態度で接すること。
勤労, 公共の精神	(12) 働くことのよさを知り, みんなのために働くこと。	(13) 働くことの大切さを知り, 進んでみんなのために働くこと。
家族愛, 家庭生活の充実	(13) 父母, 祖父母を敬愛し, 進んで家の手伝いなどをして, 家族の役に立つこと。	(14) 父母, 祖父母を敬愛し, 家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。
よりよい学校生活, 集団生活の充実	(14) 先生を敬愛し, 学校の人々に親しんで, 学級や学校の生活を楽しくすること。	(15) 先生や学校の人々を敬愛し, みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。
伝統や文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	(15) 我が国や郷土の文化と生活に親しみ, 愛着をもつこと。	(16) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に, 国や郷土を愛する心をもつこと。
国際理解, 国際親善	(16) 他国の人々や文化に親しむこと。	(17) 他国の人々や文化に親しみ, 関心をもつこと。
<b>D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること</b>		
生命の尊さ	(17) 生きることのすばらしさを知り, 生命を大切にすること。	(18) 生命の尊さを知り, 生命あるものを大切にすること。
自然愛護	(18) 身近な自然に親しみ, 動植物に優しい心で接すること。	(19) 自然のすばらしさや不思議さを感じ取り, 自然や動植物を大切にすること。
感動, 畏敬の念	(19) 美しいものに触れ, すがすがしい心をもつこと。	(20) 美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。
よりよく生きる喜び		

特別の教科 道徳

小学校第5学年及び第6学年(22)	中学校(22)	キーワード
(1) 自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。	(1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	自主、自律、自由と責任
(2) 誠実に、明るく生きて生活すること。		
(3) 安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。	(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。	節度、節制
(4) 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。	(3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	向上心、個性の伸長
(5) より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。	(4) より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる。	希望と勇気、克己と強い意志
(6) 真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。	(5) 真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。	真理の探究、創造
(7) 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。	(6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。	思いやり、感謝
(8) 日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。		
(9) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。	(7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。	礼儀
(10) 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	(8) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達を持ち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。	友情、信頼
(11) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	(9) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。	相互理解、寛容
(12) 法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。	(10) 法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。	違法精神、公德心
(13) 誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。	(11) 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。	公正、公平、社会正義
(14) 働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。	(12) 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもつてよりよい社会の実現に努めること。	社会参画、公共の精神
	(13) 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。	勤労
(15) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。	(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	家族愛、家庭生活の充実
(16) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合っってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。	(15) 教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚を持ち、協力し合っってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。	よりよい学校生活、集団生活の充実
(17) 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。	(16) 郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
	(17) 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
(18) 他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。	(18) 世界の中の日本人としての自覚を持ち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	国際理解、国際貢献
(19) 生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。	(19) 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。	生命の尊さ
(20) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。	(20) 自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。	自然愛護
(21) 美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。	(21) 美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。	感動、畏敬の念
(22) よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。	(22) 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。	よりよく生きる喜び



## 15 自立活動

## 自立活動の目標

個々の幼児（児童又は生徒）が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

（学習指導要領解説 自立活動編 H30 P.48）

特別支援学校幼稚部教育要領・小学部・中学部学習指導要領 H29 P.26 P.199 高等部 H31 P.270

## 自立活動の内容

（学習指導要領解説 自立活動編 H30 P.50～P.102）

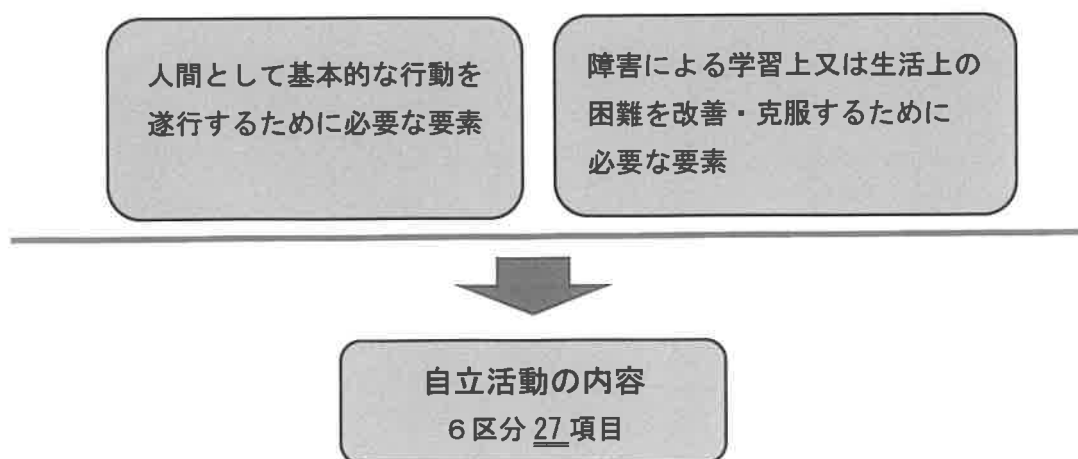
自立活動の内容は、「人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素」と「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素」で構成され、その中の代表的な要素である 27 項目を 6 つの区分の下に分類・整理したものです。

今回の改訂では、多様な学びの場において、自立活動の指導が自立と社会参加の質の向上につながるような指導となるよう改訂が行われました。

発達障害や重複障害を含めた障害のある幼児児童生徒の多様な障害の種類や状態等に応じた指導を一層充実するため、「1 健康の保持」の区分に「(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。」の項目が新たに設けられました。

また、自己の理解を深め、主体的に学ぶ意欲を一層伸長するなど、発達の段階を踏まえた指導を充実するため、「4 環境の把握」の区分の下に設けられていた「(2) 感覚や認知の特性への対応に関すること」の項目が「(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。」と改められました。さらに、感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握にとどまることなく、把握したことを踏まえて、的確な判断や行動ができるようにすることを明確にするため、「(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること。」の項目が「(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。」と改められました。

自立活動の内容は以下の 2 つの要素から構成され、6 つの区分に分類・整理されます。



## 自立活動

### 自立活動の内容 6区分 27項目

区分	項目	意味すること	具体的指導内容の例
<b>1 健康の保持</b> ◎生命を維持し、日常生活を行うために必要な健康状態の維持・改善を身体的な側面を中心として図る観点	(1)生活のリズムや生活習慣の形成	体温の調節、覚醒と睡眠など健康状態の維持・改善に必要な生活のリズムを身に付けること、食事や排泄などの生活習慣の形成、衣服の調節、室温の調節や換気、感染予防のための清潔の保持など健康な生活環境の形成を図ること	・睡眠、食事、排泄というような基礎的な生活のリズムが身に付くようにすることなど、健康維持の基盤の確立を図るための指導
	(2)病気の状態の理解と生活管理	自分の病気の状態を理解し、その改善を図り、病気の進行の防止に必要な生活様式についての理解を深め、それに基づく生活の自己管理ができるようにすること	・自分の病気を理解し、病気の状態を維持・改善していくために、自分の生活を自ら管理することのできる力を養う指導
	(3)身体各部の状態の理解と養護	病気や事故等による神経、筋、骨、皮膚等の身体部位の状態を理解し、その部位を適切に保護したり、症状の進行を防止したりできるようにすること	・病気や事故等による身体各部の状態を理解し、自分の生活を自己管理できるようにするなどして、自分の身体を養護する力を育てる指導
	(4)障害の特性の理解と生活環境の調整	自己の障害にどのような特性があるのか理解し、それらが及ぼす学習上又は生活上の困難についての理解を深め、その状況に応じて、自己の行動や感情を調整したり、他者に対して主体的に働きかけたりして、より学習や生活をしやすい環境にしていくこと	・個別指導や小集団などの指導形態を工夫しながら、対人関係に関する技能を習得するなかで、自分の特性に気付き、自分を認め、生活する上で必要な支援を求められるようにする指導 ・自分から別の場所に移動したり、音量の調整や予定を説明してもらうことを他者に依頼したりするなど、自ら刺激の調整を行い、気持ちを落ち着かせることができるようにする指導
	(5)健康状態の維持・改善	障害のため、運動量が少なくなったり体力が低下したりすることを防ぐために、日常生活における適切な健康の自己管理ができるようにすること	・運動することへの意欲を高めながら適度な運動を取り入れたり、食生活と健康について実際の生活に即して学習したりするなど、日常生活において自己の健康管理ができるようにする指導
<b>2 心理的な安定</b> ◎自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障害による学習上又は生活上の困難	(1)情緒の安定	情緒の安定を図ることが困難な幼児児童生徒が、安定した情緒の下で生活できるようにすること	・心理的な緊張や不安から集団への参加が難しい場合など、原因を知り、自ら不安や緊張を和らげるようにする指導
	(2)状況の理解と変化への対応	場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応したりするなど、行動の仕方を身に付けること	・特別な行事や急な予定変更に対応できず、不安定になる場合、状況を理解して適切に対応したり、行動の仕方を身に付けたりするための指導

## 自立活動

<p>を主体的に改善・克服する意欲の向上を図り、自己のよさに気付く観点</p>	<p>(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲</p>	<p>自分の障害の状態を理解したり、受容したりして、主体的に障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲の向上を図ること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きがいを感じ、少しでも困難を改善・克服しようとする意欲の向上を図る指導</li> <li>・障害に起因して心理的な安定を図ることが困難な場合、心理状態を把握した上で、心理的な安定を図り、障害による困難な状態を改善・克服して積極的に行動しようとする態度を育てるための指導</li> </ul>
<p><b>3 人間関係の形成</b> ◎自他の理解を深め対人関係を円滑にし集団参加の基盤を培う観点</p>	<p>(1)他者とのかかわりの基礎</p>	<p>人に対する基本的な信頼感をもち、他者からの働き掛けを受け止め、それに応ずることができるようにすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かかわる者の存在に気付く指導</li> <li>・信頼関係を基盤に、他者と相互にかかわり合う素地を作る指導</li> <li>・他者と気持ちの共有を図る指導</li> </ul>
	<p>(2)他者の意図や感情の理解</p>	<p>他者の意図や感情を理解し、場に応じた適切な行動をとることができるようにすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と関わる際の具体的な方法を身に付ける指導</li> </ul>
	<p>(3)自己の理解と行動の調整</p>	<p>自分の得意なことや不得意なこと、自分の行動の特徴などを理解し、集団の中で状況に応じた行動ができるようになること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を肯定的に捉えられるようにする指導</li> </ul>
	<p>(4)集団への参加の基礎</p>	<p>集団の雰囲気に合わせて、集団に参加するための手順やきまりを理解したりして、遊びや集団活動などに積極的に参加できるようにすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見たり聞いたりして情報を得ることや、集団に参加するための手順や決まりを理解し、集団生活に適応する力を付ける指導</li> </ul>
<p><b>4 環境の把握</b> ◎感覚を有効に活用し、空間や時間などの概念を手掛かりとして、周囲の状況を把握したり、環境と自己との関係を理解したりして、的確に判断し、行動できるようにする観点</p>	<p>(1)保有する感覚の活用</p>	<p>保有する視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚などの感覚を十分に活用できるようにすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保有する様々な感覚を相互に関連付けて活用したり、機器を活用したりしながら学習や日常生活に必要な情報を収集する力を付ける指導</li> </ul>
	<p>(2)感覚や認知の特性についての理解と対応</p>	<p>障害のある幼児児童生徒一人一人の感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるようにするとともに、特に自己の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性について理解し、適切に対応できるようにすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・触覚や聴覚等の過敏に対して、自ら調整したり(避けたり)、少しずつ慣れたりする力を付ける指導</li> <li>・自己刺激の活動を他の適切な活動に置き換え、興味がより外に広がるような指導</li> </ul>
	<p>(3)感覚の補助及び代行手段の活用</p>	<p>保有する感覚を用いて状況を把握しやすくするよう各種の補助機器を活用できるようにしたり、他の感覚や機器での代行が的確にできるようにしたりすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の状態や発達の段階、興味・関心等に応じて、将来の社会生活等に結び付くように補助及び代行手段を適切に活用できるように指導</li> </ul>
	<p>(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動</p>	<p>いろいろな感覚器官やその補助及び代行手段を総合的に活用して、情報を収集したり、環境の状況を把握したりして、的確な判断や行動ができるようにすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚、聴覚、触覚などの保有するいろいろな感覚やその補助及び代行手段を総合的に活用して、周囲の状況を的確に把握できるように指導</li> </ul>

## 自立活動

	(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	ものの機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるようにすること	・空間概念の形成や順序や時間、量の概念などの形成、順序に従って全体を把握することができるような指導
<b>5 身体の動き</b> ◎日常生活や作業に必要な基本動作を習得し、生活の中で適切な身体の動きができるようにする観点	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図ることなどの基本的技能に関すること	・身体の部位を適切に動かしたり、姿勢を変えたりするなど、基本的な運動・動作が確実に身に付くような指導 ・緊張を弛めたり、適度な緊張状態をつくりだしたりすることができるような指導
	(2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるようにすること	・基本動作（姿勢保持、姿勢変換、移動、四肢の粗大運動と微細運動）の改善及び習得を促進し、日常生活動作や作業動作の遂行を補うための補助的手段の活用に関する指導
	(3)日常生活に必要な基本動作	食事、排泄、衣服の着脱、洗面、入浴などの身辺処理及び書字、描画等の学習のための動作などの基本動作を身に付けることができるようにすること	・座位、立位を保持しながら上肢を十分に動かすことができるための指導 ・援助を受けやすい姿勢や手足の動かし方を身に付ける指導
	(4)身体の移動能力	自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上を図ること	・社会的な場面における移動能力を総合的に把握し、ためらわず援助を依頼することや自分の安全を確保する方法など、実際の場面で有効に生かされるような指導 ・補助手段の活用も含め、自分で自分の身体を動かし、目的の場所まで移動することができるようにする指導
	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行	作業に必要な基本動作を習得し、その巧緻性や持続性の向上を図るとともに、作業を円滑に遂行する能力を高めること	・作業に必要な基本動作の習得や巧緻性、敏捷性の向上を図るとともに、目と手の協応した動き、姿勢や作業の持続性などについて、自己調整できるようにする指導
<b>6 コミュニケーション</b> ◎場や相手に応じてコミュニケーションを円滑に行うことができるようにする観点	(1)コミュニケーションの基礎的能力	幼児児童生徒の障害の種類や程度、興味・関心等に応じて、表情や身振り、各種の機器などを用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付けること	・本人にとって可能な手段で要求を伝える手段を広げることができるようにする指導 ・双方向のコミュニケーションが成立するための基礎的な能力を育てる指導 ・より望ましい方法で意思や要求を伝えることができるようにする指導
	(2)言語の受容と表出	話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出することができるようにすること	・音声や文字、非言語的な方法を用いて主体的に自分の意思を表出したり、発語機能の改善を図ったりする指導



## 自立活動

(3)言語の形成と活用	コミュニケーションを通して、事物や現象、自己の行動等に対応した言語の概念の形成を図り、体系的な言語を身に付けることができるようにすること	・語彙や文法体系の習得に努めるとともに、それらを通して言語の概念が形成されるようにする指導
(4)コミュニケーション手段の選択と活用	話し言葉や各種の文字・記号、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、他者とのコミュニケーションが円滑にできるようにすること	・筆談や身振り、様々な機器を適切に選択・活用してコミュニケーションができるようにする指導
(5)状況に応じたコミュニケーション	コミュニケーションを円滑に行うためには、伝えようとする側と受け取る側との人間関係や、そのときの状況を的確に把握することが重要であることから、場や相手の状況に応じて、主体的なコミュニケーションを展開できるようにすること	・相手や状況に応じて、適切なコミュニケーション手段を選択して伝えたり、自分が受け止めた内容に誤りがないかどうかを確かめたり、主体的にコミュニケーションの方法を工夫できるようにする指導

### 個別の指導計画の作成手順

(学習指導要領解説 自立活動編 H30 P.105 ~ P.110)

自立活動ハンドブック—知的障害のある児童生徒の指導のために—Ver.2 P.7 ~ P.23)

#### (1) 課題を抽出するにあたって

- 本人が困っていることを選ぶ
- 本人や保護者のニーズを反映していることを選ぶ
- 教科で学習できることは除外する
- 幼児児童生徒の発達段階を考慮し、課題であっても環境調整等の配慮をすれば対応できることは除外する

#### (2) 課題を整理し、中心的課題を特定していくにあたって

##### 【課題を整理する視点①】

- 課題の背景要因 : なぜそのような行動になるのか
- 原因と結果 : (課題A)だから、(課題B)になる
- 相互に関連し合う : 課題Aと課題Bが原因にも結果にもなる
- 発達や指導の順序性 : ~の前に~の指導をする

##### 【課題を整理する視点②】

- 適時性 : 今、指導することが適切な時期か
- 必要性 : 現在の生活だけでなく、将来の生活も見通して、今、必要なことか
- 実現性 : 予定の指導期間内で達成できるか

#### (3) 指導目標(長期・短期)を設定する際の配慮事項

- 単に「~できる」「~ができない」という視点で見のではなく、課題の整理をする中で明らかになった「もう少しでできること」「援助があればできること」に着目して課題の焦点化をし、目標を設定します。
- 長期的な観点に立った指導目標を達成するためには、個々の幼児児童生徒の実態に即して必要な指導内容を段階的、系統的に取り扱うことが大切です。つまり、段階的に短期目標が達成され、それがやがて長期目標の達成につながるという展望があることが必要だということです。

### ★中心的課題を導き出した過程を説明できることが大切です★

なぜそれを中心的課題と考えたかの判断根拠を示すことで、教師間の指導・支援の意図などの共通理解を図りやすくなります。

## 自立活動の内容とその取り扱いについて

(学習指導要領解説 自立活動編 H30 P. 24 ~ P. 26)

幼稚園教育要領，小学校学習指導要領，中学校学習指導要領に示されている各教科等の「内容」は，確実に指導しなければならない内容です。これに対して，自立活動の「内容」は個々の幼児児童生徒の実態に応じて必要な項目を選定して取り扱うものです。ここでは，すべての内容を指導するのではないということに留意する必要があります。

自立活動の「内容」は，個々の幼児児童生徒に設定される具体的な「指導内容」の要素となるものです。指導内容は，個々の幼児児童生徒の実態把握に基づき，自立を目指して設定される指導目標を達成するために，必要な項目を選定し，それらを相互に関連付けて設定されるものです。よって，指導においても，自立活動の内容をバラバラに指導するのではなく，選定したいくつかの内容を，幼児児童生徒がもっとも学びやすいように工夫して指導することが大切です。

## 具体的な指導内容の設定

### ア 主体的に取り組む指導内容

幼児（児童又は生徒）が，興味をもって主体的に取り組み，成就感を味わうとともに自己を肯定的に捉えることができるような指導内容を取り上げること。

(学習指導要領解説 自立活動編 H30 P. 111)

### イ 改善・克服の意欲を喚起する指導内容

児童又は生徒が，障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲を高めることができるような指導内容を重点的に取り上げること。

(学習指導要領解説 自立活動編 H30 P. 113)

### ウ 発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容

個々の幼児（児童又は生徒）が発達の遅れている側面を補うために，発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容を取り上げること。

(学習指導要領解説 自立活動編 H30 P. 114)

### エ 自ら環境と関わり合う指導内容（幼稚部）

幼児が意欲的に感じ取ろうとしたり，気が付いたり，表現したりすることができるような指導内容を取り上げること。

(学習指導要領解説 自立活動編 H30 P. 115)

### オ 自ら環境を整える指導内容

個々の児童又は生徒が，活動しやすいように自ら環境を整えたり，必要に応じて周囲の人に支援を求めたりすることができるような指導内容を計画的に取り上げること。

(学習指導要領解説 自立活動編 H30 P. 115)

## 自立活動

### カ 自己選択・自己決定を促す指導内容

個々の児童又は生徒に対し、自己選択・自己決定する機会を設けることによって、思考・判断・表現する力を高めることができるような指導内容を取り上げること。

(学習指導要領解説 自立活動編 H30 P.116)

### キ 自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容

個々の児童又は生徒が、自立活動における学習の意味を将来の自立や社会参加に必要な資質・能力との関係において理解し、取り組めるような指導内容を取り上げること。

(学習指導要領解説 自立活動編 H30 P.117)

## 自立活動の評価について

(学習指導要領解説 自立活動編 H30 P.118 ~ P.119)

「計画は当初の仮説に基づいて立てた見通しであり、幼児児童生徒にとって適切な計画であるかどうかは、実際の指導を通して明らかになるものである」とあるように、指導と評価を一体的に行い、学習状況や指導の結果に基づいて適宜、目標・指導内容・手立て等の修正を行う必要があります。つまり、**「評価」は幼児児童生徒の学習評価であるとともに、教師の指導に対する評価でもあり、評価を通して指導を改善し続けるという意識が大切だということです。**

設定したいくつかの具体的な指導内容ごとの指導の結果を収集し、総合的に目標の達成状況の評価を行います。そのためにも、具体的な指導内容を指導してどうであったか記録を取って整理するなど、評価するための材料を集めておくことが必要です。

目標を評価するときには、まず、目標がどの程度達成されたかを評価します。次に、目標が適切であったか、具体的な指導内容が適切であったか、指導方法は適切であったかについて整理し、指導の成果と課題、改善点を考えていきます。指導したことで、困難が改善・克服され、学びやすさや生活のしやすさにつながっているか、など、般化の観点からも評価していくことが必要です。

#### (参考・引用文献)

- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 文部科学省 平成30年3月
- ・特別支援学校幼稚部教育要領・小学部・中学部学習指導要領 文部科学省 平成29年4月
- ・特別支援学校高等部学習指導要領 文部科学省 平成31年2月
- ・自立活動ハンドブックー知的障害のある児童生徒の指導のためにーVer.2 令和元年8月  
岡山県総合教育センター
- ・特別支援教育の実践情報 2019年2/3月号 P4・5 中村 大介

指導資料作成委員会名簿

	教科等	学校名	職名	委員名	主査名
1	活用の仕方	岡山東支援学校	指導教諭	河合 昌恵	岡山盲学校 教頭 藤尾愛一郎  岡山聾学校 教頭 高見 晴寿  岡山南支援学校 教頭 中村 美鈴  健康の森学園 支援学校 教頭 青木 文宏  早島支援学校 教頭 原田 敬子  誕生寺支援学校 教頭 池畑 公美
		県総合教育センター	指導主事	村上 直也	
2	総 則	岡山瀬戸高等支援学校	指導教諭	佐藤 悦子	
		岡山支援学校	教 諭	小野 隆章	
3	生 活	早島支援学校	指導教諭	竹内 愛	
		東備支援学校	教 諭	難波 香織	
4	国 語	岡山西支援学校	指導教諭	別府 智子	
		健康の森学園支援学校	指導教諭	横田 美穂	
5	社 会	西備支援学校	指導教諭	西原 佳代	
		岡山西支援学校	教 諭	森 浩美	
6	算数・数学	岡山支援学校	指導教諭	村上 資郎	
		岡大附属特別支援学校	教 諭	高下 心輔	
7	理 科	倉敷まきび支援学校	指導教諭	柴田 靖子	
		西備支援学校	教 諭	市川 佑	
8	音 楽	健康の森学園支援学校	指導教諭	鹿島由理子	
		倉敷琴浦高等支援学校	教 諭	政久 聡子	
9	図画工作・美術	岡山盲学校	指導教諭	梅田 裕子	
		倉敷まきび支援学校	教 諭	金久 傑	
10	体育・保健体育	岡山支援学校	指導教諭	岡 嘉宏	
		岡山南支援学校	教 諭	井上 寛規	
11	職業・家庭(職業) 職業・家庭(家庭)	誕生寺支援学校	指導教諭	山本 美岐	
		東備支援学校	指導教諭	山本 和代	
		岡山聾学校	教 諭	渡邊 和英	
12	外 国 語	早島支援学校	指導教諭	利守 展子	
13	情 報	岡山南支援学校	指導教諭	三宅 美穂	
14	流通・サービス	岡山東支援学校	指導教諭	根岸 志子	
		岡山瀬戸高等支援学校	教 諭	松下 直生	
15	特別の教科 道徳	倉敷支援学校	指導教諭	中園 陽子	
		岡山東支援学校	教 諭	難波 映二	
16	自 立 活 動	誕生寺支援学校	指導教諭	秋元芳世子	
		倉敷支援学校	教 諭	村井 明美	

事務局：岡山県教育庁特別支援教育課